

目 次

学事関連スケジュール

一般注意事項	4
--------------	---

(法律・政治学科共通) 学事 Web システムの利用方法	13
------------------------------------	----

法律学科学習指導要項

学習指導要項	23
--------------	----

履修申告のしかた	30
----------------	----

政治学科学習指導要項

学習指導要項	35
--------------	----

履修申告のしかた	46
----------------	----

講義要綱・シラバス

法律学科	51
------------	----

政治学科	101
------------	-----

両学科設置共通科目	157
-----------------	-----



慶應義塾外国語学校	179
-----------------	-----

教職課程	180
------------	-----

言語文化研究所特殊講座	181
-------------------	-----

メディア・コミュニケーション研究所	187
-------------------------	-----

大学体育研究所設置講座	204
-------------------	-----

福澤研究センター設置講座	211
--------------------	-----

外国語教育研究センター設置講座	213
-----------------------	-----

慶應義塾大学在外研修プログラム	216
-----------------------	-----

国際センター設置講座	218
------------------	-----

情報処理教育室設置講座	258
-------------------	-----

知的資産センター設置講座	261
--------------------	-----

学事関連スケジュール

履修案内等書類配布

成績証明書発行

情報処理教育室ガイダンス

慶應義塾大学在外研修プログラムガイダンス

教職課程ガイダンス (既登録者対象)

教職課程ガイダンス (新規登録者対象)

教職課程ガイダンス (2006年度実習予定者対象)

教育実習事前指導 I (今年度実習予定者対象)

外国語教育研究センターガイダンス

体育研究所ガイダンス

言語文化研究所ガイダンス

学事 Web システムパスワード変更締切

春学期授業開始

履修申告用紙配布

Web による履修申告期間

履修申告用紙による履修申告日

開校記念日 (休業)

授業料等納入期限 (全納または春学期分納分)

4年生卒業見込証明書発行

履修申告科目確認表送付 (本人宛)

健康診断

履修申告修正受付

休学願提出期限 (政治学科春学期分)

春学期補講日

春学期授業終了

春学期末試験時間割発表

春学期末試験

春学期追加試験申込受付

夏季休業

春学期末追加試験

三田一斉休暇

春学期卒業生氏名発表

春学期卒業式

追加卒業生・進級者氏名発表

春学期成績表送付 (保証人宛) (対象: 政治学科)

秋学期授業開始

授業料等納入期限 (秋学期分納分)

秋学期補講日 (1)

三田祭 (準備・本祭・片付けを含む) (休講)

休学願提出期限

冬季休業 (一斉休暇)

授業開始

福澤先生誕生日 (休業)

秋学期月曜代替講義日

秋学期補講日 (2)

秋学期授業終了

秋学期末試験時間割発表

※ 4月 1日 (金) 第3学年 A~J 組 11時~12時30分 123 番教室

K~T 組 12時30分~14時

第4学年 A~J 組 14時~15時30分

K~T 組 15時30分~17時

4月 1日 (金) 12時30分以降

4月 4日 (月) 10時45分~12時15分 516 番教室

4月 4日 (月) 13時~14時30分 528 番教室

4月 5日 (火) 13時~14時 526 番教室

4月 5日 (火) 13時~14時30分 533 番教室

4月 5日 (火) 14時45分~15時45分 528 番教室

4月 5日 (火) 14時45分~15時45分 517 番教室

4月 6日 (水) 16時30分~18時 531 番教室

4月 7日 (木) 9時~10時30分, 10時45分~12時15分 522 番教室

4月 7日 (木) 12時20分~12時50分 523-A 番教室

4月 7日 (木) 16時30分 学事センター

4月 8日 (金)

4月 11日 (月)・12日 (火) 8時30分~18時10分 学事センター

4月 14日 (木) 10時~4月 16日 (土) 13時

4月 15日 (金) 8時30分~18時10分 学事センター前受付ボックス

※ 4月 23日 (土)

4月 28日 (木)

5月 6日 (金) 以降

5月上旬 (掲示を出します)

5月上・中旬

5月 6日 (金)~10日 (火) (予定)

5月 31日 (火)

7月 11日 (月), 15日 (金)

7月 16日 (土)

7月上旬 (掲示を出します)

7月 19日 (火)~27日 (水)

7月中 (掲示を出します)

7月 28日 (木)~9月 21日 (水)

8月 4日 (木), 5日 (金)

※ 8月 9日 (火)~15日 (月)

掲示します

9月 17日 (土)

掲示します

9月中旬

9月 26日 (月)

10月 31日 (月)

11月 18日 (金) 午前

11月 18日 (金) 13時~11月 24日 (木)

11月 30日 (水)

※ 12月 23日 (金)~1月 5日 (木) (※ 12月 28日 (水)~1月 5日 (木))

1月 6日 (金)

※ 1月 10日 (火)

1月 18日 (水)

1月 20日 (金)

1月 21日 (土)

1月上旬 (掲示を出します)

秋学期末試験	1月23日（月）～2月4日（土）
秋学期末追加試験申込受付	1月中（掲示を出します）
福澤先生命日	2月3日（金）
春季休業	2月上旬～3月下旬
学部入学試験	2月上・中旬
秋学期末追加試験	2月下旬（掲示を出します）
卒業生発表	3月10日（金）
学業成績表送付（保証人宛）	3月中旬
卒業式	3月23日（木）

(注1) ※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

なお、期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので掲示板をご覧ください。

(注2) 事情により日時・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。

一 般 注 意 事 項

I 学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際、常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し、係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 学 籍 番 号

学生証に記載されています。この番号は各種試験を受ける際に必要となります。

III 掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話(i-modeのみ)により学事 Web システムにおいても確認できます。
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎 501 番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

IV 試 験 ・ レ ポ ー ト ・ 成 績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第 188 条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月19日(火)～27日(水)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします)

秋学期末：1月23日(月)～2月4日(土)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

- ⑧ 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。
- ⑩ 試験開始後の体調不良などの場合は途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取り扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「歴史」「美術」「法学（憲法を含む）」「近代思想史」「人類学」等）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、事故の証明書、あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉設置の授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受け付けませんので必ず掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

1. 授業期間中

月～金曜日…… 8時30分～18時10分

土曜日…………… 8時30分～16時30分

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

2. 休業期間中

月～金曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時30分

※休業期間中は、土曜日の受付は行いません。

※その他の事務取り扱い時間については7ページも参照してください。

- (2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターと西校舎内の掲示板前に備えてあります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

5. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表は、3月中旬に保証人宛に発送します（政治学科の学生に関しては、春学期終了科目について、9月中旬にも発送します）。

V 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる」（学則152条）。本年度休学希望者は、11月末日までに学習指導担当教員と面接し、休学願（所定用紙）に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合には、併せて復学を認める医師の診断書を提出してください。

政治学科の学生は学期単位の休学となります。この場合の休学願の提出は春学期は5月末日、秋学期は11月末日を期限とし、手続き方法等はこれまでと同様とします。なお、休学期間は春学期は9月21日まで、秋学期は3月31日までとなります。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

2. 留学願

「本大学が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学に留学することを許可することがある」(学則153条)。詳しくは学事センター法学部係に問い合わせてください。

3. 住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

- 住所変更届: 在学カード
- 保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票
- 改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

VI 各種証明書

証明書の発行、申込、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。

授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

※料金は改定されることがあります。

在学証明書(4月1日12時30分～)	1通200円
成績証明書(4月1日12時30分～)	
卒業見込証明書(5月6日～)	
履修科目証明書(6月1日～)	
卒業見込証明付成績証明書(5月6日～)	1通400円
学割証(JR各社共通)	無料
健康診断証明書(6月中旬～年度内)	1通200円

注① 稼働時間

学事センター事務室内発行機: 学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機: 9時～20時[授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

② 学割証(JR各社共通)は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください(自動発行機で発行した証明書は厳封できません)。

④ 健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

※いずれも1通200円。(料金は改定されることがあります。)

- (1) 英文在学証明書(4月1日12時30分～)
- (2) 英文卒業見込証明書(5月6日～)
- (3) 英文成績証明書(4月1日12時30分～)

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降は、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能となります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例: 司法試験用単位取得証明書、公認会計士用証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間の日数を要します。

Ⅶ 教室使用申請について

1. 受付窓口

利用団体により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利 用 団 体		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援窓口	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- (3) 申請は使用予定日の2週間前から4日前まで受け付けます（土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
- (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4枚複写の4枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
- (2) 学生団体は原則として、使用できません。
- (3) 申請は使用予定日の4日前まで受け付けます（土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
- (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

Ⅷ 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8時30分～18時10分

（なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。）
8時30分～16時30分

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時30分

※土曜日・日曜日・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中は閉室となります。

※事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み
- (6) 休学願・留学願・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 司法試験受験等のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で行います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込み・発行は、塾員センター（北館3階）が取り扱います。

IX 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）
- 日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

X 学生総合センターの窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

○教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「前述Ⅶ 教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～18:00（ただし、第一校舎は20:00まで）

土曜日 9:00～18:00（全校舎）

音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○山食・生協食堂・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にご各自で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○郵便物の取り扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板、および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

○奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。

募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と1999年度から設置された、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っていきます。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をすなわかなでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っていきます（このスケジュールは相談室に問い合わせてください）。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援，就職・進路支援—

月～金曜日…… 8時30分～17時 ※都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

—学生相談室—

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土 曜……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舎にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるため，ゼミ合宿を学外で行う場合，および学内学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は，(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも，後日必ず学生生活支援窓口に出してください。）

大学に対する要望カードは，大学における今後の研究・教育・学生生活において，改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で，教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと，思ったことで大学に対する要望がありましたら，学生カードに連なる同じカードに記入し，学生総合センター学生生活支援窓口に出してください。

XI 定期健康診断について

定期健康診断は，学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので，必ず受診してください。未受診の場合には，「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

XII 緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京－高尾間） ・京浜東北線（大宮－大船間）
- ・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

- ※ 交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

- [1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。
- [2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XIII 早慶戦（野球）が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス Tel. 03-3236-8000

法律・政治学科 共通

学事 Web システムの利用方法

- (1) 履修の申告
- (2) 新規履修申告科目なし
- (3) 登録済科目確認
- (4) 休講・補講情報
- (5) パスワードの変更

〈学事 Web システムの利用方法〉

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システム（以下 Web システム）を利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 6 つの機能があります。

- ① 履修の申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます。）
- ② 新規履修申告科目なし（4 年生のみ使用可能）
- ③ 登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます。）
- ④ 休講・補講情報
- ⑤ パスワードの変更
- ⑥ 受付確認メールの送付先アドレスの変更

また、携帯電話（i-mode のみ）では上記のうち、④休講・補講情報の確認、⑤パスワードの変更、を行うことができます。

… 注 意 …

学事 Web システムは 4 月 1 日（金）から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日（木）までにログインできることを確認しておいてください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4 月 7 日（木）16 時 30 分までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください（2004 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は 2005 年 3 月に送付した成績表に印字されています）。

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC）（大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます）。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名）	学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名）	f*****

学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 学事 Web システムは、各種設定（Cookie, SSL, Proxy 等）を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定方法や履修エラーメッセージ詳細説明、Q&A（質問回答集）、Web 履修にあたっての注意事項（地区/学部別）については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ（http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html）からのリンクを参照してください。
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- その他、Q&A、Web 履修にあたっての注意事項（地区/学部別）については URL からのリンクを参照してください。

- (1) 履修の申告（必ず法律・政治各学科の「履修申告のしかた」（法律 30 ページ，政治 46 ページ）を参照のうえ利用してください。）
2005 年度の学事 Web システムを利用する際の履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4 月 14 日（木）10 時～16 日（土）13 時まで

学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。
履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



③ ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログオンできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※ この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※ 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。



④ トップメニュー画面

トップメニュー画面から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを 2 箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録] ボタンをクリックしてください。

（学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。）

（注意）学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて

学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) に登録頂いているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

(学事 Web システムログイン直後の「メールアドレス登録・変更」で確認できます。)

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス (*****@mita.cc.keio.ac.jp, *****@sfc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

※ メールアドレスのユーザー名 (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** の部分) は変更できません。またユーザー名のみ (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** の部分だけ) 登録しても届きません。ご注意ください。



⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後, [Web による履修申告上の注意] をクリックし, 必ず注意文を熟読してください (右上図)。その後, [履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。



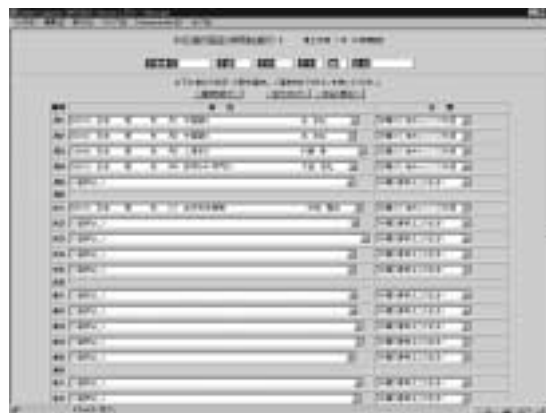
⑥ 科目の選択

以下の画面が「履修申告メイン画面」になります (右上図)。(a) と (b) の2とおりの方で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから, [時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので, 曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで, 分野を「A 欄分野」以外で選択する場合は「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 31 ページ, 政治 47 ページ) をよく読んでください。選択が完了したら, [選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面 (登録番号) が表示されますので, 履修書類配布時に配布された時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し, <科目情報> 欄に表示される科目名, 曜日時限などの情報を確認したうえで, 最後に [選択を終了] を押ししてください。



※ (a) (b) いずれの方法も, 分野 (A・B 欄) の選択方法は同じですので, 「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 31 ページ, 政治 47 ページ) を参照してください。

※ (a) (b) の手順は, 連続して行うことができます。

※ 新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度「選択を終了」を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。
(選択直後は「状態」欄に「未登録」として表示されます。)



⑧ 選択した科目を取消する場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、「選択の取消」ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の「登録」ボタンを押してください。⑥および⑧で行った内容はこの「登録」ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

履修申告メイン画面の「登録」ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。(エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の横にある「エラーの詳細説明」をクリックし、参照してください。) 右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておく事をお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、「履修申告画面へ戻る」ボタンをクリックし、⑥からの手順を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、「履修申告を終了する」ボタンを押してください。

※ ここで Web ブラウザーを終了しないでください (ブラウザーの右上の×印をクリックしないでください)。



⑪ 受付確認メール

「登録」ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。受付番号は各自で控えてください。

④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し「指定する」ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。(この場合は、メールアドレスの登録はされません。)「指定しない」ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配布のメールアドレスを指定するようにしてください (④参照)。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は「ログアウト」ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 新規履修申告科目なし ※4年生のみ使用可能

4年生で、前年度までに卒業単位を満たしており、今年度履修申告する科目が1つもない場合のみ申告してください。必ず(1)の履修申告画面で次の点を確認してから申告を行ってください。

- ・すでに登録済の科目がないかどうか。 → 登録科目を削除してから行ってください。
- ・1科目も登録しない状態で [登録] ボタンを押し、エラーメッセージがないかどうか。
→ エラーが出た場合卒業単位を満たしていないと考えられます。

※ 登録済の科目がある場合には「新規履修申告科目なし」の申請は無効の扱いになります。

- ① 前述(1)の④(トップメニュー画面)まで同様の操作をし、画面上の [新規履修申告科目なし] ボタンを押してください。
- ② [申請する] ボタンを押してください。



- ③ 「今回の履修申告では、科目の申請を行いません。[新規履修申告科目なし]の申請を行いました。」と表示されます。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。



- ④ メニュー画面に戻ると、「[新規履修申告科目なし]の申請が行われました。」と赤字で表示されるので確認した後、ログアウトしてください。

申請を取り消す場合は①に戻り、②の画面で [申請を取り消す] ボタンを押してください。メニュー画面に「[新規履修申告科目なし]の申請は取り消されました。履修申告を行うことができます。」と表示されたら(1)の履修申告を行ってください。



(3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で Web システムを利用して再度確認することができます(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(2)の④(トップメニュー画面)までは、同様の操作ですから、画面上の、[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(4) 休講・補講情報

Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常授業と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、以下のページおよび各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL) <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

- ① (1) の①から③までを参照して、Web システムにログインしてください。
- ② (1) の④ (トップメニュー画面) の画面から [休講・補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常どおり実施する）科目 となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力（詳しくは携帯電話の説明書をお読みください）し、(1) の①の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講・補講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとう便利です（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）。
- ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ③ 「学籍番号」と (1) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ④ この画面から [休講情報] ボタンを押してください。
※ パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の (5) を参照してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

(5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述 (2) の④ (トップメニュー画面) の画面から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。



【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字/小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

法律学科

學習指導要項

法 律 学 科

学 習 指 導 要 項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

1. 平成 17 年度開講科目（下線のついている科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語 科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル1)(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)
	三田設置 英語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅰ(1) イタリア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅱ(レベル3)(1) 英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1)
分野：01-10-63 必修 日本語(中級)	
日吉設置 日本語(1)	
分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)	
日吉設置 イタリア語第Ⅲ(1) イタリア語第Ⅳ(1)	
分野：01-20-01 選択 英語	
日吉設置 英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)	
三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第Ⅴ(1)	
分野：01-20-02 選択 ドイツ語	
日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)	
三田設置 ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択	フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)	
	三田設置	フランス語第V(1) フランス語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-04	選択	中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)	
	三田設置	中国語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-05	選択	スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	三田設置	スペイン語第V(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-06	選択	ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)	
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-10	選択	朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)	
	三田設置	朝鮮語第V(1)	
	分野：01-20-11	選択	ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)	
	三田設置	ラテン語(中級)(1)	
	分野：01-20-12	選択	ギリシャ語
日吉設置	ギリシャ語(1)		
分野：01-20-14	選択	ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)		
三田設置	ポルトガル語第V(中級)(1) ポルトガル語第VI(上級)(1)		
分野：01-20-15	選択	アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)		
分野：01-20-16	選択	イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)		
三田設置	イタリア語第V(1)		
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択	
	日吉設置	言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 文学(4) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史Ⅰ(2) 科学史Ⅱ(2) 科学史Ⅲ(2) 科学史Ⅳ(2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座Ⅰ(2) 人文総合講座Ⅱ(2)	
	三田設置	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)	
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択	
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)	
	三田設置	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)	
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-01	選択	数学・統計・情報処理系列(1999年度以前入学者用) *科目名は下記と同様
	分野：04-20-11	選択	数学系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)	
	三田設置	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)	
	分野：04-20-12	選択	統計系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)	
	三田設置	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)	
分野：04-20-13	選択	情報処理系列(2000年度以降入学者用)	
日吉設置	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2)		
三田設置	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)		
社会科学 科目	分野：05-10-01	必修	
	日吉設置	法学(憲法を含む)(4)	
	分野：05-11-01	選択必修	
日吉設置	社会学(4) 地理学(4) 経済学(4) 政治学(4) 近代思想史(4)		

法律学 科目	分野：06-10-01	必修	憲法
	日吉設置	憲法Ⅰ(4)	
	分野：06-10-02	必修	民法
	日吉設置	民法Ⅰ(4)	
	分野：06-10-03	必修	刑法
	日吉設置	刑法Ⅰ(4)	
	分野：06-20-01	選択	A系列
	日吉設置	憲法Ⅱ(4)	
	三田設置	法理学(4) 国際法Ⅰ(4) 外国法(英米)(4) 外国法(独)(4) 外国法(仏)(4) 外国法(中)(4) 外国法(EU)(4) 外国法(ラテンアメリカ)(4)	
	分野：06-20-02	選択	B系列
	日吉設置	民法Ⅱ(4) 民法Ⅲ(4)	
	三田設置	民法Ⅳ(4) 民法Ⅴ(4)	
	分野：06-20-03	選択	C系列
	日吉設置	刑法Ⅱ(4)	
	三田設置	刑法Ⅲ(4) 刑事訴訟法(4) 刑事政策(4)	
	分野：06-20-04	選択	D系列
	三田設置	商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 商法Ⅲ(4) 民事訴訟法Ⅰ(4)	
	分野：06-20-05	選択	E系列
	三田設置	行政法Ⅰ(4) 行政法Ⅱ(4) 労働法(4) 経済法(4)	
	分野：06-20-06	選択	F系列
日吉設置	民法演習Ⅰ(4) 民法演習Ⅱ(4)		
三田設置	研究会(4) 憲法演習(4) 民法演習(4) 刑法演習(4) 刑事学演習(4) 商法演習(4) 行政法演習(4) 知的財産法演習(4) 国際私法演習(4) 刑事訴訟法演習(4) 民事訴訟法演習(4) 破産法演習(4) 刑事政策演習(4) 外国法演習(英米)(4) 外国法演習(独)(4) 外国法演習(仏)(4) 外国法演習(EU)(4) 国際法演習(4) 社会法演習(4) 法思想史演習(4) 法制史演習(4) 環境法演習(4) 刑事法演習(4) 国際民事訴訟法演習(4)		
分野：06-20-07	選択	系列外	
日吉設置	法学情報処理(2) 団体法(2) 法制史(基礎)(4)		
三田設置	行政法Ⅲ(4) 国際法Ⅱ(4) 担保法(4) 商法Ⅳ(4) 民事訴訟法Ⅱ(4) 破産法(4) 国際私法(4) 国際取引法(4) 航空・宇宙法(4) 犯罪学(4) 被害者学(4) 法制史(日本)(4) 法制史(東洋)(4) 法制史(西洋)(4) 法医学(4) 租税法(4) 国際租税法(4) 海洋法(4) 医事法(4) 信託法(4) 知的財産権法(4) 知的財産法(4) 裁判法(4) 社会保障法(4) 法とコンピュータ(4) 環境法(4) 証券取引法(4) 政策と法(4) 法と経済(2) 法思想史(4) 宇宙法(2) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 社会学Ⅰ(2) 社会学Ⅱ(2) 法社会学(4) 経済政策(4) 経済原論(4) 財政論(4) 金融論(4) 会計学(4) 経営学(4) 他学部等の専門的授業科目		
体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01	選択	講義系
	日吉設置	体育学講義(2) 体育学演習(1)	
	分野：08-20-02	選択	実技系
	日吉設置	体育実技A(1) 体育実技B(1)	
自主選択 科目	三田設置	体育実技A(1)	
	分野：09-20-01	選択	他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由科目	分野：10-30-01	自由	進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由	教職課程センター設置科目

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除き自主選択科目を含む）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) 2000年度以降入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）	内 容 等		単位数	
外国語科目 (01-10-**)	「必修」として履修した語学 2科目各8単位		16	
人文科学科目 (02-20-01)			8	
自然科学科目 (03-20-01)	数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)をもって替えることができる ¹⁾		8	
社会科学科目 (05-**-**)	「法学（憲法を含む）」4単位を含む		8	
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ, 民法Ⅰ, 刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位	88	
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位, 合計48単位以上		76単位以上 ²⁾
	系列外科目	(06-20-07)		
自由科目を除くすべての科目 ³⁾			16	
合 計			144	

¹⁾ 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列(04-20-13)は替えることができません。

²⁾ 系列科目のみで満たしてもかまいません。

³⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 法律学科目（必修科目を除く）を充当することができます。また、外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

(3) 1999年度以前入学者 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）	内 容 等		単位数	
外国語科目 (01-10-**)	「必修」として履修した語学 2科目各8単位		16	
人文科学科目 (02-20-01)			8	
自然科学科目 (03-20-01)	数学・統計・情報処理科目 (04-20-01) をもって替えることができる		8	
社会科学科目 (05-**-**)	「法学（憲法を含む）」4単位を含む		8	
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ, 民法Ⅰ, 刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位	88	
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位, 合計48単位以上		76単位以上 ¹⁾
	系列外科目	(06-20-07)		
自由科目を除くすべての科目 ²⁾			16	
合 計			144	

¹⁾ 系列科目のみで満たしてもかまいません。

²⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 法律学科目（必修科目を除く）を充当することができます。また、外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。この中には、認定単位は含まれません。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類	内 容 等		単位数	
法律学科目	必修科目	憲法Ⅰ, 民法Ⅰ, 刑法Ⅰ (06-10-**) 3科目12単位	88	
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位, 合計48単位以上		76単位以上*
	系列外科目	(06-20-07)		
合 計			88	

* 系列科目のみで満たしてもかまいません。

履修上の注意

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ48単位とし、自由科目を含めて、56単位までとします。
ただし、教職課程教科に関する科目はこれに含まれません。

(1) 法律学科目のうち必修科目および系列科目は、できるだけ第3学年までに履修を完了させるようにしてください。

(2) 第2学年までの必修科目等に不足単位のある者は、次に従って本年度必ず再履修してください。

① 外国語科目必修（英・独・仏・中・西・露・朝・日・伊）

すべて日吉において指定クラスで履修してください。詳細は別冊「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

② 法学（憲法を含む） 日吉において履修してください。

③ 法律学科目必修 日吉において履修してください。

④ その他の授業科目 三田において開講する授業科目を履修するか、または日吉において履修してください。

<日吉設置科目を履修する場合の注意>

(1) 三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は認めません。ただし、2・3時限についてはこの限りではありません。

(2) 日吉設置科目を履修した場合、試験日が重複することもあります。したがって日吉設置科目の履修は、第3学年で完了することが望ましいでしょう。やむを得ず第4学年で履修する場合は、履修科目に十分余裕をもたないと卒業できない場合もありますから特に注意してください。

(3) 2004年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となりました。今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません（自由科目扱い）。「体育実技科目」においては制限はありません。

<三田設置科目を履修する場合の注意>

(1) 単位の計算方法

三田で履修する授業科目は講義・演習いずれも「週1時限・半期」の授業で2単位、「週1時限・通年」の授業で4単位、「週2時限・半期」の集中授業で4単位となります（例外もあります）。

(2) 再履修についての注意

前年度までに履修した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも再履修できません。

ただし、人文科学研究会、F系列の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A系列の「外国法」については、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)それぞれを別科目として履修することができます（下記(4)を参照）。

(3) 演習科目を履修する際の注意

人文科学研究会、F系列の演習を履修する際、同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。なお、人文科学研究会については担当者が同じ場合でも、「Ⅰ・Ⅲ」「Ⅱ・Ⅳ」を併設としましたので、第3学年でⅠとⅡを履修した場合は、第4学年でⅢとⅣを履修してください。

(4) 「外国法」を履修する際の注意

A系列の「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、その場合は1科目のみが『A系列科目』として履修でき、2科目めからは『系列外科目』として履修することになります。履修申告のしかたは、31ページ **A・B欄に記入する授業科目** を参照してください。

(5) 法律学科の「研究会(3年)」、「研究会(4年)」は別科目とし、それぞれF系列の科目になります。

(6) 集中講義（商法Ⅰ・Ⅱ等）は一週2時限ずつ履修しなければなりません。

(7) 政治学科、他学部、研究所等に設置された授業科目を履修する場合の注意

三田に設置されている政治学科、他学部、および大学付設の研究所その他諸機関の専門的授業科目であらかじめ当該授業科目の担当者、および法律学科学習指導が承認した科目（4月当初より学事センターに「一覧表」を用意します）は、法律学科の「系列外科目」として履修することができます（なお、その場合に、法律学科設置科目と同一科目で、他学部・他学科では名称が異なる科目を別科目として履修することはできませんので注意してください）。

授業科目の履修にあたっては、必ず事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから（承認印は不要）履修申告をしてください。

これらの授業科目は、直接法律学科の学生を対象に開講されている科目ではないために、その学科、学部、研究所等の規則、教育方針、施設の関係や担当者の教育上の配慮に基づいて履修が認められない場合もあります。

また、あらかじめ法律学科学習指導の承認を得ていない授業科目については、「系列外科目」としては認められず、「自由科目」として履修することになります。

その他、研究所等設置科目の取扱いについては31ページの表を参照してください。

(8) 外国語科目について

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。

英 語：

「英語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋8コマ開講します。

ド イ ツ 語：

「ドイツ語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月4日(月)10時から三田325-B番教室で選抜テストを行って履修者を決めます。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級1コース、中級1コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週1回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

フ ラ ン ス 語：

「フランス語インテンシブ」は週4回の授業で、8コマのうち4つを選択して履修してください。

「フランス語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

中 国 語：

「中国語インテンシブ」は週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

ス ペ イ ン 語：

「スペイン語インテンシブ」は週5回の授業で、5コマのうち4つ以上を選択して履修してください。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

ロ シ ア 語：

「ロシア語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

朝 鮮 語：

「朝鮮語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

イ タ リ ア 語：

「イタリア語第Ⅴ」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

ポ ル ト ガ ル 語：

「ポルトガル語第Ⅴ(中級)」(春/秋)、「ポルトガル語第Ⅵ(上級)」(春/秋)は週1回の授業で、それぞれ1コマ開講します。

ラ テ ン 語：

「ラテン語(中級)」(春/秋)は週1回の授業で、1コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

(9)「商法Ⅰ・Ⅱ」については、3年生・4年生ともに指定クラスで履修してください。

<不合格者、休学者、留学者に対する注意>

(1) 第3学年末に進級不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目のうち、履修済みと認められる単位は、A・Bの評語を得た授業科目に限られます。ただし、外国語科目必修、体育科目、法律学科目必修、自由科目、分野11-30-01の教職課程教科に関する科目はCの評語を得た授業科目も履修済みと認めます。

(2) 第4学年末に卒業不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目はすべて履修済みと認めます。

(3) 休学者・留学者が当該年度の休学・留学期間以前に試験を受け、評語を取得できた科目については、履修済みと認めます(3・4年共通)。

<定期試験期間中の試験についての注意>

(1) 追加試験

① 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します(受験料=1科目につき2,000円)。

② 語学、演習科目、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

③ 受験を希望する者は、追加試験申込用紙(用紙は学事センターで交付)に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

④ 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。

(2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

- ① 三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。
- ② この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。
- ③ この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

(3) 試験日程は春学期終了科目は8月4・5日（三田）、その他の科目は2月下旬の予定です。

(4) 試験における不正行為

定期試験（レポートも含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該年度に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度をもって受験してください。

<退学について>

学則第156条の規定により、第3学年・第4学年に併せて4年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません（休学願の提出については5ページを参照してください）。

<自主留年について>

4年生が卒業単位を満たした上、司法試験・公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願い出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

- ① 在学を許可された年度は、1年間在籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。
- ② 在学を許可された年度には、自由科目を除き法律学科目（必修を除く）を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないことになります。

<クラス担任>

本年度のクラス担任は次のとおりです。学問的な研究の指導ばかりでなく、日常生活ないし就職など、学生生活の全般にわたって相談や助言が行われます。具体的な指導運営については必要に応じて担当者の指示があるはずですが、同時に学生諸君の自主的なクラス運営が望まれます。

クラス	第3学年	第4学年
A	北澤安紀	西川理恵子
B	森征一	安富潔
C	安富潔	鈴木千佳子
D	斎藤和夫	島原宏明
E	北澤安紀	宮島司
F	加藤修	岩谷十郎
G	北澤安紀	山本爲三郎
H	駒村圭吾	坂原正夫
I	吉村典久	池田真朗
J	北澤安紀	北澤安紀
K	小林節	太田達也
L	武川幸嗣	青木淳一
M	藤原淳一郎	加藤久雄
N	北澤安紀	内藤恵
O	北澤安紀	三木浩一
P	安富潔	霞信彦
Q	安富潔	大森正仁
R	安富潔	オステン・フィリップ
S	犬伏由子	安富潔
T	安富潔	小山剛

法律学科の学習指導は次のとおりです。

教授 安富 潔

教授 北澤 安紀

学習指導の面会は原則として授業期間内の第三金曜日の昼休みに、三田研究室棟1階の教員談話室で行います。面会希望者は面談日前々日の水曜日午後4時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 申告方法について

原則、『Web』による申告とします（なお、事情により履修申告用紙での申告を希望する者は学事センター窓口（4月11日（月）・12日（火）の両日に限り）に取りにきてください）。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください）。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

(2) Webによる申告

Web申告期間 4月14日（木）10:00～4月16日（土）13:00

p.15～の〈学事Webシステムの利用方法〉(1)履修の申告を参照してください。

(3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日（場所：学事センター前受付ボックス）

第3・4学年 4月15日（金） 8:30～18:10

(4) 申告上の注意

申告にあたっては、2004年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「法律学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります（学則第188条）。

(5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で確認のうえ申告してください。

(8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 履修申告用紙（マークシート用紙）の記入方法等について

(1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください（修士・博士の欄は記入の必要はありません）。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

(2) 履修科目の記入方法

① 記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号（5桁）に十分注意しHBもしくはBの鉛筆でマークしてください。

② 複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

③ 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまなう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

④ 形態欄は、その科目の形態（春（春学期集中も含む）・秋（秋学期集中も含む）・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入してください。

⑤ 「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

⑥ 履修申告欄は[A]、[B]欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりです。ただし、同一科目を[A]欄および[B]欄の両方に記入する必要はありません。

⑦ A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
法律学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国法の2科目めから (A系列で1科目を取得済、もしくは履修の場合)	A欄	系列外科目		時間割表内に(A)(外)と表記し区別しています。登録番号に注意してください。
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄		99	
政治学科・他学部の専門的授業科目	B欄	大半は系列外科目 (学事センターにて「一覧表」で確認)	55	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
政治学科・他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターで確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については213ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語 10 アラビア語 15 その他 自主選択科目 77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として系列外科目	55	例外……「時事英語Ⅰ・Ⅱ」「文章作法Ⅰ・Ⅱ」は自主選択科目(B欄77)、研究会(Ⅰ～Ⅵ)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目 ¹⁾	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目 77 自由科目 99	分野の扱いについては、219ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置) 自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ履修可能。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については258ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
体育科目	B欄	体育科目	講義系 81, 実技系 82	履修申告方法については204ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
福澤研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。179ページ参照。
その他、自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注¹⁾ 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用してください。(220ページの「履修取扱い」欄参照)。

B欄記入上の注意事項

分野欄：法律学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

- ① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口に出してください。
- ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄(枚目/枚中)を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

<B 欄分野表>

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01-20-01	外国語科目	選択	英語
02	01-20-02	〃	〃	ドイツ語
03	01-20-03	〃	〃	フランス語
04	01-20-04	〃	〃	中国語
05	01-20-05	〃	〃	スペイン語
06	01-20-06	〃	〃	ロシア語
10	01-20-10	〃	〃	朝鮮語
11	01-20-11	〃	〃	ラテン語
12	01-20-12	〃	〃	ギリシャ語
14	01-20-14	〃	〃	ポルトガル語
15	01-20-15	〃	〃	アラビア語
16	01-20-16	〃	〃	イタリア語
31	03-20-01	自然科学科目	選択	—
55	06-20-07	法律学科目	選択	系列外
81	08-20-01	体育科目	選択	講義系
82	08-20-02	〃	〃	実技系
77	09-20-01	自主選択科目	選択	—
99	10-30-01	自由科目	自由	—
95	11-30-01	(教職課程設置) 自由科目	自由	—

政治学科

學習指導要項

政治学科

学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目については、学則とこの指導要項を熟読し、その規定を守りながら、各自の問題意識や研究関心に応じて、主体的かつ体系的に決定してください。なお、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

1. 平成 17 年度開講科目（下線のついてる科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語 科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル1)(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)
	三田設置 英語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅰ(1) イタリア語第Ⅱ(1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第Ⅱ(レベル3)(1) 英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1)
	分野：01-10-63 必修 日本語(中級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)
	日吉設置 イタリア語第Ⅲ(1) イタリア語第Ⅳ(1)
	分野：01-20-01 選択 英語
	日吉設置 英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第Ⅴ(1)
	分野：01-20-02 選択 ドイツ語
	日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
三田設置 ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択	フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)	
	三田設置	フランス語第Ⅴ(1) フランス語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-04	選択	中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)	
	三田設置	中国語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-05	選択	スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	三田設置	スペイン語第Ⅴ(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-06	選択	ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)	
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-10	選択	朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)	
	三田設置	朝鮮語第Ⅴ(1)	
	分野：01-20-11	選択	ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)	
	三田設置	ラテン語(中級)(1)	
分野：01-20-12	選択	ギリシャ語	
日吉設置	ギリシャ語(1)		
分野：01-20-14	選択	ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)		
三田設置	ポルトガル語第Ⅴ(中級)(1) ポルトガル語第Ⅵ(上級)(1)		
分野：01-20-15	選択	アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)		
分野：01-20-16	選択	イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)		
三田設置	イタリア語第Ⅴ(1)		
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択	
	日吉設置	言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 文学(4) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史Ⅰ(2) 科学史Ⅱ(2) 科学史Ⅲ(2) 科学史Ⅳ(2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座Ⅰ(2) 人文総合講座Ⅱ(2)	
	三田設置	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)	
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択	
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)	
	三田設置	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2)	
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-01	選択	数学・統計・情報処理系列(1999年度以前入学者用) *科目名は下記と同様
	分野：04-20-11	選択	数学系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)	
	三田設置	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)	
	分野：04-20-12	選択	統計系列(2000年度以降入学者用)
	日吉設置	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)	
	三田設置	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)	
分野：04-20-13	選択	情報処理系列(2000年度以降入学者用)	
日吉設置	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2)		
三田設置	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)		
社会科学 科目	分野：05-10-11	必修	社会学系列
	日吉設置	社会学(4)	
	分野：05-10-12	必修	法学系列
日吉設置	法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) 民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4)		

社会科学 科目	分野：05-10-13	必修	経済学・商学系列
	日吉設置	経済原論Ⅰ(4) 経済原論Ⅱ(4)	
	分野：05-11-12	選択必修	法学系列
	日吉設置	行政法(4) 刑法(4) 国際法(4)	
	分野：05-11-13	選択必修	経済学・商学系列
	三田設置	経済政策(4) 財政論(4) 国際経済論(4)	
	分野：05-20-11	選択	社会学系列
	日吉設置	社会心理学Ⅰ(4) 社会心理学Ⅱ(4) 文化人類学Ⅰ(4) 文化人類学Ⅱ(4)	
	分野：05-20-12	選択	法学系列
	三田設置	民法Ⅲ(4) 商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 労働法(4) 経済法(4) 犯罪学(4)	
分野：05-20-13	選択	経済学・商学系列	
三田設置	計量経済学(4) 経済史(4) 日本経済論(4) 金融論(4) 労働経済論(4) 社会保障論(4) 経営学(4) 会計学(4)		
政治学 科目	分野：07-10-01	必修	基礎科目
	日吉設置	政治学基礎Ⅰ(2) 政治学基礎Ⅱ(2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究基礎(2) 国際政治基礎(2)	
	分野：07-20-01	選択・系列科目	政治思想論
	日吉設置	政治文化論(2) 民主主義思想論Ⅰ(2)	
	三田設置	近代政治思想史Ⅰ(2) 近代政治思想史Ⅱ(2) 現代政治思想Ⅰ(2) 政治哲学Ⅰ(2) 政治哲学Ⅱ(2) 政治理論史Ⅰ(2) 政治理論史Ⅱ(2) 政治理論史Ⅲ(2) 政治理論史Ⅳ(2) 中世政治思想(2) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) *日本政治思想史Ⅱ(2) 現代政治思想特殊研究Ⅰ(2) *日本政治思想史特殊研究Ⅰ(2)	
	分野：07-20-02	選択・系列科目	政治・社会論
	日吉設置	行政学Ⅰ(2) 行政学Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2)	
	三田設置	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論Ⅰ(2) 行政学特論Ⅱ(2) 現代行政論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅱ(2) 現代政治理論Ⅰ(2) 現代政治理論Ⅱ(2) 公共経済論Ⅰ(2) 公共経済論Ⅱ(2) *国際コミュニケーション論Ⅰ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 国家論Ⅰ(2) シヴィル・ソサエティ論(2) 社会調査論Ⅰ(2) 社会調査論Ⅱ(2) 社会変動論Ⅱ(2) 政治過程論Ⅰ(2) 政治過程論Ⅱ(2) *政治経済システム論(2) 政治権力論Ⅰ(2) 政治権力論Ⅱ(2) 地域社会論Ⅰ(2) 地域社会論Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) メディア社会論Ⅰ(2) メディア社会論Ⅱ(2) 現代社会理論特殊研究Ⅰ 国家論特殊研究Ⅰ(2) 社会変動論特殊研究Ⅰ(2) 政治過程論特殊研究Ⅰ(2) 政治過程論特殊研究Ⅱ(2) 政治権力論特殊研究Ⅰ(2) 地域社会論特殊研究Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論特殊研究Ⅰ(2)	
	分野：07-20-03	選択・系列科目	日本政治論
	日吉設置	*日本外交史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) 近代日本政治史Ⅰ(2)	
三田設置	近世日本政治史Ⅰ(2) 近世日本政治史Ⅱ(2) 近代日本政治史Ⅰ(2) 近代日本政治史Ⅱ(2) 近代日本政党史Ⅰ(2) 近代日本政党史Ⅱ(2) 現代日本行政論Ⅰ(2) 現代日本行政論Ⅱ(2) 現代日本政治論Ⅰ(2) 現代日本政治論Ⅱ(2) 古代日本政治史Ⅰ(2) 古代日本政治史Ⅱ(2) 戦後日本政治史Ⅰ(2) 戦後日本政治史Ⅱ(2) 中世日本政治史Ⅰ(2) 中世日本政治史Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) 日本行政史Ⅰ(2) 日本行政史Ⅱ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) *日本政治思想史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) 立法過程論Ⅰ(2) 立法過程論Ⅱ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅰ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅱ(2) 古代日本政治史特殊研究Ⅱ(2) *日本外交史特殊研究Ⅰ(2) 日本行政史特殊研究Ⅰ(2) *日本政治思想史特殊研究Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論特殊研究Ⅰ(2)		

政治学 科目	分野：07-20-04	選択・系列科目 地域研究論
	日吉設置	アフリカ現代史Ⅰ(2) 現代中東論Ⅰ(2) 中国政治史Ⅰ(2) 比較地域研究論Ⅰ(2)
	三田設置	*NGO・NPO論Ⅰ(2) アフリカ社会論Ⅰ(2) アフリカ社会論Ⅱ(2) アメリカ政治史Ⅰ(2) アメリカ政治史Ⅱ(2) イスラーム社会論Ⅰ(2) <u>イスラーム社会論Ⅱ(2)</u> ヨーロッパ政治史Ⅰ(2) ヨーロッパ政治史Ⅱ(2) *開発援助政策論Ⅰ(2) *開発援助政策論Ⅱ(2) 現代アフリカ論Ⅱ(2) 現代アメリカ論Ⅰ(2) 現代アメリカ論Ⅱ(2) 現代オーストラリア論Ⅰ(2) 現代台湾論(2) 現代中国論Ⅰ(2) 現代中国論Ⅱ(2) 現代中東論Ⅰ(2) 現代中東論Ⅱ(2) *現代朝鮮論Ⅰ(2) *現代朝鮮論Ⅱ(2) *現代東南アジア論Ⅰ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅰ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅱ(2) 現代ロシア論Ⅰ(2) 現代ロシア論Ⅱ(2) 西洋法制史(4) 中国政治史Ⅰ(2) 中国政治史Ⅱ(2) 中国法制史(4) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) <u>比較地域研究論Ⅰ(2)</u> <u>比較地域研究論Ⅱ(2)</u> <u>比較地域研究論Ⅲ(2)</u> 現代中東論特殊研究(2) 現代中国論特殊研究Ⅰ(2) *現代朝鮮論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) 現代ラテン・アメリカ論特殊研究Ⅰ(2) 現代ロシア論特殊研究Ⅰ(2) 地域研究論特殊研究Ⅰ(2) 比較地域研究論特殊研究Ⅰ(2) 比較地域研究論特殊研究Ⅱ(2)
	分野：07-20-05	選択・系列科目 国際政治論
	日吉設置	国際政治論Ⅰ(2) <u>国際政治論Ⅱ(2)</u> 西洋外交史Ⅰ(2) *日本外交史Ⅰ(2)
	三田設置	*NGO・NPO論Ⅰ(2) 安全保障論(2) *開発援助政策論Ⅰ(2) *開発援助政策論Ⅱ(2) 現代国際政治Ⅰ(2) <u>現代国際政治Ⅱ(2)</u> *現代朝鮮論Ⅰ(2) *現代朝鮮論Ⅱ(2) *現代東南アジア論Ⅰ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅰ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅱ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅲ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅳ(2) *国際コミュニケーション論Ⅰ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 国際政治経済論Ⅰ(2) 国際政治経済論Ⅱ(2) 国際政治理論Ⅰ(2) 国際政治理論Ⅱ(2) *政治経済システム論(2) 西洋外交史Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) 現代国際政治特殊研究Ⅱ(2) *現代朝鮮論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) 国際政治経済論特殊研究Ⅰ(2) 国際政治理論特殊研究Ⅰ(2) 国際政治理論特殊研究Ⅱ(2) 西洋外交史特殊研究Ⅰ(2) 西洋外交史特殊研究Ⅱ(2) *日本外交史特殊研究Ⅰ(2) 東アジアの国際関係特殊研究Ⅰ(2)
	分野：07-20-06	選択・系列科目 研究会
	三田設置	研究会(2) (2004年度以降第3学年に進級した者) 研究会(4)
	分野：07-20-07	選択・系列科目 文献講読
	三田設置	文献講読Ⅰ(2) 文献講読Ⅱ(2)
	分野：07-20-08	選択・系列科目 政治学総合講座
	三田設置	戦後世界と日本(2)
	分野：07-22-01	選択・集中学習科目
	日吉設置	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(英書講読)(2)
	体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01
日吉設置		体育学講義(2) 体育学演習(1)
分野：08-20-02		選択 実技系
日吉設置	体育実技A(1) 体育実技B(1)	
三田設置	体育実技A(1)	
自主選択 科目	分野：09-20-01	選択
		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得たもの
自由科目	分野：10-30-01	自由
		進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由
	教職課程センター設置科目	

* 政治学科目の選択・系列科目のうち*印は、2つの系列に属している科目であることを示します。

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) **2000年度以降入学者** 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内容等	単位数
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16
人文科学科目 (02-20-01)			8
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目の数学系列 (04-20-11), 統計系列 (04-20-12) をもって替えることができる ¹⁾	8
社会科学科目		社会学, 法学 (憲法を含む), 憲法, 民法Ⅰ・Ⅱ, 経済原論Ⅰ・Ⅱ } (05-10-**) 必修7科目計28単位	36
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位	
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位	
政治学科目 ²⁾	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	40単位 以上
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01) 4単位以上	
		政治・社会論系列 (07-20-02) 4単位以上	
		日本政治論系列 (07-20-03) 4単位以上	
		地域研究論系列 (07-20-04) 4単位以上	
		国際政治論系列 (07-20-05) 4単位以上	
研究会 (07-20-06), 文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07) 4単位以上			
自由科目を除くすべての科目 ³⁾ (10-30-01, 11-30-01 以外)			24
合 計			144

¹⁾ 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列 (04-20-13) は替えることができません。

²⁾ 演習Ⅰ, 演習Ⅱ (英書講読) (07-22-01) は政治学科目ですが, 系列科目ではありません。

³⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 政治学科目 (基礎科目を除く) を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目 (2003年度以前は保健体育科目) も含めることができます。

(3) **1999年度以前入学者** 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）		内容等	単位数
外国語科目 (01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16
人文科学科目 (02-20-01)			8
自然科学科目 (03-20-01)		数学・統計・情報処理科目 (04-20-01) をもって替えることができる	8
社会科学科目		社会学, 法学 (憲法を含む), 憲法, 民法Ⅰ・Ⅱ, 経済原論Ⅰ・Ⅱ } (05-10-**) 必修7科目計28単位	36
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位	
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位	
政治学科目 ¹⁾	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	40単位 以上
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01) 4単位以上	
		政治・社会論系列 (07-20-02) 4単位以上	
		日本政治論系列 (07-20-03) 4単位以上	
		地域研究論系列 (07-20-04) 4単位以上	
		国際政治論系列 (07-20-05) 4単位以上	
研究会 (07-20-06), 文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07) 4単位以上			
自由科目を除くすべての科目 ²⁾ (10-30-01, 11-30-01 以外)			24
合 計			144

¹⁾ 演習Ⅰ, 演習Ⅱ (英書講読) (07-22-01) は政治学科目ですが, 系列科目ではありません。

²⁾ 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 政治学科目 (基礎科目を除く) を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目 (2003年度以前は保健体育科目) も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、進級に必要な「30単位以上」の中に、認定された単位のうち、最大16単位を繰り入れることができます。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類		内容等	単位数	
社会科学科目		社会学, 法学 (憲法を含む), 憲法, 民法Ⅰ・Ⅱ, 経済原論Ⅰ・Ⅱ } (05-10-**) 7科目計28単位	36	
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目4単位		
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目4単位		
政治学科目*	基礎科目	政治学基礎Ⅰ・Ⅱ, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 6科目計12単位	52	
	選択 系列科目	政治思想論系列 (07-20-01) 4単位以上		40単位 以上
		政治・社会論系列 (07-20-02) 4単位以上		
		日本政治論系列 (07-20-03) 4単位以上		
		地域研究論系列 (07-20-04) 4単位以上		
		国際政治論系列 (07-20-05) 4単位以上		
研究会 (07-20-06), 文献講読Ⅰ・Ⅱ (07-20-07)				
		合計	88	

* 演習Ⅰ, 演習Ⅱ (英書講読) (07-22-01) は政治学科目ですが, 系列科目ではありません。

履修上の注意

<無理のない計画的な履修を！>

(1) 2001年度以降入学者

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ52単位です。52単位を超える場合は、「自由科目」として履修してください。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

なお、履修申告にあたっては、今までどおり、通年・春学期・秋学期科目すべての申告を原則としますが、履修上限が設定されたことにとめない、秋学期に「政治学科目」についてのみ、履修上限の範囲内の「追加のみ（削除は認めない）」認めることとします。

たとえば、春学期に48単位を申告した場合は、4単位まで追加することができます。追加申告期間、申告方法についてのお知らせは春学期成績表とともに送付します。

2000年度以前入学者

各学年で履修できる単位数に制限がありません。だからといってむやみに履修申告を行うと、途中で放棄したすべての科目にD（不合格）の評価がつくだけでなく、少人数制をとる科目が増設されていますので、定員からあふれ、履修したくても履修できなかった他の学生に大変な迷惑をかけることとなります。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

(2) 下級学年に配当されている必修科目等の単位の不足がある3年生は、今年度中に必ず再履修するようにしてください。第3学年から第4学年への進級の条件は、30単位ですが、必修科目を取り残したまま第4学年に進級しても、履修科目数に十分な余裕がないと卒業できない場合もありますので特に注意が必要です。

<日吉設置科目を履修する場合の注意>

(1) 外国語科目必修

すべて日吉において指定クラスで履修してください。詳細は別冊「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

(2) 社会科学科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。同一名称の科目が他学部等の三田の科目に存在しても、特別の場合を除きそれを代替科目とは認めません。

(3) 政治学科目基礎科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。

(4) 体育科目

2004年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となりました。今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません（自由科目扱い）。「体育実技科目」においては制限はありません。

(5) その他の科目

人文科学科目、自然科学科目、数学・統計・情報処理科目、社会科学科目、政治学科目系列科目、演習Ⅰ・Ⅱ、体育科目など、その他の日吉設置科目を自分の関心や研究テーマとの関連から履修することはかまいません。

なお、三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は、移動時間が必要ですので、2・3限の場合以外認めません。また、日吉設置科目を履修した場合、三田と日吉の試験日が重複することもありますから、あらかじめ承知しておいてください（この場合、追加試験日程で受験することになります）。

<三田設置科目を履修する場合の注意>

(1) 外国語科目

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」になりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。

英語：

「英語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋8コマ開講します。

ドイツ語：

「ドイツ語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース設置します。週4回セットで履修してください。4月4日(月)10時から三田325-B番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する者は担当者（三瓶）に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級1コース、中級1コース設置します。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週1回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

フランス語：

「フランス語インテンシブ」は週4回の授業で、8クラスのうち4つを選択して履修してください。

「フランス語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

中国語：

「中国語インテンシブ」は週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

スペイン語：

「スペイン語インテンシブ」は週5回の授業で、5コマのうち4つ以上を選択して履修してください。1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

ロシア語：

「ロシア語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読Ⅰ・Ⅱ」に参加してください。

朝鮮語：

「朝鮮語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

イタリア語：

「イタリア語第Ⅴ」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

ポルトガル語：

「ポルトガル語第Ⅴ(中級)」,「ポルトガル語第Ⅵ(上級)」は週1回の授業で、それぞれ春秋1コマ開講します。

ラテン語：

「ラテン語(中級)」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

(2) 人文科学科目

三田設置の人文科学科目として人文科学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳが設置されます。これは人文科学分野の演習形式の授業ですので、履修者は少人数に制限されることになります。具体的な履修者の選考方法は研究会によって異なりますので、初回の授業に必ず出席してください。担当者が異なる場合は、同一科目名の履修も可能です。なお、担当者が同じ場合でも、人文科学研究会については「Ⅰ・Ⅲ」「Ⅱ・Ⅳ」を併設としましたので、第3学年でⅠとⅡを履修した場合は、第4学年でⅢとⅣを履修してください。

(3) 自然科学科目、数学・統計・情報処理科目

数学や情報処理科目など、科目の性質上、基礎的科目の履修済みが条件として要求されるもの、コンピュータの使用の関係で、履修者に制限のある科目もありますので、講義要綱や授業開始頃の掲示に注意してください。なお、情報処理科目には、法学部設置の科目とは別に、情報処理教育室開講の科目もありますので(本冊子258ページ以降を参照のこと)混同しないようにしてください。

(4) 社会科学科目

社会科学科目の中で、**経済政策、財政論、国際経済論のうちの1科目が必修**です。3年生のうちに1科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。平成17年度は国際経済論を5コマ(内1クラスは集中講義)設置します(他は各1コマ)。「国際経済論」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、担当者が異なる場合でも同一科目を二つ以上履修することはできませんので注意してください。

(5) 政治学科目系列科目

卒業までに「政治思想論系列」,「政治・社会論系列」,「日本政治論系列」,「地域研究論系列」,「国際政治論系列」の5系列の中から、各系列とも4単位以上、また文献講読Ⅰ・Ⅱ、研究会も含めて合計40単位以上の履修が必要です。これにはもちろん、日吉で開講されている行政学Ⅰ・Ⅱなどの系列科目の単位も含まれます。

(6) 文献講読Ⅰ・Ⅱ

イ) 文献講読は、大学院への進学や外国語の政治学文献の読解力を高めたい意欲ある学生のための科目です。

ロ) 文献講読の履修にあたっては、担当者が適当と認める方法で受講者を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。

ハ) 文献講読の授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、**不合格**とします。具体的な出欠の認定は担当者が最も適当と考える方法によって行います。

(7) 研究会

① 研究会、いわゆるゼミは、第3・4学年に開講され、政治学科の専任教員が担当する系列科目です。

研究会は必修ではありませんが、その履修を途中で放棄することは、様々な意味で望ましくありません。2年間という長丁場での大学生活の中心となる授業科目です。

研究会の履修は一人1科目に限られます。また科目の性格から履修者数は限定されます。研究会の履修者の決定は、原則として、4月の初めの統一試験において行われます。

2004年度以降の第3学年進級者

2004年度に第3学年に進級した学生から、研究会は2単位として、学期毎に成績を取得することができます。2単位科目となります

が、同一担当者の研究会を、第3・4学年を通じて2年以上履修するという原則は変わりません。なお、研究会の入会のタイミングは第3学年の春学期からとなり、中途から研究会を履修することはできません。

2003年度以前の第3学年進級者

研究会の履修取り扱いが異なりますので、学事センターにて確認してください。

② 2005年度の研究会入会者選考の日程は次のとおりです。

第一次統一選考 4月4日(月) 午後1時

第一次合格発表 4月5日(火) 午前9時以降 西校舎地下2階掲示板にて

第二次選考以降 4月6日(水) 午後1時以降

③ 秋学期に三田に進級してくる学生で、研究会の入会を希望する場合は学事センターに問い合わせてください。

④ 研究会の履修申告については、当該学年の分のみを毎年履修してください。研究会は秋学期分も、春学期に必ず履修申告をしてください。

⑤ 法律学科、他学部の研究会を履修する場合、第3学年、第4学年のどちらか一方が「自主選択科目」として履修でき、残りの一方は「自由科目」になります。

(8) 特殊研究

集中学習科目として設置されている特殊研究は、特定の主題に関して受講者の積極的参加を前提として行われる、少人数制のセミナー形式の授業です。したがって、担当者が適当と認める方法で受講者数を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。なお同一担当者の特殊研究は、その名称のいかんにかかわらず、IとIIの2科目4単位までが卒業必要科目として履修できる上限です。それ以上履修を希望する場合は「自由科目」の扱いになります。

(9) 自主選択科目

三田に設置されている法律学科、他学部、およびメディア・コミュニケーション研究所、言語文化研究所（アラビア語と朝鮮語は外国語科目選択）、情報処理教育室開講の専門的授業科目、国際センター開講の科目の一部（219ページ参照）は、政治学科の自主選択科目として卒業単位にすることができます。ただし、これらの科目の中には、直接政治学科の学生を対象に開講されている授業科目ではないために、様々な理由から履修が許可されないものもありますから、事前に各研究所その他諸機関に問い合わせるとともに、必ずその授業科目担当者の許可を口頭で得てから履修申告してください。なお、メディア・コミュニケーション研究所開講の研究会（I～VI）当該研究所研究生のみ対象科目の4単位を超える分は「自由科目」として履修してください。また同一科目で、学部によって名称のみが異なる科目を別科目として履修することはできません。

<履修全般についての注意>

(1) すでに（過年度）一度履修合格した授業科目は、たとえ担当者が変わった場合でも、自由科目として以外は再履修はできません。ただし、1) 担当者の異なる同一名称の特殊研究、2) 担当者の異なる人文科学研究会、3) 不合格となった授業科目の再履修についてはこの限りではありません。

なお履修済みの授業科目はたとえ名称が変わった場合でも再履修はできません。現在までのところ、名称変更があったのは次の科目です。

旧	新
アメリカ政治史	アメリカ政治史 I
アメリカ政治史	アメリカ政治史 II
イスラム社会論 I	イスラーム社会論 I
イスラム社会論 II	イスラーム社会論 II
現代中近東論 I	現代中東論 I
現代中近東論 II	現代中東論 II
NGO・NPO 論	NGO・NPO 論 I

(2) 系列科目の一部の授業科目は二つの系列に属しています。たとえば「政治経済システム論」は、「政治・社会論系列」と「国際政治論系列」にそれぞれ属しています。したがって、履修申告の際、どちらの系列科目として履修するのかを決定し、いずれか一方の登録番号だけを登録することが必要です。申告後にそれを変更することはできません。

(3) 教職課程センター設置科目は、原則として教職課程申告者以外、履修できません。

(4) いくつかの授業科目では履修者数の制限を設けています。それらの科目については、講義要綱と掲示に注意することが重要です。受講者の選抜を行う科目は、「研究会」を除き原則として初回の授業時に行うことになっています。秋学期開講の科目も、同じく秋学期の初回授業日に選抜が行われます。不幸にして選抜に漏れた学生に対しては、同一時間帯の別科目の修正履修申告を秋学期に認めることになります。

<不合格者、休学者、留学者に対する注意>

進級後、2学期間在学し、30単位以上の授業科目に合格すれば上級学年に進級できます。しかし必修科目を取り残したまま上級学年に進級すると、4年生までは進級できても、1年では卒業ができない事態になりかねませんから注意してください。また、必修として履修した外国語科目それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には4年に進級できません。

(1) 復活制度について

たとえば進級に2単位足りずに留年したとします。その次の学期に奮起して、その学期だけで20単位取得すると、そのうちの2単位を進級に不足していた単位にあて、残りの18単位は上級学年で取得した単位であるとみなすのがこの制度です。これを認めると、1年半で（つまり半期の留年で）次の学年に進級できるだけでなく、同じ例を用いて説明すれば、進級直後の学期で12単位以上に合格すれば、その学年は半年で終了し、元の学年に返り咲くことができるわけです（ただしこのような半期進級が可能なのは、留年あけの次の学期のみです）。

(2) 進級不合格者の履修済みの単位（A・B・Cの評語を得た授業科目）はすべて履修済みと認めます。

(3) 休学・留学は学期単位で認めます。ただし一度に認定できる期間の上限は1年（学期毎に1枚、計2枚の申請書が必要）ですので、それ以上の場合には新規の申請が必要です。休学（語学研修を含む）も留学も、しかるべき書類と会議体での承認が必要です。学事センターに問い合わせたうえで、学習指導の面接を受けてください。

<留学について>

学則第153条により、在籍途中での留学が認められます。留学を希望する者は、同条項の他に、第85条②、③も併せて読むとともに、学習指導の面接を受けてください。研究会履修者は、必ず研究会担当者とも十分相談してください。留学した場合には、卒業・進級に必要な条件に関して、留学先での科目履修にもとづく単位の認定などに関して特別な措置が講じられます。

<定期試験期間中の試験についての注意>

(1) 追加試験

① 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のために定期試験を受けられなかった授業科目について施行します（受験料＝1科目につき2,000円）。

② 語学、人文科学研究会、文献講読、研究会、特殊研究等の平常点の要素が多い科目やレポート採点に替える科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

③ 受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

④ 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、公務員試験・司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。

(2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

① 三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。

② この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。

③ この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

(3) 試験日程は、春学期は8月4・5日（三田）、秋学期は2月下旬の予定です。

(4) 試験における不正行為

定期試験（レポート含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、**当該科目を不合格とし、当該学期に履修合格した他の全科目について減点**します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度を持って受験してください。

<退学について>

学則第156条の規定により、第3学年・第4学年に併せて4年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません（休学願の届け出については5ページを参照してください）。

<自主留年について>

4年生が卒業単位を満した上、公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度1年間の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

① 在学を許可された年度は、1年間在籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

② 在学を許可された年度には、自由科目を除き政治学科目（必修を除く）を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9月卒業予定者のみ、理由を公的試験に限らず半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

<クラス担任>

クラス担任は学問上の研究指導を行うと同時に、学生生活全般にわたって相談にのり助言を与えることになっています。政治学科では、研究会担当者がクラス担任となります。研究会に所属していない者のクラス担任は、次のとおりです。

A～J組 …………… 玉井 清

K～T組 …………… 高橋 伸夫

政治学科の学習指導は次のとおりです。

教授 玉井 清

教授 高橋 伸夫

学習指導の面会は原則として授業期間内の金曜日昼休みに、三田研究室棟1階の教員談話室で行います。面会希望者は前々日水曜日午後4時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 申告方法について

原則、『Web』による申告とします（なお、事情により、履修申告用紙での申告を希望する者は学事センター窓口（4月11日（月）・12日（火）の両日に限り）に取りにきてください）。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください）。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

(2) Webによる申告

Web 申告期間 4月14日（木）10:00～4月16日（土）13:00

p.15～の〈学事 Web システムの利用方法〉(1)履修の申告を参照してください。

(3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日（場所：学事センター前受付ボックス）

第3・4学年 4月15日（金） 8:30～18:10

(4) 申告上の注意

申告にあたっては、2004年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「政治学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません（2001年度以降入学者は41ページ参照）。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります（学則第188条）。

(5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で変更の有無を確認のうえ申告してください。

(8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 履修申告用紙（マークシート用紙）の記入方法等について

(1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください（修士・博士の欄は記入の必要はありません）。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

(2) 履修科目の記入方法

① 記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号（5桁）に十分注意し **HB** もしくは **B** の鉛筆でマークしてください。

② 複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

③ 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまなう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

④ 形態欄は、その科目の形態（春（春学期集中も含む）・秋（秋学期集中も含む）・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入してください。

⑤ 「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

⑥ 履修申告欄は **A**、**B** 欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりです。ただし、同一科目を **A** 欄および **B** 欄の両方に記入する必要はありません。

⑦ A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
政治学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄	自由科目	99	
法律学科・他学部の科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターにて確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については213ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語 10 アラビア語 15 その他 自主選択科目... 77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として自主選択科目	77	例外…研究会 (I～VI) の4単位を超えた分は自由科目 (B欄99)
国際センター設置科目 ¹⁾	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目 77 自由科目 99	分野の扱いについては、219ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置) 自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ履修可能。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については258ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自由科目	99	
体育科目	B欄	体育科目	講義系 81, 実技系 82	履修申告方法については204ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
福澤研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。179ページ参照。
その他、自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注¹⁾ 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用すること (220ページ表の「履修取扱い」欄参照)。

B欄記入上の注意事項

分野欄：政治学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

- ① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口へ申し出てください。
- ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口へ申し出てください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄 (枚目/枚中) を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

<B 欄分野表>

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01-20-01	外国語科目	選択	英語
02	01-20-02	〃	〃	ドイツ語
03	01-20-03	〃	〃	フランス語
04	01-20-04	〃	〃	中国語
05	01-20-05	〃	〃	スペイン語
06	01-20-06	〃	〃	ロシア語
10	01-20-10	〃	〃	朝鮮語
11	01-20-11	〃	〃	ラテン語
12	01-20-12	〃	〃	ギリシャ語
14	01-20-14	〃	〃	ポルトガル語
15	01-20-15	〃	〃	アラビア語
16	01-20-16	〃	〃	イタリア語
31	03-20-01	自然科学科目	選択	—
81	08-20-01	体育科目	選択	講義系
82	08-20-02	〃	〃	実技系
77	09-20-01	自主選択科目	選択	—
99	10-30-01	自由科目	自由	—
95	11-30-01	(教職課程設置) 自由科目	自由	—

講義要綱・シラバス

- ※ 講義の内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。
- ※ またその他の項目についても変更されることがあります。

〔系列・系列外科目〕

〔A 系列〕

法 理 学 (春学期集中)

講 師 井 上 達 夫

授業科目の内容：

現代法哲学・法理学の基本問題を正義論を中心に考察する。「正義への企てとしての法」の概念およびリベラル・デモクラシーの法的・哲学的基礎の解明も射程に置く。

テキスト：

井上達夫『法という企て』東京大学出版会，2003

参考書：

講義において各論題に対応した文献表を配布するが、一般的な参考文献として

- ・井上達夫『共生の作法—会話としての正義』創文社，1986
- ・井上達夫『他者への自由—公共性の哲学としてのリベラリズム』創文社，1998
- ・井上達夫『現代への貧困』岩波書店，2001
- ・井上達夫『普遍の再生』岩波書店，2003

国 際 法 I

教 授 大 森 正 仁

授業科目の内容：

国際社会で起きている問題を理解するためには基本的な知識が必要とされます。そのなかで国際法の観点から様々な事象を明確に把握できるようになることがこの授業の目標です。国際法の扱う領域は拡大してきており、国境を越えた人や物の移動、国際環境問題、国際の平和と安全の維持など広い分野にまたがります。授業では基本的な国際法概念を国際事例および国内事例を取り上げて説明して行きます。

テキスト：

栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，1999年）

参考書：

- ・大沼保昭編『国際条約集 2005年版』（有斐閣，2005年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣，2001年）

外 国 法 (英米)

教 授 西 川 理 恵 子

授業科目の内容：

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

テキスト：

特に指定しないが、参考書の内、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書：

- ・ジュリスト英米法百選，英米法総論（田中英夫）
- ・アメリカ法入門，英米法（現代法学全集）等

外 国 法 (独)

専任講師 フィリップ・オステン

授業科目の内容：

ドイツ法の全体像を理解してもらえよう講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト：

毎回、講義資料プリント（レジュメ等）を配布することにする。

参考書：

参考文献については講義のなかで必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳＝ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第5版』（有斐閣，2002年）がある。

授

外 国 法 (仏)

フランス法の基礎的諸制度および諸理論とその歴史

講 師 上 井 長 久

授業科目の内容：

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論とそれらの理解に必要な歴史について講義します。本講は、フランス私法および公法の基底を理解することを目的として、私法および公法の序論と歴史について原典資料（法文、判例、学説等）により理解しようとするものです。フランス法は、わが国の母法の一つとして重要であるばかりか、フランス革命により近代国家が樹立され、いち早く成文の憲法および諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫として重要です。

テキスト：

講義資料プリント「Introduction au droit privé」「Introduction au droit public」「Histoire du droit privé」などを配布します。

参考書：

- ・山口俊夫「概説フランス法 上」（東大出版会）
- ・滝沢 正「フランス法」（三省堂）

外 国 法 (中) (秋学期集中)

現代中国法概説

講 師 黄 清 溪

授業科目の内容：

社会主義国家を堅持しながら、改革開放を推進し、市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において、いかなる法制度が展開されているか、民法と会社法を重点において見つけていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する、歴史、沿革、社会背景などについて講義をしたのち、後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には、現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

外 国 法 (EU)

EU法の基礎理論と域内市場法を中心に

法務研究科 教 授 庄 司 克 宏

授業科目の内容：

欧州連合 (EU) 法の中核をなす欧州共同体 (EU) 法に関する基本的知識の習得を目的とする。第1に組織法 (EU 諸機関、立法手続、行政制度、司法制度)、第2に国内法との関係 (直接効果、優越性、EC 法上の権利の国内的救済)、第3に実体法としての域内市場法 (物・人・サービス・資本の自由移動、競争法)、および WTO 法との関係について講義を行う。また、欧州憲法条約、性差別の禁止を含む基本的人権の保護、環境法、司法内務協力などについても時間の許す範囲で取り上げる。

テキスト：

- ・庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店，2003年（春学期使用）
- ・庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店，2003年（秋学期使用）

参考書：

授業中に情報提供する。

(B 系列)**民法Ⅳ**

債権総論

教授 池田 真 朗

授業科目の内容：

民法中債権総論の全範囲を講義する。債権総論は、金融実務等で大変重要な分野であるが、保証等、市民の日常生活における必須の知識も含む。また理論的にも非常に奥の深い内容を持っている。日吉での民法Ⅰ～Ⅲの履修でカリキュラム上は民法系列を充足している諸君も多いと思うが、民法学習の実質を達成するためには是非この民法Ⅳも履修していただきたい。

テキスト：

野村・池田他『民法Ⅲ — 債権総論』〔第2版補訂2版〕(有斐閣Sシリーズ)

参考書：

- ・奥田・池田他『判例講義民法Ⅱ債権』(悠々社)
- ・山田・池田他『分析と展開民法Ⅱ債権』〔第3版〕(弘文堂)
- ・池田真朗編『新しい民法—現代語化の経緯と解説』(有斐閣ジュリストボックス)

民法Ⅴ

家族法

教授 犬 伏 由 子

授業科目の内容：

民法(親族編・相続編)を対象とします。この部分は家族法と呼ばれていますが、家族に関しては、意識や行動、価値観の大きな変化が見られます。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、家族法の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト：

- ・遠藤浩編「民法(8)親族(第4版増補訂版)」有斐閣
- ・遠藤浩編「民法(9)相続(第4版増補版)」有斐閣

参考書：

久貴忠彦他編「家族法判例百選(6版)」有斐閣

(C 系列)**刑法Ⅲ**

刑法総論における解釈論上の論点の解明

講師 川 端 博

授業科目の内容：

刑法総論は難解であるとして敬遠されがちですが、それは誤解に基づいています。たしかに、緻密な解釈論が展開されていますので、一見しますと、非常に分かりにくく感じられることと思われます。しかし、解釈論のルールが理解できますと、実にスムーズにマスターできる科目なのです。私たちにとって「犯罪」は身近な出来事であり、それについて刑法的に把握するわけですから、興味深く学べるはずで。論点の由来と背景を説明した上で学説・判例を検討し、その実体を把握できるように講述して、刑法解釈論の実力をつけさせるのが本講義の目標です。

テキスト：

川端博著「刑法総論講義」(成文堂、1995年)

参考書：

- ・川端博著「論点講義刑法総論」(弘文堂、2002年)
- ・川端博著「レクチャー刑法総論」(法学書院、2003年)

刑事訴訟法

教授 安 富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象

的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することと、いってよいでしょう。そこで、個人の基本的な権利と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を日ざし、秩序と平穏を伴った社会を築いてゆくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、捜査から裁判にいたるまで、その流れにしたがって、第一審の刑事手続を概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

安富潔『やさしい刑事訴訟法』(法学書院)

参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』(第二版)(法学書院)

刑事政策

共同担当)教授 加 藤 久 雄

共同担当)講師 安 部 哲 夫

授業科目の内容：

前半は、刑事政策総論部分の刑事政策の基礎理論や制度論について講義をする。後半は、犯罪各論の原因論と対策論を重要テーマごとに講じていきたい。例えば、新「心神喪失者医療観察法」と触法精神障害者、人格障害犯罪者に対する刑事政策、2001年9月11日の同時多発テロ後のテロ対策、オウム教団などの宗教集団によるテロ犯罪者、暴力団犯罪者、性犯罪者、薬物依存犯罪者、女子犯罪者、少年犯罪者、外国人犯罪者、政治家、公務員の犯罪などいわゆる伝統的な犯罪類型に加えて、経済犯罪やコンピュータ・ハイテク犯罪などの新しいタイプの犯罪類型に対する刑事政策についても講義したい。

そして、今年度は安部講師との共同担当になるので、それぞれ得意とするテーマを分担して講義していきたい。講義の最初の時間にシラバスを配布する。刑事政策は極めて実証的な情報に基づく研究が必要とされるので、講義はわれわれが入手した最近の情報についてビデオ、スライド、OHPなどを毎時間使って、学生諸君が90分を短いと思うような内容のものにしていきたい。この講義はC系列科目なので、出席を厳しくチェックする。また、試験は、講義に出ていないと書けないような設問になっている。講義に出席する人は教科書と白書を必ず入手して出席してもらいたい。

テキスト：

- ・加藤久雄『人格障害犯罪者と社会治療』(成文堂・2003年)
- ・安部哲夫『少年保護論』

参考書：

- ・加藤久雄『医事刑法入門』(東京法令出版・2004年)
- ・加藤久雄『ボーダーレス時代の刑事政策』(有斐閣)

(D 系列)**商 法 Ⅰ (A~J) (春学期集中)**

会社法

教授 宮 島 司

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。ただ、本年の会社法の講義は、かなり例年とは異なった様相を呈することが予想される。現行法の検討だけでは足りず、6月に成立するであろう新会社法の検討も不可欠だからである。

本年6月には、会社法の大改正が行われる予定となっており、今までの会社法とは形式も実質も大きく異なるものとなりそうである。

法律

このような新たな会社法の方向性を見据えながら、現行法についての解釈論的な検討を行うものである。

テキスト：

宮島司『会社法概説（第三版補正二版）』（2004年）弘文堂

参考書：

必要があれば、その都度指示する。

商法Ⅰ（K～T）（春学期集中）

会社法 教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少なくとも卒業論文程度のレベルでの講義にしたいと思います。会社法は取り上げるべき論点が非常に多く、さらに、近年の度重なる改正により制度が多様化しています。しかも、今春の通常国会に商法改正法案が提出され、新しく「会社法」典が制定される予定です。したがって、下記の授業計画（2004年11月作成）を大幅に変更する可能性があり、その場合には初回講義の際に新しいシラバスを配布します。

テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方（第4版）』（八千代出版、2003年）

商法Ⅱ（A～J）（秋学期集中）

手形法・小切手法（有価証券法理）

教授 加藤 修

授業科目の内容：

手形法・小切手法総論（Allgemeiner Teil）と手形法・小切手法各論（Besonderer Teil）の二部門により構成される。

総論においては、①手形・小切手の意義、②手形・小切手の経済的機能、③有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、④手形行為（手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性）、⑤手形理論（契約説・単独行為説・二段階説）、⑥手形行為と法律行為の一般原則、⑦手形能力、⑧手形上の意思表示、⑨他人による手形行為（手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造）、⑩手形と実質関係（手形予約・対価関係・手形の書換）の諸項目が講義される。

各論においては、⑪振出（振出の性質・手形要件・白地手形）、⑫裏書（譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書）、⑬引受、⑭保証、⑮支払、⑯手形・小切手の権利の消滅（時効・利得償還請求権）の各項目が講義される。

本講義においては、手形（約束手形・為替手形）と小切手の意義につき説明した後、手形（約束手形・為替手形）と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形（約束手形・為替手形）と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形（約束手形・為替手形）と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券などにも有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理をすることが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

テキスト：

宮島司「やさしい手形法・小切手法」（第2版）法学書院（2003年（平成15年））

参考書：

倉澤康一郎「手形判例の基礎—リーディングケースによる手形法入門」日本評論社（1990年（平成2年初版））

商法Ⅱ（K～T）（秋学期集中）

手形・小切手法講義

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

手形法・小切手法について講義する。有価証券としての手形・小切手の特質を踏まえ、約束手形に関する法制度を中心に問題点を整理する。手形・小切手は学生にとってはイメージを持ちにくい難しい分野と考えられているようであるが、取引の安全の保護などに代表される、最も商法的な考え方が適合するものであって興味深く、勉強するだけ理解は深まってゆくはずなので、積極的に履修することを勧める。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する。

商法Ⅲ

商法総則・商行為講義

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

商法総則・商行為法の講義をおこなう。商法が民法の特別法であることは既に学んでいるとおもうが、商法の総論をまず検討することで、商法とはなにかについて学んだ後、商人・商行為という基礎概念を通じて商法の枠組みを理解してもらいたい。また民法に対する特則になっている部分に関しては、民法との関連性も重要であるから、民法についての詳しく言及し、その相違と理由についても考えてゆきたい。

テキスト：

特に指定しないが、レジユメを生協において販売する（春・秋学期各1回）。

参考書：

授業中に指示する。

民事訴訟法Ⅰ

判決手続法の中の基礎理論と第1審訴訟手続を中心に

教授 坂原 正夫

授業科目の内容：

民事訴訟制度は民事紛争の正しい解決（法的な解決）を目的とし、それによって個人の権利を保護するとともに、社会の法秩序の維持に努めています。講義では、民事訴訟法がそのためにどのような配慮をしているかを明らかにするとともに、その合理性・妥当性を実体法秩序の構造と関連させながら、検討してみようと思います。具体的には、訴えの提起から判決の確定に至る、いわゆる判決手続法の基本構造や基本原理と第1審訴訟手続を中心に講義をします。

これ以外の民事訴訟法の重要なテーマとしては、複雑訴訟と上訴・再審手続がありますが、これらは民事訴訟法Ⅱで講義する予定ですので、本授業（民事訴訟法Ⅰ）では扱いません。なお複雑訴訟とは、訴訟の対象である請求が複数である訴訟や、当事者が多数である多数当事者訴訟のことです。上訴手続とは下級審の裁判を検討する上級審の裁判手続のことです。控訴・上告・抗告の3つの手続があります。再審手続とは確定した裁判の当否を検討する手続です。

このようなことから民事訴訟法Ⅰは、1人の原告が1人の被告に対して1つの紛争対象に関して訴えを提起した場合に、どのような問題を考えていかなければならないのか、その後の手続がどのように展開していくのかといったことを中心に講義をします。

テキスト：

池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』（法律文化社、05年）を使用します。なおこの本の刊行が遅れていて、4月の開講時にこの本は入手できないようである。したがって、刊行されるまではテキストなしで授業を行う。

参考書：

民事訴訟法は平成15年に大幅な改正がなされ、平成16年の4月から改正法は施行されました。参考書を利用する場合は、改正法を織り

込んだものを利用してください。しかし、それはそうでない参考書は価値がなくなったということではありません。改正に関係ない箇所や理論的な問題については十分利用できるからです。したがって、最近刊行されたものでない本を利用する際は、当該事項が改正法に関係しているか否かを調べたうえで、利用する必要があります。

- ① 民事訴訟法の一般的な参考書（編著者の五十音順）
 - ・伊藤真『民事訴訟法〔第3版〕』（有斐閣，04年）
 - ・上田徹一郎『民事訴訟法〔第4版〕』（法学書院，04年）
 - ・梅本吉彦『民事訴訟法』（信山社，02年）
 - ・新堂幸司『新民事訴訟法〔第3版〕』（弘文堂，04年）
 - ・高橋宏志『重点講義 民事訴訟法〔新版〕』（有斐閣，00年）
 - ・高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 下』（有斐閣，04年）
 - ・中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第2版〕』（有斐閣，04年）
 - ・松本博之＝上野泰男『民事訴訟法〔第3版〕』（弘文堂，03年）
- ② 民事訴訟法の判例を知るための参考書
 - ・伊藤真ほか編『民事訴訟法判例百選〔第3版〕』（＝別冊ジュリスト 169号，有斐閣，03年）
- ③ 民事訴訟法の論点を整理するための参考書
 - ・青山善充ほか編『民事訴訟法の争点〔第3版〕』（有斐閣，98年）
- ④ 民事訴訟法に関する辞典
 - ・林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』（信山社，00年）

(E 系列)

行政法 I

行政法総論（基礎理論および作用法総論）

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

本講では、強い問題意識のもとで執筆されている大橋君の教科書を用いつつ、講義担当者構想中の教科書の順に沿って講義する。担当者の教育理念は、法学研究 72 巻 12 号の小稿を参照されたい。担当者は、極力双方向での授業につとめている。恒例であるが、生き物としての行政法現象を理解するため、冒頭 10 分間程度「週刊時事事例」（原則掲示予告）を検討する。残る講義部分は OHP を用いての効率的な説明を心掛けている。担当者の指示にしたがう発言者には、平常点を認定している（1 授業当り 3 点。60 点を限度に加点）。最終筆記試験は事例問題で、「週刊時事事例」課題がヒントになる。恒例の試験終了直後の試験場での問題解説、成績評価異議申立手続等、担当者独自の工夫である。

テキスト：

教科書：大橋洋一『行政法・第2版』有斐閣，2004年
 補助教材：『行政法判例集 総論・組織法』有斐閣，2003年
 参考書：

- ・『行政判例百選 I II・第4版』有斐閣
- ・塩野宏『行政法 I・第3版』有斐閣，2003年
- ・宇賀克也『行政法概説 I』有斐閣，2004年

行政法 II

行政救済法

講師 磯部 哲

授業科目の内容：

本講義では「行政救済法」領域を扱う。行政の活動が違法・不当に行われた場合に、それにより侵害された国民の権利・利益をいかに回復・救済できるかが主たるテーマとなる。大きく 2 つ、国家補償制度（損失補償と国家賠償）と行政争訟制度（行政不服申立てと行政訴訟）とを取り上げる。基本方針としては、①実益の乏しい問題の説明はできるだけ控える、②判例を多く素材として取り上げる、③平成 16 年の行政訴訟制度改革についても重点的に取り上げたい、と考えている。

テキスト：

開講時に指示をする。

参考書：

- ・『小六法』（有斐閣）レベルの六法（行政法規は多種多量なので。なお、行訴法改正に対応済み＝最新のもの）
- ・行政判例百選 I・II〔第四版〕（有斐閣，1999年）
- ・そのほか、塩野宏『行政法 II〔第三版〕行政救済法』（有斐閣，2004年）など定評ある教科書等についても、随時講義の中で紹介する。

労働法

企業と労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集団的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義（第十二章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集団的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣 2002）

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第5版）』（有斐閣，2003）
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第8版）』（有斐閣プリマシリーズ，2004）
- ・良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法（第6版）』（弘文堂）

経済法（春学期集中）

独占禁止法

産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容：

本講義では、実定経済法の中核をなし、経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲（独占禁止法の性格を明らかにする範囲）で、経済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず、国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和 22 年（1947 年）に制定され、現代にいたるまで既に 50 年余が経過している。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。

テキスト：

- ・教科書は特に指定しない。ただし、近時、経済法ないし独占禁止法

法律

のテキストが数多く刊行されているので、講義初回に現在入手（ないし参照）可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行う。

- ・講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

参考書：

参考書も特に指定しない。前項と同様、経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは、講義初回にまとめて案内する。

(F 系列)

憲法演習

立法に関する総合的な考察と最新の憲法問題の検討

講師 川崎 政司

授業科目の内容：

本演習は、基本的に2つの柱によって構成をする。1つは、統治の作用、その中でも特に法実現において重要な地位を占めている「立法」について取り上げ、その意義、実態、あり方等に関し、できる限り幅広くかつ総合的に分析・検討を行うことである。もう1つは、最近の立法、政治課題、判例等を題材に、最新の憲法問題について考察を加えるとともに、法制度設計も含めその法的な解決について検討を行うことである。それらを通じて、学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めるとともに、憲法の動態等について学んでもらい、あわせて、近年とみにその重要性が指摘されている、法制度・法政策の設計・評価に当たっての視点や法的思考能力の養成といったことにも取り組んでいきたいと考えている。

テキスト：

授業のつどレジュメを配布する。

参考書：

特に指定はしないが、適宜、参考文献等を紹介する。

憲法演習

講師 山岡 永知

授業科目の内容：

憲法演習の授業はアメリカ合衆国憲法を中心に講義し、アメリカ合衆国最高裁判所の憲法判例を研究しながら、日本国憲法や憲法判例と比較し、憲法解釈に関する知識を深める。

テキスト：

別冊ジュリスト No.139 「英米判例百選」(有斐閣)

参考書：

- ・「アメリカ法 総論」山岡著（敬文堂）
- ・「対訳 アメリカ合衆国憲法」北脇・山岡共訳（国際書院）

憲法演習

憲法を身近に考えよう

講師 向井 久了

授業科目の内容：

「クローン人間の開発を目的とした研究」など現実に生じる様々な憲法問題を生きた素材としてアップ・ツー・デートにとりあげ、憲法の論理とその動態を検討したいと考えています。

憲法を主権者として主体的に考えるよすがとなれば、と念じております。

テキスト：

向井久了「憲法問題の考え方」法学書院 2001年

参考書：

- ・向井久了「やさしい憲法（第2版）」法学書院 2000年
- ・向井久了「憲法の情景 ― 課題とその歩み ―」法学書院 2004年

民法演習

事例問題検討による分析力養成 講師 秋山 知文

授業科目の内容：

指定テキスト記載の事例を素材として、民法の財産法の分野で重要な論点を網羅的にとりあげて検討する。

授業は質疑応答形式で進める。

秋学期の後半から論文式試験問題等も検討する予定である。

六法は毎回必ず持参されたい。

テキスト：

- ・内田貴著 東京大学出版会 民法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
- ・六法（種類は問いません）

参考書：

特に指定はしません。

民法演習

講師 笠原 英美子

授業科目の内容：

債権総論および債権各論を中心に、契約の成立・解除・同時履行の抗弁、危険負担、典型契約に関する主な問題および不法行為論につき、設例を通して演習する。

テキスト：

特になし（但し、六法全書は必携のこと）

参考書：

特になし

民法演習

民法の体系・基礎理論とその応用

講師 金井 高志

授業科目の内容：

1. 民法の体系・基礎理論

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の成立から契約の終了に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

2. 民法の体系・基礎理論の応用

現在の情報化社会で重要となっている知的財産権のライセンス（使用許諾）契約やコンピュータ・インターネットを利用した取引において、民法の体系・基礎理論がどのように応用・修正されているかの検討・演習を行います。

テキスト：

笠井修他『はじめての契約法』(有斐閣・2003年)

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書：

参考文献などは適宜指示します。

民法演習

ベンチャー企業をめぐる法律実務

講師 出縄 正人

授業科目の内容：

ベンチャー企業をめぐる法律関係を、企業側弁護士あるいはベンチャー企業にファイナンスを行う側の弁護士の立場から、必要な法律関係を抽出かつ分析し、当該法律関係において、法令あるいは判例実務がどのような役割を果たしているのかを研究するとともに、その法律実務において必要とされる基礎的な法律条文（民法・会社法・民事訴訟法等）の現れ方を理解する。その中で、法律要件と法律効果という「法律」適用の基本的な考え方をマスターすることをその目標とする。

テキスト：

特に指定はしないが、六法は「必ず」持参すること。資料を授業中

に配布することを予定。

参考書：

特に指定なし。

刑法演習

刑法理論と実務

講師 瀬戸 毅

授業科目の内容：

刑法の基本的理論が、具体的事例を解決する上でどのような役割を果たしているかを理解し、実務に役立つ法的思考を涵養してもらうことを目的とする。そのため、あらかじめ具体的事例を提供し、その問題を解決するために検討すべき刑法理論を概観するとともに、当該論点に関する判例の動向にも留意しながら、法律の具体的事例への当てはめの過程を学んでもらい、かつ、その結論の妥当性についても議論する予定である。

また、講師は、現職の検事として、検察実務および法務行政に関わってきたことから、実際の捜査・公判の在り方や法律実務家が行政の分野で果たす役割についても、適宜紹介したい。

テキスト：

なし

参考書：

なし

刑法演習

判決の理由づけを読み取る

講師 野阪 滋男

授業科目の内容：

主として刑法総論に関する判決を、毎回報告者を決めて議論できたらとおもう。現実起きた事件に対する判決には、論理のほかに何かが含まれていることが多い。報告者においては、その事件の事実の概要および判旨をまとめるなかで、その問題の所在を明らかにし、他の履修者を加えて討論し、従来の判例のなかでどのような地位を占めるかにも論及できたらとおもう。

テキスト：

特に指定しません。検討裁判例は、新しい判決例をもとりあげるので、(1週間前に)コピー配布します。

刑法演習

講師 末道 康之

授業科目の内容：

刑法総論・各論の重要問題のなかから、受講者の関心のあるテーマをとりあげ、深く掘り下げ検討します。

テキスト：

特に指定しません。詳細は開講時に指示します。

参考書：

町野朔・丸山雅夫・山本輝之編『ロースクール刑法総論』『ロースクール刑法各論』(信山社・2004)

刑法演習

講師 平野 美紀

授業科目の内容：

刑法の分野での最近の問題点について、判例を検討しながら、特に医事刑法の視点から学ぶことを目的とします。

履修者の希望を伺いつつ、テーマおよび進め方を変更しますが、担当者の講義と履修者の報告、ディスカッションを進める予定です。

テキスト：

講義の最初の時間に指定します。

参考書：

講義の最初の時間に指定します。

商法演習

教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

今春の通常国会に商法改正法案が提出される予定です。可決されると、新しく「会社法」典が制定され(おそらく2006年1月1日ある

いは4月1日から施行されることとなります)、会社法で学ぶべき知識・論点は飛躍的に増大します。そうすると、会社法を講義する商法Iでは、従来取り上げていた掘り下げた論点のうち何割かを割愛せざるをえなくなります。そこで、本演習においては、私が担当する商法Iの内容補充を第1の目的とします。次に、履修者の要望によっては、秋学期には金融法(従来の保険法、銀行法、信託法、証券取引法を中心とした法領域)の基本的論点を取り上げたいと思っています。履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。

テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方<第4版>』(八千代出版、2003年)

商法演習

実践会社法

講師 山田 秀雄

授業科目の内容：

- ・株式会社法中心とする基礎的知識の修得(法律解釈)
- ・会社における重要諸問題の実務における運用の実態(実務の運用)
- ・法曹実務家や企業人になった時に、役にたつ実務ノウハウ(リスク・マネージメント)

テキスト：

特になし(その都度、必要があれば適宜配布する)

参考書：

会社法概説(宮島司教授)弘文堂

商法演習

法曹実務家による事例演習

講師 加々美 博久

授業科目の内容：

会社法、手形法、商法総則および商行為法を対象に、具体的事例を通して、そこに含まれている法律上の問題点の把握、解決を目的として討議を行う。討議は、受講者が事例を検討し、その意見を聞きながら進めていくが、議論を進めていく中で法的思考力を身につけることを目標としたい。

テキスト：

会社法判例百選 手形・小切手判例百選(有斐閣)

参考書：

会社判例の基礎、手形判例の基礎(倉沢康一郎著)日本評論社

行政法演習

講師 竹之内 一幸

授業科目の内容：

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。

授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思います。

テキスト：

詳しくは第1回の授業で連絡します。

1つの候補として、芝池義一編『ケースブック行政法』(弘文堂)を挙げておきます。

参考書：

行政判例百選I・II(有斐閣)

国際私法演習

講師 横山 潤

授業科目の内容：

1898年に立法された『法例』は日本の国際私法の主要法源ですが、現在、その全面改正の作業が進行中です。立法案とその解釈について検討したいと思います。

テキスト：

用いません。

参考書：

必要な文献は適宜配布します。

刑事訴訟法演習

講師 亀井 源太郎

授業科目の内容：

刑事手続一般に関する演習を行う。具体的な演習方法については、参加者の要望や多寡を考慮して決定するが、現在のところ、重要な判例を教材として用いることを考えている。

テキスト：

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選〔第8版〕』（有斐閣、2004年〔予定〕）

参考書：

- ・安富潔『演習講義刑事訴訟法〔第2版〕』（法学書院、2001年）
- ・池田修 前田雅英『刑事訴訟法講義』（東大出版会、2004年）

民事訴訟法演習

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸雄

授業科目の内容：

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

民事訴訟法判例百選Ⅱ（新法対応版）および民事訴訟法に関する体系書

破産法演習

新しい倒産法制と担保・執行法制を深く学ぶ

法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容：

2000年4月の民事再生法の施行、2003年4月の新会社更生法の施行、そして本年1月の新破産法の施行により、わが国の倒産法制は大きく変わった。今年度の本演習では、春学期に、装いを新たにした現在の倒産法制を学ぶことにする。

他方、倒産法制とも関連の深い担保・執行法制も、2004年4月に大きく改正された。秋学期には、この新しい担保・執行法制について学ぶことにしたい。

テキスト：

- ・春学期 山本和彦『倒産処理法入門〔第2版〕』（2004、有斐閣）
- ・秋学期 道垣内弘人ほか『新しい担保・執行制度〔補訂版〕』（2004、有斐閣）

参考書：

- ・春学期 中島弘雅『現代倒産法Ⅰ』（2005春刊行予定、中央経済社）
- ・秋学期 未定

刑事政策演習

刑事司法制度論・犯罪者処遇論・犯罪予防論・被害者学

教授 太田 達也

授業科目の内容：

刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学の概要を講義するとともに、刑事政策と被害者支援を巡る昨今の新しい問題に関して討論を行う。刑事司法制度を政策学的観点から正しく理解し、刑事政策と被害者支援の実務や政策立案に必要な基礎的思考・分析能力を養うことが目的である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、刑務所、少年院、更生保護施設、児童自立支援施設のなかから施設参観を実施する。参観の予定については施設側の事情と受講者の人数や都合を考慮して決めるが、受講者が多い場合は、課題の成績によって参観者を絞ることもあり得る。

テキスト：

法務総合研究所『平成16年版犯罪白書』

参考書：

その他の参考書は講義の内容毎に紹介する。

刑事政策演習

矯正処遇論

講師 内田 雅人

授業科目の内容：

非行少年や犯罪者の非行・犯罪原因や社会復帰処遇対策などのテーマを中心にして、少年鑑別所および拘置所における心理技官、国連職員、矯正研修所教官、アジア極東犯罪防止研究所教官などの経験にもとづく国際比較制度・処遇論を中心に演習を行っていきたい。

将来、留学して専門家になりたい学部学生・院生で国立の研究機関の研究員や国際公務員、法務省、警察庁、家庭裁判所調査官などで刑事法の知見を活かした専門家として勤務したいと希望している他学部の学生・研究科の院生の諸君の聴講も歓迎する。

テキスト：

受講者の希望などを考慮して最初の講義・演習のときにきめる。

刑事政策演習

少年犯罪とその法的対応

講師 守山 正

授業科目の内容：

少年法を中心に学ぶ。こんにち少年著名事件の発生を契機に、少年犯罪・非行をめぐる問題が多くの領域で議論され、近年、少年法改正など大きな法制度の変化がみられる。当演習では、少年犯罪・非行の実態と法制度の対応を対象に考察し、受講者の報告・発表と教員による解説を組み合わせで議論する。犯罪実態に関しては犯罪学の知見を利用し、法制度については、わが国だけでなく、諸外国の制度も参照して、総合的な少年司法制度の解明に務める。また、必要であれば、ビデオ・DVD等を教材として活用する。

テキスト：

守山・後藤編『ビギナーズ少年法』（成文堂、2005年4月刊行予定）

刑事政策演習

少年非行の原因と対策に関する日米比較研究

講師 小林 寿一

授業科目の内容：

この演習では、少年非行の原因と対策（少年法の諸問題を含む）について、我が国とアメリカ合衆国の状況を比較検討する。少年非行の原因については、心理学・社会学等の行動科学の視点から理論および研究知見を検討し、少年非行の対策については、公的機関や民間による対策や活動を検討する。したがって、本演習では、学際的なアプローチを重視するので、法律学科だけでなく、他学部・他学科の学生（特に、人間科学や行動科学を専攻する者）の履修を歓迎する。また、将来、国家公務員や家庭裁判所調査官などとなって、少年非行に関わる実務に就くことを希望する者の履修も歓迎する。

テキスト：

次のものをテキストとする予定。

Donald J. Shuemaker, Theories of Delinquency: Explanations of Delinquent Behavior, 5th ed. Oxford University Press (2004).

参考書：

適宜紹介する。

刑事政策演習

被害者の抱える問題と対策を考える

講師 諸澤 英道

授業科目の内容：

この講義では、人が被害を受ける原因とその影響について学び、それらの問題に対して国や地方公共団体や社会の人々がどのように取り組むべきかを考える。できるだけ多くの事例を紹介し、報道などでは見えていない事件の真相についても理解を深める。

日本における被害者の権利確立の取り組みは、欧米に20年以上も遅れただけでなく、この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の10年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが、その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散

見される。履修者には、現在わが国で混乱している被害者理解についての正しい視点を身につけてもらいたい。

被害者対策の面で諸外国に大きく遅れをとった日本ではあるが、2000年に、いわゆる「犯罪被害者保護法」が制定され、2004年12月には「犯罪被害者等基本法」が成立した。また、刑法の中の業務上過失致死傷罪に関連して危険運転致死傷罪（刑208条の2）が新設され、ストーカー行為等規制法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止保護法（DV法）が制定され、また、刑事訴訟法、検察審査会法、少年法、犯罪被害者等給付金支給法も一部改正された。

被害者に対する人々の関心が高まり、法整備も順調に進んできているように見えるが、これらの法律では、被害者は「配慮」される対象であって、権利性は認められていなかった。それが、犯罪被害者等基本法制定で、大きく方向転換することになる。

基本法は、安全で安心して暮らせる社会を実現する国の責務を明記し、犯罪被害者等には「個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」があることを謳っている。授業を通じて、被害者への正しい理解と支援のあり方について学んでもらう。

テキスト：

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂、2001年

参考書：

諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂、2003年

刑事政策演習

（春学期）少年犯罪対策と少年司法の課題
（秋学期）犯罪者処遇の現代的課題

講師 安部 哲夫

授業科目の内容：

本授業は、提示された授業課題のうち、履修者が主体的に取組むレポートを中心に構成されるものである。春学期には、少年犯罪とその処理・処遇を中心に、各自がまとめた報告にしたがって進行する。秋学期には、刑事政策の現代的課題として取り上げるべきテーマを設定して各自のレポートを進める。

テキスト：

春学期 安部哲夫『青少年保護法』尚学社（2002年）

秋学期 守山正・安部哲夫『現代刑事政策概論』成文堂（2005年：準備中）

参考書：

- ・法務総合研究所『平成16年版犯罪白書』財務省印刷局（2004年）
- ・警察庁『平成16年版警察白書』財務省印刷局（2004年）

外国法演習（英米）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

アメリカの「不法行為（Torts）」を勉強する。不法行為は、日本では、政権法の一部として議論されるが、アメリカでは法を学ぶに当たっての最も大切な基礎科目の一つと考えられている。そこで、不法行為のケースや論文を読みながら、不法行為をめぐるさまざまな論点、アメリカの法思考方法などを学ぼうというのが、法演習の目的である。

テキスト：

適宜、教材のコピーを配布する。

参考書：

開講時に指定

外国法演習（英米）

職権主義との比較におけるイギリス当事者主義
刑事司法制度研究

客員教授 倉田 靖司

授業科目の内容：

裁判員制度が導入されようとしている現在、これを可能な限りスムーズに始めさせ、発展させるためには、我が国の刑事司法制度が、どのような特徴を持ち、どのような問題を抱えているのか（それともいないのか）ということを検証・認識する必要があると考える。そのために、当事者主義に基づく陪審制の母国であるイギリスの刑事司法制

度を、職権主義に基づく参審制度を発達させてきたドイツの刑事司法制度と対比しつつ理解し、我が国の今後を考える手がかりの一つとしたい。

テキスト：

最高裁判事局監修「陪審・参審制度」のうち「英国編」（司法協会平成11年）および「ドイツ編」（司法協会平成12年）

参考書：

- ・ 鮫越溢弘「裁判員制度と国民の司法参加」（現代人文社2004年）
- ・ Inns of Court School of Law “Criminal Litigation and Sentencing 2004/2005”（Oxford University Press 2004年）
- ・ 倉田靖司「陪審裁判復活の条件」（判例タイムズ 801-4, 802-40 1993年）
- ・ 同「イギリスにおける否認事件の捜査・起訴の実態およびその前提となる諸条件に関する一考察」（司法研修所論集 1997-III-464）
- ・ 平良木登規男「参審制度について」（法学研究 67-7-1, 1994年）
- ・ 同「参審制度について（続）」（法学研究 69-2-255, 1996年）
- ・ 同「日独の刑事司法」（司法研修所論集 2000-II-1）

外国法演習（独）

（共同担当） 教授 加藤 久雄
（共同担当）専任講師 フィリップ・オステン

授業科目の内容：

今年は、加藤教授とオステン講師との共同担当となり、2人で学部と大学院のドイツ法の演習を行うことになる。

本演習は、ドイツ法・ドイツ法学に関する原書（ドイツ語文献）を理解できるようにすることを目的とするものである。

学部学生には、法学研究科の入試の外国語科目に合格できるよう、また、修士課程の院生には、博士課程進学のための条件である語学認定試験に合格する実力を身につけるような指導をしていきたい。

さらに、博士課程の院生には、DAADの試験に合格できるよう指導する。

共同担当者は2人も刑事法専攻者であるが、演習の内容は、公法・私法に限らないので、政治学科や他学部の学生・院生の聴講も大歓迎である。

テキスト：

テキストは、受講生の人数やドイツ語能力・専攻領域などにより決める。

参考書：

Kaufmann-Hassemmer-Neumann (Hrsg.), Einführung in Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 7. Aufl. 2004
などを使う。

外国法演習（仏）

フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方
講師 小川 健

授業科目の内容：

フランス法は、近代法の先駆けとなったナポレオン法典の制定以来、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えてきている。日本法にも、ドイツ法や英米法と並んでこの国の法制は強い影響を与えており、日本法の理解のためにその学習は欠くことができない。

また、今後我が国が諸外国と様々な関係を続け、その関係を発展させていくためには外国諸制度に対する対応や調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野に影響力のあるこの国の法制や法認識の理解は我が国にとって重要なものであり続ける筈である。

フランス法学習の導入を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しながら、フランス法の基礎的な知識を学ぶとともに、フランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすすめていければと考えている。

受講者に、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等の不足が認められる場合は、必要に応じこれを補っていくつもりである。

法律

テキスト：

受講者の興味のある所、フランス語の能力等を勘案して、話し合っ
て決めるが、

- ・J. -L Aubert, Introduction au droit, Que sais-je?, PUF (2002)
「法学入門」;
- ・H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sais-je?, PUF (2000)
「法哲学」。
(いずれもわが国で言う新書のようなもの)
あるいは、仏文の新聞雑誌の記事あたりであろうか。

参考書：

初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として、少々かさばり、値
も張るが、田村毅、他編・ロワイヤル仏和中辞典 (1985), 4,725 円、
を一応あげておく。

外国法演習 (仏)

講師 末道康之

授業科目の内容：

フランスの司法制度 (特に刑事司法に関する問題) 又はフランス刑
事法に関連する最近のフランス語文献を読み、フランスの刑事司法、
又は刑法解釈学の現状について検討し、フランス刑事法についての理
解を深めることを目標とします。

フランス語学習の経験がないがフランス法に関心のある学生につい
ては、日本語の文献を読む方法で代替することも考えます。

テキスト：

特に指定せず、必要に応じて、指示します。

参考書：

末道康之『フランス刑法における未遂犯論』(成文堂, 1998 年)

外国法演習 (EU)

EU 法における「多様性の中の結合」の探求
法務研究科 教授 庄司克宏

授業科目の内容：

EU は国内法でも国際法でもない独自の法秩序を形成している。EU
法全般にわたる基本的教科書を使用し、(イ) 学生の報告と質疑応答
および (ロ) 担当教員からの応用問題を軸に、「多様性の中の結合」
をキーワードとして EU 法がいかなる性格の法体系であるかについ
て理解することを目標とする。具体的分野としては、EU の組織法、
手続法および実体法を総体的に扱う。

テキスト：

Karen Davies, Understanding European Union Law (2nd ed.),
Cavendish Publishing Limited, London, 2003
(各自, Amazon 等で入手ください。)

参考書：

- ・庄司克宏『EU 法 基礎篇』岩波書店, 2003 年
- ・庄司克宏『EU 法 政策篇』岩波書店, 2003 年

授

国際法演習

国際環境法 講師 白杵知史

授業科目の内容：

下記の教材を用いて、国際環境法の重要項目について検討する。前
半は、教材を中心に、国際環境法の対象と方法、法史、法源、事後救
済法、事前防止法、紛争解決方式などの基礎項目について検討する。
後半は、多数国間条約および国際環境判例をとりあげて、武力紛争と
環境、貿易と環境、人権と環境、エネルギー利用 (原子力) と環境、
海洋環境の保護などの個別テーマを検討する予定である。

テキスト：

- ・水上千之, 西井正弘, 白杵知史編『国際環境法』(有信堂, 2001 年)
- ・広部和也, 白杵知史監修『解説・国際環境条約集』(三省堂, 2003
年)

社会法演習 (春学期集中)

社会生活におけるリスク管理と法 講師 松浦 茂

授業科目の内容：

社会生活を営むうえでのリスク・ヘッジ手段の典型である保険の役
割はますます高まっているが、その基本的構造は、一般に十分理解さ
れているとは言い難い。

本演習では、家庭生活を取り巻くリスクに重点を置いて、保険に関
連するさまざまな法律問題を具体例に即して多面的に考えることによ
って、実践的な法律知識を身につけることを目標とします。

テキスト：

特に指定しません。講義はプリントを使って行います。参考資料は
その都度配布します。

参考書：

1 回目のガイダンスの中で紹介します。

社会法演習

ジェンダーからみた労働法 講師 神尾 真知子

授業科目の内容：

社会的文化的に作られた性差、すなわちジェンダーという視点で、
労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜
んでいるのかを明らかにします。憲法 14 条、女性差別撤廃条約、女
性労働の歴史、均等法、労基法的女性保護規定、労基法 4 条、育児・
介護休業法などを取り上げます。

女性労働の歴史を学ぶために、女性と仕事の未来館を見学します。
また、裁判所も見学します。

テキスト：

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待 (新版)』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書：

講義時に適宜紹介する。

法思想史演習

法・国家・正義に関わる諸問題の検討
講師 國分典子

授業科目の内容：

春学期は、現代の学者の書いた法思想史に関する論文を読み、法・
正義・国家といった概念に関わる諸問題を考察するとともに、入手し
やすい文庫本等に収められた代表的な法思想家の著作を読んで、討論
を行います。秋学期は、受講者各自の選んだテーマでの自由報告を中
心に進めます。但し、少人数の授業ですので、扱う文献および授業の
進め方については初回に参加者の希望を聞き、できるだけ受講者の興
味に沿った内容としたいと思います。

テキスト：

初回に受講者と話し合っって採り上げる文献を決定します。

〔研究会 (3 年)〕

研究会 (3 年)

憲法 教授 小林 節

授業科目の内容：

日本国憲法を研究する。論点方式で、憲法の体系に従って、全員で
討論を展開し、当該論点の理解を深める。また、学年の途中で憲法に
関する重要な判決が下された場合には、その検討も行う。一年間で、
日本国憲法に関する重要な論点を総て網羅する予定である。なお、3
年次の一月に卒業研究の指導を始める。卒業研究の課題と方法は各自
の好みと必要に応じて選択する。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会 (3年)

基本的人権の諸問題

教授 小山 剛

授業科目の内容：

3年次はレポーター形式により、基本的人権に関する重要論点について研究する。取り扱う論点は受講者と相談の上で決定する。

なお、開講に先立ち4年生による模擬演習を予定しているの、参考にする。

テキスト：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

参考書：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

研究会 (3年)

教授 駒村 圭吾

授業科目の内容：

憲法の代表的論点について、深くかつ多面的に探求する演習を行う。手法としては、重要判例を素材にして賛成・反対に分かれ討論する方法と、担当者が作成した新作事例問題を解く手法とを併用する予定である。ロースクール教育に耐えられる力をつけるために、判例と学説のいわば reverse engineering を行い、あらゆる事例に対応できる応用力と、法学部生一般に要求される legal mind を、獲得することを目指す。

が、他方で、憲法学は、憲法理論を駆使するいわば職人芸的な力のみならず、憲法理論そのものの妥当性を吟味する原理的思考力をも必要とする。したがって、かかる原理的思考を喚起する機会を別途（合宿など）で持ちたいと考えている。

テキスト：

判例集や教科書・論文集を駆使してもらうので、教科書は指定しない。が、担当者作法の独自の見取り図を配布する予定である。

参考書：

使用頻度が高くなるものとして次の参考書を上げておく。

- ・芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法 第3版』（岩波書店）
- ・野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅰ・Ⅱ 第3版』（有斐閣）

研究会 (3年)

行政法事例研究

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法の事例問題をソクラティック・メソッドにより教授する。

テキスト：

- ・『六法全書』（いわゆる大六法）（有斐閣）
- ・原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）

参考書：

塩野宏『行政法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』大橋洋一『行政法』（ともに有斐閣）

研究会 (3年)

行政法研究

専任講師 青木 淳一

授業科目の内容：

行政法の領域で議論されるべき裁判例や時事問題を素材に、行政法の理論と実務を学ぶ。

テキスト：

芝池義一・高木光=編『ケースブック行政法』（弘文堂、2004年）

参考書：

いわゆる基本書その他の主要な文献については、開講時にガイダンスを行う。

研究会 (3年)

タックスハイブンプ税制の研究

助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法および国際租税法の基礎知識を修得し、電子商取引課税など重要な租税問題につき、十分に理解できる基礎学力を養成します。法律的会話をを行うことができるようになれば、本授業の目標は達成されたと認められます。

テキスト：

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規

研究会 (3年)

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

国際商取引に関する法律について、下のテキストを使い勉強する。国際取引法を理解するには、日本法だけでなく、相手国の法も理解しなければならない。そこで、日本の最も重要な取引相手国がアメリカであることもあり、また、アメリカがコモンロー国家であるので、アメリカ合衆国における関連法も、視野に入れる。カバーする予定の問題は、国際売買契約および、それに関連するさまざまな問題、紛争解決手段としての商事仲裁などを含む。この研究会の目的は、国際取引という場面では、法とは何か、そして、それがどのように働くかを理解することである。

テキスト：

Folsom, Gordon, Spangle “International Business Transaction”

研究会 (3年)

教授 大森 正仁

授業科目の内容：

国際法の基本的な理解とその具体的な場面への適用について研究することを目標とします。前者については個別の問題についてレポートの作成を、後者については4年生との模擬裁判を通じて行います。

テキスト：

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣、第3版、2003年）
- ・大沼保昭編『国際条約集2005年版』（有斐閣、2005年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、1999年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣、2001年）

研究会 (3年)

教授 加藤 久雄

授業科目の内容：

医事刑法入門（東京法令出版、2004年新訂版）と「人格障害犯罪者と社会治療」（成文堂、2002年）などを参考書として、刑事政策と医事刑法とを幅広く研究する。三田祭には必ず参加して、論文集の作成をする。

本年度は、刑法の基礎理論・犯罪論・刑罰論・処遇論を有機的に研究する。

そして、土曜日に開講されている刑事法関係の演習と刑事法総合合同演習で行われる講演会への出席が義務づけられる。

研究会 (3年)

刑事法ゼミナール

法務研究科 教授 伊東 研祐

授業科目の内容：

現代社会状況の中で明らかになって来る刑事実体法に関わる諸々の問題につき、その適正な解決を図るべく、自ら考える為の視座の形成を目的とします。当然ながら、問題を発見し、解析し、解決の為に調査する等々の能力の養成も行います。参加者の主体的な取り組みを前提とした、小人数のゼミです。

テキスト：

指定しない。

参考書：

法律

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会 (3年)

教授 安 富 潔

授業科目の内容：

判例を素材にした問題の検討を中心とした刑事訴訟法の研究を行う。報告者の発表をもとに参加者全員によるディスカッション形式で進めてゆきます。

問題解決能力の基本を養いたいと思います。

研究会 (3年)

刑事政策・被害者学・アジア法 教授 太 田 達 也

授業科目の内容：

本研究会は、刑事政策と被害者学について扱う。刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学に関する重要な問題について受講生に順番に報告してもらい、担当者と受講生全員で議論を行う。3年次には刑事政策の基本的な事項について正しく理解するとともに、刑事政策の問題に対する考察能力を深めることが課題である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、合宿を兼ね、刑務所、少年院、更生保護施設、児童自立支援施設などの施設参観を予定している。アジア法に関心のある受講生についても適宜指導を行うので、学習の成果を研究会の時間に報告してもらい、さらに関心があれば、卒業論文のテーマとすることも認める。

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会 (3年)

専任講師 フィリップ・オステン

授業科目の内容：

本研究会は、現在の国際刑事法およびその成立過程を主な対象とする。また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

テキスト：

必要に応じて資料プリントを配布することにするが、毎回、六法および国際条約集（山手治之・他〔編〕『ベーシック条約集〔第5版〕』東信堂（2004年）を推奨する）を持参されたい。

参考書：

- ・小長谷和高『国際刑事裁判序説〔訂正版〕』尚学社（2001年）
- ・安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』成文堂（2002年）
- ・森下忠『新しい国際刑法』信山社（2002年）
- ・フィリップ・オステン「国際刑事裁判所規程と国内立法—ドイツ『国際刑法典』草案を素材として」ジュリスト 1207号（2001年）126頁以下
- ・松宮孝明「実体刑法とその国際化 —またはグローバリゼーションに伴う諸問題」法律時報 927号（2003年）25頁以下
- ・高山佳奈子「国際刑事裁判権」法学論叢 154巻（2003年）1号1頁以下・2号22頁以下
- ・Cassese, Antonio, International Criminal Law (Oxford UP), 2003
- ・その他、随時指示する

研究会 (3年)

国際金融法務—法理論と法実務の架橋—

教授 斎 藤 和 夫

授業科目の内容：

国際金融取引—法理論と法実務—を、「担保法」や「金融法」の視点から、考察します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

随時、指示します。

研究会 (3年)

民法財産法ゼミナール

教授 池 田 真 朗

授業科目の内容：

民法財産法の範囲で、事例問題を用いた演習を行う。なお、本年も秋に恒例の早稲田大学鎌田ゼミとの早慶合同ゼミナールを行う予定である。

（過去の出題講師は、星野英一、川井健、好美清光、下森定、石田喜久夫、加藤雅信、加藤新太郎、寺田逸郎、野村豊弘、瀬川信久、能見善久、安永正昭、吉田克己、内田貴、中田裕康、山本敬三、奥田昌道・椿寿夫の諸先生である）。

ゼミ生には毎回のディベート参加と、一回おきの4000字のレポートが義務づけられる（夏合宿後のレポートは1万字である）。

テキスト：

問題集として池田真朗・半田正夫他『スリーステップ民法ゼミナール』（一粒社）を使用する。

（ただし昨年使用した問題をのぞく。また、問題集が絶版のため入手に困難を生じる場合には、別途考慮する）

参考書：

毎回多数の論文、判例評釈等を使用する（資料集めはゼミ生の諸君が協力して行う）

研究会 (3年)

家族法研究

教授 犬 伏 由 子

授業科目の内容：

家族法（民法—親族・相続編）を対象とします。具体的なテーマについては、受講生と相談の上決定しますが、家族法の諸論点を、学説・判例を踏えて検討すること、および、現代家族が抱える諸課題について立法論も含めて検討する予定です。

参考書：

「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

研究会 (3年)

民法（財産法）の総合的研究

助教授 武 川 幸 嗣

授業科目の内容：

財産法分野に関する応用事例の演習を通して、基本的理解の深化ならびに応用的思考力の涵養を図ることを目的とする。具体的な進め方としては、班分けした上で、担当者が予め配布する課題（事例が中心）につき事前に各班で検討を行い（したがって自主的にセブゼミを開いてもらう）、本ゼミの際にその成果を班ごとにレポーターを立てて報告し、さらに全体で討議をしてもらう予定である。演習課題の対象範囲は年間を通して財産法全般にわたるよう、ゼミを進行していきたい。

このほか、夏期合宿を行い、集中的にまとまった課題研究を行う予定である。

テキスト：

とくに共通のテキストは指定しないが、基本書レベルのものは開講時まで各自が通読していることを前提としてゼミを進行する。課題ごとの参考文献については必要に応じて逐次指示する。

参考書：

同上。

研究会 (3年)

民法財産法の総合的研究

法務研究科 教授 片 山 直 也

授業科目の内容：

春学期は、6つのサイクルに分け、各サイクルごとに1つのテーマを設定し、① 事例問題研究、② 討論研究（ディベート）および③ 判例研究を組み合わせた双方向の多角的な演習を行い、論理的思考能力、問題解決能力の育成をめざす。

秋学期は、受講生が各自の研究テーマを選択し、近接するテーマご

とにいくつかのグループを組み、各グループの構成員を中心に、裁判例や代表的な論文の分析研究を行い、4年次のリサーチペーパー、卒業論文の作成に備える。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各テーマごとに、ゼミに先立って、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会 (3年) 法務研究科 教授 北居 功

授業科目の内容：

民法財産法について、主要なテーマを具体例を素材にしつつ扱いながら、参加者の議論を通じて、理解を深めることを目指している。従って、議論を深めるうえでも、各参加者には、事前の十分な予習を求めることとなる。

研究会 (3年)

民法理論の基礎から応用へ

法務研究科 教授 松尾 弘

授業科目の内容：

- (1) 民法全般にわたり、理論と実務の双方の観点から解釈論を深める。同時に、法改正や裁判例の動向、法解釈方法論、比較法、法形成（法継受）の歴史にも注意を払っていききたい。
- (2) 国家の「良い統治」を目指した法制度改革、その一環としての発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学 (Law and Development) の理論と実践を分析する。

ゼミでは (1) を主眼とし、(2) はメンバーの希望や関心に応じて取り上げる。具体的には、つぎのような活動を予定している。①民法全般にわたり、主要問題に関する判例、学説を的確に整理し、自説を形成する（レポーター制）。②①と並行しながら、法解釈方法論を検討する。③最新の裁判例の中から重要なものを抽出し、内容や意義を検討する（担当者〔松尾〕と共同）。④民法関連の法改正の内容を検討する（解説書を用いる）。⑤諸外国の民法の概要、その形成プロセス、法継受などを通じた相互作用について学習する（担当者と共同）、⑥開発法学の動向、法整備支援の状況を検討する（最初は担当者と希望者）。⑦ゼミ誌を発行する（担当者と共同）。

テキスト：

①に関して

- ・山野目章夫＝野澤正充編『ケースではじめる民法』（弘文堂、2003）
- ・松尾弘『民法の体系 —市民法の基礎—（第3版）』（慶應義塾大学出版会、2003）

②に関して

- ・五十嵐清『法学入門（新版）』（悠々社、2002）
- ・ヤン・シュレーダー／石部雅亮編訳『トピック・類推・衡平 —法解釈方法論史の基本概念—』（信山社、2000）

⑤に関して

- ・オッコー・ペーレンツ＝河上正二『歴史の中の民法 —ローマ法との対話—』（日本評論社、2001）

⑥に関して

- ・松尾弘「開発法学と法整備支援の理論化」横浜国際経済法学 11 巻 1号 (2002) 55-89 頁

参考書：

授業中に随時紹介する。

研究会 (3年) 法務研究科 教授 金山 直樹

授業科目の内容：

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってもらいたいと思いま

す。そのため、〈議論〉を最大限に重視する方針です。

テキスト：

以下の二つを交互に用いる予定です。

- 1 民法ゼミナール教材（有斐閣）…どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。ただし、絶版のため、プリントする必要があります。
- 2 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

研究会 (3年)

民法（財産法）研究 法務研究科 教授 平野 裕之

授業科目の内容：

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究をする。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものになりたいと思っている。内容としては、年 2 回の討論会を行い、研究し報告する能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会もしたいと思っている。できれば、合宿も一緒に行い、その 1 日目を討論会に充てることを考えている。また、日ごろの授業内容については、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えている。毎回 1~2 問、場合によっては 3 問の問題を、報告者を決めことなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。厳しくも楽しい授業にしたいと思っている。

テキスト：

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

参考書：

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

研究会 (3年)

商法（会社法）ゼミナール 教授 加藤 修

授業科目の内容：

会社法上の重要問題について報告・検討し、その基本法理を研究する。具体的には、会社法総論として、企業形態論、共同企業論、会社定款論、営利法人性、会社の社団性、会社制度の悪用、仮装の資調達を研究する。会社法各論としては、設立、株式・持分論、機関論（株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役・監査役会・執行役・代表執行役）、各種の資金調達、企業結合論、会社組織論を研究する。参加者は、事前にレポートを用意し、随時、そのレポートに基づいて口頭報告あるいは意見・見解表明が求められる。夏休みの合宿においては、各人の問題意識に基づいて、会社法上の問題につき口頭報告が全員に求められる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会 (3年)

商法研究 教授 宮島 司

授業科目の内容：

商法に関する具体的事例の検討を行う。それにより、法的問題点の考え方、解決方法を見出すようになれば幸いである。

テキスト：

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書：

会社法概説（第三版補正第二版）。弘文堂

研究会 (3年)

教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

会社法の事例研究および商事法（主として、商法総則、会社法、商行為法、有価証券法）に関する最新の判例研究を行う予定です。問題

法律

点の把握・検討は、リポーターの発表（当該レポートの提出義務があります）を中心に進められます。また、早稲田大学企業法研究会とのディベートを毎年行っています。

研究会員各自が研究者として自覚を持ちゼミに参加することにより、一年後には、卒業論文作成の基礎となる法的思考能力の深化を確認できるでしょう。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方（第4版）』（八千代出版、2003年）

研究会（3年）

会社法ゼミナール

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

会社法（商法第二編会社編）の内容と特色を、毎週提示される課題を解決してゆくことで理解を深める。また、研究をすすめるうえで不可欠な資料検索・レポート作成・報告の方法などもあわせて指導する。

テキスト：

最初の授業で指示する。

参考書：

最初の授業で指示する。

研究会（3年）

商法・手形・小切手法

教授 島原 宏明

授業科目の内容：

手形・小切手法のケース・スタディーを行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、私法の本質的な要素をとらえるためには絶好の素材だともいえる。すなわち、手形・小切手法を通して民法（財産法）を理解することが、このゼミの一つの目標である。ただし、とりあえず現時点では民法、商法についての知識を要求しない（ヤル気があれば、それで十分である）。

なお、合宿、コンパ、ソフトボール等の活動も積極的に行っていくつもりである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に指示する。

研究会（3年）

商法

法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関するものであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

テキスト：

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法（総則・商行為）判例百選〔第4版〕』（有斐閣）および同『会社判例百選〔第6版〕』（有斐閣）は用意しておくこと。

参考書：

授業中に随時指示する。

研究会（3年）

民事訴訟法

教授 坂原 正夫

授業科目の内容：

民事訴訟法に関する事例問題を履修者全員が徹底的に討論することによって、履修者が民事訴訟法の基礎理論について理解できるようにします。換言すれば、履修者が民事訴訟法の基本的な問題について判例・通説の内容と問題点を認識し、各自がそれぞれの問題について自らの見解をまとめることができるように指導します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

春休み中（3月中旬）に勉強会を行いました。そのためのガイダンスの際（2月中旬）に配布した演習問題に、参考書一覧が記載されているので、それを参照してください。

研究会（3年）

教授 三木 浩一

授業科目の内容：

民事訴訟法判決手続について、通年のゼミナール形式で演習を行う。授業のスタイルとしては、担当者が作成した事例問題を課題として事前に与えておき、授業当日はこれを素材としてソクラテック・メソッドを用いて議論を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

最初の授業の日に口頭で指定する。

研究会（3年）(秋学期集中)

経済法（独占禁止法）・国際経済法（GATT/WTO）

教授 田村 次朗

授業科目の内容：

企業間の競争を通じて、低廉・良質な財・サービスが消費者に提供されることは、資本主義メカニズムの根幹であるが、競争は時として、独占企業や寡占によって減殺される。このような弊害を是正し、競争を維持・促進する法制度が独占禁止法（競争法）である。競争法では、独占やカルテル、イノベーションの促進と知的財産権、規制緩和問題（情報通信・電力・ガス事業）などを取り扱う。また、国内市場を規律する競争法の検討とともに、国際貿易を規律する法制度である国際経済法を検討する。国際経済法では、主としてWTO（世界貿易機関）における紛争解決事例の検討を通じて、セーフガード、アンチ・ダンピング、国際的環境問題を検討する予定である。

テキスト：

・根岸 哲・舟田正之『独占禁止法概説（第2版）』（有斐閣、2003）
・田村次朗『WTOガイドブック』（弘文堂、2001）
・厚谷襄児・稗貫俊文（編）『独占法審決・判例百選（第6版）』（有斐閣、2002）

参考書：

・村上政博『独占禁止法の日米比較』（弘文堂、1992）
・松下満雄『経済法概説』（東京大学出版会、1995）
・松下満雄『国際経済法—国際通商・投資の規制（第3版）』（有斐閣、2001）など

研究会（3年）

労働法・社会保障法

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ（3時間）通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例及び理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションで進めます。

同時に3年生は、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

夏期休業中に、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

テキスト：

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』及び、各々の判例百選及び六法は持参すること。

参考書：

労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第5版)』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第8版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2004)
- ・菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

社会保障法

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)
- ・西村道雄・編『社会保障法(第5版)』(有斐閣双書)

研究会(3年)

ヨーロッパ法史研究

教授 森 征一

授業科目の内容：

法制史は、法を学ぶ者が身につけるべき基礎教養科目であり、当然に憲法、民法、刑法、訴訟法等の実定法科目と有機的に連結して、法学教育の一端を担うものです。

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつあるEU(欧州連合)法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解することが目標です。

テキスト：

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』(ミネルヴァ書房 2004年)

参考書：

- ・P.スタイン/屋敷二郎監訳『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房 2003年)
- ・K.W.ネル/村上淳一訳『ヨーロッパ法史入門』(東京大学出版会 1999年)
- ・O.F.Robinson, T.D.Fergus, European Legal History, London, 1994
- ・M.Bellomo, The Common Legal Past of Europe 1000-1800, Washington D.C., 1995, 他

研究会(3年)

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

明治初期の刑事法や刑事裁判制度に関する理解を深めることを目的とする。しかしそのためには、わが国近世および近代史に対する基礎的な知見を有することが、前提かつ必須である。そこで三年次では、まず幅広く先学の著作・論考を読み、また史跡を訪ね史料にふれること等を通じて、「明治」という時代がいかなる時代であったかを体感し、自分なりの理解を深めることをスタート点としたい。

テキスト：

霞・漆原・浜野「日本法制史 史料集」(慶應義塾大学出版会 2003年 2000円)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する。

研究会(3年)

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

日本法の「近代」がどのように展開したのか、法制度・法意識・法文化の観点から、様々な文献を通じて議論する。

テキスト：

未定(参考書から1冊選ぶこともある)

参考書：

- ・大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)
- ・村上淳一『〈法〉の歴史』(同前)
- ・田中成明『転換期の日本法』(岩波書店)
- ・小林直樹『法の人間的考察』(同前) 他
- ・竹下賢他編『訂正版 マルチ・リーガル・カルチャー』(晃洋書房)

[研究会(4年)]

研究会(4年)

憲法

教授 小林 節

授業科目の内容：

3年次の一月に選択した各自の課題と方法に従って、卒業研究の指導を続行する。必要に応じて中間報告を求める。4年生は、時間の許す限り、3年生の研究会にも出席すること。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会(4年)

教授 小山 剛

授業科目の内容：

[春学期]

統治の基本問題について演習をおこなう。

[秋学期]

各自の選択したテーマにしたがって卒業論文またはリサーチ・ペーパーを執筆する。

テキスト：

とくになし

参考書：

適宜指示する

研究会(4年)

教授 駒村 圭吾

授業科目の内容：

3年生のゼミに陪席しながら、憲法知識をさらに高めるとともに、各自の卒業研究の作成を行う。

テキスト：

開講後、随時決定する。

参考書：

上記に従って、随時決定する。

研究会(4年)

行政法演習&卒論作成

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法の基礎理論を「演習問題」で復習する一方、「月刊法学教室」演習問題、最新判例、最新学術論文等により、一層の学力の向上を目指す。秋学期には卒業論文を作成する。テーマは、法哲学、法社会学、法政策学、法と経済、行政学等に及ぶものでも良い。

テキスト：

特にはない。

法律

参考書：

既に研究会（3年）のときに指示。

研究会（4年）

租税回避行為の研究

助教授 吉村典久

授業科目の内容：

2年間の研究会活動の集大成として、卒業論文を作成します。同時に、司会および裁判官として、後進の指導にあたってください。

テキスト：

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規

研究会（4年）

教授 西川理恵子

授業科目の内容：

前年度のトピックに関する勉強の継続と、各自、卒論を自分の選んだテーマで書く。

テキスト：

Folsom, Gordon Spangle “International Business, Transaction”

研究会（4年）

教授 大森正仁

授業科目の内容：

3年次に獲得した国際法の知識の事例への適用として、模擬裁判を行います。同時に大学での学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組めます。

テキスト：

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣、第3版、2003年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 2005年版』（有斐閣、2005年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、1999年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣、2001年）

研究会（4年）

教授 加藤久雄

授業科目の内容：

卒論作成の指導を行う。

研究会（4年）

刑事法ゼミナール

法務研究科

教授 伊東研祐

授業科目の内容：

3年の研究会で形成されたはずの自ら考える為の視座に基づき、各人の選んだ研究テーマを深く掘り下げ、ユニークな見解を纏めることを目的とします。小社会集団における共生・共働の修得をも目指した小人数のゼミです。

テキスト：

指定しない。

参考書：

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会（4年）

教授 安富 潔

授業科目の内容：

総合的な事例の検討を中心として刑事訴訟法の研究を行います。問題解決能力の練成をめざします。

研究会（4年）

刑事政策・被害者学・アジア法

教授 太田達也

授業科目の内容：

4年次は、3年次の刑事政策・被害者学に関する基礎的な学習を踏まえ、各自の卒業論文の作成が中心課題となる。まず、前期の2か月は、刑事政策および被害者の新しい動向に関する原書の講読を行

い、それぞれの問題について討議を行う。以後は、卒業論文の中間報告を中心にゼミを進める。

テキスト：

講義の時に資料を配付する。

参考書：

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会（4年）

専任講師 フィリップ・オステン

授業科目の内容：

前年度のトピック（国際刑事法）に関する研究の継続と、ゼミ生の希望に応じて、刑法総論の主要論点等を班形式で取り上げ、全員で討論を行う予定である。

なお、卒業論文の作成を希望する学生に対しては、その指導を行う。

また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

研究会（4年）

—卒論研究—

教授 斎藤和夫

授業科目の内容：

卒論作成の作業を進めます。三年次のⅢ限テーマ（国際金融法務）とⅣ限テーマ（担保法）との、いずれかを選択して、卒論テーマを選択してください。大学院法学研究科（研究大学院）への進学希望者については、個別の研究指導（論文指導を含む）をおこないます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

各テーマについての参考文献等については、個別に対応します。

研究会（4年）

民法財産法ゼミナール

教授 池田真朗

授業科目の内容：

春学期は卒業論文の中間報告とそれに対する質疑を内容とする。秋学期は司法試験受験者と法科大学院進学者の個別報告とそれに対する質疑を行う。

参考書：

各人のテーマによって収集する

研究会（4年）

家族法研究

教授 犬伏由子

授業科目の内容：

家族法（民法一親族・相続編）を対象とします。三年次に引き続き、家族法の諸課題について研究を深め、各自テーマを選抜し、卒業論文の作成を行うこととなります。

参考書：

「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

研究会（4年）

教授 北澤安紀

授業科目の内容：

卒業論文作成の指導を行う。

研究会（4年）

財産法の応用的展開

助教授 武川幸嗣

授業科目の内容：

ゼミ生の将来の進路ないし希望に応じて適宜調整するつもりであるが、基本的には、3年次の課題演習を継続しつつ、これと並行ないし前後して、各自が自ら設定したテーマ研究につき、中間報告・討論を行うことを予定している。最終的には、卒業論文または課題研究としてまとめて提出してもらう。

テキスト：

特に指定しない。課題に応じて適宜指示する。

参考書：

同上。

研究会 (4年)

民法財産法の発展的研究

法務研究科 教授 片山直也

授業科目の内容：

研究会 (3年) 春学期において養われた論理的思考能力および問題解決能力を基礎に、同・秋学期において育まれた興味関心をさらに発展させ、リサーチペーパーまたは卒業論文の作成を行う。

春学期、秋学期にそれぞれ各人の研究の進捗状況について中間報告を行うとともに、秋学期は各自の研究テーマに近接する3年生のグループ研究を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各人のテーマごとに、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会 (4年)

法務研究科 教授 北居 功

授業科目の内容：

本年は卒業論文の作成を行う。その内容等については、研究会の学生との話し合いで決定する。

研究会 (4年)

民法理論の応用と基本の再確認

法務研究科 教授 松尾 弘

授業科目の内容：

- (1) 3年次における活動を踏まえ、民法解釈論の応用問題を分析し、自分自身の考察を深め、レポートないし卒業論文を作成する。
- (2) 応用問題の一環として、政府のガバナンス向上のための法制度改革、発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学 (Law and Development) に関わる諸問題の中から、自らの興味に従ってテーマを選定して研究を進め、レポートないし卒業論文を作成する。

各人の興味に従い、前期 (1) または (2) のうちから何れか一方を選択し、①文献収集、②分析、③中間報告を行ったうえで、成果物を作成する。

春学期は、①と②を中心とし、個別指導を行う。

秋学期は、③を中心とし、報告と議論を行う。

テキスト：

各人の興味と必要に応じて文献の紹介、検索・分析のアドバイス等を行う。とくに決まったテキスト、その他の文献は用いない。

参考書：

授業中に随時紹介する。

研究会 (4年)

法務研究科 教授 金山直樹

授業科目の内容：

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってもらいたいと思います。そのため、〈議論〉を最大限に重視する方針です。

テキスト：

以下の二つを交互に用いる予定です。

- 1 民法ゼミナール教材 (有斐閣) …どの問題を選ぶかは、受講生が自

主的かつ自由に決定するものとします。ただし、絶版のため、プリントする必要があります。

- 2 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

研究会 (4年)

商法 (会社法) ゼミナール

教授 加藤 修

授業科目の内容：

学術論文とは何なのかを指導し、その後、卒業論文執筆のための指導を行う。どのようにして問題意識を明確にして、論文の題目にするかがまず指導される。その後、関係参考文献と資料の探知方法、問題意識の再構成、関係参考文献と資料の批判的解析方法とその方法に基づく実行と新展開への指導がなされる。参加者全員が各自で、必ずどこかで商法と接点を有する法律問題あるいは商法の問題そのものにおいて題目を設定し、複数回の中間報告を行い卒業論文を完成する。中間報告は十分な準備をかさね、事前にレジュメを参加者全員に配布し、学会における学術発表と同じ形式でなされる。合格率の極端に低い国家試験に挑戦しようとする参加者については、卒業論文作成についての時間と労力の配分について、相談に応じます。相談に応じるだけの経験と秘訣は持ち合わせております。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会 (4年)

商法研究

教授 宮島 司

授業科目の内容：

春学期は3年と共に商法に関する具体的事例の検討を行い、秋学期は卒論の中間報告。

テキスト：

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書：

会社法概説 (第三版補正第二版)、弘文堂

研究会 (4年)

教授 山本 為三郎

授業科目の内容：

卒業論文を作成します。テーマは商事法の中から自由選択。会社法、有価証券法に限らず保険法、海商法や金融法でも可。4万字以上を目標に頑張ってください。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方 (第4版)』(八千代出版, 2003年)

研究会 (4年)

会社法ゼミナール

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

三年に学習した会社法の知識を基にして、さらに高度な内容の習得を目指す。初めて取り組む卒業論文のテーマの選択から完成までの全ての過程で、指導をおこなってゆく。

テキスト：

特になし。

参考書：

特になし。

研究会 (4年)

商法

法務研究科 教授 山手正史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を

法律

目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関するものであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

テキスト：

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法（総則・商行為）判例百選〔第4版〕』（有斐閣）および同『会社判例百選〔第6版〕』（有斐閣）は用意しておくこと。

参考書：

授業中に随時指示する。

研究会（4年）

卒業論文の作成指導

教授 並木和夫

授業科目の内容：

まず、卒論の題目を内容を決めておき、これについて指導を行う。

研究会（4年）

民事訴訟法

教授 坂原正夫

授業科目の内容：

民事訴訟法に関する卒業論文を完成させることができるようにします。卒業論文を執筆するためには、履修者は民事訴訟法に関する問題の中から任意に卒業論文のテーマを選ぶ必要があります。次に履修者はそのテーマに関して事例問題を作成し、問題と解答を授業中に報告しなければなりません。報告内容についての履修者全員の検討と担当者の講評を参考にすることによって、卒業論文の内容が深まるように指導します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

論文執筆に関する一般的な参考書については、研究会（3年）の最後の授業で配布した「4年生の研究会要領」に記載されていますので、それを参照してください。

研究会（4年）

教授 三木浩一

授業科目の内容：

民事訴訟法判決手続に関するテーマを各人が選択して卒業論文の作成を行う。夏に中間報告会を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会（4年）(秋学期集中)

経済法（独占禁止法）・国際経済法（GATT/WTO）

教授 田村次朗

授業科目の内容：

研究会（3年）の学習内容をふまえて、各自、経済法・国際経済法に関する卒業論文を作成することが基本となる。授業では卒論指導のほか、私のもう1つの専門分野である交渉学を学習する。交渉学は、講義を通じて学ぶものではなく、ロール・プレイを通じて体験的に学習するものである。具体的には、ロール・プレイを学生諸君に体験してもらい、その後のフィードバックを通じて、交渉学の基礎概念やテクニックを学んでもらう。なお、日本の法学教育における交渉学は、いまだ馴染みの浅い領域であるので、学生諸君には、単に交渉学を学ぶという姿勢にとどまらず、交渉学を私と共に作り上げるような積極的な姿勢で参加してほしい。

テキスト：

授業のなかで適宜指示・配布する。

参考書：

授業のなかで適宜指示・配布する。

研究会（4年）

労働法・社会保障法

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ（3時間）通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例及び理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生は、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

テキスト：

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』及び、各々の判例百選及び六法は持参すること。

参考書：

労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第5版）』（有斐閣、2003）
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第8版）』（有斐閣プリマシリーズ、2004）
- ・菅野和夫『労働法（第6版）』（弘文堂）

社会保障法

- ・西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003）
- ・西村道雄・編『社会保障法（第5版）』（有斐閣双書）

研究会（4年）

ヨーロッパ法史研究

教授 森 征一

授業科目の内容：

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつあるEU（欧州連合）法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解しようとするものですが、4年では研究をさらに深め、その結果を卒業論文として仕上げてもらおうことが目標です。

テキスト：

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房 2004年）

参考書：

その都度、内容に即して参考書を指示する。

研究会（4年）

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

三年次における学習や研究を基礎とし、各自が興味をもつ題材を選択して卒業論文の作成をおこなう。研究の進展にともない、随時中間報告を求めその完成をめざす。

研究会(4年)

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

3年次の課題を継続する。最終目標を卒業論文作成に置く。

テキスト：

大木雅夫『日本人の法観念』（東大出版会）

参考書：

未定

〔系列外〕

行政法Ⅲ

講師 田村 泰俊

授業科目の内容：

本講義では、行政法の中でも、地方自治法、行政組織法、公務員法をその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめる。

テキスト：

- ・宇賀克也『地方自治法概説』（有斐閣）
- ・塩野 宏『行政法Ⅲ』（有斐閣）

国際法Ⅱ

国際法における紛争解決と権利・義務の実現のための手続

講師 青木 隆

授業科目の内容：

国際法上の多様な手続を考察することによって国際法の理解をいっそう深めることを目的として、平和的解決手続を中心とする国際紛争の解決のための方法を基礎に、他の現代国際法の特徴を現すと考えられる諸局面について講義を行います。

テキスト：

教科書として指定する書籍はありません。ただし、受講にあたっては可能な限り条約集を携行してください。

参考書：

上に述べた条約集の解説とともに初回講義において説明を行います。また、授業内容の理解を深めるのに役立つ文献は、そのつど紹介します。

担保法

担保法—実体法と手続法の交錯—

(共同担当) 教授 斎藤 和夫
(共同担当) 講師 花房 博文**授業科目の内容：**

- 1) 民法判例百選ⅡⅡ（ジュリスト増刊）・担保法の判例ⅡⅡ（ジュリスト増刊）・清水＝高木編・「担保・保証」・有斐閣：1988年を教材として、レポーター形式（演習形式）（判例研究）でおこないます。研究会（斎藤）履修者の場合には、セミナーのスケジュールの一環を成すものとなります。前年度のスケジュールの継続となりますので、4年ゼミ員も履修申告のこと。
- 2) また、今年度のポイントとして、民法典の担保物権編や人的担保、執行法や倒産法との関連などをも、重点的に考察する予定です。
- 3) 大学院法学研究科（研究大学院）への進学希望者（ゼミ履修者）には、個別相談により対応します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

講義の進行にあわせて、随時、指示します。

商法Ⅳ

保険法

教授 島原 宏明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くとき、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかになされるべきであらうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房

民事訴訟法Ⅱ

教授 三木 浩一

授業科目の内容：

民事訴訟の手続きの流れにおける後半部分および複雑な訴訟形態（訴訟の終了、上訴および再審、複数請求訴訟、多数当事者訴訟など）を講義する。なお、時間の余裕があれば、民事執行法も取り上げることとする。講義は、受講者において昨年またはそれ以前に民事訴訟法Ⅰを履修済みであるか、民事訴訟法の基礎を独習していることを前提として行う。

破産法

倒産法基礎理論の理解

法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制の基礎理論を講義する。

授業では、会社更生法や民事再生法などが国における現行の倒産法制にも言及するが、破産法を中心に講義をすることになる。なぜならば、破産法は、我が国倒産法制の中でもっとも基本的なものであり、各倒産法制は、多かれ少なかれ、破産法の基礎概念の上に構築されているといっても過言ではない。よって、わが国倒産法制を理解するためには、破産法の基礎概念の理解が不可欠であり、逆に言えば、破産法が理解できれば、他の倒産法制の理解も格段に容易になると考えるからである。

講義にあたっては、初学者を対象に、破産手続の基本的な流れを十分に理解してもらうために、基本的な事項を中心として手続の初めから終わりまでまんべんなく触れるつもりである。

テキスト：

テキストは用いず、講義レジュメを配布する。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時にを行う。

参考書：

青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選〔第三版〕』（別冊ジュリスト No.163）有斐閣

授業科目の内容：

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い、国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み、本講義では、今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は、私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で、民法・商法と似通った側面をもつが、他方で、私法的な法律関係のうちとくに渉外的な（外国的な）要素がある法律関係（例えば、国際契約、国際結婚等）を規律するという点で、民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば、日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や、フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合、日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理すべきなのか。この事案には訴訟が行われる地の法律である日本の民法の規定が当然に適用されるのか、あるいは、外国の法律の規定が適用されるのかが問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には、渉外的法律関係を規律するための基準となる法（準拠法）を世界中の法律の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

これらのうち、本講義では、まず、狭義の国際私法について検討する。すなわち、渉外的私法的法律関係を実体法上いかに規律すべきかという観点から、国際私法の基本的な概念ならびに国際私法における準拠法決定のプロセスについて説明したうえで（国際私法総論）、わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法例」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討する（国際私法各論）。具体的には、国際契約法、国際物権法、国際婚姻法、国際親子法、国際相続法等について言及する予定である。

また、渉外民事事件に関する手続法上の問題については、国際裁判管轄の決定方法、外国判決の承認・執行、国際的訴訟競合等の問題を中心に、具体的な紛争事例を参照しつつ検討することとしたい。

テキスト：

櫻田嘉章『国際私法〔第4版〕（有斐閣双書）』（有斐閣Sシリーズ・2005年）

参考書：

- ・『国際私法判例百選（ジュリスト別冊）』（有斐閣・2004年）
- ・櫻田嘉章＝道垣内正人他『ロースクール国際私法・国際民事手続法』（有斐閣・2005年）

国際取引法

世界貿易機関 (WTO) の通商ルール入門

講師 荒木 一郎

授業科目の内容：

WTO のルールを中心とする国際通商に対する法的規制の概要についての理解を深めることを目的とします。国際法や経済法についての知識は必ずしも前提とはしませんが、英文資料をしばしば参照しますので、基本的な英文読解力が必要です。

テキスト：

中川淳司・清水章雄・平覚・間宮勇『国際経済法』（有斐閣）

参考書：

小室程夫『ゼミナール国際経済法入門』（日本経済新聞社）

犯罪学

犯罪とは何か～犯罪・非行に対する実態的考察とその理論化

講師 守山 正

授業科目の内容：

こんにち、犯罪学の学問対象は拡大化しつつあり、とくに欧米で

は、犯罪・犯罪者の問題にとどまらず、被害者、地域社会のあり方、さらには、その法的対応にまで言及して、総合科学の域にある。しかし、他の関連科目との関係から、本講義では、できる限り事実に依拠して、犯罪・非行という「なまの事実」を種々の角度から考察し、犯罪・非行の人間の、社会的、文化的意味を考究する。さらに、その理解のために考案された各種理論の歴史、内容、展望等を行い、現代社会において犯罪・非行現象に適合する理論を検討する。また、個別犯罪現象も扱い、それぞれの問題性に迫る。講義では、内容は基本的にはプロジェクター画面に表示し、必要であれば、ビデオ・DVD等を教材として活用する。

テキスト：

守山著『新・犯罪学講義ノート』（成文堂、2005年4月刊行予定）

被害者学

被害者学基礎理論と被害者支援論 教授 太田 達也

授業科目の内容：

被害者学は、被害者化と呼ばれる犯罪被害の発生過程と要因を実証的に研究する基礎理論と、そうした研究成果をも踏まえ、犯罪被害者に対する支援や刑事手続における地位の在り方、更には効果的な被害予防を検討する被害者支援論とも言うべき分野に大別される。

被害者学は第二次世界大戦前後に提起された新しい学問分野であるが、歴史的には、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ（被害受容性）といった被害者化の過程に関する研究に始まり、1960年代以降は、犯罪被害者に対する国家補償制度、1970年代以降は被害者に対する危機介入などの直接支援、更に1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する研究へと発展してきている。また、犯罪者が被害者やコミュニティに与えた「損害」の内容を犯罪者自身に正しく認識させ、その「損害」の「回復」に向けた適切で可能な限りの努力を営ませることによって犯罪という「紛争」の真の「解決」ないし「終結」を目指すことを司法の基本理念とする修復的司法の理念に基づく様々な制度が世界各地で導入されるに至り、被害者の立場にも大きな影響を与えると同時に、被害者支援の見地から有るべき姿の模索が続けられている。

我が国でも遅ればせながら、1980年に犯罪被害者等給付金支給法（2001年の改正で法律の名称が改正されている）が制定され、公的な財源による犯罪被害者への給付金制度が創設され、その後の空白期間を経て、1996年に警察庁が被害者対策要綱を制定してからは、犯罪被害者に対する保護や支援の制度が実務レベルで改善されるとともに、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法も実現している。

本講義では、被害者学の創設期に提唱された基礎的な理論を紹介した上で、各種犯罪被害の状況や要因について概説し、春学期には、犯罪被害者に対する経済的支援、被害者の保護・二次被害の防止、被害者への情報提供、被害者の刑事手続における地位と関与、修復的司法などについて講義する。

テキスト：

特に指定しないが、下記の参考書を参考にされたい。

参考書：

- 講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。
- ・諸澤英道『新版被害者学入門』（2001年、成文堂）。
- ・小西聖子『犯罪被害者の心の傷』（1996年、白水社）
- ・宮澤浩一＝田口守一＝高橋則夫『犯罪被害者の研究』（1996年、成文堂）
- ・宮澤浩一＝國松孝次監修『講座被害者支援』全5巻（2000年、成文堂）
- ・松尾浩也編著『逐条解説・犯罪被害者保護二法』ジュリストブック（2001年、有斐閣）

さらに、日本被害者学会の学会誌『被害者学研究』に多くの論文が掲載されている。

法制史(日本)

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

本講義は、日吉において開講されている「法制史(基礎)」に連続するものである。従って、古代を中心に講じた日吉での内容を承けて、時代的には、中世から近代の間について述べることを予定している。中世に関しては、武士の台頭と切り離すことのできない鎌倉時代という時代が、一体どの様な時代であったかを考えながら、武家社会の法として著名な「貞永式目」の編纂経緯や鎌倉幕府のもとでおこなわれた裁判の内容にふれてみたい。続いて、室町時代開幕期に定められた「建武式目」の性格づけを論じ、さらに、戦国大名が領国経営のために制定した戦国家法を取りあげ、その特徴に言及するつもりである。近世については、最初に、幕府法の態様を知ることを軸に、江戸時代の「法」の概要を述べる。そうして得られた基礎知識を前提に、初代家康以来時代とともに変わりゆく、幕府と大名との支配関係を詳らかにする「武家諸法度」の内容にふれ、併せて幕府が自ら直接支配する地域におこなった「公事方御定書」の編纂・性格・具体的内容を明らかにしたい。さらには、TV・映画・演劇で日本人の血をわかせる時代劇の世界へも目を向け、当時の刑事罰や警察活動(いわゆる「捕物」の世界である)、併せて刑事裁判の史実現実に迫りたいと考えている。

最後に近代に関しては、明治維新後の法制度の近代化、特に刑法・刑事裁判のそれを中心テーマとして取り上げ論じてみたいと思う。すなわち、まず明治初期に政府が編纂した諸刑律典(「仮刑律」・「新律綱領」・「改定律例」)を素材に、当該分野での近代化がどのように進んでいったのか、わが国最初の近代刑律典といわれる「旧刑法」施行(明治15年1月1日)までの経緯を述べるつもりである。

テキスト：

霞・漆原・浜野「日本法制史 史料集」(慶應義塾大学出版会 2003年 2000円)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する。

法制史(日本)

明治時代以降の日本法の近代化過程を論点的に考察する

教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

本講義は、通年制の講義形態を前提にしている。

まず講義前半部分では、法の歴史を問う現代的な視点を明らかにするために、現代に生ずる様々な訴訟事件を法的に解決するにあたって、優れて歴史解釈的なセンスが要求された問題を取り上げ、それらを通して、法史の上で現在と過去をつなぐ論点を確認する。さらに、析出された具体的な論点を歴史に問う手段として、とくに訴訟関係資料を中心とした資料論を提示し、近代日本法の歴史を学ぶ基本的な道具立てを紹介する。

後半では、近代日本法を形成する主要法典の編纂過程を概観する。諸法典が制定されてゆく経過を、我が国の近代法の描く国家と法のグランドデザインの形成過程としてとらえつつ、講義を進めてゆきたい。また、これまで「日本人の法意識」が具体的に論じられる素材として、日本人の訴訟忌避行動についての分析が、現在、様々な角度から法社会学的に進められている。

本講義では、歴史的視点からこの問題を吟味するために、我が国の近世における民事訴訟システムのあり方と近代期のそれとの比較を行い、両者間の連続と断絶とを見極め、「日本人の法意識」を形成する歴史的な要因を考えてみることにしたい。

テキスト：

特に指定はしない。

参考書：

- ・川口由彦著『日本近代法制史—新法学ライブラリ29』(新世社・1998年)
- ・水林彪他編『法社会史』(山川出版社・2001年)
- ・山中永之佑編『新・日本近代法論』(法律文化社・2002年)
- ・同編『日本近代法案内』(法律文化社・2003年)等。

法制史(東洋)

法文化の歩み

講師 堀

毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

参考書：

授業時に提示

法制史(西洋)

ローマ法とヨーロッパ法史

講師 村上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特徴と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継受をへて近代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局をクローズアップしていきたくと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URLやパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

概説『西洋法制史』(勝田有恒・森征一・山内進編著) ミネルヴァ書房

租税法

21世紀にふさわしい税制の構築に向けて

助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法学は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学のアプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることであっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

参考書：

金子宏『租税法』弘文堂、『小六法』有斐閣

国際租税法

講師 赤松 晃

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的事業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重

法律

要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。ストックオプション課税、国際節税商品、恒久的施設(P. E.) 認定課税、タックス・ヘイブン対策税制、外国税額控除、国際金融取引に係る源泉所得税、移転価格課税、国際 M&A、新日米租税条約などに関する新聞報道を通じて、国際租税原則、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的二重課税の排除のための制度とその運用の実際についてのトータルな理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

- テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。
- 税制調査会に財務省が提出した次の資料が参考になります。
- ・「基礎問題小委員会」第2回(平成15年11月17日開催)日米新租税条約
- ・「基礎問題小委員会」第19回(平成12年4月25日開催)国際課税
- ・<http://www.mof.go.jp/singikai/zeicho/top.thm> (議事録・提出資料)
- ・国税庁パンフレット「非居住者又は外国人に支払う所得の源泉徴収事務」も参照します。
- <http://www.nta.go.jp/category/pamph/gensen/2696/10/01.htm>
- ・赤松晃「新日米租税条約と日本の国際租税法—外国税額控除制度の再検討—」租税研究 2004. 7
- ・赤松晃「恒久的施設 (Permanent Establishment) の認定課税と OECD モデル租税条約コメントリーの進展」ジュリスト 2004. 09. 01

参考書：

- ガイドンスにおいて紹介しますが、近年出版された国際租税法に関する書籍を次に示します。
- ・水野忠恒『租税法』有斐閣
- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・赤松晃『国際租税原則と日本の国際租税法』税務研究会出版局
- ・村井正他『教材 国際租税法』信山社
- ・水野忠恒『国際課税の制度と理論—国際租税法の基礎的考察—』有斐閣
- ・木村弘之亮『国際税法』成文堂

海洋法

名誉教授 栗林忠男

授業科目の内容：

国連海洋法条約(1982年採択)を中心に海洋法の諸問題について講義する。特に海洋法と日本の関係について触れるようにしたい。

医事法

(共同担当) 教授 加藤久雄

医事刑法

(共同担当) 客員教授 児玉安司

授業科目の内容：

「医事法」は、言うまでもなく、「医療」をめぐる法律問題を幅広く扱うばかりではなく、遺伝子組換え、遺伝子治療、染色体異常、脳死、臓器移植(生体間移植、異種移植も含む)、安楽死と尊厳死、人工授精(リプロダクション)、初期胚の保護、ガンの告知、エイズ問題、インフォームド・コンセントの問題、医学・医療上の人体実験、新薬治験と人体実験、医療現場における安全対策、触法精神障害者の処遇など「法と医の倫理」の問題をも広くそのストライク・ゾーンとしている最も今日的な法律学の研究領域である。

これらのテーマについて、具体的判例を検討する。そして、医事法で扱うテーマでは、たとえば1997年10月施行された「臓器移植法」の成立過程で明らかになったように、高額医療に対する保険や厚生行政の問題、脳死を「人の死」とするかどうかで「生命倫理」の問題、早過ぎる臓器摘出に伴う、刑法上、民法上の諸問題、ドナー不足と生体間移植の問題などについて法律学のみならず政治学、生命倫理学、社会学、行政学、法制度論、医学、情報処理学などからの解決が必要である。

担当者加藤は、医事刑法をその主たる専門領域としているので、英米法と民法に関する医事法のテーマに関連する他の専門領域に関しては共同担当者の児玉安司客員教授(弁護士・ニューヨーク州弁護士)に第一線の実務家の立場から具体的事例を中心に、またテーマによりゲストの講師による幅広い、ダイナミックな講義を予定している。

テキスト：

加藤久雄『医事刑法入門』(東京法令出版・2004年新訂版)

知的財産法

講師 角田政芳

授業科目の内容：

今、私達は、あの産業革命にも匹敵するIT革命の真っ只中にある。その中で、テクノロジー、デザイン、ブランドそしてアートの法的保護の重要性は高まるばかりである。知的財産権は、これらの人類の知的創作に対する私権であり排他的独占権である。その保護法を知的財産権法と総称している。その法的保護は、国内にとどまらずグローバルである必要がある。また、それらの利用形態は企業と個人の間で差が小さくなっており、誰もが知的創作物に関する法的なルールと無縁ではなくなっている。ビジネスモデル、バイオテクノロジー、コンピュータソフトウェア、データベース等の発達も新たなレベルの保護が検討されている。この講義では、知的財産権法の全体を、具体的な事件を通して体系的な理解をめざしたい。

テキスト：

角田政芳・辰巳直彦「知的財産法(第2版)」有斐閣(2003年発行)

参考書：

- ・角田政芳「知的財産権六法(2005年版)」三省堂(2005年2月発行)
- ・角田政芳「ケーススタディ知的財産法」三省堂(2005年3月発行予定)

裁判法

わが国の裁判所と法律家と裁判手続

法務研究科 教授 三上威彦

授業科目の内容：

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、①裁判はどのような組織によってなされるのか(裁判所制度)、②裁判はどのような人々によって運営されているのか(法律家)、③裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか(裁判手続)といった3つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

テキスト：

とくに指定せず、講義レジュメを配布する。

参考書：

講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫(著)『裁判法〔第4版2刷(補訂)〕』(有斐閣)、市川正人・酒巻匡・山本和彦(著)『現代の裁判〔第3版〕』有斐閣アルマ(有斐閣)、および小島武司(編)『ブリックブック裁判法』(信山社)等を適宜参照されたい。

社会保障法

労働者の生活を支える社会保険と高齢者に関する政策を学ぶ

助教 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において、個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられる広い分野の法的問題を研究対象とします。

そこで当講義で具体的に取り上げる領域としては、まず社会保障法総論をお話ししたあと、労働法と呼応する形で、労働者がその人生の中で様々に関わる社会保険(雇用保険、労働災害補償保険、年金保

険、医療保険、介護保険)を中心に講義をします。

続いて秋学期中頃から社会福祉の領域に入り、特に高齢者福祉の問題を取り上げます。医療・福祉・介護といった、縦割りの領域としては三つの法分野にまたがる問題点を、多角的に講義します。これは上述の介護保険と関連させて理解しなければならない領域です。後期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくります。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので、内藤担当の労働法(E系列)を既に履修したか、履修中であることが望ましいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話します。なお講義には、六法と下記の二冊を必ず携行してください。

- ・別冊ジュリスト・社会保障判例百選〔第三版〕(有斐閣, 2000)
- ・岩村・菊池・編、『目で見る社会保障教材〔第三版〕』(有斐閣, 2004)

参考書：

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)

法とコンピュータ 講師 吉野 一

授業科目の内容：

法分野へのコンピュータの応用について講義と実習を行う。法学をよく学ぶためにも、法的実践においてよい働きをするためにも、効率的な情報処理や情報検索の技術を習得する必要がある。また先端的な知識情報処理の観点から法および法学を見ることも必要である。本講義・実習は事例問題から出発する。そしてその問題を解決するために必要な知識と技術を知り、身につけるというアプローチをとる。春学期は法情報処理の基礎知識と技術を身につけることを主たる目的とする。すなわち、コンピュータソフトウェア(ワープロソフト、表計算、データベース、プレゼンテーション)の利用方法を学び、グループ学習を行うための電子メールの先進的な利用方法やインターネット上の情報検索の方法を学ぶ。判例検索や法令検索で法情報を獲得する方法を学ぶ。また獲得した情報を加工し表現する技術も学ぶ。秋学期は法律人工知能の基礎について講義と実習を行う。法律人工知能は、相談事例を入力すると、法的推論を行い、法的判断を出力するシステムである。それはまた法的推論過程や法の構造を分かりやすく示してくれる。法律人工知能は、法的知識を構造化してコンピュータに登載することによって実現される。本講義・実習では、契約法の実例問題を解くための法的知識と法的推論の構造を分析し、コンピュータ上に実装する。受講者が自分自身の一つの法的推論システムを実現することが最終目標である。

テキスト：

吉野一他編著『法律人工知能』(創成社)

教材は、適宜授業において提示するとともに、事前に WWW 上で公開する予定である。

参考書：

- ・吉野一編著『法律エキスパートシステムの基礎』(ぎょうせい)
- ・加賀山茂・松浦好治『法情報学』(有斐閣)

環境法 法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容：

受講者が環境法の全体像を 1 年間でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は、さまざまな分野にわたって発生しています。なかには、私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり、私たちの世代だけでなく、次の世代にまで影響を及ぼし、あるいは国内にとどまらず、地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り、後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか、ということを考えながら進めていきます。

テキスト：

プリントを配る予定です。

参考書：

大塚 直「環境法」有斐閣, 2002 年

政策と法 講師 有川 博

授業科目の内容：

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正、適切に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか(そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか)を学ぶとともに、各政策過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶこととする。

テキスト：

毎回、講義要旨プリントまたは講義資料プリントを配布します。

参考書：

拙著『有効性の検査の展開—政策評価との交錯—』
その他、各項目ごとに配布プリントの中で紹介します。

法と経済(秋学期) 産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容：

かつて、経済法の講義は総論と各論の二つの部分により構成され、前者においては経済法の一般理論が、後者においては独占禁止法を中心とした実定経済法の解釈論が、それぞれ講じられていた。しかし、このところの実定経済法—とりわけ独占禁止法—の理論の進展、判・審決例の集積、行政ガイドラインの定着などを受け、経済法の講義は実定経済法を中心とする独占禁止法の説明に多くの時間を費やさざるを得なくなった。このため、慶應義塾において伝統的に行われてきた経済法・総論の内容が十分に論じられることがないまま、ここ数年、経済法=独占禁止法という枠組みの中で講義が展開され、総論的内容はおろそかにされる傾向があった。このような状況に対処すべく、設置されたのが本科目「法と経済」である。

したがって、本講義では、まず経済法の一般理論を、その発生・成立の経緯から戦前戦後にわたる学説の展開に至るまでを、伝統的かつオーソドックスな手法で解説を試み、経済法理論の現段階を明らかにしていく。

わが国は、戦後において経済制度の転換を経験しつつも、現在までに大きな経済的成功をわがものとしてきた。この経済的発展には、数多くの実定経済法とそれに基づく具体的な経済政策とが深く関わってきたといえる。しかしながら、これらの実定経済法の統一的ないし体系的把握は、現在に至るまで、必ずしも充分になされてきたとはいえない。わが国における経済法の本質的把握には、市場や経済に対し、国・公権力が、法を媒介として、どのように介入・関与しているのかをつぶさに検証していかなければならない。また、その評価には一定の理論というフィルターが必要となる。そこで、ここではいまだ試論の域を出ないが、現代における市場経済体制を基盤とした経済法理論の構築を目指しつつ、実定経済法の統一的・体系的把握を試みていくことにしたい。

テキスト：

講義全体をカバーする適当な教科書はないため、特に指定しない。本講義の構想と併せて簡単な文献紹介は講義初回に行う。

参考書：

テキスト同様、特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては、講義中にその都度紹介する。また、経済法の一般理論についての参考文献については若干古いものもあわせいくつか指摘しておくことにする。

- ・正田彬『経済法講義』(日本評論社・1999年)

法律

- ・正田彬＝金井貫嗣＝畠山武道＝藤原淳一郎『現代経済法講座第1巻・現代経済社会と法』（三省堂・1990年）
- ・丹宗暁信＝伊従寛『経済法総論』（青林書院・1999年）
- ・丹宗暁信＝厚谷襄児編『現代経済法入門』（法律文化社・1981年）：新版が1999年に刊行されているが、ここではあえて旧版をあげておく。
- ・金沢良雄『経済法』（有斐閣・新版・1980年）
- ・峯村光郎『経済法の基本問題』（慶應通信・1959年）

法思想史

法と国家に関する諸理論の史的考察

講師 國分典子

授業科目の内容：

「法思想史」は、「法」「思想」「史」の三つの要素をもつために、ともすれば「法学」から逸脱した感も与える幅広い学問領域です。しかし、一方で、「思想的」「史的」考察の基礎づけなくして「法」は語れません。

ここでは、正義の概念、法と国家の関係を中心に、西洋法思想の発展過程を考察し、それが現代の法理論状況とどう関わっているかを考えてゆきます。

春学期は総論と古代から近代まで、秋学期は近代以降を中心に、アジアにおける西洋法受容の問題も扱う予定です。

テキスト：

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書：

田中成明他『法思想史』（有斐閣Sシリーズ）

宇宙法（春学期） 総合政策学部 教授 青木節子

授業科目の内容：

国際宇宙公法を中心に、宇宙活動を律する私法についても学習する。半期の受講により、現在の宇宙法の全体像を把握することが講義の目的である。

テキスト：

国際法学会編『陸・空・宇宙』（三省堂、2001年）

参考書：

編集代表栗林忠男『解説宇宙法資料集』（慶應通信、1995年）

政治学Ⅰ（春学期）

現代日本の政策形成過程分析Ⅰ 講師 竹中治堅

授業科目の内容：

郵政事業は、なぜ民営化されようとしているのか。道路公団は、なぜ民営化されたのか。年金制度になぜ、変更が加えられたのか。消費税は、引き上げられるのか。また、そもそもなぜ導入されたのか。公共事業の予算は、なぜ削減されているのか。

上記は、いずれもある政策が決められようとしている、あるいは決められた例である。政治学ⅠおよびⅡの目標は、日本の政策形成過程について理解する力を養うことにある。また、この前提として、戦後の日本政治についても理解できるようにする。特に、1990年代以降日本政治は、急速な変貌を遂げており、この理解に重点を置く。

政策が形成され、実施に移されるまでの過程は①選挙による政治家の選出→②衆議院における政権形成→③政策立案→④国会における予算・法律審議→⑤行政による政策執行というプロセスとして理解することができる。

しかし、政策形成過程を的確に理解するためには、基礎知識として、戦後、日本の政治がいかに展開されてきたかについて知る必要がある。また、日本の統治制度についても、この下で、政策が形成される以上、理解する必要がある。そこで、政治学Ⅰでは、まず、戦後の日本政治の歩みを概観し、統治制度について議論する。その上で、さらに政策形成課程のうち、①選挙がおこなわれ、②政権が形成されるまでの過程について議論する。その際、特に、選挙制度などの政治制度に関する理論を紹介し、政治制度がいかに政治家や政党の行動を規定しているかについて、理解を深められるようにする。

（受講を考えている学生は、学内のウェブから本シラバスに再度アクセスし、授業計画について参照されたし。）

ところで、大学における勉強の三本柱は①講義への参加、②優れた研究書・論文の読破、③特定の問題について自分で考え、それを文章の形にまとめることである。従って、本講義の受講者は、①講義内容を基に出題される期末試験を受験することに加え、②毎週、テキストのうち特に指定する章、或いは、指定する日本の政治に関する代表的論文（生協購買部で教材として入手できるよう手配）の要約を宿題として提出すると共に、③岸内閣から小渕内閣のうち、一つの内閣を取り上げ、内閣の成立過程、代表的政策、消滅過程について、まとめ、レポートとして提出することが求められる。課題については開講時にさらに詳しく説明する。

本講義で読むテキスト、論文はいずれも優れた研究であり、要約実行後は必ず達成感のあることを約束する。また、一つの内閣についてまとめることによって、日本の政治について理解が深まるはずである。

テキスト：

- ・北岡伸一『自民党：政権党の38年』（読売新聞社、1995年）
- ・T. J. Pempel. Regime Shift (Cornell University Press, 1998)
- ・M. ラムザイヤー、F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』（弘文堂、1995年）
- ・教材集（生協で入手できるよう手配）

参考書：

講義用の参考書：

- ・平野浩・河野勝『日本政治論』（日本経済評論社、2003年）
- レポート用の参考書（これに限るものではない）：
 - ・御厨貴編『歴代首相物語』（新書館、2003年）
 - ・林茂・辻清明編『日本内閣史録』5巻、6巻（第一法規、1981年）

政治学Ⅱ（秋学期）

現代日本における政策形成過程の分析Ⅱ

講師 竹中治堅

授業科目の内容：

郵政事業は、なぜ民営化されようとしているのか。道路公団は、なぜ民営化されたのか。年金制度になぜ、変更が加えられたのか。消費税は、引き上げられるのか。また、そもそもなぜ導入されたのか。公共事業の予算は、なぜ削減されているのか。

上記は、いずれもある政策が決められようとしている、あるいは決められた例である。政治学ⅠおよびⅡの目標は、日本の政策形成過程について理解する力を養うことにある。また、この前提として、戦後の日本政治についても理解できるようにする。特に、1990年代以降日本政治は、急速な変貌を遂げており、この理解に重点を置く。

政策が形成され、実施に移されるまでの過程は①選挙による政治家の選出→②衆議院における政権形成→③政策立案→④国会における予算・法律審議→⑤行政による政策執行というプロセスとして理解することができる。政治学Ⅱでは、政治学Ⅰで行った議論を踏まえ、政策形成過程のうち、政策が立案され、決定されていく政策決定過程（③および④にあたる）について議論する。

議論する際には、政策決定の法制度的枠組みを紹介する一方で、政策決定に影響力を行使する者・機関を紹介する。その上で、日本における政策決定を分析するために有効な代表的な分析視角を紹介し、さらに、これらの視角に基づいて具体的な政策決定を分析する。

（受講を考えている学生は、学内のウェブから本シラバスに再度アクセスし、授業計画について参照されたし。）

ところで、大学における勉強の三本柱は①講義への参加、②優れた研究書・論文の読破、③特定の問題について自分で考え、それを文章の形にまとめることである。従って、本講義の受講者は、①講義内容を基に出題される期末試験を受験することに加え、②毎週、テキストのうち特に指定する章、或いは、指定する日本の政策決定に関する代表的論文（生協購買部で教材として入手できるよう手配）の要約を宿題として提出すると共に、③具体的な国内政策が決定された事例（高度成長、消費税導入・引き上げ、農業自由化、行政改革、健康保険・年金改革などなど）を取りあげ、『日本政治の経済学』、『通産省と日本の奇跡』（後者は絶版、対応方法については開講時に説明）で提示

される分析視角を基に分析したレポートを冬休み明けに提出することが求められる。

政策決定の事例の選択は受講者の選択に委ねられる。(特でない場合、1990年代以降生じた不良債権問題・金融システム問題に対処する政策が決定される過程を分析することを薦める。この分析を行うために参考となり、かつ、読み易い書籍を参考書として掲げる。課題については開講時にさらに詳しく説明する。)

本講義で指定するテキスト、論文はいずれもすぐれた研究であり、要約実行後は必ず達成感のあることを約束する。また、自分で実際にある分析視角を用いて、特定の政策決定を分析することを通じて日本の政策決定過程を分析する知力が確実に養われることを期待してもらいたい。

テキスト：

- ・M. ラムザイヤー, F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』(弘文堂, 1995年)
- ・教材集(生協で入手できるよう手配)

参考書：

講義用の参考書：

平野浩・河野勝『日本政治論』(日本経済評論社, 2003年)

社会学Ⅰ(春学期)

社会理論の系譜と展開

助教授 澤井 敦

授業科目の内容：

私たちの生きる同時代の社会、「現代社会」がはらむ問題性を、リアルタイムで、なおかつ総体的に診断しようとする営みを「現代社会理論」と呼ぶ場合、その原点として、第二次大戦中の亡命社会学者たちの理論をあげる論者が少なくない。本講義では、この原点から現在にいたる社会理論の系譜と展開を、理論がうみだされた時代的・社会的背景、および、各々の理論の相互関係に留意しながら、解説していく。また、さまざまな社会理論が日本において受容され、日本社会の分析に使用されるさいに被る変容についても、随時言及する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に紹介する。

社会学Ⅱ(秋学期)

社会理論で読みとく現代社会の死の様相

助教授 澤井 敦

授業科目の内容：

社会理論のひとつの魅力は、身近な現象を、社会全体の構造・変動とリンクさせて理解するための幅広い視野をあたえてくれるという点にある。本講義では、ひとつの題材として死という現象をとりあげ、その現代社会における様相を、社会理論をもちいて読みとくことを試みる。とりあげる予定の理論・理論家は、ヴェーバー、デュルケム、パーソンズ、エスノメソドロジー、シンボリック相互作用論、バーガー、エリアス、ギデンズ、バウマン、ポストモダンティ論、身体社会学、物語論などである。

テキスト：

初回授業時に指示する。

参考書：

授業中に紹介する。

経済政策

政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕幸

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政

府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。景気政策、規制緩和、社会保障政策、環境政策など、経済政策課題を取り入れる。その意味で、この講義は、経済理論と現実への架け橋を理解することをねらっている。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

経済原論

「経済学はなぜ必要か」 経済学部 教授 山田太門

授業科目の内容：

今日の社会ではほとんどすべての生活が経済取引と関係している。そこで経済とは何かを明らかにするための経済学がどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのように異なるかに注意しながら経済学の基本的な考え方を紹介する。次に経済学が現実の様々な現象を説明するためにどのように応用されているかを公共経済学を例として解説する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示する予定。

財政論(秋学期集中)

講師 牛丸 聡

授業科目の内容：

財政学は政府の収入と支出に関する学問です。財政学に関する基本的な知識を提供するとともに、わが国の財政制度の仕組みと財政の現状と問題点を理解できるように講義します。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

その都度紹介します。

金融論

経済学部 教授 吉野直行(春学期)

経済学部 教授 塩沢修平(秋学期)

授業科目の内容：

(春学期)

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債権市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概術する。

(秋学期)

金融市場、金融政策、国際金融、金融派生商品について、主として理論的な観点から概術する。

テキスト：

(春学期) 使用しない

(秋学期) 塩沢『現代金融論』創文社, 2002年

参考書：

(春学期) 吉野直行・高月正年「入門・金融」(有斐閣)

その他の参考文献は、講義の中で説明する。

(秋学期) 適宜指示する。

会計学

商学部 教授 黒川行治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題、会計認識および測定に関する基本的論理、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の

法律

具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・武田隆二「会計学一般教程〔第六版〕」（中央経済社）
- ・黒川行治「連結会計」（新世社）

参考書：

- 黒川行治「合併会計選択論」（中央経済社）

経営学

商学部 教授 神原研互

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

- 初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之／加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 2003年
- ・今口忠政著『事例で学ぶ経営学』白桃書房 2004年

〔系列科目〕

〔文献講読〕

文献講読 I (独書)(春学期)

政治学文献をドイツ語で読めるようになろう

教授 萩原能久

授業科目の内容：

この授業では、ドイツ語で書かれた社会科学の専門書を正確に読みこなす能力の育成と同時に、書かれている内容に関しても積極的な討論を行います。履修者は少数でしょうから、基本的には開講時に相談して、受講者の関心にできるだけそった使用テキストを決めたいと思いますが、基本的に、政治学の理論的問題、ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの政治・社会情勢の問題を扱うつもりです。

政治思想に関心のある受講者が多い場合には、特定の思想家の著作を読むこともあります。

テキスト：

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書：

辞書（電子辞書でも結構ですが、収録語数、文例の多いものでないに役に立ちません）は必ず携行してください。

文献講読 II (独書)(秋学期)

助教授 田上雅徳

授業科目の内容：

ドイツ語で著された政治史・政治思想史の研究書を講読します。

テキスト：

Rudolf Weber-Fas; Über die Staatsgewalt, Von Platons Idealstaat bis zur Europäischen Union (München, 2000).

文献講読 I (仏書)(春学期)

現代フランス論

専任講師 木俣章

授業科目の内容：

ミシェル・ヴィノック（パリ政治学院現代史教授）による「現代フランス論」の前半部分を講読します。テキストは、経済のグローバル化、ヨーロッパ連合の拡大、情報革命の進行、移民の遍在化、文明の衝突など、時代の大転換期にさらされているフランス国家と社会の現状と今後の方向性について、歴史的背景を的確におさえながら、多様な側面、表象から考察したものでフランスのみならず、ヨーロッパ理解に裨益するところ大であると考えられる。行文を正しく解釈することは第一の作業となるが、そこに登場する人名・事象・キーワードに関しても調査、探求されることが求められる。

テキスト：

Michel Winock, Parlez-moi de la France, Ed. Du Seuil. 1997.

講読用テキストは、プリントで配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

文献講読 II (仏書)(秋学期)

現代フランス論

助教授 鶴崎明彦

授業科目の内容：

春学期に続いて、ミシェル・ヴィノックによる「現代フランス論」の後半部分を講読いたします。

テキスト：

Michel Winock, Parlez-moi de la France, Ed Du Seuil, 1997

講読用テキストはプリントにて配布いたします。

参考書：

必要に応じて適宜紹介します。

文献講読 I (中国書)(春学期)

教授 安田淳

授業科目の内容：

中国の政治・社会等に関する中国語文献を講読することにより、現代中国の歴史や現状を理解し問題意識を高めることを目的とする。

テキスト：

教材は授業中にプリントとして配布する。

文献講読 II (中国書)(秋学期)

教授 安田淳

授業科目の内容他：

文献講読 I (中国書)(春学期)に同じ。

文献講読 I (西書)(春学期)

助教授 大久保教宏

授業科目の内容：

1910年に始まり、一体いつ終わったのかはっきりしないメキシコ革命には、同時期に起きたロシア革命のレーニンや辛亥革命の孫文のような明確な指導者がいない。その代わりに、多くの個性豊かな指導者が入れ代わり立ち代わり現れた。この授業ではこのようなメキシコ革命の指導者たちの生涯を概説した Enrique Krauze 著、*Biografia del poder* (『権力者伝』)を講読し、メキシコ革命に関する知識を深めつつ、スペイン語読解力の向上を目指す。具体的には、マデーロ、サバータ、ビージャ、カランサ、オブレゴン、カジェス、カルデナスの7人が取り上げられており、うち大統領にまで上りつめた者5人、暗殺された者やはり5人という具合で、メキシコ革命指導者の栄枯盛衰の激しさを物語っている。著者の Krauze はメキシコを代表する歴史学者であり、その論理的で明快な文章に触れることは、スペイン語文献を読み始めた諸君にとって、よい訓練となるであろう。

テキスト：

Enrique Krauze, *Biografia del poder*, México, Tusquets Editores, 1997. コピーを配布します。

文献講読 II (西書)(秋学期)

助教授 大久保教宏

授業科目の内容：

春学期と同じ本をひたすら読みます。

文献講読 I (露書)(春学期)

ネットの記事を読もう

教授 山田恒

授業科目の内容：

ネット上の記事を容易に読めることを通年の目的とします。ロシアのニュースを出来るだけ時間をかけず、つまり辞書などを使わずに読める能力の養成です。ただネット上の語彙、あるいは文体は、通常のロシア語とは若干異なっていますので、それなりの準備が必要です。

春学期には、用意されたテキストを全てきちんと理解することを目指します。文法事項、語彙、語句、慣用表現などを徹底して繰り返します。テキストとしては、ロシアの政治経済事情を伝えるニュースを、文法としては完了完了、形動詞を中心に分析し、また長文読解に不可欠な語句に分割し、その上で日本語訳を行います。履修者によっては更に徹底した文法の復習を行います。

テキスト：

コピーを使用します。

参考書：

特にありません。ただし使用した文法の教科書は毎時間持ってきてください。

文献講読 II (露書)(秋学期)

ネットの記事を読もう

教授 山田恒

授業科目の内容：

春学期に行った文法の復習や長文読解のテクニックを踏まえ、秋学期には最新のニュースを読むことになります。news.ru などから選ん

政治

だ記事を各人に少なくとも A4, 1 ページ分を割り当てますので、必ず読んでください。

また履修者諸君との相談の上ですが、ユーラシア主義、文化史など、論文を読むことも考えています。あるいは卒論で必要となる文献を読むことも考えに入れています。いずれにしても諸君の関心領域を含むロシア語を読みたいと思っています。

テキスト：

コピー

参考書：

特にありません。

〔政治思想論〕

近代政治思想史 I (春学期)

ヨーロッパの歴史における政治と政治思想の発展

講師 鈴木朝生

授業科目の内容：

政治思想史(政治学史)は、伝統的には政治学説の通史であり、各々の思想家や政治学者による〈政治〉の対象化の営為の蓄積に学ぶことがその目的である。しかし、思想や著作は、思想家が現実の〈政治〉に関与し、それと格闘した所産であるという観点も忘れてはならず、本講義では可能な限り、史実や政治的枠組みにも言及する。

「近代政治思想史 I」では、ルネサンス・宗教改革からピューリタン革命までを扱う。

テキスト：

プリント配布。テキストはなし。

参考書：

- ・有賀弘他『政治思想史の基礎知識』(有斐閣)
- ・佐々木・鷲見・杉田『西洋政治思想史』(北樹出版)
- ・佐々木毅他『近代政治思想史(1)－(5)』(有斐閣)

近代政治思想史 II (秋学期)

ヨーロッパの歴史における政治と政治思想の発展

講師 鈴木朝生

授業科目の内容：

政治思想史(政治学史)は、伝統的には政治学説の通史であり、各々の思想家や政治学者による〈政治〉の対象化の営為の蓄積に学ぶことがその目的である。しかし、思想や著作は、思想家が現実の〈政治〉に関与し、それと格闘した所産であるという観点も忘れてはならず、本講義では可能な限り、史実や政治的枠組みにも言及する。

「近代政治思想史 II」では、名誉革命から 20 世紀までを扱う。

テキスト：

プリント配布。テキストはなし。

参考書：

- ・有賀弘他『政治思想史の基礎知識』(有斐閣)
- ・佐々木・鷲見・杉田『西洋政治思想史』(北樹出版)
- ・佐々木毅他『近代政治思想史(1)－(5)』(有斐閣)

政治哲学 I (春学期)

政治的なものの概念

教授 萩原能久

授業科目の内容：

この講義では、政治哲学、および政治学方法論上の基礎概念、基本問題についての理解を深めることを目標におきます。しかし最終的には、様々なアプローチや思想についての「知識」を得ることが目的ではなく、私としては受講者の皆さんが、政治的現実を批判的に、かつ「他人の指導がなくても自分自身の悟性を取って使用しようとする決意と勇気」(カント)をもって考えることができるようになることを望んでいます。

テキスト：

特に用いません。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

政治哲学 II (秋学期)

政治の暴力と戦争廃絶のために 教授 萩原能久

授業科目の内容：

この講義では、ポストモダンと呼びならわされている現代世界とその政治状況を思想的に理解することを目標にします。政治哲学 I とセットでの履修は望ましいですが、前提条件ではありません。

テキスト：

特に用いません。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

政治理論史 I (春学期)

政治と宗教の相克 — 西欧政治思想史の一試論 前編 —

助教授 田上雅徳

授業科目の内容：

「政治理論史 I・II」を通して、西欧における政治思想の歴史の変遷を、「政治的なもの」と宗教(キリスト教)とのせめぎあいという観点から捉え直して講義します。

ここでの問題設定の切実さは、ひところよりも、たとえばテロ事件や民族紛争をテレビ等で見聞きしている皆さんの方が、よくわかっていただけるのではないかと思います。つまり、現代においても宗教を理解しなければ説明しきれない政治の局面というものが存在するのです。

同時に担当者は、西欧における政治と宗教の関係のあり方が広く、西欧文化それ自体を根底で規定しているとも考えています。この考え方に立てば、本講義は西欧精神の基層を検討する試みとも言えましょう。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介していきますが、さしあたって、宮田光雄『宮田光雄集Ⅳ 国家と宗教』(岩波書店)、鷲見誠一『ヨーロッパ文化の原型』(南窓社)、トレルチ『トレルチ著作集』(ヨルダン社)をあけておきます。

政治理論史 II (秋学期)

政治と宗教の相克 — 西欧政治思想史の一試論 後編 —

助教授 田上雅徳

授業科目の内容：

「政治理論史 I」の続きとなります。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介していきます。

政治理論史 III (春学期)

政治学の基礎概念の歴史的考察 講師 宇野重規

授業科目の内容：

「政治」「デモクラシー」「権力」「人権」「市民権」「ナショナリズム」「自由主義」「共和主義」といった政治学の基礎概念について、歴史的に考察していきます。これらの諸概念は、なぜ、どのようにして、生まれ、発展してきたのでしょうか。一つひとつの概念を歴史的に考察することで、それぞれの特徴や意味の膨らみについて理解を深めていきたいと思っています。

テキスト：

講義プリントを配布します。

準テキストとして宇野重規『政治哲学へ』(東京大学出版会)をあけておきます。

参考書：

講義中に適宜紹介していきます。

政治理論史Ⅳ（秋学期）

政治学の基礎概念の歴史的考察 講師 宇野重規

授業科目の内容：

「政治」「デモクラシー」「権力」「人権」「市民権」「ナショナリズム」「自由主義」「共和主義」といった政治学の基礎概念について、歴史的に考察していきます。これらの諸概念は、なぜ、どのようにして、生まれ、発展してきたのでしょうか。一つひとつの概念を歴史的に考察することで、それぞれの特徴や意味の膨らみについて理解を深めていきたいと思えます。

テキスト：

講義プリントを配布します。

準テキストとして宇野重規『政治哲学へ』（東京大学出版会）をあげておきます。

参考書：

講義中に適宜紹介していきます。

中世政治思想（春学期）

ヨーロッパ文化とは何か 名誉教授 鷲見誠一

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世政治思想における基本的問題を述べる。その結果、ヨーロッパ文化の本質はどの様なものであるか、近代国家・現代国家は政治的組織としてどの様な特徴を持っているか、が明らかにされる。

テキスト：

鷲見誠一「ヨーロッパ文化の原型」（南窓社）

参考書：

- ・バコー「テオクラシー」（創文社）
- ・ティアニー「立憲思想」（慶應義塾大学出版会）

東洋政治思想史Ⅰ（春学期）

清末中国の「改革」論の諸相 講師 高柳信夫

授業科目の内容：

清朝は、中国最後の「王朝国家」であり、17世紀後半から18世紀にかけ、空前の「盛世」を謳歌してきたが、19世紀に入るとともに衰退の徴候が現れ、アヘン戦争を契機に近代世界に組み入れられるとともに、それがさらに加速されていった。本講義では、そうした「危機の時代」において、中国知識人が打ち出した様々な改革構想を取り上げ、儒教的伝統の組み替え、西洋文化の流入などといった事象に着目しつつ、「王朝国家」が「近代国家」への脱皮を模索してゆくプロセスを検討する。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

東洋政治思想史Ⅱ（秋学期）

中華民国期の国家構想 講師 高柳信夫

授業科目の内容：

辛亥革命によって成立した中華民国は、当初の期待とは裏腹に、不安定な政治情勢が続き、そうした中で、知識人たちによって、新中国建設のための様々な構想が提示された。本講義では、1910～20年代という、中国近代思想史において、最も多様性に富んでいた時期に焦点を絞り、そこで提起された代表的な主張を紹介し、近代中国知識人の「構想力」を検討する。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

日本政治思想史Ⅰ（春学期）

教授 寺崎修

授業科目の内容：

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想をとりあげる。

テキスト：

『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）

参考書：

講義の際に適宜紹介する

日本政治思想史Ⅱ（春学期）

明治期の政治思想 講師 山田央子

授業科目の内容：

幕末以降、日本の政治は西洋からの新しい政治思想と出会い、伝統との連続や軋轢、断絶が絡み合った複雑な経過を辿っていきます。その中で、「自由」や「権利」といった新しい価値理念が明治期の日本でどのように受け止められ、近代国家が創設される中でそれがどのように実現また制約されていったのか——本講義では、明治啓蒙以降の政治思想家の著作をとりあげ、異なる立場からの主張をもとに明治期における「政治」について考察していきます。

テキスト：

特に指定しません。毎回講義資料を配布します。

参考書：

- ・『日本政治思想』松沢弘陽、放送大学教育振興会
 - ・『明治思想史—近代国家の創設から個の覚醒まで—』松本三之介、新曜社ほか、各テーマ毎に講義で紹介する。
 - Ⅳ 憲法制定後の政治思想
 - Ⅴ 明治社会主義
- （各テーマにつき2～3回の講義を予定しているが、多少変更することもある。）

現代政治思想特殊研究Ⅰ（秋学期）

「政治」とは何か 教授 蔭山 宏

授業科目の内容：

「政治」とは何か、という問題を取り上げた書物を読みます。

履修者はとりあえずシュミット『政治的なものの概念』（未来社）を用意してください。

その他、ウェーバー、バウマン、ギャンブルなどを読む予定です。

テキスト：

C. シュミット『政治的なものの概念』

〔政治・社会論〕

アメリカの司法と政治（春学期）

講師 木内英仁

授業科目の内容：

この講義では、アメリカの司法と政治との関係について解説します。具体的には、アメリカ憲法および司法制度の概要を説明した上で、アメリカの司法と政治との関連性を基礎づける社会的、制度的要因について、連邦最高裁判所が下した著名な判例を紹介しながら検討していきます。アメリカの司法制度に関する議論について基本的な知識を身につけることが本講義の目標です。

テキスト：

大沢秀介「アメリカの司法と政治講義ノート」（成文堂、2003年）

参考書：

使用しません

行政学特論 I (行政管理論) (春学期)

国民のための「政府」はどうあるべきかの視点で
官僚制, 行政活動, 地方分権を考える

講師 佐々木 信 夫

授業科目の内容：

従来, 行政学は組織管理, 人事管理, 財務管理など「行政管理学」の性格が強かった。しかし, 現代社会が求める行政学は, 官僚制をどう管理・統制するかといった「管理学」に止まらず, 公共政策のあり方自体を問う「政策学」にある。しかも従来のそれは, 集権体制を前提として政府のあり方を論じてきた。しかし時代は分権社会へ一歩踏み出している。本講義では, 伝統的な行政学を批判的に検討し, 多様化, 多元化した都市社会にふさわしい, 新しい行政学を講じてみたい。そのキーワードは分権型社会をどう構想するかにある。

テキスト：

佐々木信夫『現代行政学— 管理の行政学から政策学へ』(学陽書房, 2000年)

参考書：

講義の進展に応じ, 必要な文献, 政府資料などを紹介, 配布する。

行政学特論 II (地方自治論) (秋学期)

地方自治は民主主義の学校との視点で,
地方レベルの政治や行政, 住民のあり方考える

講師 佐々木 信 夫

授業科目の内容：

従来, 地方自治論は行政学の一部として, また地方行政論として中央集権体制を前提とした末端行政として論じられる傾向が強かった。しかし, 身近な政治や行政の営みである地方自治を末端行政視する視点からは何も生まれない。地方は単なる国の下部機構となり, 住民からの政治参加もなければ, 行財政へのコントロールもできない。じつはわが国で戦後 50 数年続いた, 知事, 市町村長を大臣の地方機関と位置づけ, 国の仕事を通達と補助金で執行命令する「機関委任事務制度」はそうした性格のものだった。

しかし, 2000 年の地方分権一括法施行を契機に, 分権下での地方自治を構想する時代が始まった。地方自治は霞ヶ関に責任をもつ政治から, 住民に責任をもつ政治へパラダイム転換を迫られている。本講義では, そうした転換期を迎えたわが国の地方自治について, 主要な論点を幾つか挙げて, 理論面, 実証面, 改革方向について考察したい。

テキスト：

- ・佐々木信夫『地方は変わるか』『市町村合併』(共にちくま新書。04年, 02年発行)
- ・同『東京都政』『都庁—もうひとつの政府』(共に岩波新書。03年, 1991年発行)

参考書：

講義の進展に応じ, 必要な文献, 地方資料などを紹介, 配布する。

現代行政論 I (春学期)

行政指導を素材とした国家と社会, 政府と市場 (産業) の関係の再検討

教授 大 山 耕 輔

授業科目の内容：

通商産業省 (現在, 経済産業省) が戦後に行ってきた行政指導 (administrative guidance) について, 事例研究 (ケース・スタディ) の方法を用いて分析します。この分析を通じて, 戦後日本における国家と社会, 政府と市場 (産業) の関係がダイナミックに逆転してきたことを明らかにします。これに関連して, 規制改革 (regulatory reform) の意義と限界についても考察します。

テキスト：

拙著『行政指導の政治経済学—産業政策の形成と実施』(有斐閣, 1996)

参考書：

- ・拙稿「政策実施と行政手段」(福田耕治・真淵勝・縣公一郎共編著『行政の新展開』法律文化社, 2002, 第5章)
- ・拙稿「規制システム」(宮川公男・山本清編著『パブリック・ガバナンス』日本経済評論社, 2002, 第4章第3節)
- ・『通商産業政策史』(通商産業調査会, 1990年前後)等

現代社会理論 I (春学期)

社会理論の系譜と展開

助教授 澤 井 敦

授業科目の内容：

私たちの生きる同時代の社会, 「現代社会」がはらむ問題性を, リアルタイムで, なおかつ総体的に診断しようとする営みを「現代社会理論」と呼ぶ場合, その原点として, 第二次大戦中の亡命社会学者たちの理論をあげる論者が少なくない。本講義では, この原点から現在にいたる社会理論の系譜と展開を, 理論がうみだされた時代的・社会的背景, および, 各々の理論の相互関係に留意しながら, 解説していく。また, さまざまな社会理論が日本において受容され, 日本社会の分析に使用される際に被る変容についても, 随時言及する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に紹介する。

現代社会理論 II (秋学期)

社会理論で読みとく現代社会の死の様相

助教授 澤 井 敦

授業科目の内容：

社会理論のひとつの魅力は, 身近な現象を, 社会全体の構造・変動とリンクさせて理解するための幅広い視野をあたえてくれるという点にある。本講義では, ひとつの題材として死という現象をとりあげ, その現代社会における様相を, 社会理論をもちいて読みとくことを試みる。とりあげる予定の理論・理論家は, ヴェーバー, デュルケム, パーソンズ, エスノメソドロジー, シンボリック相互作用論, バーガー, エリアス, ギデンズ, バウマン, ポストモダニティ論, 身体社会学, 物語論などである。

テキスト：

初回授業時に指示する。

参考書：

授業中に紹介する。

現代政治理論 I (春学期)

現代の民主主義理論

教授 河 野 武 司

授業科目の内容：

本講義では現代の政治理論の中でも特に, 機能不全が叫ばれているデモクラシーに関する様々な理論について紹介し, 検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

白鳥令他編『現代世界の民主主義理論』新評論, 1984年
その他, 授業中に適宜紹介します。

現代政治理論 II (秋学期)

政治過程における集団・組織

教授 河 野 武 司

授業科目の内容：

政治過程において利益団体に代表されるいわゆる中間集団の役割には, 非常に大きなものがあります。組織化された集団に触れずに政治過程を語ることはできません。そこで本講義では, 現代政治理論の中でも, 政治過程における利益団体の役割や, その組織化, さらに組織における政策決定の問題に関する様々な理論を取り上げて, 検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

森脇俊雅『集団・組織』東京大学出版会、2000年
その他、授業中に適宜紹介します。

公共経済論 I (春学期)

政府の役割とは何か

教授 麻生良文

授業科目の内容：

政府が果たすべき役割とは何だろうか。公共経済論 I ではこの問題を扱う。なお、政府活動は租税や公債等によって賄われるが、これらが経済活動に与える影響を公共経済論 II で扱う。

政府活動の根拠は、「市場の失敗」に求められる。この講義では、市場の失敗を明らかにし、それをどのように解決すべきなのかを論じる。講義内容は以下のとおり。

1. 市場の失敗と政府の役割
2. 市場の失敗各論 (1) 公共財, (2) 外部性, (3) 自然独占, (4) 情報上の失敗
3. 応用 (1) 国と地方の役割分担, (2) 財政投融资制度

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣

参考書：

- ・スティグリッツ『公共経済学 (上)』東洋経済新報社
- ・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社
- ・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin
- ・ミラー・ベンジャミン・ノース『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社、1995年

公共経済論 II (秋学期)

租税と公債の効果

教授 麻生良文

授業科目の内容：

公共経済論 II では、租税と公債の効果について講義を行う。租税の理論では、望ましい税制はどのようなものか、実際に租税を負担するものは誰か、租税はどのように経済活動に影響を与えるかについて講義する。また、財政政策の有効性、公債の負担についても講義する。講義の概要は以下のとおり。

- 1) 租税の理論入門 (1) 租税原則, (2) 課税ベースの選択
- 2) 個別物品税の帰着
- 3) 所得税か支出税か (1) 労働所得税の効果, (2) 資本所得税の効果, (3) 課税の長期的効果
- 4) 財政政策の効果 (1) 乗数モデル, (2) 減税の効果 リカードの等価定理
- 5) 公債の負担

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣

参考書：

- ・スティグリッツ『公共経済学 (下)』東洋経済新報社
- ・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin
- ・マンキュー『マクロ経済学 II』東洋経済新報社

国際コミュニケーション論 I (春学期)

グローバル化とメディア

講師 伊藤英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

国際コミュニケーション論 II (秋学期)

国境を越えるコミュニケーション 講師 伊藤英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言いきれません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

その都度、配布・案内します。

参考書：

福澤諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

社会調査論 I (春学期)

社会調査の歴史、概要、基礎

講師 玉野和志

授業科目の内容：

この講義では、社会学の方法としての社会調査の基礎的な理解と全体像を知ることが目的とする。初めに社会学と社会調査の成立の歴史的経緯について学び、それゆえ社会調査には様々な方法が存在することを確認する。そのうえで従来あやまった認識として量的調査と質的調査を対比する考え方が流布してきたことを批判し、それを社会学そのものも二面性との関連で位置づけ直すことで、社会調査の本来のトータルな姿を習得することを目標としたい。

テキスト：

特に決まったものは使用しない。

参考書：

福武直『社会調査』有斐閣

社会調査論 II (秋学期)

社会調査の方法と実践

講師 玉野和志

授業科目の内容：

この講義では、春学期の内容をふまえて、実際にトータルな社会調査の全過程をシュミレートしながら、それぞれの文脈と目的にあった社会調査の様々な方法を実践的に紹介しつつ、その技法を実際に理解し、習得していくことを目的とする。既存の統計資料などの文書データ、インタビューにもとづくヒアリングデータ、さらにサーベイ調査の調査票データなど、それぞれの収集方法と分析法を学ぶことで、社会調査によってどのように問題を探索し、どのように説明を構想し、いかにして確証していくのかを考えていく。

テキスト：

特に決まったものは使用しない。

参考書：

森岡清志編（1998）『ガイドブック社会調査』、日本評論社

社会変動論 II (秋学期)

多文化交錯社会における市民意識の動態

教授 関根政美

授業科目の内容：

現代世界はグローバリゼーションの影響を経験し、大きな文化、社会変動に見舞われている。「グローバリゼーション」は、近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが、グローバリゼーションそのものは複雑・多様な現象であり、一筋縄ではその実態をつかむことが

政治

難しい。本授業では、「人口移動のグローバリゼーション」に焦点を当て、①国民国家の多文化・多民族社会化の動きと、その社会的影響について考察を加えたい。さらに、②多文化・多民族化する社会において、受け入れ諸国の国民がもつべき市民意識（この場合は多文化・多民族社会適応的な市民意識）がどのようにになっているのかについて考えたい。本授業では、多文化主義を支持するような意識のあり方を多文化・多民族社会適応的な市民意識とみなしたい。1980年代にそれは、カナダやオーストラリア、米国・英国や北欧諸国において展開しはじめたが、1990年代後半から現在にかけて経済グローバリゼーションの展開とともに逆風を受けはじめた。むしろ、移住制限の強化を望む気持ちや反多文化主義的で外国人排斥的な意識が強まっている。それは、今日では異文化の人々の間の「文明衝突」であるとか「文化戦争」と呼ばれているが、なぜそのような事態が発生するのかについて論じたい。社会変動論Ⅰでは、近代の人口移動と多文化社会化の過程、そして文化戦争（人種・民族・エスニック紛争）発生まで過程についてみたが、社会変動論Ⅱでは、改めて文化戦争を考察することからはじめ、多文化主義とその具体的諸政策の可能性と限界について論じるとともに、文化戦争を多文化主義が真の解決策となるために何が必要か考えたい。

テキスト：

- ・関根政美著、2000年『多文化主義社会の到来』朝日新聞社刊
- ・ガッサン・ハージ（塩原・保莉訳）『ホワイトネーション』平凡社、2003年

参考書：

- ・関根政美、『マルチカルチュラル・オーストラリア — 現代オーストラリアの社会変動』成文堂、1989年
- ・藤川隆男編 2004年『オーストラリアの歴史：多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣、2003年
- ・森・竹田編 1998年『オーストラリア入門』、東京大学出版会刊
- ・竹田いさみ『オーストラリア物語』中央公論社、2000年
- ・D・ヒーター（田中・関根訳）『市民権とは何か』岩波書店、2003年

政治過程論Ⅰ（春学期）

「決定」することは簡単なのか？ 講師 河村和徳

授業科目の内容：

小学校の学級委員を決める時を思い出してほしい。履修者諸君の多くはおそらく「多数決」によって学級委員を選出したのではないだろうか。ならば、なぜ「多数決」なのであろうか、その点まで考えたことはないのではないだろうか。

政治の世界でも、意思決定をしなければならない状況にしばしば直面する。市町村合併の住民投票のような身近な意思決定から、イラクへの自衛隊派遣など国際政治に関わるような意思決定まで様々である。しかし、意思決定過程における参加者（政治的アクター）の行動戦略やその帰結には、一定の共通性をみてとることもできる。政治過程を分析するにあたっては、意思決定のプロセスを吟味し普遍的な図式に目を配る必要がある。

本講義では、「公共選挙論」の立場から講義を進めていくことにする。公共選挙論には「われわれの社会においてどのような決定がなされるのが望ましいか」を検討する「規範的公共選挙論」と、「われわれの社会がどのような状態にあるか」を把握する「実証的公共選挙論」の2つの側面がある。講義では前者と後者の問題について具体的な事例も交えながら、政治過程における決定について論を進めていくこととする。

テキスト：

小林良彰『公共選挙論』東京大学出版会 1988

参考書：

講義中に指示をする

政治過程論Ⅱ（秋学期）

われわれは1票を投じる際、どのようなことを考えるのか？

講師 河村和徳

授業科目の内容：

民主社会の中で、政治過程における重要な政治構成要素は「選挙」

である。「選挙」に対する研究は選挙の歴史や法律的な制度など多岐にわたるが、本講義では有権者が自らの1票をどのように投じているか、という「投票行動」を取りあげ、それらの研究について紹介していくことにする。

投票行動研究は、米国の歴代大統領選挙で行われた調査の蓄積の基に成り立っているといっても過言ではない。アメリカでは世論調査データの整備がはやくから進められており、日本でも近年のこうした世論調査データベースが整えられつつある。データベースの蓄積によって、これまで多くの研究が発表されさまざまな仮説が報告されてきた。そこで、本講義では、これまでの研究の蓄積を、投票行動に関わる理論とモデル、投票行動を規定する諸仮説の視点から紹介していくこととしたい。また投票行動だけの議論に終始するのではなく、各有権者の投票行動の結果つくられた政治環境が政治過程に対してどのような影響を与えているのか、地方自治体の事例なども紹介していきたい。

テキスト：

小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会 2000

参考書：

講義中に指示をする

政治経済システム論（秋学期）

政府の役割はどうあるべきか 名誉教授 田中宏

授業科目の内容：

個人の自由、繁栄、そして安全保障を確保する上で、政府の役割はどうあるべきか。この問題を吟味することが本講義の目的である。これは古く、かつ、新しい問題であるが、政治学、経済学の基本概念を明確にしなが、それらを用いて説明をしたい。

テキスト：

特に指定せず。必要に応じてプリントを配布することもある。

参考書：

根岸・萩原・田中『国家の解剖学』日本評論社ム(計3回)

3. 政府と市場：命令方式と市場方式、資本主義と社会主義 (計2回)
4. 政府と自由：自由と強制、自由の基礎としての財産権 (計2回)
5. 政府と民主主義：民主主義の機能、資本主義と民主主義の関係 (計2回)
6. 国家と国家：国家間の平和、繁栄、自由は可能か (計2回)
— market preserving federalism —

政治権力論Ⅰ（春学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力の特性を理解したうえで、権力構造の集中について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

政治権力論Ⅱ（秋学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力概念を精査することで、権力と社会の関係について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

マス・コミュニケーション発達史 I (春学期)

近代化の位相とマス・コミュニケーション

講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」(エイゼンシュテイン)がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(近刊), 世界思想社, 2004年

マス・コミュニケーション発達史 II (秋学期)

デモクラシーとマス・メディア

講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(近刊), 世界思想社

マス・コミュニケーション論 I (春学期)

マス・コミュニケーションと政治

教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論II (秋学期)

ジャーナリズムとメディア言説

教授 大石 裕

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など), ②言説分析によるニュース分析, ③メディア・イベントとメディア言説, に関して講義する。

テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』(勁草書房:近刊)

参考書：

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・鶴木眞編『客観報道』成文堂

メディア社会論 I (春学期)

講師 北田 暁 大

授業科目の内容：

1970年代以降の若者文化・サブカルチャーとメディアとの関係史を考察する。併せて社会システム理論, コミュニケーション理論についても概説する。サブカルチャーとメディア文化の関わりに関係する限りで, 20世紀初頭のメディア環境(映画, 電話など)にも論及する予定。

テキスト：

・北田暁大「嗤う日本のナショナリズム」(仮題) NHK出版, 近刊
・同「〈意味〉への抗い」せりか書房, 2004年

メディア社会論 II (秋学期)

講師 北田 暁 大

授業科目の内容：

1980年代～現在に至る若者文化・サブカルチャーの変容とメディア文化変容の関係史を考察する。併せて社会システム理論, コミュニケーション理論についても概説する。サブカルチャー／メディア文化の関わりに関係する限りにおいて, 20世紀初頭のメディア環境にも論及する予定。

テキスト：

春学期「メディア社会論 I」と同じ

現代社会理論特殊研究 I (秋学期)

リスク社会論と監視社会論

助教授 澤 井 敦

授業科目の内容：

近年の社会理論のなかから, リスク社会論と監視社会論をとりあげる。現代社会においてわれわれは, 食物に含まれているかもしれない有害物質, いつ襲ってくるかわからない暴力など, さまざまなリスクに曝されている。こうしたリスクは, 感知しにくいものであるが, しかしながら, すべての者が直面する可能性があるという特性もっている。そのため, どこにリスクがあるかを名指すリスク認識が, 実態とは独立したかたちで, 人々の動向に大きな影響をおよぼす可能性がある。また, そうしたリスクを管理するために, さまざまな監視のシステムが社会的に導入され, われわれの私生活が, 監視の目につねに曝されることになる。

以上のような社会的状況が孕む問題について, リスク社会論, 監視社会論の古典的文献を講読することをつうじて考えていきたい。

テキスト：

初回授業時に決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

社会変動論特殊研究 I (秋学期)

グローバリゼーションと国民国家の文化・社会・政治変動

教授 関根 政 美

授業科目の内容：

本授業では, 履修者の自発的な調査報告とそれらを土台に討論を行う演習授業を実施したい。履修者の数にもよるが, 毎回 2, 3名の報告者による競争的報告を行ってもらい, それらを土台に討論をしていきたい。また, 必要に応じて本授業のテーマに沿ってビデオを見て討論したいと思っている。

授業のテーマは以下のとおり。現代世界はグローバリゼーション(国際化)の影響を経験し大きな文化・社会変動を経験している。「グローバリゼーション」は, 近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが, グローバリゼーションそのものは多様な現象であり, 一筋縄ではその実態をつかむことが難しい。本授業では, 人口移動のグローバリゼーションだけではなく様ざまなグローバリゼーションに注目し, 国民国家への文化・社会・政治的影響について議論しながら授業を進めたい。授業担当者は, オーストラリア研究を生業としているが, 本授業では必ずしもオーストラリアに関する文献を使用するわけ

政治

ではない。その場合でもオーストラリアに関する深い知識を必要とはしないはずである。

テキスト：

未定（最新のものを利用したいので、未定である。著書の他に適宜論文の輪読も予定している）。

参考書：

- ・関根政美『多文化主義社会の到来』朝日新聞社、2000年
- ・カースルズ／ミラー（関根・関根訳）『国際移民の時代』名古屋出版会、1996年
- ・D・ヒーター（田中・関根訳）『市民権とは何か』岩波書店、2003年

授業の計画：

政治過程論特殊研究 II（春学期）

政治過程の分析 授 業 小 林 良 彰

授業科目の内容：

この授業の目的は、次の三点にあります。

- ① 現代の政治過程における選挙・投票行動、公共政策形成（政党、議会、官僚）、政治参加（メディア、利益集団）などに関する各自が持っている疑問や理想について話し合うことで、お互いに自分の問題意識を深め合うことにしたい。
- ② その上で、自分が関心を持っている問題について、どのようにしたら客観的な分析ができるのかを考えることにしたい。
- ③ さらに、その上で、可能な人は分析を行い、他の人からの意見を受けながら、より良い、分析を目指すことにしたい。

テキスト：

特にありません。

参考書：

履修者の問題関心にしたいがい、必要であれば、授業中に指示します。

政治権力論特殊研究 I（春学期）

社会学の新たな地平 授 業 霜 野 寿 亮

授業科目の内容：

下記文献を読み、その内容を理解する。

テキスト：

西原和久、『自己と社会—現象学の社会理論と「発生社会学」』、新泉社、2003年

参考書：

なし

授業の計画：

各回あたり1章ずつ読み進みながら、議論をする。

マス・コミュニケーション論特殊研究 I（秋学期）

メディアと政治について考える 授 業 大 石 裕

授業科目の内容：

この授業は、メディアと政治をめぐる諸問題について考える。授業方法は演習形式である。

テキスト：

McQuail 'McQuail's Mass Communication Theory' 2000, Sage

参考書：

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

〔日本政治論〕

近世日本政治史 I（春学期）

関係意識から近世政治史を読みかえる (1)

講 師 若 尾 政 希

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民・三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、最も良質な17Cの通史

『土農工商の世』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考えてみたい。（講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくることが前提となります。）

テキスト：

深谷克己『大系日本の歴史<9>土農工商の世』小学館ライブラリー

参考書：

若尾政希『「太平記読み」の時代』平凡社選書、他
講義中に紹介します。

近世日本政治史 II（秋学期）

関係意識から近世政治史を読みかえる (2)

講 師 若 尾 政 希

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民・三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、最新の18Cの通史『享保改革と社会変容』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考えてみたい。（講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくることが前提となります。）

テキスト：

大石学編『日本の時代史16 享保改革と社会変容』吉川弘文館

参考書：

若尾政希『安藤昌益からみえる日本近世』東京大学出版会、他
講義中に紹介します。

近代日本政治史 I（春学期）

近代日本における立憲政治導入過程

授 業 玉 井 清

授業科目の内容：

最初に、日本政治史研究の現状と課題を概括した上で、研究を進めて行く上での資料の可能性（文字情報だけでなく映像の歴史資料としての価値）に関して紹介する。

上記のことを前提に、近代日本における立憲政治導入の意義を、伊藤博文を中心に推進された明治憲法制定の過程と、当時のわが国を取り巻く国際環境との連関から、あるいは近代日本の精神史の観点から、福沢諭吉の言説なども紹介しながら検証したい。

近代日本政治史 II（秋学期）

原敬と立憲政友会

授 業 玉 井 清

授業科目の内容：

周知のように、原敬は、大正中葉に我が国最初の本格的政党を成立させた政治家である。しかし、幕末には反維新の側に立った南部藩出身という彼の出自は、政界雄飛に際し、逆風にこそなれ順風たりえなかった。その原が、何故、明治憲法体制下、重要閣僚であった内相を歴任し、衆議院第一党の立憲政友会の党首となり、さらに同党を率いて権力の頂点まで昇りつめることができたのであろうか。また誕生した原内閣は、彼が暗殺されるまで三年余に亘り続き、同憲法体制下歴代4位に位置する長期政権になったが、その理由はどこにあったのであろうか。原の政権戦略を中心に検証してみたい。

テキスト：

玉井清『原敬と立憲政友会』（慶應義塾大学出版会）

授

近代日本政党史 I（春学期）

大正期の政党

講 師 酒 井 正 文

授業科目の内容：

わが国の政党史をみると、明治期に生まれた自由党と改進黨の二つの潮流は、昭和戦前期には政友会と民政党の二大政党時代となった。この授業では、このうち改進黨の流れを引く大正期の立憲同志会、憲政会の動向を中心に、展開された各勢力間の葛藤や主要政治家の人物論を交えながら、近代日本政党史を講義する予定である。

テキスト：

教科書は使用しない。

参考書：

参考文献等は、講義の中で適宜指示する。

近代日本政党史 II (秋学期)

二大政党対立時代を軸にして 講師 酒井正文

授業科目の内容：

わが国の政党史をみると、明治期に生まれた自由党と改進黨の二つの潮流は、昭和戦前期には政友会と民政党的二大政党時代となった。この授業では、春学期に続いて、大正期後半の憲政党内閣の時代から昭和期の政友会・民政党的二大政党対立時代を中心に、憲政会（民政党）に軸を置きながら、展開された各勢力間の葛藤や主要政治家の人物論を交えながら、近代日本政党史を講義する予定である。

テキスト：

教科書は使用しない。

参考書：

参考文献等は、講義の中で適宜指示する。

現代日本行政論 I (春学期)

日本の行政の制度・運営とその改革を中心として

講師 堀江正弘

授業科目の内容：

内外の構造的変化の中にあつて、日本は種々の厳しい課題に直面しており、政府・行政も多くの問題・課題に取り組んでいる。このため、現代日本の行政を理解するには、現在ある制度について理解するだけでなく、その運営の実際、直面する問題や課題、それらへの取り組み状況、今後の見通し等、幅広く、アプローチすることが重要である。

本講義では、中央官庁に30年以上在職し、様々の改革に直接・間接に関わってきた経験、内外の大学等での講義や研究指導の経験を活かし、行政の主要な制度の理論にとどまらず、事例・エピソード等も加えながら、行政の実際、実態についても分かりやすく紹介し、日本の政府・行政の制度・運営、問題点・課題、いわゆる「三位一体改革」や「郵政民営化」等現在進行中の諸改革等について、いろいろな角度から考えてみたい。具体的に講義でカバーする予定の分野・事項は、政府・統治構造、内閣制度と議会制度、政官関係、行政組織と行政活動、公務員制度、人事行政、要員管理、特殊法人・独立行政法人、公益法人等、予算・財政制度と財政投融资制度、国・地方国家と地方分権、これらを包括した行政改革等である。II (秋学期) と合わせて主要分野、事項をカバーする予定である。

テキスト：

- ・「行政学」(西尾勝, 有斐閣)
- ・「現代の行政 (改訂版)」(森田朗, 放送大学教育振興会)

参考書：

データ集「データブック日本の行政」(行政管理研究センター)

現代日本行政論 II (秋学期)

日本の行政の制度・運営とその改革を中心として

講師 堀江正弘

授業科目の内容：

現代日本行政論 I とセットの講義である。I・II あわせて、日本の行政に関する主要な制度およびこれを巡る問題について概ね全体をカバーする予定であるが、現代日本行政論 I を受講できない(できなかった)者も受講することができる。春学期で受講できなかった者のため、および、受講した者のレビューのため、秋学期の冒頭に、現代日本行政論 I のエッセンスを説明する。

現代日本行政論 II でカバーする予定の分野・事項は、行政改革、政策決定と政策手段、規制制度、規制改革、行政手続、情報公開、情報保護、行政の帰報化、電子政府、統計制度、統計情報、行政評価、政策評価、行政監視、行政相談、オンブズマン、行政不服審査、政府広報等である。

テキスト：

現代日本行政論 I と同じ

- ・「行政学」(西尾勝, 有斐閣)
- ・「現代の行政 (改訂版)」(森田朗, 放送大学教育振興会)

参考書：

データ集「データブック日本の行政」(行政管理研究センター)

現代日本政治論 I (春学期)

現代日本の政策形成過程分析 I 講師 竹中治堅

授業科目の内容：

郵政事業は、なぜ民営化されようとしているのか。道路公団は、なぜ民営化されたのか。年金制度になぜ、変更が加えられたのか。消費税は、引き上げられるのか。また、そもそもなぜ導入されたのか。公共事業の予算は、なぜ削減されているのか。

上記は、いずれもある政策が決められようとしている、あるいは決められた例である。現代日本政治論 I および II の目標は、日本の政策形成過程について理解する力を養うことにある。また、この前提として、戦後の日本政治についても理解できるようにする。特に、1990年代以降日本政治は、急速な変貌を遂げており、この理解に重点を置く。

政策が形成され、実施に移されるまでの過程は①選挙による政治家の選出→②衆議院における政権形成→③政策立案→④国会における予算・法律審議→⑤行政による政策執行というプロセスとして理解することができる。

しかし、政策形成過程を的確に理解するためには、基礎知識として、戦後、日本の政治がいかに展開されてきたかについて知る必要がある。また、日本の統治制度についても、この下で、政策が形成される以上、理解する必要がある。そこで、現代日本政治論 I では、まず、戦後の日本政治の歩みを概観し、統治制度について議論する。その上で、さらに政策形成課程のうち、①選挙がおこなわれ、②政権が形成されるまでの過程について議論する。その際、特に、選挙制度などの政治制度に関する理論を紹介し、政治制度がいかに政治家や政党の行動を規定しているかについて、理解を深められるようにする。

(受講を考えている学生は、学内のウェブから本シラバスに再度アクセスし、授業計画について参照されたし。)

ところで、大学における勉強の三本柱は①講義への参加、②優れた研究書・論文の読破、③特定の問題について自分で考え、それを文章の形にまとめることである。従って、本講義の受講者は、①講義内容を基に出題される期末試験を受験することに加え、②毎週、テキストのうち特に指定する章、或いは、指定する日本の政治に関する代表的論文(生協購買部で教材として入手できるよう手配)の要約を宿題として提出すると共に、③岸内閣から小渕内閣のうち、一つの内閣を取り上げ、内閣の成立過程、代表的政策、消滅過程について、まとめ、レポートとして提出することが求められる。課題については開講時にさらに詳しく説明する。

本講義で読むテキスト、論文はいずれも優れた研究であり、要約実行後は必ず達成感のあることを約束する。また、一つの内閣についてまとめることによって、日本の政治について理解が深まるはずである。

テキスト：

- ・北岡伸一『自民党：政権党の38年』(読売新聞社, 1995年)
- ・T. J. Pempel. Regime Shift (Cornell University Press, 1998)
- ・M. ラムザイヤー, F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』(弘文堂, 1995年)
- ・教材集(生協で入手できるよう手配)

参考書：

- ・講義用の参考書：平野浩・河野勝『日本政治論』(日本経済評論社, 2003年)
- ・レポート用の参考書(これに限るものではない)：
- ・御厨貴編『歴代首相物語』(新書館, 2003年)
- ・林茂・辻清明編『日本内閣史録』5巻, 6巻(第一法規, 1981年)

現代日本政治論 II (秋学期)

現代日本における政策形成過程分析 II

講師 竹中治堅

授業科目の内容：

郵政事業は、なぜ民営化されようとしているのか。道路公団は、なぜ民営化されたのか。年金制度になぜ、変更が加えられたのか。消費税は、引き上げられるのか。また、そもそもなぜ導入されたのか。公共事業の予算は、なぜ削減されているのか。

上記は、いずれもある政策が決められようとしている、あるいは決められた例である。現代日本政治論 I および II の目標は、日本の政策形成過程について理解する力を養うことにある。また、この前提として、戦後の日本政治についても理解できるようにする。特に、1990年代以降日本政治は、急速な変貌を遂げており、この理解に重点を置く。

政策が形成され、実施に移されるまでの過程は①選挙による政治家の選出→②衆議院における政権形成→③政策立案→④国会における予算・法律審議→⑤行政による政策執行というプロセスとして理解することができる。現代日本政治論 II では、現代日本政治論 I で行った議論を踏まえ、政策形成過程のうち、政策が立案され、決定されていく政策決定過程（③および④にあたる）について議論する。

議論する際には、政策決定の法制度的枠組みを紹介する一方で、政策決定に影響力を行使する者・機関を紹介する。その上で、日本における政策決定を分析するために有効な代表的な分析視角を紹介し、さらに、これらの視角に基づいて具体的な政策決定を分析する。

(受講を考えている学生は、学内のウェブから本シラバスに再度アクセスし、授業計画について参照されたし。)

ところで、大学における勉強の三本柱は①講義への参加、②優れた研究書・論文の読破、③特定の問題について自分で考え、それを文章の形にまとめることである。従って、本講義の受講者は、①講義内容を基に出題される期末試験を受験することに加え、②毎週、テキストのうち特に指定する章、或いは、指定する日本の政策決定に関する代表的論文（生協購買部で教材として入手できるよう手配）の要約を宿題として提出すると共に、③具体的な国内政策が決定された事例（高度成長、消費税導入・引き上げ、農業自由化、行政改革、健康保険・年金改革などなど）を取りあげ、『日本政治の経済学』、『通産省と日本の奇跡』（後者は絶版、対応方法については開講時に説明）で提示される分析視角を基に分析したレポートを冬休み明けに提出することが求められる。

政策決定の事例の選択は受講者の選択に委ねられる。（特にない場合、1990年代以降生じた不良債権問題・金融システム問題に対処する政策が決定される過程を分析することを薦める。この分析を行うために参考となり、かつ、読み易い書籍を参考書として掲げる。課題については開講時にさらに詳しく説明する。）

本講義で指定するテキスト、論文はいずれもすぐれた研究であり、要約実行後は必ず達成感のあることを約束する。また、自分で実際にある分析視角を用いて、特定の政策決定を分析することを通じて日本の政策決定過程を分析する知力が確実に養われることを期待してもらいたい。

テキスト：

- ・M. ラムザイヤー, F. ローゼンブルス『日本政治の経済学』（弘文堂, 1995年）
- ・教材集（生協で入手できるよう手配）

参考書：

講義用の参考書：

平野浩・河野勝『日本政治論』（日本経済評論社, 2003年）

古代日本政治史 II (秋学期)

律令国家の形成と発展

教授 笠原英彦

授業科目の内容：

1. 推古朝の政治
2. 推古没後の体制
3. 大化改新

4. 斉明朝の政治
5. 壬申の乱
6. 天武・持統朝の政治
7. 律令国家の権力構造

テキスト：

笠原英彦『天皇と官僚』（PHP 研究所）

戦後日本政治史 I (春学期)

終戦から東京オリンピックまで

講師 佐藤 晋

晋

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、1945（昭和20）年の太平洋戦争終戦時から、東京オリンピックが開催された1964（昭和39）年までの約20年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようにします。また、戦後日本の進路をめぐる、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評価することができるようになることを目指します。

テキスト：

特に指定しません。毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

講義の中で逐次紹介します。まずは、石川真澄『戦後政治史』（岩波新書, 2004年）、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社, 1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社, 1995年）をお勧めします。

戦後日本政治史 II (秋学期)

高度経済成長の実現とその後

講師 佐藤 晋

晋

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、日本が世界の経済大国の仲間入りを果たしつつあった1965（昭和40）年から、政界再編が一段落した1996（平成8）年までの約30年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようにします。また、戦後日本の進路をめぐる、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評価することができるようになることを目指します。

テキスト：

特に指定しません。毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

講義の中で逐次紹介します。まずは、石川真澄『戦後政治史』（岩波新書, 2004年）、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社, 1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社, 1995年）をお勧めします。

中世日本政治史 I (春学期)

治承・寿永の内乱と鎌倉幕府の成立

講師 川合 康

康

授業科目の内容：

本講義では、中世荘園制が展開する12世紀前半の鳥羽院政期から鎌倉幕府の成立に至る政治史の展開を検討する。この時代は、いうまでもなく保元の乱、平治の乱、治承・寿永の内乱と大規模な戦乱が続き、それが社会的秩序や国家体制の在り方を大きく変容させていった時代である。本講義では、そのような社会変動に注目しつつ、12世紀末に全国の地域社会を巻き込んだ治承・寿永の内乱がなぜ勃発し、いかなる権力として鎌倉幕府が生み出されてきたのかについて考察したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

川合康『源平合戦の虚像を剥ぐ』（講談社選書メチエ）

中世日本政治史 II（秋学期）

飢饉・戦乱の時代と執権政治の展開

講師 川合 康

授業科目の内容：

本講義は、鎌倉幕府が成立したのち、13世紀前半の北条泰時・時頼による執権政治の展開に至る時期の政治史を、公武両権力の動向を踏まえながら検討する。この段階は、源氏将軍の断絶や承久の乱、そして寛喜の大飢饉など、公武両権力にとっては様々な「危機」に直面し、それに対応する政策や政治体制の構築が迫られた時代である。本講義では、そのような中世国家の危機管理の在り方の一つとして執権政治をとらえ直し、13世紀前半の社会の現実からその意義を考察したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

日本外交史 II（春学期）

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本のミドルパワー外交（仮題）』（5月7日出版予定）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。とりあえずは、以下を参照のこと。

- ・添谷芳秀『日本外交と中国 1945-1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）
- ・添谷芳秀・田所昌幸編著『日本の東アジア構想』（慶應義塾大学出版会、2004年）

日本行政史 I（春学期）

講師 進 邦 徹 夫

授業科目の内容：

本講義は、我が国の行政改革の史的展開を検討することを通じ、日本の行政システムに内在する「行政文化」を抽出することを課題とする。

テキスト：

開講時に指示する

参考書：

笠原英彦『日本行政史序説』 芦書店

日本行政史 II（秋学期）

講師 進 邦 徹 夫

授業科目の内容：

本講義は、我が国地方行政の史的展開を検討することを通じて、我が国の中央—地方関係を規定する行政文化の抽出を試みる。

テキスト：

開講時に指示する

参考書：

笠原英彦『日本行政史序説』 芦書店

日本政治運動史 II（秋学期）

幕末維新期の政治運動

講師 小川原 正道

授業科目の内容：

幕末から西南戦争にかけての変動期の政治運動について、当時、にわかに政治的重要性を増すこととなった天皇をめぐる運動を中心に講義を進める。幕末においては、ペリー来航によって昂じた尊皇攘夷運動から討幕運動、そして大政奉還と王政復古の大号令に至る一連の政治運動について検討し、また明治期では、西南戦争に至るまでの不平士族による暗殺事件・反乱や、自由民権運動の展開とともに、神祇官復興、神仏分離にはじまる神道国教化政策と廃仏毀釈運動、民衆教化政策と政教分離運動について考察していきたい。

テキスト：

小川原正道『大教院の研究—明治初期宗教行政の展開と挫折』（慶應義塾大学出版会、2004年）

参考書：

授業中に適宜指示します。

日本政治思想史 I（春学期）

教授 寺 崎 修

授業科目の内容：

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想を取りあげる。

テキスト：

『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）

参考書：

講義の際に適宜紹介する。

日本政治思想史 II（春学期）

明治期の政治思想

講師 山 田 央 子

授業科目の内容：

幕末以降、日本の政治は西洋からの新しい政治思想と出会い、伝統との連続や軋轢、断絶が絡み合った複雑な経過を辿っていきます。その中で、「自由」や「権利」といった新しい価値理念が明治期の日本でどのように受け止められ、近代国家が創設される中でそれがどのように実現また制約されていったのか——本講義では、明治啓蒙以降の政治思想家の著作を取りあげ、異なる立場からの主張をもとに明治期における「政治」について考察していきます。

テキスト：

特に指定しません。毎回講義資料を配布します。

参考書：

- ・『日本政治思想』松沢弘陽、放送大学教育振興会
- ・『明治思想史—近代国家の創設から個の覚醒まで—』松本三之介、新曜社ほか、各テーマ毎に講義で紹介する。

マス・コミュニケーション発達史 I（春学期）

近代化の位相とマス・コミュニケーション

講師 大 井 眞 二

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパスpekティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋学期）

デモクラシーとマス・メディア 講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春学期）

マス・コミュニケーションと政治

教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・マッコムズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋学期）

ジャーナリズムとメディア言説 教授 大石 裕

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房：近刊）

参考書：

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・鶴木眞編『客観報道』成文堂
・小川浩一編『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版

授

立法過程論Ⅰ（春学期）

教授 増山 幹 高

授業科目の内容：

この講義では、立法過程における「制度と行動の相互性」について論じます。民主的な代議政体において、どのような権力の集中・分散が達成されるかは、現政権の実績と将来の政権構想の二者択一がどの程度有権者に意識されているのかということに依存する問題です。本講義では、どのように権力の集中・分散が立法過程や政策形成において促進されているのかということについて、これまでの政治学的な理論・実証分析を解説していきます。

テキスト：

・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社、2003年）
・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社、2003年）

参考書：

授業で随時案内します。

立法過程論Ⅱ（秋学期）

教授 増山 幹 高

授業科目の内容：

この講義では、春学期に続いて、立法過程における「制度と行動の相互性」について検討するとともに、焦点を日本の国会における立法手続きに移行させ、立法過程の各段階に携わる実務家をゲスト・スピーカーとして招きます。具体的には、日本の国会は二院制や委員会制が採用されており、権力の集中度が本来の議院内閣制が想定しているほどには進んでいません。この講義では、立法の実務的な現場感覚を知ることによって、立法過程や政策形成における「制度と行動の相互性」を検証していくこととします。

テキスト：

・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社、2003年）
・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社、2003年）

参考書：

授業で随時案内します。

近代日本政治史特殊研究Ⅰ（春学期）

大正期日本のアメリカ認識 教授 玉井 清

授業科目の内容：

昭和戦前期の大衆文化形成に大きな影響を及ぼした講談社発刊の大衆雑誌『キング』、当該雑誌の分析を通じて、同時代の政治、思想、社会についての理解を深めたい。

テキスト：

佐藤卓己『キングの時代』（岩波書店）

近代日本政治史特殊研究Ⅱ（秋学期）

満州事変の衝撃と内外の反応 教授 玉井 清

授業科目の内容：

昭和6年9月に勃発した満州事変は、その後の日中戦争、日米開戦へと向う我が国の歩みに鑑みる時、戦前の日本政治史上、書き落とすことの出来ぬ出来事である。この事変に関し、国内の各政治勢力がさらに関係諸外国がいかなる反応を示したかは、その後の我が国の進路を検証する際の重要な視座を提示している。

下記の研究書を読み解きながら、上記の問題意識に立ち議論を深めたい。

テキスト：

中村勝範編『満州事変の衝撃』（勁草書房）

古代日本政治史特殊研究Ⅱ（秋学期）

7世紀の日本 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

『史話日本の古代⑥大化の改新と壬申の乱』（作品社）を輪読し、7世紀後半の律令制の形成過程を考察する。授業はゼミナール形式で行われ、参加者による活発な討論が期待される。

テキスト：

平野邦雄編『史話日本の古代⑥大化の改新と壬申の乱』（作品社）

参考書：

笠原英彦『天皇と官僚』（PHP研究所）

日本外交史特殊研究Ⅰ（秋学期）

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の展開を概観する。個別発表テーマの割り振り等は、履修状況のみで履修者と相談して決めたい。

日本行政史特殊研究Ⅰ（春学期）

日本の医療行政 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

日本の医療行政の発展を理解するため、拙著『日本の医療行政』

(慶應義塾大学出版会) から輪読をはじめ、近時の関心事項である医療制度改革について論義したい。

テキスト：

笠原英彦『日本の医療行政』(慶應義塾大学出版会)

マス・コミュニケーション論特殊研究 I (秋学期)

メディアと政治について考える 教授 大石 裕

授業科目の内容：

この授業は、メディアと政治をめぐる諸問題について考える。

授業方法は演習形式である。

テキスト：

McQuail 'McQuail's Mass Communication Theory' 2000, Sage

参考書：

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

〔地域研究論〕

NGO・NPO 論 I (秋学期)

講師 毛受敏浩

授業科目の内容：

- ・ NGO・NPO の日本社会における意義
- ・ グローバル化と地域社会における変化
- ・ NGO・NPO をとりまく社会環境と個人の参加
- ・ NGO・NPO を立ちあげるには

テキスト：

「地球市民ネットワーク」アルク, 毛受敏浩著

参考書：

- ・ 「異文化体験入門」(明石書店, 毛受敏浩著)
- ・ 「草の根の国際交流と国際協力」(明石書店, 毛受敏浩著)

アフリカ社会論 I (春学期)

イギリスおよびフランスの古典的民族誌を中心に

講師 菊地 滋夫

授業科目の内容：

サハラ砂漠以南のアフリカは、主としてイギリスやフランスの人類学者たちのフィールドとして、膨大な研究が蓄積されてきました。また、過去 30 数年あまりの間には、日本の人類学者たちによる研究も非常に盛んに行われています。「アフリカ社会論 I・II」では、アフリカ諸地域を対象とした文化人類学的研究を幅広く取り上げる予定ですが、春学期に開講されるこの「アフリカ社会論 I」では、とくにイギリスおよびフランスの古典的民族誌を中心に紹介していきます。履修者のみなさんにとっては、アフリカの社会的・文化的多様性と、それらをめぐる人類学的研究の様々なアプローチに接する機会となるでしょう。ただし、授業担当者は、今日のアフリカの社会を理解するうえでも極めて重要であると思われる妖術や憑依霊信仰などの呪術・宗教文化に関心を寄せて来ましたので、そうした内容を比較的多く扱うこととなります。

テキスト：

使用しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

アフリカ社会論 II (秋学期)

日本の人類学者による近年の研究を中心に

講師 菊地 滋夫

授業科目の内容：

サハラ砂漠以南のアフリカは、主としてイギリスやフランスの人類学者たちのフィールドとして、膨大な研究が蓄積されてきました。また、過去 30 数年あまりの間には、日本の人類学者たちによる研究も非常に盛んに行われています。「アフリカ社会論 I・II」では、ア

フリカ諸地域を対象とした文化人類学的研究を幅広く取り上げる予定ですが、秋学期に開講されるこの「アフリカ社会論 II」では、とくに日本の人類学者による近年の研究を中心に紹介していきます。履修者のみなさんは、一見したところ「伝統的」な装いのもとに生成する今日のおカルト文化の持つ近現代的な背景や、「都市」、「国家」、「民族紛争」、「社会変化」などといった、アフリカの現在を理解するうえで無視しがたいテーマを扱った人類学的研究に触れることになるでしょう。

テキスト：

使用しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

アメリカ政治史 II (秋学期)

第二次世界大戦から G.W. ブッシュまで

客員教授 久保 文明

授業科目の内容：

アメリカ合衆国の内政・外交の歴史的展開について、第二次世界大戦期の前後から、G.W. ブッシュ政権期に至るまで概観する。ヨーロッパや日本の政治発展との相違や比較政治的な特徴も考慮しつつ、共和国であり超大国となったアメリカについて政治史的に講義を進める。ニューディール体制下の政治年代、冷戦外交、ベトナム戦争、保守化、冷戦の終焉などが主なトピックとなる。

テキスト：

阿部齊・久保文明他『国際情勢ベーシックシリーズ 8 北アメリカ』自由国民社

参考書：

- ・ 阿部齊・久保文明『国際社会研究 I 現代アメリカの政治』放送大学教育振興会
- ・ 久保文明編『G.W. ブッシュ政権とアメリカの保守勢力ー共和党の分析』日本国際問題研究所
- ・ 有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣
- ・ ラフィーバー『アメリカの時代』芦書房
- ・ 阿部齊・五十嵐武士編『アメリカ研究案内』東大出版会
- ・ 五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門 第 3 版』東大出版会

イスラーム社会論 I (春学期)

現代エジプトの都市化と社会変動 講師 店田 廣文

授業科目の内容：

世界人口の 5 分の 1 は、イスラーム信者であり、世界の 200 ヶ国以上の多様な社会にかけらは居住している。現代エジプトの都市社会を事例としながら、イスラーム社会の現代について学ぶ。

テキスト：

店田廣文「エジプトの都市社会」(早稲田大学出版部, 1999 年)

参考書：

授業中に指示する。

開発援助政策論 I (春学期)

政府・政府機関による援助

講師 杉下 恒夫

授業科目の内容：

政府開発援助 (ODA) は、70 年代以降の日本の主要な国際協力的手段として大きな成果を挙げてきた。日本は近年、ODA 予算の削減により世界一の援助国の座を明け渡し、また、自衛隊の派遣等による国際貢献策が台頭してきたことで、この分野における相対的な国内の評価は低下しているものの、ODA という平和的手段による国際協力が我が国の代表的国際貢献策であることに変化はない。

特に冷戦後の国際社会の不安定要因となっている異なった民族、宗教間の紛争を予防、また紛争後の平和の定着を図る手段として開発協力の重要性が再評価されており、我が国の ODA も新たな責務に対応する変容が求められている。

本講義においては、日本の開発協力の実情を学習するとともに外務

政治

省、JICAなどが新たな責務にどう対応しているか、最前線の最新情報を資料として学ぶ。

テキスト：

なし、適宜資料配布

参考書：

なし

開発援助政策論Ⅱ（秋学期）

民間による開発援助

講師 杉下恒夫

授業科目の内容：

グローバル化した現在の国際社会は、国家、国際機関という従来の組織では対処しきれないさまざまな問題が生じている。国際社会に新たに出現した空間を埋める組織としてNGOが脚光を浴びているが、特に開発援助の世界においては貧困、テロ、人口増、新感染症、環境破壊など政府、国際機関だけでは対応できない数多くの地球規模問題が発生している。

こうした新空間を政府などと協力して埋める担い手としてNGOの存在が重視されており、いまやNGOはODAの主要な実施団体になりつつもある。

本講義では、我が国においても効果的な開発援助を実施するために欠かせない存在になりつつある日本のNGOの実態を知り、現在はまだひ弱さが残る日本のNGOをどうすれば真の政府のパートナーにすることが出来るのか、そのための市民の役割などについて考える。

テキスト：

特になし、適宜資料配布

参考書：

なし

現代アフリカ論Ⅱ（春学期）

教授 井上一明

授業科目の内容：

現代アフリカ国家の政治的特徴に関する講義をおこなう。

参考書：

項目ごとに講座の中で紹介する。

現代アメリカ論Ⅱ（春学期）

アメリカ政治の構造変動

講師 岡山裕

授業科目の内容：

アメリカ（国内）政治の重要な構成要素を取りあげ、集中的に検討します。アメリカ政治についてはニュース等で多くの情報が得られ、「大統領制」「二大政党制」「連邦制」といったはっきりした特徴もあることからわかった気になりがちですが、その面白さ（と難しさ）はそこから一歩踏み出したところにあると考えています。そこでこのコースでは、現代を念頭に置きつつも、ある要素が政治全体の構造の中でどう位置づけられ、それを取りまく主体や制度からいかなる影響を受けているのか、またアメリカ政治の構造自体がどう変動してきた（と考えられている）のか、に注意を払い、理論と歴史の両面から解説を行います。従って、手っとり早くアメリカの「事情通」になりたい人にはあまり向きません。むしろ、日々得られる情報をもとに自分で考えられるようになりたい人に、そのための分析上の道具立てを提供できればと考えています。

テキスト：

特になし。毎回レジュメと資料プリントを配付します。

参考書：

- ・阿部齊・久保文明『現代アメリカの政治』（放送大学教育振興会、2002年）
- ・五十嵐武士・古矢旬・松本礼二編『アメリカの社会と政治』（有斐閣、1995年）

現代台湾論（春学期）

講師 若林正文

授業科目の内容：

複数の帝国（中華帝国、近代日本植民帝国、戦後のアメリカの非公式帝国）の周縁に位置づけられてきたという台湾の歴史に留意しながら、

「台湾とは何か」が争われる「アイデンティティの政治」に焦点を当てて、現代台湾政治の流れを論じる。

テキスト：

若林正文『台湾』（ちくま新書、2001年）

参考書：

若林正文『台湾 分裂国家と民主化』（東京大学出版会、1992）

現代中国論Ⅰ（春学期）

中華人民共和国政治史

教授 国分良成

授業科目の内容：

中華人民共和国の政治史を時代順にあとづけるが、視点は常に現在に置く。

参考書：

- ・小島朋之・国分良成『東アジア』自由国民社、1997年
- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999年
- ・国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会、2004年

現代中国論Ⅱ（秋学期）

中国の国際関係

教授 国分良成

授業科目の内容：

中国をめぐる国際関係を様々な角度から具体的に分析する。

参考書：

- ・国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』朝日選書、1996年
- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999年
- ・国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会、2004年

現代中東論Ⅱ（秋学期）

中東の政治経済学

教授 富田広士

授業科目の内容：

次の講義項目を予定している。若干変更するかもしれない。

1. 人口問題
2. 経済開発と国家
3. 政府主導主義
4. 工業化政策
5. 経済自由化
6. 都市化
7. 農業と食糧問題
8. 経済開発と国際関係

テキスト：

学期初めに、資料・統計・参考文献等の教材プリントを、生協で販売する。

参考書：

学期中、三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

現代朝鮮論Ⅱ（春学期）

教授 小此木政夫

授業科目の内容：

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

参考書：

随時紹介します。

現代東南アジア論 I (春学期)

東南アジアにおける紛争

教授 山本 信人

授業科目の内容：

東南アジア地域は多種多様な紛争の歴史をもつ。現代の東南アジア史を振り返ると、19世紀末以降、反植民地抵抗農民反乱、民族独立運動、共産主義運動、反政府運動、政党対立、マイノリティへの暴力、政治的暴力、宗教紛争、民族紛争が時代を彩ってきた。運動、暴力、紛争は時代と状況によって規定され、住民と政府の「記憶」を構成してきた。多民族多文化的な状況があるから東南アジア地域では紛争が多いのか。特定の政治・社会状況が紛争を誘発するのか。本講義では多様な紛争を跡づけることで、東南アジア地域・諸国における政治・社会の特徴を抉りだしてみたい。講義ではトピックを軸として組み立てる。

テキスト：

特になし。

参考書：

適宜提示する。

現代ラテン・アメリカ論 I (秋学期)

助教授 出岡 直也

授業科目の内容：

長く民主主義体制を安定させることができず、クーデタが頻発し、軍政や独裁が多かったラテン・アメリカ諸国が、1980年代以降「最低限の民主主義」を維持する傾向が強くなったのはなぜか、そして、現在の「民主主義」の特徴は何か、という形で整理して、ラテン・アメリカ地域の政治史と政治の現状を概観します。

現代ロシア論 I (春学期)

ロシアの政治

教授 横手 慎二

授業科目の内容：

ロシアの政治史を講義する。近年の変化で、ロシア社会についての多くのデータが入手可能になった。この結果、これまで不可解とされた事柄が少しずつ明らかになっている。この講義では、こうした近年の研究成果に依拠しつつ、アメリカでもヨーロッパでもない日本との比較を考えながら、ロシア政治の変化した部分と変化しない部分がどのようなものであるか考察する。

テキスト：

特に利用しない。

参考書：

講義の中であげる。

現代ロシア論 II (秋学期)

ロシアの外交

教授 横手 慎二

授業科目の内容：

ロシアの外交史を講義する。冷戦史の研究の蓄積によって多くの新事実が明らかになっているので、これらを含めながら従来の研究を批判的に吟味する。また現代のロシア外交を考える視座を考えたい。

テキスト：

特にあげない。

参考書：

横手慎二編『東ロシアのロシア』（慶應義塾大学出版会）

西洋法制史

ローマ法とヨーロッパ法史

講師 村上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特徴と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでの

ローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継受をへて近代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局をクローズアップしていきたくと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URL やパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

概説『西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

中国政治史 I (秋学期)

教授 高橋 伸夫

授業科目の内容：

主としてアヘン戦争から辛亥革命にいたる中国の近代政治史について語る。最近、政治史はすっかり影が薄くなってしまった。たしかに、過去を「上から」ではなく「下から」、つまり権力の作用とその諸結果からではなく、民衆の経験や視点から復元してみようとする近年の社会史の試みは重要であり、次々と注目すべき成果が生み出されている。そうした「新しい歴史学」に馴染んだ者にとっては、この講義はいささか古めかしく映るかもしれない。しかし、そうはいつても、権力が歴史において果たす役割の重要性は、いかなる社会史家でも否定できないだろう。この講義で学ぶことのできる政治史の基本的知識なしに社会史家のいう「全体をみる眼」を養うことはできない。政治史と社会史はライバルであると同時にパートナーであるべきなのである。社会史の成果については、折を見て言及することになる。

テキスト：

特に指定しない。

中国政治史 II (春学期)

20世紀前半の中国革命史

教授 高橋 伸夫

授業科目の内容：

20世紀初頭から中華人民共和国成立にいたる時期の中国政治史を、中国共産党の思想、組織、運動を中心に講義する。研究者たちはこれまでもっぱら「中央委員たちの事跡」しか語ってこなかった。党組織の頂点部分におけるコミンテルンの政策の受容、それに伴う党内の権力闘争、そしてその結果としての指導者の交替と革命戦略の変化——これらが従来の研究の主題であった。以上に加えて、この講義では「下から」の視点を導入したい。つまり、一般党員および革命運動に支持を与えた労働者、農民の視点から革命を再構成してみたいのである。

テキスト：

特に指定しない。

中国法制史

法文化の歩み

講師 堀

毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

政治

参考書：

授業時に提示

東洋政治思想史 I (春学期)

清末中国の「改革」論の諸相 講師 高柳信夫

授業科目の内容：

清朝は、中国最後の「王朝国家」であり、17世紀後半から18世紀にかけて、空前の「盛世」を謳歌してきたが、19世紀に入るとともに衰退の徴候が現れ、アヘン戦争を契機に近代世界に組み入れられるとともに、それがさらに加速されていった。本講義では、そうした「危機の時代」において、中国知識人が打ち出した様々な改革構想を取り上げ、儒教的伝統の組み替え、西洋文化の流入などといった事象に着目しつつ、「王朝国家」が「近代国家」への脱皮を模索してゆくプロセスを検討する。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

東洋政治思想史 II (秋学期)

中華民国期の国家構想 講師 高柳信夫

授業科目の内容：

辛亥革命によって成立した中華民国は、当初の期待とは裏腹に、不安定な政治情勢が続き、そうした中で、知識人たちによって、新中国建設の様々な構想が提示された。本講義では、1910～20年代という、中国近代思想史において、最も多様性に富んでいた時期に焦点を絞り、そこで提起された代表的な主張を紹介し、近代中国知識人の「構想力」を検討する。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

現代中東論特殊研究 I (秋学期)

現代中東論に関する英語文献の講義

教授 富田 広 士

授業科目の内容：

現代中東論に関する次の英語文献の中から一部をコピーして、講読する。

- (1) Lockman, Zachary (2004), *Contending Visions of the Middle East: The History and Politics of Orientalism*, Cambridge University Press, UK
- (2) The Emirates Center for Strategic Studies and Research (2003), *Islamic Movement: Impact on Political Stability in the Arab World*, The Emirates Center for Strategic Studies and Research, United Arab Emirates
- (3) Anderson, Liam and Stansfield, Gareth (2004), *The Future of Iraq: Dictatorship, Democracy, or Division?*, Palgrave MacMillan, US
- (4) Dieckhoff, Alain (2003), *The Invention of a Nation: Zionist Thought and the Making of Modern Israel*, Hurst & Company, UK
- (5) Lesch, David W. (2001), *1979: The Year That Shaped the Modern Middle East*, Westview Press, US

テキスト：

文献のコピーの求め方は初回授業時間に指示する。

現代東南アジア論特殊研究 II (秋学期)

東南アジア研究への歴史的アプローチ

教授 山本 信 人

授業科目の内容：

本セミナーでは、東南アジア地域研究を歴史的アプローチからまとめた書籍をテキストとして、東南アジア現代(政治)史を鳥瞰する。テキストは「社会」に重点をおいているために、邦語で入手可能な東南アジア(史)に関する書籍とは異なる視角に触れることができるであろう。

テキスト：

Nicholas Tarling, *Southeast Asia: A Modern History* (South Melbourne: Oxford University Press, 2001)

(授業に際しては、必要部分のみをコピー配布の予定)

参考書：

必要に応じて提示する。

現代ラテン・アメリカ論特殊研究 I (春学期)

助教 出岡 直 也

授業科目の内容：

ラテン・アメリカ政治に関する重要な英語論文の講読を行います。各国の政治事情を紹介したものでなく、主に、理論的な考察の色彩の強いものを講読します。具体的なテーマについては、参加者と相談し、その関心を考慮に入れて選択します。1回に20頁ほどの英語文献につき、その内容を要約して発表する報告者と、その内容についての議論を行うコメンテーターが発表を行ったのちに、ディスカッションを行います。全ての参加者が一度は発言することを求められます。

履修者へのコメント：

少人数形式であり、毎回出席が基本となります。そのことと上記の内容から、かなりの負担があるため、やる気がある方の履修を期待しています。

現代ロシア論特殊研究 I (秋学期)

歴史の中の日露関係

教授 横手 慎 二

授業科目の内容：

日露関係史を1904年から1945年まで対象として講義とディスカッション形式で研究する。

テキスト：

初回に示す。

地域研究論特殊研究 I (秋学期)

発展途上国の政治と開発

教授 井上 一 明

授業科目の内容：

発展途上国(第三世界)における政治体制と開発の問題を分析する際に有効なさまざまな理論・分析枠組みに関する基礎的な文献を輪読する。前半は政治体制論、そして後半は開発関係である。

テキスト：

なし

参考書：

なし

比較地域研究論特殊研究 I (春学期)

現代世界の民主主義

専任講師(有期) 粕谷 祐 子

授業科目の内容：

比較政治学の名著である、アレンド・レイプハルトの *Patterns of Democracies* の精読、およびレポート作成を通じて、現代の民主主義体制を比較考察します。20世紀後半において世界各国が採る体制は、多数決型民主主義とコンセンサス型民主主義の二つの原型とし、その中間種・混合種として捉えることができる、というのが本書の基本的主張です。レイプハルトのこの議論は、彼が1970年に著したオランダ政治の研究に端を発しており、その後の一連の著作とともに、現在に至るまで民主主義研究に多大な影響を与えています。その著者の最新作が本書である *Patterns* では、これまでの議論をさらに精緻化し、途上国、先進国の両方を含む36カ国を実証的に比較分析した上で、上記のような結論を導いています。本特殊研究では、本書を掘り下げて読むと同時に、本書に関連して各自が興味を持ったテーマについて期末レポートを作成するなかで、以下のような目的を達成することをねらいとしています。(1)「理想型」ではなく「現実」の民主主義体制の多様性について考える、(2)アカデミックな英語の読解力を身につける、(3)実証政治学における「測定」の諸問題について学ぶ、(4)様々な政治制度の働きについて理解する、(5)分析対象となっている36カ国の政治について知る、(6)アカデミックな議論のしかたを身に

つける、(7) レポートの書き方を学ぶ。授業の構成は、前半 5 回で Patterns を精読し、講師がレポートの書き方を解説した後（授業 1 回分）、後半 6 回は各参加学生の自由研究報告にあてます。自由研究報告は、各自の期末レポートの素案をクラス全体で討論するためのものです。

テキスト：

Arend Lijphart, Patterns of Democracies: Government Forms and Performances of 36 Countries, Yale University Press, 1999. (日本での販売価格は 2300 円前後、各自購入してください。)

参考書：

猪口孝他編『政治学辞典』弘文堂、2000年。
その他、随時紹介します。

比較地域研究論特殊研究Ⅱ（秋学期）

比較公共政策分析 専任講師(有期) 粕谷 祐子

授業科目の内容：

各国の政府が提供する政策は、分野ごとにみればほぼ共通していますが、その形成過程や内容は国によって大きく異なります。例えば、日本、アメリカ、スウェーデンではいずれも年金政策がありますが、そこで提供される内容は国により、また時代により異なります。この特殊研究では、なぜ各国間で、あるいは一国において通時的に政策が異なるのかについて、さまざまな国におけるさまざまな政策分野をとりあげて比較検討します。毎回の授業では、前半に英語で書かれた政策分析の事例研究論文を精読して政策分析の「こつ」をつかむことをめざします（各回の政策テーマは授業計画を参照）。授業の後半は参加者の自由研究報告にあて、各自が興味をもつ国および公共政策分野の事例分析をしてもらいます。また、自由研究報告の内容などをもとにした期末レポートを課題とします。授業の詳細（シラバス）は、9月下旬に粕谷祐子のホームページ

(<http://homepage3.nifty.com/yukokasuya/>)で掲載します。

テキスト：

特になし（英語論文の教材は当方で配布します）。

参考書：

随時紹介します。

〔国際政治論〕

NGO・NPO 論Ⅰ（秋学期）

講師 毛 受 敏 浩

授業科目の内容：

- ・ NGO・NPO の日本社会における意義
- ・ グローバル化と地域社会における変化
- ・ NGO・NPO をとりまく社会環境と個人の参加
- ・ NGO・NPO を立ちあげるには

テキスト：

「地球市民ネットワーク」アルク、毛受敏浩著

参考書：

- ・ 「異文化体験入門」(明石書店、毛受敏浩著)
- ・ 「草の根の国際交流と国際協力」(明石書店、毛受敏浩著)

開発援助政策論Ⅰ（春学期）

政府・政府機関による援助 講師 杉 下 恒 夫

授業科目の内容：

政府開発援助 (ODA) は、70 年代以降の日本の主要な国際協力的手段として大きな成果を挙げてきた。日本は近年、ODA 予算の削減により世界一の援助国の座を明け渡し、また、自衛隊の派遣等による国際貢献策が台頭してきたことで、この分野における相対的な国内の評価は低下しているものの、ODA という平和的手段による国際協力が我が国の代表的国際貢献策であることに変化はない。

特に冷戦後の国際社会の不安定要因となっている異なった民族、宗教間の紛争を予防、また紛争後の平和の定着を図る手段として開発協

力の重要性が再評価されており、我が国の ODA も新たな責務に対応する変容が求められている。

本講義においては、日本の開発協力の実情を学習するとともに外務省、JICA などが新たな責務にどう対応しているか、最前線の最新情報を資料として学ぶ。

テキスト：

なし、適宜資料配布

参考書：

なし

開発援助政策論Ⅱ（秋学期）

民間による開発援助 講師 杉 下 恒 夫

授業科目の内容：

グローバル化した現在の国際社会は、国家、国際機関という従来の組織では対処しきれないさまざまな問題が生じている。国際社会に新たに出てきた空間を埋める組織として NGO が脚光を浴びているが、特に開発援助の世界においては貧困、テロ、人口増、新感染症、環境破壊など政府、国際機関だけでは対応できない数多くの地球規模問題が発生している。

こうした新空間を政府などと協力して埋める担い手として NGO の存在が重視されており、いまや NGO は ODA の主要な実施団体になりつつもある。

本講義では、我が国においても効果的な開発援助を実施するために欠かせない存在になりつつある日本の NGO の実態を知り、現在はまだひ弱さが残る日本の NGO をどうすれば真の政府のパートナーにすることが出来るのか、そのための市民の役割などについて考える。

テキスト：

特になし、適宜資料配布

参考書：

なし

現代国際政治Ⅰ（春学期）

現代国際政治に理論と歴史から接近する

教授 赤 木 完 爾

授業科目の内容：

主として 1945 年以降の国際政治を跡づけながら、国際政治システムと外交政策にかかわる論点を検討する。加えて 9.11 以後の現状分析を試みる。

テキスト：

特に定めない。

参考書：

- ・ ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦』（慶應義塾大学出版会、2004 年）
- ・ ジョセフ・S・ナイ・ジュニア『国際紛争』[原書第 4 版]（有斐閣、2003 年）
- ・ 久保文明・赤木完爾編『アメリカと東アジア』（慶應義塾大学出版会、2004 年）
- ・ 赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』（慶應義塾大学出版会、1997 年）
- ・ 赤木完爾編『朝鮮戦争』（慶應義塾大学出版会、2003 年）
- ・ 赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源』（慶應通信、1991 年）

現代朝鮮論Ⅱ（春学期）

教授 小 此 木 政 夫

授業科目の内容：

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

テキスト：

なし

政治

参考書：

随時紹介します。

現代東南アジア論 I (春学期)

東南アジアにおける紛争 教授 山本 信人

授業科目の内容：

東南アジア地域は多種多様な紛争の歴史をもつ。現代の東南アジア史を振り返ると、19世紀末以降、反植民地抵抗農民反乱、民族独立運動、共産主義運動、反政府運動、政党対立、マイノリティへの暴力、政治的暴力、宗教紛争、民族紛争が時代を彩ってきた。運動、暴力、紛争は時代と状況によって規定され、住民と政府の「記憶」を構成してきた。多民族多文化的な状況があるから東南アジア地域では紛争が多いのか。特定の政治・社会状況が紛争を誘発するのか。本講義では多様な紛争を跡づけることで、東南アジア地域・諸国における政治・社会の特徴を抉りだしてみたい。講義ではトピックを軸として組み立てる。

テキスト：

特になし。

参考書：

適宜提示する。

現代ヨーロッパの国際関係 II (春学期)

欧州の国際機構 講師 小林 正英

授業科目の内容：

2004年、EU、NATOはそれぞれ新加盟国10カ国、7カ国を迎え、ヨーロッパは大きく拡大する。また、冷戦後の両機構に代表される欧州の枠組みの質的変容も目を見張るものがある。欧州統合はEU（欧州連合）として政治外交分野などにその存在感を高め、NATOは地域的安全保障機構として新たな姿を見せつつある。本講義では、EUを中心とする欧州の国際機構について理解することを目的とするとともに、システムの中に塗り込められた欧州の政治・国際政治の様子を概観することとする。

参考書：

- ・田中俊郎『EUの政治』岩波書店
- ・小久保康之「欧州統合」（長谷川・高杉編『新版 現代の国際政治』ミネルヴァ書房）
- ・ベルトラン他『ヨーロッパ2010』ミネルヴァ書房

現代ヨーロッパの国際関係 III (春学期)

「拡大ヨーロッパ」：グローバルとナショナルのはざま 講師 羽場 久滉子

授業科目の内容：

本講義は、第2次世界大戦後の欧州統合と冷戦による欧州分断から説き起こし、冷戦の終焉と社会主義体制崩壊後、分断されていた欧州がどのように再統一されていくのか、その過程で、「ヨーロッパ・アイデンティティ」やヨーロッパの境界線の問い返し、グローバリゼーションとナショナリズムの相克、イラク戦争をめぐる欧州内部の確執、農業問題や欧州憲法をめぐる軋轢、アメリカとの対抗関係の始まりなど、欧州国際関係をめぐる諸問題を、主にヨーロッパ東半分の側から分析する。それにより旧来とは異なった新たなヨーロッパ国際関係の見方が提起できれば、と考える。

テキスト：

- ・『拡大ヨーロッパの挑戦 アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』
- ・『グローバリゼーションと欧州拡大』

参考書：

授業の始めおよびそのつど提示する。

国際コミュニケーション論 I (春学期)

グローバル化とメディア 講師 伊藤 英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーション

ョンでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

国際コミュニケーション論 II (秋学期)

国境を越えるコミュニケーション 講師 伊藤 英一

授業科目の内容：

21世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

その都度、配布・案内します。

参考書：

福澤諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

国際政治経済論 I (春学期)

国際政治経済論概論 教授 田所 昌幸

授業科目の内容：

国際政治学の立場から、経済問題について検討するのが、ここで言う国際政治経済学である。その意味で経済学の成果を利用しつつも、ここでの議論は基本的に政治学的なアプローチをとる。この授業では、国際政治経済学の基本的な知見と全体像を、学生に提供することをねらいとしている。

テキスト：

教科書は指定しない。

参考書：

- ・ロバート・ギルピン『グローバル資本主義』（東洋経済新報社）
- ・田所昌幸『アメリカを超えたドル』（中央公論新社）

国際政治経済論 II (秋学期)

国際政治経済論各論 教授 田所 昌幸

授業科目の内容：

国際政治経済論 I（春学期）を受けて、政治現象を規定する構造としての経済という視角を検討し、より個別的な国際政治経済学上の現代的な課題をいくつか検討したい。

テキスト：

教科書は指定しない。

参考書：

授業の際に随時指定する。

国際政治理論 I (春学期)

総合政策学部 助教授 土屋 大洋

授業科目の内容：

マクロ国際政治理論を扱う。マクロ国際政治理論とは、国単位の国際関係を理解する場合のレンズに相当し、勢力均衡論、相互依存論、

世界システム論の三つの大きなパラダイム理論の相互関係を明らかにするものである。その他にも、ネットワーク理論や新帝国主義論など、新しい理論の展開を踏まえながら、国際政治を分析する視点を養う。秋学期の国際政治理論Ⅱとともに受講することが望ましい。

参考書：

- ・薬師寺泰蔵『公共政策』東京大学出版会、1989年
- ・石井貫太郎『現代国際政治理論』ミネルヴァ書房、2002年
- ・土屋大洋『情報とグローバル・ガバナンス』慶應義塾大学出版会、2001年

国際政治理論Ⅱ（秋学期）

総合政策学部 助教授 土屋大洋

授業科目の内容：

ミクロ国際政治理論を扱う。ミクロ国際政治理論は、政策決定過程論とも政治経済学ともいわれるが、本講義ではもっと広くサブナショナルな単位が国際関係にどのように影響するかについて考える。前半では国際関係のアクターを分析する視点について検討し、後半ではさまざまなイシュー領域における構造的なパワーについて検討する。春学期の国際政治理論Ⅰとともに受講することが望ましい。

参考書：

- ・スーザン・ストレンジ（西川潤・佐藤元彦訳）『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年
- ・Lawrence Lessig, Code and Other Laws of Cyberspace, Basic Books, 2000
- ・土屋大洋『ネット・ポリティクス — 9.11以後の世界の情報戦略 —』岩波書店、2003年

政治経済システム論（秋学期）

政府の役割はどうあるべきか 名誉教授 田中宏

授業科目の内容：

個人の自由、繁栄、そして安全保障を確保する上で、政府の役割はどうあるべきか。この問題を吟味することが本講義の目的である。これは古く、かつ、新しい問題であるが、政治学、経済学の基本概念を明確にしなが、それらを用いて説明をしたい。

テキスト：

特に指定せず。必要に応じてプリントを配布することもある。

参考書：

根岸・萩原・田中『国家の解剖学』日本評論社

西洋外交史Ⅱ（秋学期）

現代ヨーロッパの国際政治 専任講師 細谷雄一

授業科目の内容：

本講義では、第二次世界大戦の起源から冷戦後の現在に至るまでの、現代ヨーロッパ外交史を検討する。第二次世界大戦と冷戦は、我々の生きる時代の土台を形成することになった。世界では米ソ二つの超大国が登場し、ヨーロッパ諸国は二度の世界大戦で国力を大きく失い、植民地独立問題に直面した。かつての威光を失う中で、西欧諸国は統合によって自立と復興を模索し、大西洋同盟によって安全保障を確立することを目指した。複雑化する世界を理解するためにも、戦後外交史を学び、現代国際政治の基礎を十分に認識することを目指したい。

テキスト：

- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）

参考書：

- ・キッシンジャー『外交（下）』岡崎久彦監訳（日本経済新聞社）
- ・クレイグ＝ジョージ『軍力と現代外交』木村修三他訳（有斐閣）
- ・ジョセフ・S・ナイ『国際紛争 理論と歴史〔原書第4版〕』田中明彦・村田晃嗣訳（有斐閣）
- ・ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦』赤木完爾・斎藤祐介訳（慶應義塾大学出版会）
- ・ジョン・ルイス・ギャディス『ロング・ピース』五味俊樹他訳（芦

書房）

- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官たち』（筑摩書房）

日本外交史Ⅱ（春学期）

教授 添谷芳秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本のミドルパワー外交（仮題）』（5月7日出版予定）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。とりあえずは、以下を参照のこと。

- ・添谷芳秀『日本外交と中国 1945-1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）
- ・添谷芳秀・田所昌幸編著『日本の東アジア構想』（慶應義塾大学出版会、2004年）

現代東南アジア論特殊研究Ⅱ（秋学期）

東南アジア研究への歴史的アプローチ

教授 山本信人

授業科目の内容：

本セミナーでは、東南アジア地域研究を歴史的アプローチからまとめた書籍をテキストとして、東南アジア現代（政治）史を鳥瞰する。テキストは「社会」に重点をおいているために、邦語で入手可能な東南アジア（史）に関する書籍とは異なる視角に触れることができるであろう。

テキスト：

Nicholas Tarling, *Southeast Asia: A Modern History* (South Melbourne: Oxford University Press, 2001)

（授業に際しては、必要部分のみをコピー配布の予定）

参考書：

必要に応じて提示する。

国際政治経済論特殊研究Ⅰ（春学期）

Foreign Policy 誌に学ぶ国際政治の思潮

教授 田所昌幸

授業科目の内容：

アメリカの国際問題専門誌である、Foreign Policy の最新号から、いくつかの論文を輪読する形で授業を進めたい。

テキスト：

Foreign Policy 各号（図書館に有り）

国際政治理論特殊研究Ⅰ（春学期）

客員教授 薬師寺泰蔵

授業科目の内容：

国際政治を公共政策学の観点から、具体的課題（安全保障、環境問題、科学技術、エネルギー etc.）をベースに最近の理論を紹介しながら進めて行く。その都度数冊の関連書を紹介し、ゼミ形式で討論を中心とする。春学期と秋学期の通年の授業である。秋学期は研究発表の方法論もカバーする。

テキスト：

講義ごとに指定

参考書：

政治

特になし

国際政治理論特殊研究 II (秋学期)

客員教授 薬師寺 泰 蔵

授業科目の内容：

国際政治を公共政策学の観点から、具体的課題（安全保障、環境問題、科学技術、エネルギー etc.）をベースに最近の理論を紹介しながら進めて行く。その都度数冊の関連書を紹介し、ゼミ形式で討論を中心とする。春学期と秋学期の通年の授業である。秋学期は研究発表の方法論もカバーする。

テキスト：

講義ごとに指定

参考書：

特になし

西洋外交史特殊研究 I (春学期)

イギリス外交史の世界 専任講師 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

ナポレオン戦争後のウィーン体制、第一次世界大戦後のヴェルサイユ体制とワシントン体制、そして第二次世界大戦後の冷戦体制という国際体制を形成する上で、イギリスは中核的な位置を占めてきた。しかし二十世紀の後半には、米ソという巨大な超大国に挟まれ、植民地を失い、自らの役割を見失った。本授業では、少人数の演習形式にて、イギリス外交の歴史を概観することになる。それは単にイギリス外交を学ぶためではなく、イギリス外交というレンズを通して、国際体制の巨大な歴史的推移を洞察するためである。そのような歴史理解の上に立って、現在の国際政治を考える上での洞察力を養いたい。

テキスト：

- ・ピーター・クラーク『イギリス現代史 1900-2000』西沢保他訳（名古屋大学出版会）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）

参考書：

- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官たち』（筑摩書房、近刊予定）
- ・佐々木雄太編『世界戦争とイギリス帝国』（ミネルヴァ書房、近刊予定）
- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）

西洋外交史特殊研究 II (秋学期)

外交について考える 専任講師 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

この特殊研究では、少人数の演習形式で議論を通じて、外交とは何かという問題についての理解を深めることを目指す。その中でも、外交の理論と実践を発展させる上で重要な位置を占めてきたイギリスの外務省と外交官を中心に、議論を進めることになる。まず、外交論の古典的名著といわれるハロルド・ニコルソンの『外交』を読み、それから外交官についての理解を深めるために『大英帝国の外交官たち』、そして外交指導者について理解を深めるために、『外交による平和』を読むことになる。

テキスト：

- ・ハロルド・ニコルソン『外交』（東京大学出版会）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官たち』（筑摩書房、近刊予定）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）

参考書：

- ・カリエール『外交談判法』（岩波文庫）
- ・ヘンリー・キッシンジャー『外交（上・下）』（日本経済新聞社）
- ・ヘドリー・ブル『国際社会論』（岩波書店）
- ・高坂正堯『古典外交の成熟と崩壊』（中央公論社）
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）

日本外交史特殊研究 I (秋学期) 教授 添 谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の展開を概観する。個別発表テーマの割り振り等は、履修状況のみで履修者と相談して決めたい。

東アジアの国際関係特殊研究 I (春学期)

教授 添 谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後東アジアの国際関係の展開を概観する個別発表テーマの割り振り等は、履修状況のみで履修者と相談して決めたい。

〔研究会（3年）〕

研究会（3年）(春学期)(秋学期)

教授 薩 山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

研究会（3年）(春学期)(秋学期)

政治哲学、(現代)政治思想、政治学、平和学の研究

教授 萩 原 能 久

授業科目の内容：

4月に決定した研究会会員の希望にそって、中心的にテーマを設定し、そのテーマを扱った広範囲の重要文献を選定して輪読をすすめていきます。乱読はこうした分野に不可欠ですので、かなりの量の文献を読むことになります。

上記の、いわゆる本ゼミと平行してサブゼミも行います。サブゼミでは1)本ゼミの理解の助けとなるような二次的研究文献の輪読、2)ディベート、3)研究会ホームページの作成、4)三田祭時に毎年刊行している論文集のための研究中間報告を行うこととなります。

テキスト：

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書：

ゼミのなかで随時紹介していきます。

研究会（3年）(春学期)(秋学期)

助教授 田 上 雅 徳

授業科目の内容：

ヨーロッパの政治思想史を、とくに「政治と宗教」という観点から把握すべく、基礎的な文献を輪読し、討論を行います。同時に、政治思想の理解を深めるために古典を幅広く読み、レポートを作成してもらいます。

研究会（3年）(春学期)(秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大 沢 秀 介

授業科目の内容：

日本国憲法の基本理念を知る上で重要なアメリカ憲法について、日本国憲法の現況を踏まえた上で、研究を行う。

テキスト：

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第三版）』（岩波書店）および英書

参考書：

大沢秀介『憲法入門（第3版）』（成文堂）

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

教授 小林 良 彰

授業科目の内容：

あるべき政治の姿を念頭に置きながら、現代の政治過程の実態を調べ、自分が何に関心を持っているのかを、次第に自分自身で掘り込んで行くことを目的とする。その上で、現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、研究成果は三田祭で発表する。

テキスト：

ジョン・ロールズ『正義論』

参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

「独立自尊の行政学」と現代日本行政システムの分析

教授 大山 耕 輔

授業科目の内容：

伝統的な「国家中心の行政学」を批判的に検討するとともに、グローバル化のなかの「国から地方へ民間へ」という時代における「独立自尊の行政学」の可能性と限界について考察します。またそのような視点から、現代日本行政システムを分析します。各自の卒論研究について、問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連のプロセスの導入部分を指導します。

テキスト：

最初のゼミの時間に指示します。

参考書：

担当者の考えを知るには、『エネルギー・ガバナンスの行政学』（慶應義塾大学出版会、2002）、『行政指導の政治経済学』（有斐閣、1996）を読んでおいてください。その他ゼミ紹介に掲載されている文献などが参考になります。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

教授 麻生 良 文

授業科目の内容：

公共経済学の基礎文献の輪読を行う。同時に、三田祭等での発表テーマについて研究を行う。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代政治理論の研究

教授 河野 武 司

授業科目の内容：

政治的無関心が蔓延する中、危機に立つ代議制民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

なお、3年生は基本的な文献を輪読し、4年生は卒業論文の作成を行います。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に、適宜紹介します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

権力理論の考察

教授 霜 野 寿 亮

授業科目の内容：

権力に関する文献を読み進みながら議論をする。

テキスト：

- ・盛山和夫「権力」、東大出版会、2000年
- ・杉田 敦「権力」、岩波書店、2000年

参考書：

なし

研究会(3年)(春学期)(秋学期)脱工業化・グローバリゼーション時代の世界
・日本・豪州の文化・社会変動

教授 関 根 政 美

授業科目の内容：

研究会では、学生諸君は2年間私を指導教授として研究活動を行うことになる。高校時代までは、先生の話聞いてノートを書いて覚え、試験でよい点をとるという作業である「お勉強」を中心にしてきたはずである。それは、社会にでてから日常生活・職業生活に困らないような知識・技能を学び、市民として恥ずかしくない生活を送れるようにするためであった。しかし、大学では、自ら研究課題を設定し、そのテーマを中心に調査・資料収集、分析・報告・討論などを行うという「研究活動」を行い、社会に役立つような知識を生み出すことが大きな目的となる。本研究会の主要テーマは、①グローバリゼーションと脱工業化の社会変動、②人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義の政治・社会学、③現代オーストラリア研究に大きく分かれている。入会に当たっては、テーマの選択に注意してほしい。テーマ設定に当たり大学1年次より、研究活動に慣れておく必要があるので演習などの授業に参加しておくことが望ましい。

テキスト：

研究会では、①「自由論題」と称して、諸君の自主研究報告を中心としたセッションと、②輪読書を決めて報告・討論を行うセッションの2種類が実施される。テキストはそのつど諸君の希望を入れて選択していく予定である。自由論題による報告は、先行研究を踏まえて各自が収集した参考文献、調査報告書を分析して行うようにしてほしい。必要とあらば現地調査、インタビュー調査をすること。なお、授業では毎回3千字ほどの報告・コメントを作成し2,3名の報告者と司会者・討論者をあらかじめ決めて討論を進めていくものとする。

参考書：

研究会指導者の著書・論文は一応目を通しておくこと。

- ①『エスニシティの政治社会学』名古屋大学出版会、1994年
 - ②『多文化主義社会の到来』朝日新聞社、2000年
 - ③『マルチカルチュラル・オーストラリア』成文堂、1989年
 - ④有末・霜野・関根編『社会学入門』弘文堂、1996年
 - ⑤関根政美・山本信人編『海域アジア』慶應義塾大学出版会、2004年
- などを読みテーマを考えておくこと。
- ・カースルズ／ミラー（関根・関根訳）『国際移民の時代』名古屋大学出版会、1996年
 - ・D・ヒーター（田中・関根訳）『市民権とは何か』岩波書店、2003年
 - ・ガッサン・ハージ（保莉・塩原訳）『ホワイトネイション』平凡社、2003年。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 有 末 賢**授業科目の内容：**

社会学の基礎的な概念、見方、分析方法などをまず習得してもらうために、文献を指定して毎週輪読することから始める。秋学期以降は、三田祭での研究発表も含めて、自主的な活動を尊重したいが、本ゼミにおいては、都市社会学を中心とした研究への導入を行いたいと考えている。

テキスト：

今年度については

- ・溝上慎一『現代大学生論』NHKブックス、2004年
 - ・宮台真司・鈴木弘輝編著『21世紀の現実（リアリティ）』ミネルヴァ書房、2004年
- などを使用する予定である。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

メディアと政治社会について考える

教授 大 石 裕

授業科目の内容：

春学期は、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、政治社会

政治

学に関する文献や論文を読み、それについて討議する。

秋学期は、それに卒業論文発表が加わる。

その他、合宿、4年生のゼミ、サブゼミへの参加を通して研究を進めていく。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

助教授 澤井 敦

授業科目の内容：

社会理論を基盤としながら、現代社会のさまざまな動向について考察することを目的とする。社会理論および社会学の基礎知識の習得とその応用を目的とする「共同研究」と、各自の卒業論文の作成に向けての「個別研究」を並行させて、授業をすすめていく。

テキスト：

初回授業時に決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

教授 笠原英彦

授業科目の内容：

基礎的文献を輪読し討論する。

引き続き共同研究を行う。

テキスト：

初回の授業で文献リストを配布する。

参考書：

授業時に適宜指定する。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

日本政治思想史・運動史 教授 寺崎 修

授業科目の内容：

春学期は、思想史の方法、資料収集の方法などを学びながら共同研究に従事する。三田祭後は各自、卒業論文のテーマ設定など、論文作成の準備をはじめる。

参考書：

適宜指示する

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 共同研究の分担決定
3. 資料収集
4. 資料分析
5. 論文作成 (三田祭発表)
6. 卒業論文のテーマ決定

履修者へのコメント：

歴史好きな学生を歓迎する

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・論文

質問・相談：

随時

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

近代日本政治研究 教授 玉井 清

授業科目の内容：

近代日本政治に関する基礎的研究書を読み解くとともに、資料収集から分析の方法を学びながら、各自卒論のテーマを設定することを目指す。

研究会 (3年)(秋学期)

教授 増山 幹高

授業科目の内容：

この研究会では、政治における「制度と行動の相互性」を実証的に

解明していく方法を検討します。具体的には、政治学の文献を輪読するとともに、履修者それぞれが自らの問題意識から実証的な分析を実践してもらいます。

テキスト：

授業で随時案内します。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

中東地域研究のセミナー 教授 富田 広士

授業科目の内容：

(1) 文献 (日本語および英語) の内容報告, (2) 3 学年度末に提出する論文の作成を中心に進める。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交, 東アジア研究 教授 国分 良成

授業科目の内容：

春学期は基本篇として文献を毎週読み, 秋学期は応用篇としてグループ研究を行う。

テキスト：

順次指定する。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

ロシアの政治と外交 教授 横手 慎二

授業科目の内容：

ロシアを題材にして、ゼミナール形式で、現代の政治と外交を研究する。研究題目は参加者の問題関心によって決める。最近の例で言うと、スターリンについての集団的記憶の問題、ロシアの刑法改正問題、年金問題、農業問題、チェチェン問題、犯罪の問題、カスピ海の資源問題、中ロ両国の経済改革の比較、ロシアの安全保障政策、ユーゴスラヴィアの政治体制などである。こうした問題について、これまでなされてきた研究を読み、解釈やアプローチの違いを知ることが最初の課題である。各人の発表とそれをめぐる自由な議論を通じて、プレゼンテーションや意見交換 (討議) の仕方を身につけることを目指す。

テキスト：

特別に利用しない。ただし夏休みの合宿では、必ず英語の本を読むことにしている。また、日頃、英語と日本語の新聞や雑誌を比較しながら読むことを求めている。ロシア語の読める人がいれば、ロシア語の新聞も読んで同様の報告を求める。ただしロシア語は必須ではない。現在では、インターネットの英語版を使うことのでかなりの事実を追いかけることが可能だからである。

参考書：

3年生の春学期は、基本的な本を読むことにしている。これまでアリソン『決定の本質』、ブレジンスキー『地政学で世界を読む』、船橋洋一編『同盟の比較研究』など、また各種の日本語のロシア論を取り上げた。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

教授 井上 一明

授業科目の内容：

春学期は、政治体制および開発に関する基本的な英語文献を輪読する。

秋学期は、各自の卒業論文のテーマに関連した英語文献のプレゼンテーションをおこなう。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

教授 高橋 伸夫

授業科目の内容：

主として中国政治史の分野で研究を行うための基礎体力の養成を目的とする。古典的な中国社会論および比較政治学の観点から書かれた中国研究の文献のリーディング、およびそれに基づく討論が中心となる。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

助教授 出岡 直也

授業科目の内容：

ラテン・アメリカ諸国の政治を重要な文献（主に英語）の講読と参加者の研究報告などによって学びます。参加者は、4年次の卒業論文の執筆まで、様々な義務を負うこととなります。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期) 教授 小此木 政夫**授業科目の内容：**

春学期には、専門的な知識を吸収し、国際政治的な志向やセンスを磨くために、必要と思われる文献を精力的に読破する。履修者は多くのアサインメントに耐えなければならない。その後、夏季休業までに三田祭の発表テーマを決定し、共同研究に着手する。各自が分担し、共同論文を執筆しなければならない。意欲のある会員のみが参加を許される。詳しくは、研究会ホームページを参照すること。

<http://www.clb.law.mita.keio.ac.jp/okonogi/>

テキスト：

開講時に紹介する。

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

EUの政治

ジャン=モネ チェア 教授 田中 俊郎

授業科目の内容：

ヨーロッパ連合（EU）に関する英文の文献を読みながら、卒業論文の準備をする。

テキスト：

- ・ Michelle CINI, European Union Politics, Oxford University Press, 2003
- ・ Fraser Cameron ed., The Future of Europe, Routledge, 2004

参考書：

田中俊郎『EUの政治』岩波書店、1998年など

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容：

国際政治と日本外交の関連に着目し、戦後史を概観するとともに様々な分析枠組みを検討する。特殊（個別的事象）と普遍（一般的意義付け）の間を柔軟に往復する知性と、具体的出来事の連なりを構造的に把握する能力を養う。

テキスト：

適宜指定する。

研究会 (3年)(春学期)

現代国際政治・安全保障研究

教授 赤木 完爾

授業科目の内容：

現代国際政治ならびに安全保障問題の重要な論点を理解するために、基本文献を輪読し、議論し、各自の研究発表などを行う。

テキスト：

研究会において使用する文献リストは、開講後配付する。

授業の計画：

シラバスは、第1回目の研究会で提示する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

20世紀の国際政治史

教授 田所 昌幸

授業科目の内容：

20世紀の国際政治史および国際政治学の古典的な著作のいくつかを輪読しながら、国際政治学への包括的な序説としたい。

テキスト：

随時指定

研究会 (3年)(春学期)(秋学期)

教授 山本 信人

授業科目の内容：

東南アジア地域研究に関する各自の興味を発掘し、理解を深める取り組みをおこなう。基本文献の読破、毎週のペーパー作成、ゼミでの議論、そして各自の研究発表が研究活動の軸になる。

〔研究会 (4年)〕**研究会 (4年)(春学期)(秋学期)**

教授 蔭山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

研究会 (4年)(春学期)(秋学期)

政治哲学、(現代)政治思想、政治学、平和学分野での卒論作成に向けて

教授 萩原 能久

授業科目の内容：

3年生、院生と合同の「本ゼミ」に参加することとは別に、4年生のみで、各人が自由に選んだテーマでの卒論の中間発表を行っていきます。

テキスト：

用いません。

参考書：

ゼミの中で随時紹介していきます。

研究会 (4年)(春学期)(秋学期)

助教授 田上 雅徳

授業科目の内容：

卒業論文の作成を中心に進めます。

研究会 (4年)(春学期)(秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法

教授 大沢 秀介

授業科目の内容：

各自が選択したテーマにしたがって、卒業論文作成にあたる。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

教授 小林 良 彰

授業科目の内容：

現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、現代の政治過程の分析を行う。研究成果は、最終的に各自の卒業論文として提出する。

テキスト：

統一したものは使用しない。

参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

「独立自尊の行政学」の視点から各自の卒論作成指導

教授 大山 耕 輔

授業科目の内容：

「独立自尊の行政学」の視点から、各自の卒論作成を指導します。問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連の段階に応じて中間報告を求め、コメントします。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

行政学の標準的テキストや福澤先生の著作等。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

教授 麻生 良 文

授業科目の内容：

卒業論文について報告してもらいます。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

現代政治理論の研究

教授 河野 武 司

授業科目の内容：

政治的無関心が蔓延する中、危機に立つ代議制民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

なお、3年生は基本的な文献を輪読し、4年生は卒業論文の作成を行います。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に、適宜紹介します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

社会学理論の考察

教授 霜野 寿 亮

授業科目の内容：

各自の卒論作成に関して個別の指導を行う。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会(4年)(春学期)(秋学期)脱工業化・グローバリゼーション時代の世界
・日本・豪州の文化・社会変動

教授 関根 政 美

授業科目の内容：

3年生の間に「お勉強」から「研究活動」への気持ちの転換を終わった諸君である関根研究会4年生の活動は、基本的には卒業論文作

成のための研究活動を中心とする。3年春合宿で報告した1万字レポートの内容を土台に研究活動を継続する。と同時に、4年生は春学期中の研究会、本ゼミセッションでは3年生の研究指導を行う。ただし、春合宿以降に卒論テーマ変更をした場合は、その旨研究会指導教授に直ちに報告すること。報告に関してパワーポイントなどの使用を推奨するが、その場合でも報告書3~4千字は提出する。

テキスト：

3年との合同で行う研究会「本ゼミ」セッションでは、3年生が使用するテキスト・論文を利用する。なお、諸君より読みたい著書なり論文があれば申し出ること。

参考書：

各自が、図書館等で卒論作成に必要な参考文献を探して読んでおくこと。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 有末 賢**授業科目の内容：**

卒業論文の指導を行う。春学期には、各自の論文のテーマを確定し、文献・資料を読み、調査も行う。夏合宿以後は、中間報告をし、場合によっては個別指導も取り入れる。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 大石 裕**授業科目の内容：**

各人の卒業論文の発表を中心に授業を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

助教授 澤井 敦

授業科目の内容：

各自の卒業論文の作成に向けて、報告・討議、また個別相談をおこなう。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

卒業論文のテーマに応じて、各自に紹介する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

日本政治史および日本行政史

教授 笠原 英 彦

授業科目の内容：

卒業論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

日本政治思想史・運動史

教授 寺崎 修

授業科目の内容：

各自の研究テーマについて、順次報告をもとめ、討議を行う。

参考書：

適宜指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

近代日本政治研究

教授 玉井 清

授業科目の内容：

卒論完成に向け、各自のテーマに従い発表を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

中東地域研究のセミナー 教授 富田 広 士

授業科目の内容：

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告, (2) 卒論の作成を中心に進める。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交, 東アジア研究 教授 国分 良成

授業科目の内容：

卒業論文の中間報告を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

ロシアの政治と外交 教授 横手 慎二

授業科目の内容：

卒業論文の作成を目指して, ゼミナール形式で授業を進める。プレゼンテーションやそれをめぐる議論での貢献度が重視される。論文は基本的に, 4万字程度, 脚注の付いたアカデミックなものとするを求めている。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 井上 一 明**授業科目の内容：**

卒業論文の作成。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 高橋 伸 夫**授業科目の内容：**

参加者の研究報告とそれに基づく討論を通じて, 卒業論文の完成をめざす。

研究会(4年) 教授 小此木 政 夫**授業科目の内容：**

前年度に蓄積した知識と磨かれたセンスを生かして, 卒業論文テーマを作成する。テーマを設定し, 情報を自分なりに体系化し, 説得力のある論文を完成しなければならない。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

EUの政治 ジャン=モネ チェア 教授 田中 俊 郎

授業科目の内容：

卒業論文を作成する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 添谷 芳 秀**授業科目の内容：**

卒業論文の研究および作成に関する指導

研究会(4年)(春学期)

卒業論文指導 教授 赤木 完 爾

授業科目の内容：

卒業論文の完成に向けてゼミ生各自の卒業論文にかかわる研究報告とそれに対する指導を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

地域紛争と国際社会 教授 田所 昌 幸

授業科目の内容：

現代の国際関係におけるいくつかの地域紛争とそれにたいする国際社会の対応を見ることで, 国際政治の現代的な課題を明らかにすることをめざしたい。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 山本 信 人**授業科目の内容：**

卒業論文の報告と指導を中心に進める。

〔社会科学科目〕

〔選択 法学系列〕

民法Ⅲ

家族法

教授 犬伏由子

授業科目の内容：

家族法と呼ばれている分野（民法―親族・相続編）を対象とします。現代において、家族に関する意識、行動、価値観が大きく変化したと言われてはいますが、講義では、現代家族のあり方を踏えて、家族法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト：

- ・遠藤浩編「民法(8) 親族（第4版増補補訂版）」有斐閣
- ・遠藤浩編「民法(9) 相続（第4版増補版）」有斐閣

参考書：

久貴忠彦他編「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

商法Ⅰ

講師 杉田貴洋

授業科目の内容：

商法分野のうち、会社法の基本事項と考え方を理解することを目的とする。

会社には、合名会社・合資会社・株式会社・有限会社の四種がある（近く予定される会社法現代化立法では、この会社の種類も含め見直しが検討されている）。この、会社の種類を定め、あるいは会社に関わる人々の利益を調整する法が会社法である。形式的には商法第二編および有限会社法に規定がある。会社に関わる人々とは、会社の出資者＝会社構成員（社員・株主）や会社の債権者（金融機関、取引先、従業員、社債権者など）である。会社は法人とされるので、会社自体が社会において独立して活動していくが、これは具体的には権限の与えられた機関の行為によって行われる。株式会社を例にとれば、代表取締役・取締役会・監査役・株主総会などがある。このように会社の存在・活動を基礎付け、会社をめぐる紛争に備えるのが会社法である。

会社法の知識は現代の経済社会を読み解くには不可欠なものといえる。学生諸君には、本講義をよすがとして、企業や経済といった分野にも関心の幅を広げていただけるようであれば幸いである。

テキスト：

山本為三郎「会社法の考え方」(第4版) (八千代出版, 2003年)

参考書：

宮島司「会社法概説」(第三版補正二版) (弘文堂, 2004年)

商法Ⅱ

手形・小切手法

教授 島原宏明

授業科目の内容：

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト：

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版 (¥2,500)

参考書：

開講時に指示する。

労働法

企業と労働者(いわゆるサラリーマン)をめぐる法的問題を分析する

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義（第十一章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストは使用せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣 2002)

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第5版)』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・安枝英諄『労働法(第8版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2004)

良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

経済法(春学期集中)

独占禁止法

産業研究所 助教授 石岡克俊

授業科目の内容：

本講義では、実定経済法の中核をなし、経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲(独占禁止法の性格を明らかにする範囲)で、経済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず、国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和22年(1947年)に制定され、現代にいたるまで既に50年余が経過している。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに応じて変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。

テキスト：

- ・教科書は特に指定しない。ただし、近時、経済法ないし独占禁止法のテキストが数多く刊行されているので、講義初回に現在入手(ないし参照)可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行う。

・講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

参考書：

参考書も特に指定しない。前項と同様、経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは、講義初回にまとめて案内する。

犯罪学

犯罪とは何か～犯罪・非行に対する実態的考察とその理論化
講師 守山 正

授業科目の内容：

こんにち、犯罪学の学問対象は拡大化しつつあり、とくに欧米では、犯罪・犯罪者の問題にとどまらず、被害者、地域社会のあり方、さらには、その法的対応にまで言及して、総合科学の域にある。しかし、他の関連科目との関係から、本講義では、できる限り事実的視点に依拠して、犯罪・非行という「なまの事実」を種々の角度から考察し、犯罪・非行の人的、社会的、文化的意味を考究する。さらに、その理解のために考案された各種理論の歴史、内容、展望等を行い、現代社会において犯罪・非行現象に適合する理論を検討する。また、個別犯罪現象も扱い、それぞれの問題性に迫る。講義では、内容は基本的にはプロジェクター画面に表示し、必要であれば、ビデオ・DVD等を教材として活用する。

テキスト：

守山著『新・犯罪学講義ノート』（成文堂、2005年4月刊行予定）

〔選択必修 経済学・商学系列〕

経済政策

政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。景気政策、規制緩和、社会保障政策、環境政策など、経済政策課題を取り入れる。その意味で、この講義は、経済理論と現実への架け橋を理解することをねらっている。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

財政論（秋学期集中）

講師 牛丸 聡

授業科目の内容：

財政学は政府の収入と支出に関する学問です。財政学に関する基本的な知識を提供するとともに、わが国の財政制度の仕組みと財政の現状と問題点を理解できるように講義します。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

その都度紹介します。

国際経済論

経済学部 教授 竹森 俊 平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、とくに金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・ Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press.
- ・ 拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・ 拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際経済論

経済学部 教授 若杉 隆 平

授業科目の内容：

本授業は、国際貿易（直接投資を含む）に関して、以下に示す内容をカバーする標準的な講義シリーズである。この分野での勉学を深めたい学生諸君にとっての入門コースを目的とする。

1. Ricardo の貿易理論

生産技術の差異が国際貿易の理由となることに注目したりカードによる貿易理論をもとにして、比較優位と生産技術の関係、交易条件と貿易均衡について紹介する。

2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論

生産要素の賦存状況の差異が国際貿易の理由となることに注目したヘクシャー＝オリーンの貿易理論をもとにして、要素集約度と比較優位、貿易均衡、要素賦存量の変化と貿易均衡（リプチンスキー定理）、財価格の変化と要素価格の関係（ストールパー＝サミュエルソン定理）などを取り上げる。

3. 貿易均衡

自由貿易における生産、消費者利益、交易条件の変化と貿易利益、経済成長・イノベーションと貿易利益、貿易均衡の安定性・不安定性など、貿易均衡に関する主要な概念を紹介する。

4. 特殊要素モデル

財と生産要素が特殊な関係を有する場合の貿易モデルを取り上げ、財価格の変化、特殊な生産要素量の変化、共通的な要素量の変化が貿易均衡に与える効果について紹介する。

5. 完全競争市場の下での貿易政策

競争市場のもとでの政府の通商政策がもたらす諸効果を紹介する。具体的には、輸入関税、輸入数量制限、輸出税、貿易に関する補助金、最適関税の理論を取り上げる。

6. 不完全競争市場下での貿易政策

規模経済性や製品差別化のもとで生ずる貿易を対象として、産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易政策、戦略的貿易政策、産業保護政策に関して紹介する。

7. 直接投資・技術移転

直接投資や多国籍企業の活動は貿易と密接に関連する。直接投資と貿易均衡、技術の移転、発展途上国への経済協力・技術移転と経済成長について取り上げる。

8. 国際貿易の政治経済学

自由貿易の基礎を形成する WTO の諸ルールおよび近年増加しつつある地域経済統合を取り上げ、理論的観点からの議論とともに政治経済学的観点からの議論を行う。

9. 国際収支と為替レート

対外バランスと国際収支統計、国民所得統計と国際収支統計の関連を取り上げ、経済統計を基礎にした貿易の実態を紹介する。ま

政治

た、為替レートを決定する諸理論について講義する。

テキスト：

若杉隆平『国際経済学（第2版）』岩波書店，2001年

参考書：

伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店，1985年

国際経済論 商学部 教授 唐木 園 和

授業科目の内容：

21世紀を迎え、EUにおける単一通貨制度の発足、WTOの発展、社会主義諸国の変容、東アジア諸国の停滞と再生、資本・労働・情報の国際間移動の活発化、情報革命の進展など、世界経済は、今、大きな転換期にある。これらの諸現象は、イギリス産業革命にはじまる産業化の波が、しだいに各地域に波及したことと関連づけて考えることができる。現代に至る各時期に、世界経済の課題は何であり、それを当時の優れた思想家や理論家は、どのように捉えたのだろうか。また経済現象を説明するために、どのような理論があるのだろうか。現代の諸問題を知る手がかりを得るためにそれを考慮しつつ、現代世界経済の諸問題について論ずる。

参考書：

唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人編著「現代アジアの統治と共生」（慶應義塾大学出版会，2002年）

国際経済論 商学部 教授 和気 洋子

授業科目の内容：

国際化の進んだ今日では、経済活動のネットワークは広く世界のすみずみにまで張りめぐらされている。実際、もろもろの経済資源が比較的自由に、しかも迅速に、国境を越えて移動する時代となった。そして、これほどに国際間の相互依存が高まると、どの国の経済、政策、ビジネスも、世界の他の諸国との取り引き関係抜きに語ることはできない。

さまざまな財・サービスなどのアウトプット（産出物）が国境を越えて取り引きされているだけではない。株式、国債・社債などの金融資産の国際売買取り引きや、資金の対外借入あるいは対外貸付の国際金融取り引きや、企業そのものの海外進出が盛んに行われている。それが今日の国際経済取り引きの実態である。先進国はもとよりのこと、遅れて近代的経済発展のスタートをした途上国にとって、国際経済取り引きはとりわけ重要であったし、その重要性は将来も高まりこそすれ低下することはないであろう。

本講では、各国経済のそうした国際化現象をふまえ、日本を取り巻く国際経済問題の体系的理解と、世界経済が当面する重要な政策課題について、国際経済学の分析視点を提供することに基本目標を置きたい。

テキスト：

石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー著『入門・国際経済学』有斐閣，1999年。

参考書：

必要に応じて講義中に紹介する。

国際経済論（春学期集中） 講師 松村 敦子

授業科目の内容：

国際経済取引がさまざまな形で迅速におこなわれる現代の世界においては、国際経済問題が複雑化しており、そこから生じる問題点を理論的基礎に基づいて考察し分析する能力をもつことが必要である。

本講義では、まず、実際の国際経済がどのような国際政治経済状況を反映して動いているのか、またその結果は統計データからどう読めるのかについて、さまざまな角度から解説することから始める。その後、国際経済問題のなかでも国際貿易理論に主眼をおき、その理論の解説と、理論の現実説明力に関する実証研究の流れについての説明をおこなう。貿易政策や直接投資についても、同様の分析ツールを用いてその効果について解説する。

春学期集中の講義なので午前中二コマ続きで講義するが、国際経済の世界にひたって集中力を維持してほしい。本講義の内容を理解する

ことによって、学生諸君が現実のさまざまな国際経済問題に目を向け、それをどのように分析して解明できるかについて自らで考える能力を身につけてほしい。

テキスト：

マークセン、マスカス、メルヴィン、ケンプファー著、松村敦子訳『国際貿易—理論と実証』（上）（下）、1999年、2000年

なお、講義中に統計データや、講義内容についてのプリントを配布する。

参考書：

講義中に紹介する。

〔選択 経済学・商学系列〕

計量経済学（春学期集中）

経済学部 助教授 田中 辰雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論（経済学部設置）の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎（不偏性・効率性、古典的仮定、t値、F検定など）、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。一部屋のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便が生じうるのを覚悟されたい。成績は2～3回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかっておればよい）。

経済史（春学期集中） 経済学部 教授 杉山 伸也

授業科目の内容：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、Web上で配信された講義の予習を前提とするもので、実際の授業では、特定のテーマに関する講義、グループ・ディスカッションおよびグループ・プレゼンテーション、ビデオ鑑賞を行う。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

経済史 経済学部 助教授 飯田 恭

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的多様性の根源を農村史の中に探求することを主たる目標としたい。具体的な講義内容はおよそ以下のとおりである。

I. 序論

1. 本講義の課題
2. 研究史と本講義の基礎視角
 - 2.1 発展段階の理論
 - 2.2 農業発展の「二つの道」（アメリカ型・プロシア型）ないし「ドイツの特殊な道」
 - 2.3 「ヨーロッパの特殊な道」（西欧・中欧と東欧との比較）

- II. 古代農村の概観
1. 農業の発達と母系制・父系制
 2. 古代ローマと古ゲルマン
- III. 中世・近世の農村（5～18世紀）
1. 西欧・中欧封建的農業発展
 - 1.1 封建的農業制度の構造
 - 1.1.1 領主制
 - 1.1.2 村落共同体（含：ヨーロッパ農業の自然的基礎）
 - 1.1.3 農民世帯＝「西洋家族」：夫婦中心の家族，新居制，相続・隠居制，奉公人制
 - 1.2 封建的農業制度の歴史
 - 1.2.1 中世初期における封建的農業制度の生成
 - 1.2.2 中世盛期の農業・人口発展
 - 1.2.3 中世後期の危機
 - 1.2.4 近世ヨーロッパ農業の二元性：GrundherrschaftとGutsherrschaft
 - 1.2.5 相続制度の分析：„the egalitarian and lineal extreme“と„the préciput and household extreme“
 - 1.3 封建的農業制度の特質
 - 1.3.1 農村階層分化：土地商品化以前の「階級社会」
 - 1.3.2 土地保有許否の基準：家系（世襲制）の維持か土地（経営）の維持か？
 2. 東欧（ロシア）の農業発展：西欧・中欧との対比
 - 2.1 農奴制の成立と展開
 - 2.2 ミール共同体：土地割替慣行の成立と展開
 - 2.3 農民世帯：父系制，財産共有，養子慣行など
 3. 西欧・中欧と東欧との比較
 - 3.1 「近代化」への含意
 - 3.2 「資本主義化」への含意
- IV. 近代の農村（18世紀後半以降）
1. 西欧・中欧における農民解放：農業における自由と個人主義
 - 1.1 「農民解放」の概念
 - 1.2 イギリスの場合
 - 1.3 フランスの場合
 - 1.4 ドイツの場合
 2. 東欧における農業進化：ロシア農村の共産主義化
- V. 補論：ヨーロッパと日本

テキスト：

特に定めない。

参考書：

講義で一覧表を配布するほか，可能な限り三田図書館リザーブブックのコーナーに陳列する。

金融論 経済学部 教授 吉野直行(春学期)
経済学部 教授 塩澤修平(秋学期)

授業科目の内容：

(春学期)

日本の資金循環，各経済主体の金融活動，資産価格の変動，債権市場・株式市場，為替レートの動きについて，制度・データなどを用いた計量的な観点から概術する。

(秋学期)

金融市場，金融政策，国際金融，金融派生商品について，主として理論的な観点から概術する。

テキスト：

(春学期) 使用しない

(秋学期) 塩澤『現代金融論』創文社，2002年

参考書：

(春学期) 吉野直行・高月正年「入門・金融」(有斐閣)

その他の参考文献は，講義の中で説明する。

(秋学期) 適宜指示する。

労働経済論（秋学期集中）

経済学部 教授 島田晴雄

授業科目の内容：

本講義では，労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ，現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ，深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し，日本経済の新しい可能性はどこにあるのか，また，その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか，そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

①島田晴雄『雇用を創る構造改革』日本経済新聞社

②島田晴雄『めしのタネ発見地図 ビジネスチャンスが変わった』かんき出版

③島田晴雄（共著）『日本を元気にする健康サービス産業』東洋経済新報社

④島田晴雄・吉川洋（共著）『痛みの先に何があるのか』東洋経済新報社

⑤島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房

参考書：

・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社

・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社

・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社

・島田晴雄（編著）『労働市場改革』東洋経済新報社

・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

社会保障論（春学期集中） 商学部 教授 権丈善一

授業科目の内容：

この講義の意義と目的は，最近の社会保障政策の動向を理解してもらうのみならず，君たちが大学を卒業し，社会で重責を担う年齢に達したときでも，自分自身で社会保障の政策動向を評価し，さらには政策をデザインすることができる力を身に付けてもらうことにもある。そして，講義を進める際に，特に次の2つのことを意識する。

・物事を抽象的に考える（モデルを使って考える）大切さを分かってもらうこと

・望ましい政策を導き出す考え方は，実は，数多く存在し，考え方の数だけ「望ましき」があるのを分かってもらうこと

なぜ，これら2つのことを意識した講義を行うのかを理解してもらうために，少し説明しておく。

今，君たちに，「社会保障に関する過去1ヶ月の政策動向を，10分間で分かりやすく説明せよ」という課題が与えられたとしよう。君たちの能力をもってすれば，この課題は難なくこなせるはずである。そこで次に，「過去1年の社会保障の動きを，10分間で分かりやすく説明せよ」と言われたとする。さらには，「過去5年，そして過去10年の動きを，10分間で分かりやすく説明せよ」と，質問の難易度がエスカレートしていったとしよう。この種の難問にみごとに答えるためには，物事を抽象的に考える能力，モデルを使って考える能力が必要となる。さらに時には，身近な例にたとえながら一身近な例に対する共通の理解の助けを借りて説明の時間を節約しながら一複雑な出来事を分かりやすく説明する能力が必須となる。社会保障に関する現実の政策動向の中から，枝葉末節を取り除き，重要な要因のみをもって抽象化したシナリオを作る能力がなければ，10年のできごとを10分というコンパクトな時間に要約することはできない。

それでは次の課題については，どうであろうか。「社会保障の過去における政策動向を評価するとともに，将来の望ましい社会保障と税制の在り方を提案せよ」。この課題に答えるためには，何をもって「望ましい社会保障」のあり方なのかという評価規準を，どうにかして設定する必要がある。ところが面白いことに，何をもって望ましいとするかという評価規準は，実は，ひとつではなく，世の中にはたくさん存在するのである。わたくしは，君たちに，数多くの評価規準を示し，そのなかから，君たち自身が望ましいと思う望ましき(?)を選択してもらいたいと思っている。何を言っているのか分からないかもしれないが，講義に出席していれば，不思議と理解できるようになる

政治

ので心配の必要はない、と思う。

このようなことを意識しつつ、具体的には、「社会保障のまわりで、過去 10 数年の間、いったい何が起こってきたのか、そしてこれから 10 数年にわたって、いったい何が起ころうとしているのか」を理解してもらえるように講義を進め、中長期的な視野で政策動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいたいと願っている。

また、社会保障は、ほとんど毎日、新聞の紙面ににぎわしているわりには、これらの制度は複雑で用語は特殊すぎるために、多くの人には、問題の所在をとらえきれていない。基礎編・政策編からなる、この社会保障論では、政策の動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいながらも、制度、用語の説明を可能な限り行っていきたい。

なお、この講義の特徴の一つは、講義専用のホームページから、講義のハンドアウト・関連資料をダウンロードしてもらおうとともに、ホームページを通じて社会保障・税制に関する情報を、随時、君たちに提供できるシステムを活用していることにある。1999 年より始めたこの方法のおかげで、タイムリーかつ相当の量の情報を、毎週、君たちに提供できるようになっている。

テキスト：

権丈善一 (2001) 『再分配政策の政治経済学 — 日本の社会保障と医療』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・権丈善一 (2003) 『年金改革と積極的社会保障政策 — 再分配政策の政治経済学Ⅱ』慶應義塾大学出版会
- ・二木他編『医療経済・政策学』勁草書房

経営学

商学部 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之／加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 2003 年
- ・今口忠政著『事例で学ぶ経営学』白桃書房 2004 年

会計学

商学部 教授 黒川 行 治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題、会計認識および測定に関する基本的論理、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・武田隆二「会計学一般教程〔第六版〕」(中央経済社)
- ・黒川行治「連結会計」(新世社)

参考書：

黒川行治「合併会計選択論」(中央経済社)

法律学科 設置 共通科目 政治学科

(外国語科目, 人文科学科目, 自然科学科目,
数学・統計・情報処理科目)

(外国語科目)

英語第Ⅴ(春)(秋)

教授 太田 昭子

授業科目の内容：

[春学期] Academic Writing：ほぼ毎回アサインメントを提出していただきます。いわゆるスタンダードな five-paragraph essay の書き方を、段階的に学びます。英文の要約練習から始め、読んだ英文に対するコメント、時事問題などに関するコメント、更にエッセー作成へと発展させていく予定です。

[秋学期]

学期前半：Essay writing を oral level で発展させ、いくつかのテーマについて Debate を行います。(希望者が多ければ、Discussion 或いは Speech など加えます。)

学期後半：各自がテーマを選び、長めの英文レポートを作成していただく予定です。

テキスト：

特定の教科書は使用しません。随時プリントを配布します。

参考書：

英英辞書を必ず持ってきてください。

英語第Ⅴ(春)(秋)

教授 レイサイド, ジェイムス M.

授業科目の内容：

This class will make use of BBC television broadcasts as its main educational resource. The principle aim will be to improve students' speaking and comprehension skills. The operation of the class may vary according to the numbers, but work will include.

- ・ Intensive listening to extracts from BBC television broadcasts.
- ・ Short presentations on topics of general interest and current affairs suggested by the broadcasts.
- ・ Discussions on the above topics.

テキスト：

photocopied materials from BBC website etc.

英語第Ⅴ(春)(秋)

Political Debate: Dilemmas in European Politics

教授 マクリン, ニール B.

授業科目の内容：

This is an advanced class aimed to promote skill and self-confidence in formal discussion. The purpose is to teach the techniques of exposition, argument, persuasion and debate. At the same time, the class is intended to provide students with an opportunity to investigate in detail some issues which are important for their study of political science (and, to a lesser extent, law). The first semester will therefore be devoted to an exploration of some of the questions that European decision-makers have faced and continue to face, especially as these relate to the formation and evolution of the EU. We shall deal both with wide topics like the idea of 'Europe,' the nature of European identity, and the history of the idea of a unified European political organization, and also with more concrete questions, past and present (such as the questions concerning the creation of a European constitution, the imposition of a single currency, and the admission of Turkey and the former Soviet

republics). Our classes will run in parallel with courses on similar topics organized by Nathalie Henry (in French) and Michael Schart (German); some joint meetings will be organized with students of these classes, so we can compare our different perspectives.

In the second semester we shall use the same debate-based approach to study the politics of another region of the world: perhaps India.

英語第Ⅴ(春)(秋)

アカデミックライティング

教授 井上 逸兵

授業科目の内容：

アカデミックライティングについて学び、実際にエッセイ等を書くことでその技術を実践してみる。いわゆる英作文の授業ではない。

この授業は以下の3つを柱としてすすめる。

- (1) テキストにそってアカデミックライティングのエッセンスを学ぶ。
- (2) テキストの練習問題を中心に、アカデミックライティングの諸技法を実践してみる。
- (3) 受講者それぞれの専門や関心にあわせてエッセイを書く。

しばしば課題を与えるが、提出物はすべて電子メールによることとするので、これを使う技術、および環境があることを受講の条件とする。

テキスト：

Alice Oshima & Ann Hogue, *Writing Academic English* (Third Edition). Longman.

参考書：

授業中に指示する。

英語第Ⅴ(a)(春)(秋)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容：

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト：

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第Ⅴ(b)(春)(秋)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容：

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト：

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第Ⅴ(a)(春)(秋)

会社で使う英語：コミュニケーション編

講師 日向 清人

授業科目の内容：

講師が担当した NHK ラジオ「ビジネス英会話」(2004 年前期) を拡充したコースです。ライティングを含め、「これさえ知っていれば

共通

なんとかなる」レベルのビジネス英語が身につきます。英語で言う the nuts and bolts of business English がどういうものであるかを知り、身につけることができるようになっていきます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

日向清人著「会社で使う英語スキルアップゼミ」（桐原書店）

英語第Ⅴ (b) (春) (秋)

会社で使う英語：ポキャブラリー編

講師 日向清人

授業科目の内容：

英語でどんどん発信していくことが求められる時代です。こうしたなか契約を英語では **agreement/contract** と言うのだという程度の英語力では受信一方の狭い世界から脱することができません。締結する、更新する、解除するといった言い方に対応する英語がぱっと出てくるぐらいになって初めてツールとしての英語が身についていると言えるのです。そこで「この単語・言回しは普通どのように使われるのか」という問題意識に立って、基本的なビジネス英単語の意味を理解し、使い方を会得しようというのが、このコースです。こまめにテストをしていきますので、まじめに出席すれば企業情報や経済記事を読める程度の語彙力は身につきますし、反覆継続して暗記するところまで行けば、実務に耐える英語力を一気に身につけることができます。春は企業関連の単語や言回しを約 200 例、秋は経済関連の単語や言回しを約 200 例とりあげます。

テキスト：

日向清人著「ビジネス英語スーパー・ハンドブック」（アルク）

参考書：

日向清人著「ビジネス英語スーパー辞典」（アルク）

ドイツ語第Ⅴ (春) (秋)

人気作家のベルリンの日々

講師 板倉 歌

授業科目の内容：

今年ドイツ統一 15 周年にあたりますが、統一直前にモスクワから（旧東）ベルリンに移住してきて、現在ではドイツで最も人気のある若手作家の一人となった Wladimir Kaminer の短編集 „Russendisko“ (München, 2000) をとりあげます。多文化的なドイツの首都ベルリンの一断面を探ってみたいと思います。

テキスト：

授業初回に指示します。

ドイツ語第Ⅴ (春) (秋)

時事ドイツ語と „Und wie ist das in Japan?“

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

今のドイツで何が話題になっているのか。インターネット・新聞・雑誌の短い記事を活用して、最新のドイツの情報を紹介していきます。テーマは政治、経済、大学・学生・市民生活、環境などで、参加者の興味と希望に応じていくつかピックアップします。授業の狙いの第一は時事ドイツ語のテキストの講読になれることです。複雑な文法構造が含まれている上に、多くの時事ドイツ語の単語が辞書に載っておらず、今までのドイツ語の知識と想像力が試されます。第二はテキストについての自分の立場、意見を述べる練習をします。それに必要な表現は授業中に練習します。簡単なディスカッションを試みます。ドイツ人と知り合うと必ず Und wie ist das in Japan? 「日本ではどうですか」と聞かれます。その質問に備え、取り扱ったテーマについて、テキストで習った表現を活かして、日本の事情を説明する練習をします。

ドイツ語インテンシブ (上級) (春) (秋)

助教授 三瓶 慎一

訪問助教授 (招聘) シャールト, ミヒャエール

授業科目の内容：

受講希望者は 4 月 4 日 (月) の採用テストを必ず受験すること。

シャールトと三瓶が共同して進める授業である。総合的なドイツ語能力を伸ばし、最終的には、文法的により正確な表現、文体的により適切な表現を使えるようになること、そして内容のある議論を交わせるようになることが目標である。ドイツ語により日本事情を紹介できる視座と能力を育てたい。

春学期は主として日本事情をドイツ語圏で紹介するという立場を扱い、秋学期はドイツ語圏事情を理解するという立場をとる。

以下に挙げるのはいずれも春学期の授業内容である。秋学期については、春学期中に受講者と協議して決める。

教材は教室で頒布する。なお、無断欠席、無断遅刻が多い場合は学期半ばでも履修を取り消すことがあるので予め承知されたい。

4 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日) には三浦海岸でオリエンテーション合宿が行われる。特にドイツ語圏での語学研修、インターンシップ、留学、就職等を考えている人は必ず参加すること。

月 1・月 2 (シャールト)

Im Zentrum der Veranstaltung, die gemeinsam von Scharit und Sambe gehalten wird, steht das Buch „Japan außer Kontrolle“ von Florian Coulmas. Die Teilnehmenden lesen diesen Text, analysieren deren Struktur (Argumentationslinien, Argumentationselemente, etc.), fassen den Inhalt zusammen und setzen sich schließlich kritisch mit den Äußerungen des Autors auseinander.

Es ist das Ziel des Seminars, am Beispiel eines deutschsprachigen Textes eine ungewohnte Sicht auf die japanische Gesellschaft nachzuvollziehen. Vermittelt durch die Perspektive und Schwerpunktsetzung des Autors rückt dabei zugleich die fremde Lebenswelt ins Blickfeld. Die Studierenden sollen daher in der Auseinandersetzung mit dem Text ihre Fähigkeit schulen, zunächst Spannungsfelder zwischen Fremd- und Selbstwahrnehmung zu erkennen und zu beschreiben und daran anschließend einen eigenen Standpunkt zu finden und diesen auch argumentativ zu verteidigen.

Die Studierenden werden zu den Themen des Buches eigene Texte verfassen, die dann gemeinsam analysiert und diskutiert werden. Es wird deshalb vorausgesetzt, dass sie aktiv, regelmäßig und eigenverantwortlich mitarbeiten.

水 1 (シャールト)

Ziele

Die Studierenden erhalten in diesem Kurs die Möglichkeit, Fragestellungen aus verschiedenen Politikfeldern fachspezifisch zu erörtern. Vor dem Hintergrund ihres jeweiligen Studienfaches erschließen sie sich ausgewählte aktuelle gesellschaftspolitische Probleme in den deutschsprachigen Ländern. Sie beleuchten die Themen aus verschiedenen Perspektiven und diskutieren sie gemeinsam. Der Unterricht zielt in diesem Sinne darauf, das Denken in historischen und gesellschaftlichen Zusammenhängen zu fördern.

Zudem sollen die Studierenden ihre Fähigkeit, Informationen aus verschiedenen Quellen zielgerichtet zu erfassen, zu vergleichen und kritisch zu beurteilen, weiter entwickeln. Sie sollen es lernen, in der Fremdsprache ihren eigenen Standpunkt zu formulieren, diesen anschaulich zu präsentieren und in Diskussionen zu vertreten. Der Unterricht soll schließlich auch die Fähigkeit der Studierenden fördern, Arbeitsprozesse selbständig zu organisieren, zu koordinieren und zu reflektieren.

Themen & Materialien

Die Grundlage des Seminars bilden unterschiedliche Originaltexte (vor allem Zeitungsartikel, Auszüge aus der Fachliteratur, Reportagen, Statistiken etc.), die den ausgewogenen Gebrauch aller Sprachfertigkeiten erfordern bzw. ermöglichen. Das Kursprogramm versteht sich als ein Angebot, das erst durch die persönlichen

Interessen der Teilnehmenden seine endgültige Gestalt gewinnt. Deren aktive und eigenverantwortliche Mitarbeit bei der Ausdifferenzierung der Themen und der Auswahl der Texte wird vorausgesetzt.

Thema:

„Die europäische Idee – die europäische Realität“

Im Zentrum der Veranstaltung stehen die Chancen und Schwierigkeiten, die den Vereinigungsprozess der europäischen Staaten begleiten. Sie widmet sich Fragen wie den folgenden:

- Worauf beruht die europäische Identität?
- Welche Veränderungen ergeben sich aus der Osterweiterung der EU?
- Welche Prinzipien liegen der künftigen gemeinsamen Verfassung der EU-Staaten zugrunde?
- Wo liegen die Schwierigkeiten einer gemeinsamen Außen- und Innenpolitik der EU-Mitgliedsstaaten.
- Wie verhält sich die EU zum Antrag der Türkei auf Mitgliedschaft?

Mit diesen Fragen beschäftigen sich die Teilnehmenden aus der Sicht der Bundesrepublik Deutschland. Zum Programm gehören aber auch gemeinsame Arbeitsphasen mit den Teilnehmenden der beiden Parallelkurse zur gleichen Themenstellung, die von Nathalie Henry und Neill McLynn angeboten werden. In diesen gemeinsamen Veranstaltungen soll die deutsche Perspektive mit den Perspektiven anderer Staaten der EU (vor allem Frankreich, Großbritannien, Irland) verglichen werden.

Außerdem ist für Ende September 2005 ein gemeinsames Intensivseminar zu diesem Thema mit Studierenden der Universität Erfurt geplant.

Über die Themen im Herbstsemester entscheiden die Kursteilnehmenden gemeinsam. Mögliche Fragestellungen:

- Die Globalisierung und ihre Folgen für die Gesellschaften in Deutschland und Japan
- 15 Jahre deutsche Einheit – Erfolgsgeschichte oder Trauerspiel?
- Nach PISA – die Bildung als ein zentrales Thema der politischen Debatte in Deutschland

木 1 (三瓶)

Florian Coulmas: „Japan außer Kontrolle“ を速読する。約 150 ページの本であるが、春学期で読了する。シャルトの授業とタイアップし、議論のための材料提供をする。1 回 5 ページ程度から始めてだんだん進度を上げ、最終的には 1 回 20 ページ程度を読めるようにする。キーワードやトピックセンテンスを探すなどして段落構成を見抜くこと、読解に必要な文法的知識を深めること、部分を取り上げて商品価値のある翻訳を作ること、日本事情紹介の語彙や表現をストックすることが目標である。

テキスト:

Florian Coulmas: „Japan außer Kontrolle“ (教室で頒布)

参考書:

適宜紹介する。

ドイツ語速習 (初級) (春)

教授 岩下 真好

授業科目の内容:

火 4・5 (春)

内容的にも、また時間割上も連続した週 2 回の授業によって、春学期だけで、いちおうドイツ語の基礎文法をすべて学びます (すなわち発音から接続法まで)。初めてドイツ語を学ぶ人でも、秋学期には「ドイツ語速習 (中級)」に進んで簡単な文章の読解やドイツ語によるコミュニケーションの基礎固めができるようになることが目標です。

テキスト:

岩崎・平尾: 初歩ドイツ文法 (同学社)

ドイツ語速習 (中級) (秋)

初級から中級へステップアップをはかる

教授 坂口 尚史

授業科目の内容:

火 4・5 (秋)

初級ドイツ語を終えた人が、中級に入っていきやすいように、基礎固めをしつつ楽しく学んでいける教材を選びました。スポーツ、政治、文化、社会、経済の話題を二つずつ読み、文法の復習をします。テキストは三田生協で購入のこと。

テキスト:

「時事ドイツ語 <'04 年トピックス」 アンドレア・ラープ、石井寿子編著 朝日出版社 1900 円

ドイツ語速習 (初級) (春) (秋)

講師 ヌルヌス, トルステン

授業科目の内容:

水 2 (春) (秋)

ドイツ語を全くはじめて学ぶ受講者を対象とします。テキストには特定の本を使用せずコピーを配ります。会話体の文を中心にドイツ文法の理解と、Dialog が聴き取れるように訓練します。

テキスト:

コピーを使用

ドイツ語速習 (中級) (春) (秋)

講師 ヌルヌス, トルステン

授業科目の内容:

水 1 (春) (秋)

会話を中心とした文を聴いたり、読んだりしながら、 Hörverständnis (聴解) と Leseverständnis (読解) の練習をしていきます。テキストは特定の本を使用せずコピーを配ります。

課題として、短い文を自分で綴る練習を何回か実施します。

テキスト:

コピーを使用

フランス語第 V (春) (秋)

専任講師 大出 敦

授業科目の内容:

フランス語で書かれた文献の講読をします。テキストは『帝国以降』で知られるエマニュエル・トッドの『ヨーロッパの発明』です。長い歴史を持つヨーロッパが、どのようにして成り立ってきたのかを人文科学と社会科学の二つの領域にまたがって考察した本です。まとまった分量の文献を読むことで、フランス語の語彙や表現力になれ、また統辞法の正確な把握を目指します。一方、フランス的な物の見方やヨーロッパに関する知識を深めてもらいます。

テキスト:

Emmanuel Todd: *L'Invention de l'Europe*, Seuil, 1990.

なおテキストはコピーで配布します。

フランス語第 V (春) (秋)

講師 ヴァリエヌ, コリンヌ (春)

講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ (秋)

授業科目の内容:

この授業の目的は聴取力と表現力を培うことである。教材としては、最近テレビで録画された番組 (ニュース、映画等) のビデオを使用する予定である。

テキスト:

なし。プリントを配ります。

フランス語第Ⅴ (春) (秋)

講師 シュドル フローレンス 容子

授業科目の内容:

今までフランス語の基礎を学んだ人を対象に、フランス語基礎会話の能力をたかめることが本講義の目標です。教材として、新聞、雑誌記事、写真、映画等の抜粋を使用しながら解説をします。

テキスト:

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

参考書:

特になし

フランス語インテンシブ (春) (秋)

助教授 笠井 裕之
 助教授 鶴崎 昭彦(秋)
 専任講師 木俣 章(春)
 専任講師 アンリ, ナタリー
 専任講師 大出 敦
 講師 ヴァリエヌ, コリヌ(春)
 講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ(秋)
 講師 シュドル, フローレンス容子
 講師 日佐戸 ミッシェル

三田のフランス語インテンシブ・コースは原則として、1, 2年次に日吉のインテンシブ・コース (週4コマ) を履修した諸君の上級用クラスとして設置されていますが、3年次または4年次から新たに受講を希望する学生も履修することが出来ます。

全体で8クラス設けられており、(a) ネイティブ教師担当、(b) 日本人教師担当となっています。進級・卒業単位として認定を受けるためには、この8コマの中から3コマ以上 (時間割の許す限り4コマの履修が望ましい) 履修する必要があります。なお、設置の8コマはすべて異なるテーマ・教材を使用するため、同一担当者の授業を2コマ履修することも可能です。講義要綱、時間割、最初の授業でのガイダンスなどを参考にして、自らの関心に則した履修をはかってください。

[個別の授業内容および教材]

(a) グループ

アンリ, ナタリー 担当

授業科目の内容:

この講座の主たる目的は、聴き・話すことの訓練です。学生自身が選んださまざまなテーマについて発表し合い討論などができたらと考えています。必要に応じて単語学習や和文仏訳などとり入れ、フランスのとれたコミュニケーション能力の養成をめざします。なお、テキストはとくに用いず、必要に応じてコピーを配布します。

シュドル フローレンス 容子 担当

授業科目の内容:

すでにフランス語の初級レベルを終了した学生を対象にして授業を進めたいと考えています。授業の中ではアップ・トゥ・デートな問題も取り入れながら、特にフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを目標にしたいと考えています。

テキスト:

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

参考書:

特になし

ヴァリエヌ, コリヌ 担当 (春)

ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ 担当 (秋)

授業科目の内容:

実用フランス語の理解力と表現力を発達させることが目標です。F2 ニュースや映画の抜粋、フランスやフランス語圏の新聞・雑誌の記事を理解してから、ディスカッションを開きます。

テキスト:

なし。プリントを配ります。

参考書:

Les Cles de l'actualite という週刊が若者向きで、ページ数がすくなく、分かりやすい新聞です。

(b) グループ

笠井 裕之 担当

授業科目の内容:

正確な読解能力を養うことを目的として、フランスの現代小説あるいはエッセイを中心に、ときに新聞雑誌の記事なども織りまぜながら、さまざまなスタイルで書かれた文章を講読します。はじめのうちはゆっくり確実に、徐々に読む速度を上げていきます。かならず予習した上で授業にのぞんでください。

テキスト:

プリントを配布します。

成績評価方法:

平常点および授業内試験による評価

木俣 章 担当 (春) Le Monde を読みながら

授業科目の内容:

フランス人とフランス社会の抱えるいくつかの病、問題点について、Le Monde, L'Express などの最新の記事をもとに読み解きます。フランス語を日本語にすることは勿論ですが、フランス語でキーワードを定義したりテキストを要約してコメントを加えるなどの練習も行います。

テキスト:

プリントで配布します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

鶴崎 明彦 担当 (秋)

授業科目の内容:

春学期の新聞・雑誌の講読を通して、フランス人とフランス社会の特性あるいは問題点のいくつかをかいま見ることができたと思います。それをふまえて秋学期の授業では、フランス人の心性や行動様式を社会的・歴史的に、比較的平易なフランス語で論じた文章を講読いたします。テーマは、共和国、宗教、知識人の役割、家族生活、国語に対する情熱、などを予定しています。春学期の時事文の講読と併せて、フランス人とフランス社会に対する理解が深まるものと思います。

テキスト:

- ・ Nelly Mauchamp: Les Français — Mentalités et comportements (Clé International, 1998)
- ・ 講読用テキストはプリントで配布します。

大出 敦 担当

授業科目の内容:

ポール・クロードルというフランスを代表する詩人は、今年没後50年を迎えますが、大正から昭和初期にかけて駐日フランス大使として日本に滞在していた外交官でもありました。彼は『繻子の靴』などの代表作を日本で書き上げていますが、一方で外交官としては日仏会館の建設、関東大震災の復興援助、東アジア戦略の展開などを行っています。こういったことはクロードルがフランス外務省に送った書簡からうかがえます。これらの書簡のうち、日仏会館と関係する言語政策に関する書簡、中国を視野に入れた東アジア戦略に関する書簡を選び、講読していきます。

テキスト:

Paul Claudel: *Correspondance diplomatique TOKYO 1921-1927*, Gallimard, 1995
 なおテキストはコピーで配布します。

(a) (b) グループ

日佐戸 ミッシェル 担当

授業科目の内容:

Travail et discussion sur des articles de presse.

テキスト：

Photocopies d'articles de journaux et magazines

中国語インテンシブ (春)(秋)

中国時事 専任講師(有期) 馬 燕
 講師 松下 淑子
 講師 須山 哲治

授業科目の内容：

改革開放後、中国の経済、政治、社会および人々の日常生活が大きく変化したことは無視できません。その目覚ましい変化に即応すべく文化、生活、言葉などを知って理解すると同時に、いかに自分の意見を効果的に主張し、理解してもらうかがとても重要になると思われま。本授業は、改革開放後の中国に関する映像を素材に、現在の中国の社会現象や庶民の生活の変化などについて、討論する形で進めていく方針で、受講者が中国語で「自己主張」する能力を鍛えたいと思えます。

テキスト：

自編 (プリント配布)、場合により内容が変わる可能性もあります。

スペイン語第Ⅴ (春)(秋)

スペイン語歌謡の聞き取りと解釈と鑑賞
 講師 中山 直次

授業科目の内容：

1. 毎回、スペインやラテン・アメリカの歌謡を聴いて、歌詞を聞き取ります。
2. 歌詞の内容を解釈します。歌といえども、詩の一種ですから、時には訳に凝りましょう。
3. 授業は、常に対話形式で進めます。ということは、「応答を求める」ということです。
4. 特定のテキストはありませんのでコピーを配りますが、時に板書も併用します。
5. 評価は、定期試験でなく平常点によりますが、それには出席のほか上記の「応答の状況」も加味します。
6. 楽しみながら言語力を深めることを念頭において進めますので、結果として、大きな収穫や進歩もあり得ますが、人によっては大きな無駄になることもあり得ますので、念のために付言しておきます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

特に使用しません。

スペイン語第Ⅴ (春)(秋)

(春学期) スペイン語演習 (中・上級レベル)
 (秋学期) ラテンアメリカ世界を読む (歴史・文化・社会)
 講師 柳 沼 孝一郎

授業科目の内容：

[春学期] 下記の学習事項の演習を通してスペイン語の文構造、語法を学び、表現力および語彙力を養います。

- 1) 直説法の用法と時制 (現在・過去・未来・完了時制など)
- 2) 再帰動詞の用法
- 3) 無人称表現
- 4) 接続法の用法 (接続法現在・過去・現在完了・過去完了)
- 5) 条件文

[秋学期]

!Que fantasticas las Americas! (ラテンアメリカに乾杯!)、全24課の平易なスペイン語文の読解を通して、ラテンアメリカの歴史 (マヤ、アステカなどのメソアメリカ文明、ナスカ、インカなどのアンデス古代文明、スペイン植民地支配時代、独立革命、近代化と従属化の構造、国民国家の形成、現代ラテンアメリカの諸問題など)、文化 (インディヘナ文化、融合文化など)、社会 (多民族社会、多元文化社会など)、政治・経済 (ポピュリズム、軍事政権から民政移管、民主

化、地域統合など)、日本とラテンアメリカの関係 (移住関係、経済貿易関係、文化交流など) などについて、適宜、ビデオを観ながら、解説をくわえ授業を進めます。

[到達目標]

文部科学省認定「スペイン語技能検定試験」(春・秋2回実施)3級取得を一応の目標に設定し、2級取得を目指します(2級および1級の出題形式は西文和訳、和文西訳のみです)。

さらに、日本とメキシコ両政府の「日墨政府交換留学生」(8月出発、翌年7月帰国の1年間)を目指します(希望者には受験指導します)。

テキスト：

春学期、秋学期ともにプリント (適宜、配布) を使用します。

参考書：

適宜、紹介します。

スペイン語インテンシブ (春)(秋)

専任講師(有期) 斎藤 華子
 講師 アルバレス・クレスポ、ヘスス・カルロス
 講師 杉下 由紀子
 講師 井関 睦美
 講師 丸田 千花子

スペイン語インテンシブコースは週5コマ開講し、三田での2年間となるべく多くのコマを履修してください。三田のインテンシブコースは日吉で学んだ語学の基礎をいよいよ生かす場であり、ここでスペイン語学習を放棄してしまうのでは、日吉での苦労が無駄になってしまいます。時間割の都合でインテンシブの授業が履修できない場合にも、スペイン語第Ⅴや政治学科の系列科目である文献講読に参加して、是非スペイン語学習を継続してください。なお、日吉でのインテンシブコースを履修していない学生や他学部の学生も履修可能ですが、各担当者に了解を得てください。

斎藤 華子 担当

授業科目の内容：

近年関心の高まりつつあるスペイン語検定試験受験のための準備クラスです。これまでに習得したスペイン語力を試す機会として、検定3級 (または4級) 取得を目指します。文法事項の総復習、短文や長文の和訳・西訳等を通し、読解力や表現力の向上、語彙の増加を目標とします。日常会話表現だけでなく、時事的な話題も多く取り上げる予定です。

テキスト：

毎時間プリントを配布します。

アルバレス・クレスポ、ヘスス・カルロス 担当

授業科目の内容：

El objetivo fundamental de este curso consiste en afianzar la capacidad oral y conseguir un cierto nivel de fluidez en la conversación mediante la práctica diaria, discutiendo los temas que vayan apareciendo en clase. Se repasarán conceptos, estructuras y vocabulario, y se pondrá énfasis en el conocimiento no sólo del idioma, sino también de la cultura española.

テキスト：

Fotocopias (プリント)

杉下 由紀子 担当 スペイン語新聞とニュース

授業科目の内容：

スペイン語新聞のいろいろな分野の記事 (社会、政治経済、文化、スポーツ、広告、天気予報など) を講読し、語彙力を増やすとともに独特の表現を学習する。また、スペイン語ニュースのテープを使って聴解力もきたえる。

テキスト：

岡田辰雄『新聞スペイン語入門』芸林書房。その他、プリント配布。

参考書：

授業時に指示。

共通

井 関 睦 美 担当

目指せ！ DELE 中級

授業科目の内容：

DELE とは、“Diplomas de Español como Lengua Extranjera”（外国語としてのスペイン語検定試験）の略称で、スペインのセルバンテス協会がスペイン語を母国語としない人を対象に、年に2回（5月と1月）全世界で行っているスペイン語の総合的な能力判定試験です。この試験は、初・中・上級の3レベルあり、それぞれのレベルは、読解、文章表現（作文）、聞き取り、文法・語彙、口頭表現の5セクションから構成されています。合格するには、すべてのセクションにおいて7割以上の正答率が要求されます。DELE は世界的に通用するスペイン語検定で、DELE 中級または上級保持者は、スペインの公的機関が公募する職に応募した場合、スペイン語能力試験を免除されることもあります。

この授業では、DELE 中級をターゲットとし、主に読解、文法・語彙、作文に焦点を絞って試験対策をしていきます。中級は「特殊用語の使用を必要としない日常生活における状況においての十分な言語的能力を証明する」レベルとされています。しかし実際は、日常会話、時事問題、歴史、科学、新聞記事、広告などの広い分野から出題され、かなり高度な語彙、文法、表現が使用されています。授業では、DELE 初級、中級の過去問題や類似問題を数多くこなすことで、試験の傾向に慣れ、正答率を上げることを目標とします。それと同時に、日本語訳にとらわれない直感的な文脈理解や、自然なスペイン語表現の習得を目指していきます。DELE 受験を目的としなくても、オーセンティックなスペイン語にチャレンジしてみたい人には良い機会だと思います。

テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

参考書：

毎回、西和辞書を持参してください。

丸 田 千 花 子 担当 一読んで書いて話そうスペイン語—

授業科目の内容：

春学期は総合的に「読む・書く・話す」能力を高めること、秋学期はスペイン語圏（スペイン、ラテンアメリカ、アメリカのヒスパニック）の文化に関係する様々なジャンルのテキストの読解を通じて、スペイン語の読解力、日本語の運用力を高めることを目的にします。単独の受講でも結構ですが、DELE 受験準備クラス、スペイン語検定準備コースを補完するものとしての利用がさらに良いと思います。

春学期の内容は実際にアメリカの大学のスペイン語中級レベルのカリキュラムとメソッドを模します。法学部、他学部の学生で、「書く・話す・読む」の3つの要素を少しずつ組み合わせて楽しく学習したい、各種スペイン語の試験対策として中長文の読解や50-100ワードの作文対策をしたいと考えている学生の受講を歓迎します。また、将来、海外（特にアメリカ）の大学、大学院への進学を考えている学生にも受講してもらいたいと思っています。

春学期

「読む」：短めのコラムを和訳します。「書く」：各課のテーマの語彙を用いて、各課の文法のテーマに沿った自分の意見を表現できるような単文の作文で、表現、語彙、文法の定着をさせます。希望者には試験対策用の50-100ワードの作文の課題を出すことも可能です。「話す」：教員も学生も少しずつ授業でスペイン語を使用するようにし、スペイン語で発話することに慣れていきます。

秋学期

長文をなるべく自然な日本語で訳せることをめざします。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

ロシア語インテンシブ（春）（秋）

講 師 東 井 ナジェーシタ
講 師 宮 澤 淳 一
講 師 熊 野 谷 葉 子

授業科目の内容：

週四回の授業を有機的に関連させ、ロシア語の実力を向上させるこ

とを目的としています。出来るなら週四回の授業を受けることが望ましいと思いますが、三コマの受講も可能です。三年次から、また四年次からの受講も大いに歓迎します。少人数のアットホームな雰囲気の中でロシア語の実力をつけましょう。ともかく楽しくロシア語を習得できるよう、またロシアの現状なども理解できるような授業を行うつもりです。

ネイティブスピーカーの東井が週二回の授業を担当します。ロシア人と議論が行えるレベルに会話力をアップさせることを目指します。教科書は慶應義塾大学外国語学校の『ロシア語会話』を使います。また、それに加えて日本語の新聞などをロシア語に訳し、それを基にした会話の練習を行います。日常会話を卒業して、高度なレベルに会話力を高めることが目標です。

東井の授業に関連して、宮澤の時間では、困難な文法事項の確認と、それらを運用できる力の養成、そして和文露訳や自由な作文の授業を行います。「完了体と不完了体」、「前置詞」、「形動詞」などの用法の習熟を図りながら、露作文の実力のアップを目指します。

熊野谷の時間では、春学期にはビデオ教材を使った授業を行い、「聞き取る力」のアップに努めたいと思っています。教材は『モスクワの七つの散歩』編を使います。秋学期にはNHKの衛星放送で流されているロシアのテレビ局、PTPのニュースなども使います。ただし単語のリストやテープなどは用意しますので、それほど困難ではないでしょう。参加希望者の実力によっては、専らテープを聞く事によって「聞く力」を高める授業となる可能性はあります。

いずれにしてもロシアの現状を中心に題材としながら、三人の講師は授業を相互に関連させ、それによって主に会話の実力がつくよう考えています。

さらに具体的な授業の進め方、教材などについては一回目の授業で説明します。

朝鮮語第Ⅴ（春）（秋）

韓国語で話そう！

講 師 韓 晶 恵

授業科目の内容：

- ・聞き取り・発言・読解などをもって授業時間中は会話練習を主な内容とします。
- ・会話力向上のための基本的な力を身につけることが本講義の目標です。
- ・学習者の朝鮮語での発言意欲を積極的に促進し、支援します。
- ・韓国文化や映画などが理解できるようになります。

テキスト：

特に指定しません。

講義資料プリントを配布します。

参考書：

『朝鮮語辞典』

ラテン語（中級）（春）（秋） 教授 マクリン、ニール B.

授業科目の内容：

This is an intermediate course, designed to help students already familiar with Latin grammar gain the confidence and skills necessary to master read continuous texts. Materials will be decided at the start of the course, depending on the interests and level of the participants. Students will translate the Latin into Japanese, but must be prepared to have some explanations given in English (or at least, should not be afraid of the teacher's English or of his peculiar Japanese).

ポルトガル語第Ⅴ（中級）（春）（秋）

ブラジルのことば

講 師 日 向 敦 子 ノ エ ミ ア

授業科目の内容：

〔春学期〕

初級より少し複雑な日常会話を劇化しながら、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション（ジェスチャーやイントネーションなど）が同時に行われるシンクロナイズド方式を試みます。会話のポルトガル語をより覚えやすくするため、会話と同じ内容のテキストの

聞き取りや書き取りも行います。

文法は、動詞の接続法と仮定法を主に学びます。

〔秋学期〕

春学期と同じテキストの他にブラジルの総合雑誌「Veja」の、ポルトガル語が比較的簡単な記事を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、文法問題もその都度指摘し、説明します。

テキスト：

著者名：日向ノエミア

書名：『ブラジル語でコミュニケーション』

出版社：大学書林

(の後半にします)

秋学期は、このテキストの他に雑誌のプリントを配布します。

参考書：

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。あるいは、『ローマ字ボ和辞典』、『ローマ字和ボ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になると思います。

ポルトガル語第Ⅴ (上級) (春) (秋)

ブラジルのことば

講師 日向 敦子ノエミア

授業科目の内容：

〔春学期〕

ブラジルの女流作家 Clarice Lispector の短編を読み、訳し、日本語でディスカッションをしながら、徐々にポルトガル語にしていく工夫をします。読解力と会話力が同時に付く授業を試みます。

〔秋学期〕

ブラジルの文豪 João Guimarães Rosa の短編を読み、訳し、それについて日本語でディスカッションをしながら、徐々にポルトガル語にしていく工夫をします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。

テキスト：

プリントし、最初の授業で配ります。

参考書：

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)あるいは『ローマ字ボ和辞典』(柏書房)、『ローマ字和ボ辞典』(柏書房)が、参考になると思います。

イタリア語第Ⅴ (春) (秋)

イタリア語講読

講師 町田 亘

授業科目の内容：

イタリア語文法の知識を深め、さらにイタリア社会の諸側面を知るために原書の講読を行う。

今日のイタリアを理解するために、イタリアの新聞、雑誌等から記事・章節を抜粋し、講読する。

テキスト：

プリント

参考書：

長神 悟『イタリア語のABC』(白水社)

〔人文科学科目〕

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

George Orwell と 20 世紀イギリス文化史 (1930 年代～)

教授 武藤 浩史

授業科目の内容：

20 世紀を代表するイギリスの「良心」として大いなる尊敬を受けるとともに、『動物農場』や『1984 年』などの政治小説によりさまざまな誤解を受けてきた George Orwell (1903-1950) の活動と著作を通して、20 世紀イギリス文化の諸問題を考えていきたい。エリート高校

出身の異色のアウトサイダーだった Orwell は、その経験を生かして、政治論、文学論にとどまらず、大衆文化論、生活文化論、管理社会論、メディア論とイギリス文化の多彩な側面を論じた作家であり、また、簡単に特定の政治イデオロギーに回収しがたい「独立自尊」の稀有の人でもある。

原典を用いて集中的に作品を読んだ昨年度 (Lady Chatterley's Lover と 20 世紀イギリス文化史) とは対照的に、今年は翻訳を用いて或る作家の多彩な全体像に迫って、そこからイギリスの 20 世紀という問題を考えてみたい。

テキスト：

『オーウェル著作集』など。入手可能なものは本で、不可能なものはコピーで。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

イギリス地域文化研究

—世界の中のイギリス/イギリスの中の世界

教授 太田 昭子

授業科目の内容：

今年度は、前年度日吉で開講されたイギリス地域文化論Ⅳを引き継ぐ形で、イギリスと世界との関わりを、時空間の縦軸横軸双方から多角的に論じたいと考えています。内容は多岐にわたると思いますが、履修者のプレゼンテーションや議論を通じ、扱うテーマへの理解を深めたいと考えています。

テキスト：

特定の教科書は使用しませんが、参加者全員が読むべき論文などは、必要に応じ指定するかプリントにして配布します。

参考書：

参考文献表を随時配布します。

人文科学研究会 I (春)

人文科学研究会 II (秋)

現代アメリカ研究：多文化主義と国際協調主義の接合を

めぐる諸問題

教授 鈴木 透

授業科目の内容：

2004 年秋の大統領選挙では、「一国主義」対「国際協調主義」という新たな対立軸が登場し、同時多発テロ事件以後の有事の恒常化の中で休戦状態にあった従来のアメリカ社会内部の対立軸を再編成する動きが見られた。そこでは、一国主義の側が、かつての 80 年代的保守主義のベクトルを支えてきた諸勢力に加えて、ユダヤ系やヒスパニックまでも宗教を接着剤として取り込み、リベラル派の切り崩しに成功したのに対し、国際協調主義の側は、対抗上、60 年代的リベラリズムを擁護してきた勢力をまとめることが不可欠であったのに、うまくそれらを再結集できなかったといえる。60 年代的リベラリズムを擁護してきた一大勢力がマイノリティーの人々であり、その重要な求心力が多文化主義であったことを考えれば、民主党の敗北の重要な要因は、多文化主義と国際協調主義の接合が不調に終わった点にあるといえるだろう。実際、アメリカの多文化主義は、社会内部でのマイノリティーの権利獲得の道具としての性格が強まる一方で、アメリカという枠を超えたグローバルなビジョンを欠いてきたきらいがある。従って、多文化主義をグローバルな次元へとバージョンアップし、どう国際協調主義と接合していくかという作業こそ、アメリカ自身が一國行動主義の暴走を今後どれだけコントロールできるかの命運を握っているものであり、現代アメリカが直面する緊急課題といえる。そこで、今年度は、アメリカの多文化主義をいかにしてグローバルな次元へとバージョンアップし、国際協調主義の受け皿となるような発想がどうすればもっとアメリカ社会に根づくことができるのかを、理論、実践、政策の三つの側面から考えてみたい。柱となる論点は以下のとおりである。

- ① 多文化主義の理論的貧困はどこにあったのか
- ② 多文化主義の理論的貧困を克服し、社会の一般の人々がグローバルなレベルでの多様性の共存への問題意識を深められるようにするには、どのような研究と実践が有効か

共通

- ③ こうした動きをサポートしていくためには、どのような機関がどのような新たな姿勢を打ち出すべきか

まず、①については、アメリカにおける多文化主義的思考の系譜を改めて検証し、多文化主義と国際協調主義との接合を困難にするような要素がどこにあったのかを考察する。②については、反知性主義の伝統の強いアメリカにおいて、抽象的な理論と一般の人々の感覚とをどう近づけるかを解決する一助として、食文化研究に着目してみたい。食文化は、これまであまり研究対象としては正当に扱われてこなかったきらいがあるが、アメリカの食生活が、既にかにマルチカルチュラルであり、食文化自体がいかに国境を越えた要素で構成されているのか、そして、まさに人々の肉体が、いかにそれら多様な食文化を体内に取り込んだ存在であるのかを再認識できれば、非常に身近なレベルで多文化主義をグローバル化していく糸口になるのではないだろうか。さらに③については、国境の内側の多様性と国境の外側の多様性との接点を構築していく上で、近年国内の集団的記憶の再構築に取り組んでいる。内務省国立公園局やスミソニアンなどの博物館をはじめとする機関が、史跡管理や博物館展示の面で、国境の外の記憶を手繰り寄せるために今後どのような工夫をしていくべきなのかをポイントを置いて考えてみたい。

テキスト：

取り上げる文献は多岐にわたるが、少なくとも以下の二冊については決定済みである。

- ・辻内鏡人『現代アメリカの政治文化：多文化主義とポストコロニアリズムの交錯』（ミネルヴァ書房、2001）
- ・ダナ・R・ガバッチア『アメリカ食文化：味覚の境界線を越えて』（青土社、2003）

参考書：

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』（慶應義塾大学出版会、2003）

人文科学研究会 Ⅲ（春）

人文科学研究会 Ⅳ（秋）

アメリカ文化研究：その方法論的展開をめぐる

教授 鈴木 透

授業科目の内容：

アメリカ文化研究という分析枠が、アメリカという国を総合的に研究しようとする上でいかに潜在力を秘めているかという点に対する問題意識を深めながら、アメリカ文化研究の今後のあり方を展望する。授業の柱は以下の4点である。

- ① アメリカ研究の歴史的展開と方法論上の諸問題の整理
- ② アメリカ文化研究の古典的著作とされているものの再検討
- ③ 最近のアメリカ文化研究に見る新たな傾向に関する分析
- ④ 今後求められるアメリカ文化研究のモデル化

テキスト：

取り上げる文献については、履修者の希望を聞いた上で最終決定する。

参考書：

鈴木 透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』（慶應義塾大学出版会、2003）

人文科学研究会 Ⅰ・Ⅲ（春）

人文科学研究会 Ⅱ・Ⅳ（秋）

教授 井上 逸兵

授業科目の内容：

まず、「言語」、「コミュニケーション」、「社会」、「文化」などを扱う諸分野のいくつかの議論を通して、主として社会言語学、言語人類学、語用論などの基本的知見を身につける。その上で、受講者がそれぞれ一つ以上のトピックを担当し、調査、発表し、全員で議論する。最終的にはこれらの内容を全員でなんらかの報告書の形にまとめたい。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指示する

人文科学研究会 Ⅰ・Ⅲ（春）

人文科学研究会 Ⅱ・Ⅳ（秋）

芸術と文学から見たドイツ語圏とヨーロッパ

教授 岩下 真好

授業科目の内容：

「ドイツ語圏の19世紀末と20世紀の芸術と文化」というテーマをいちおう設定する。今年度は两大戦間のベルリンの文化状況を取り上げたいと思っているが、具体的な内容は受講者の個別の問題意識に応じて設定し、講義、検証（写真、CDその他）、研究報告、討論などを折り返して進める。文学、音楽、造形芸術、建築、哲学など、幅広い分野を適宜取り扱う。対象への受講者の積極的な関心を期待する。

参考書：

その都度指示する。

人文科学研究会 Ⅰ・Ⅲ（春）

人文科学研究会 Ⅱ・Ⅳ（秋）

「星の王子さま」を5カ国語で鑑賞する試み

助教授 斎藤 文雄

授業科目の内容：

フランスの作家サン・テグジュペリ *Antoine de Saint-Exupéry* の「星の王子さま」*Le Petit Prince* をフランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語の5カ国語で読み合わせるにより、他言語・他文化への目を開き、近い将来さらに新たな言語へのチャレンジ欲喚起のための一つの契機を与えることを目指す。

テキスト：

- ・（仏）*Le Petit Prince* (Collection folio/Gallimard) 900円（予価）
- ・（独）*Der kleine Prinz* (Karl Rauch Verlag) 900円（同）
- ・（伊）*Il piccolo principe* (TASCABILI BOMPIANI) 1000円（同）
- ・（西）*El Principito* (El libro de bolsillo 348) 900円（同）
- ・（ポ）*O Príncipezinho* (Caravela) 1400円（同）

参考書：

- ・（英）*The Little Prince* (A Harvest Book/Harcourt Brace & Company)
- ・（日）星の王子さま（岩波書店）

〈注〉自分の選択する言語のテキストは各自購入することが望ましいが、他言語については随時コピーを配布する。

人文科学研究会 Ⅰ・Ⅲ（春）

人文科学研究会 Ⅱ・Ⅳ（秋）

ドイツとヨーロッパ、そして日本の言語政策

助教授 三瓶 慎一

授業科目の内容：

21世紀最初の年2001年は「ヨーロッパ言語年」として位置づけられ、欧州連合全体でさまざまな啓蒙的な催しが行われた。特筆すべきは、共通通貨 Euro の導入に匹敵するほどの興味深い実験が、言語についても行われつつあることである。

各言語の能力を共通の指標で計り、移住、学習・教育、就職など、様々な局面で役立てようというのである。また同時に、各話者に個別の、文化的に異なる言語経験を自覚化させて、多言語性を維持しようという試みでもある。

このゼミでは、こうしたヨーロッパにおける新しい枠組みを概観した後、特にドイツにおける言語政策について歴史的な経緯も視野に入れて研究する。さらにアジアにおける日本の言語政策とも比較することによって、今後の日本における外国語教育のとるべき方向性についても検討を加えたい。

教材資料：

Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für, Sprachen: lernen, lehren, beurteilen. (2001, Langenscheidt), その他、数点の論文。

参考書：

授業時に指示する。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

楽々インテリ養成講座

～エッセイを読んでインテリ(死語)になろう!

教授 許 光 俊

授業科目の内容：

さまざまな思想家や作家が著したエッセイ(もしくは短めの論文)を読む。偉い人は、ちょっと書いても偉い文章を書くものなのだ。その偉さの片鱗を味わいたまえ。そして、その偉さについて語りたまえ。

テキスト：

最初の時間に指示。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

専任講師 アンリ, ナタリー

授業科目の内容：

この講座の主なる目的は、フランス文化、社会をもっと深く研究することです。学生自身がテーマを選んで、それについて研究し、発表したらいいと考えています。テキストはとくに用いず、必要に応じてコピーを配布します。なお、この科目は、日吉のフランス語第IV(A1)取得済の者、あるいはフランス語圏の国での滞在経験(6ヶ月から)のある者のみ履修が可能です。春学期は特に欧州連合について研究します。EUの歴史から、今日直面している問題までフランスの観点から検討します。学期2回(予定)イギリス、ドイツの観点から研究を進めたクラスと集って、討論します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

中国の軍事と安全保障

教授 安 田 淳

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式で、主として中国の安全保障を勉強する。取り上げる題材として中国人民解放軍はもちろんのこと、中国の領土問題やエネルギー問題、人口問題、治安問題、交通問題、さらに周辺諸国との関係など、中国の安全保障に関わるならば履修者諸君の関心や希望を広く取り入れたい。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

助教授 大久保 教 宏

授業科目の内容：

ラテンアメリカ、カリブ海地域に関して学べる場は少ないでしょうから、細かいことは言いません。これらの地域に関することなら何でも見ていこう、というのがこの授業の求めるところです。具体的には、各参加者の関心に沿った文献を講読しながら、ラテンアメリカ、カリブ海地域に関する理解を深めます。アルゼンチンの国家破産の問題、ドミニカ共和国における日本人移民の窮状の問題、返還後のパナマ運河の問題、あるいはメキシコのプロレスにはなぜ覆面レスラーが多いとか、マクドナルドが撤退した後のボリビアのファーストフード事情など、どのような関心事でも構いません。文献は日本語のものを多読する方針ですが、英語、西語、葡語、仏語、蘭語、マヤ語、ケチュア語でも結構です。秋学期には各自の関心を深めた上での研究発表も行ってもらつてもいいです。本谷裕子先生担当の人文科学研究会との合同授業も数回行います。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

専任講師 本 谷 裕 子

授業科目の内容：

「ラテンアメリカ」のことについてならば、何でも学んでみよう!というのがこの研究会の主旨です。ラテンアメリカと一言でいっても、先住民とヨーロッパ系移民との混血の子孫(メソティーン)が構成するメキシコのような国もあれば、国民の半数以上が先住民というグアテマラやボリビア、ヨーロッパ移民の国アルゼンチンやチリ、アフリカ系移民の多いカリブ海域の国々など実にさまざま。人種構成だけみてもこれだけ多種多様なわけですから、その社会や文化なども当然それぞれの地域に細やかな違いが見られます。例えばその一つが彼らの使用言語。ラテンアメリカの大半の国々ではスペイン語が公用語とされていますが、その表現や言葉のイントネーションには地域ごとや国ごとの違いが反映されていますし、またブラジルのように日常生活においてポルトガル語を話す国もあれば、カリブ海の島ハイチといったフランス語が話されている国もあります。さらにはメキシコ南部やグアテマラやボリビア、ペルーの山間部に暮らす先住民たちの世界では公用語のスペイン語とは明らかに異なる不思議な響きをもった独自の言語が話されています。つまり、知れば知るほどに面白い「ラテンアメリカ」なのです!

ですから、どんなアプローチからの関心でもテーマでもかまいません。みなさんが「これはおもしろい!」と思った視点からラテンアメリカを学んでみませんか?意欲あるみなさんの参加をお待ち申し上げます。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

ドストエフスキーの『罪と罰』精読

教授 山 田 恒

授業科目の内容：

古典的な文学作品はさまざまな読みが可能ですし、また常に現代との関わりを意識させます。しかし同時代のさまざまな現象を知らないなら、その受容は不十分なものとならざるを得ません。

ドストエフスキーばかりでなくチェーホフなど優れた作家が活動した19世紀後半のロシア文学には、予審判事の活躍、裁判制度、流刑など帝政ロシアの立法政策が色濃く反映されています。また当然のことながら、スラヴ派と西欧派の対立といった当時の思想状況も作品から読み取ることが出来ます。あるいは『罪と罰』を風俗小説と捕らえ、ペテルブルグの人々、ことに学生生活や庶民の生活を再現することも可能です。さらに地母神信仰といった古いスラヴの信仰を読み取ることもできます。主人公の名前が端的に明らかにする分離派、異端信仰も大きな問題です。文学的には作品の構造、ことにフォルマリズム的分析も必要です。こうしたさまざまな側面を読み取ること、つまり精読を行います。

テキスト：

すでに『罪と罰』を持っていることも考えられるので、第一回目の授業で決定したいと思います。

参考書：

上記のテーマに関連した参考書を、研究を進める各段階で紹介いたします。

人文科学研究会 I・III (春)

人文科学研究会 II・IV (秋)

ヨーロッパ舞台芸術論

教授 平 林 正 司

授業科目の内容：

オペラ・バレエ・音楽作品など、劇場で上演される芸術を研究する。ヨーロッパの近・現代が中心になる。平林が解説・分析しながら、録画・録音によって、作品を体験する。履修者の希望を取り入れて、作品を選ぶことになる。

テキスト：

未定

共通

参考書：
未定

〔自然科学科目〕

自然科学特論 I (春)

多様な現象と力学法則の関連 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

高校で学習した力学の初歩的な知識の復習から始め、さまざまな現象を理解することをめざします。本講義では、力学の基本法則の理解を深めるために、流れに密接する身近な事象や力学に関連する自然現象を取り上げ、直感的な見方をごく初等的な数学で補いながら進みます。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論 II (秋)

磁力線にまつわる自然科学現象 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

自然科学現象には、電磁気学的性質がかかわるものが少なくありません。本講義では、自然科学特論 I で解説された力学の知識に加え、高校で学習した電磁気学の初歩的な知識の復習から始め、直感的な見方をごく初歩的な数学で補いながら、自然現象を考察します。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論 I (春)

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

科学技術を支える自然の原理と工夫、異常気象や生態系のメカニズム、さらには社会現象や経済現象への自然科学的アプローチについて解説します。

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

自然科学特論 II (秋)

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

自然科学特論 I と同じ

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

〔数学・統計・情報処理科目〕

数学 V (春), VI (秋)

行動科学における数学 講師 松岡 勝男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学における

いろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3) 経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

統計学 III (春)

推測統計学入門 講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では確率分布や統計的検定の基本的な概念の説明から始め、推測統計の基本的な考え方と技法を初心者向けに講義する。複雑な数式や数学的議論には立ち入らず、「文系の統計ユーザ」のための授業を行うが、特定のコンピュータ・ソフトウェアの使い方やハウツー的な知識ではなく、統計手法の基礎にある考え方や原理を理解することを目指す。受講者は、記述統計学の初歩的知識を有することが望ましいが、学期当初の授業で必要な部分については簡単な復習を行う。また参考書を利用して独学で補うことは十分に可能である。主なテーマは「授業計画」に挙げたものを予定しているが、受講者の希望により変更が可能である。要望があれば、初回授業の際に相談したい。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業を行う）。

参考書：

鷲尾泰俊 1983 日常のなかの統計学 岩波書店 (ISBN 4-00-007636-1)。

他にも初回ガイダンス時に紹介する。

統計学 VI (秋)

多変量解析入門 講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では多変量解析法と呼ばれる統計手法について初心者向けに講義する。授業では“データの解析”よりも“現象の解明”に重きを置く。多変量解析はコンピュータ処理が前提となるが、この授業は特定の解析ソフトウェアの実習ではなく、いろいろな解析手法の考え方を理解し、多変量解析を利用するに当たっての問題の立て方、解析結果の読み方、考察のしかたなどを習得して貰いたい。受講者は必ずしも『統計学 III』を履修している必要はないが、統計的概念について基礎知識を持っている必要がある。少なくとも以下の用語一分散、統計的有意性、有意水準、相関、相関係数一は理解していて欲しい。但し、受講者から希望があれば、学期当初の授業で最低限の復習を行うことは可能だと思う。また参考書を利用して独学で補うこともできる。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業を行う）。

参考書：

初回ガイダンスおよび授業中随時紹介する。

情報処理 V (春)

データベース、オンライン・ジャーナルをつかって
レポート作成をしよう 講師 河村 和徳

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、学生に対し様々なデータベースやオンライン・ジャーナルが提供されており、その規模は日本の大学の中でも高い水準にある。これらはレポートや卒業論文の作成に有用であるにもか

ならず、多くの学生はこれらのデータベースやオンライン・ジャーナルに気づくことはないのが現状ではないだろうか。この講義では、法学部生に有用と思われるこれらのデータベース、オンライン・ジャーナルをとりあげ、利用方法について解説する。そして実際に検索やデータのダウンロード等を行ってもらおう。履修者は、こうした経験を各自のレポート作成等に活かせるようにしてもらいたい。

また、折に触れて他大学や民間の法情報サービス等にも言及したいと思う。

テキスト：

とくに指定はしない。

参考書：

とくに指定はしない。

情報処理 VI (秋)

高度情報化に対して行政はどのように変化しつつあるか？

講師 河村 和 徳

授業科目の内容：

近年は高度情報化社会と言われるが、デバイスの進歩に応じて行政等の機能も徐々に変化しつつある。こうした変化については e-Japan の構想の中からも読み取れ、住基ネットの導入のように実際に制度化されているものもある。本講義は、行政における情報化の意味や具体的な行政システムの変化について講義する一方、履修者には実際に情報収集を集め、それらを報告してもらおうことを課す。一方的な授業ではなく、ゼミ的な感覚で講義に臨むようにしてほしい。

コンピュータの技術の習得よりも、実際の行政の運営等の理解に主眼があるので履修者は注意してほしい。

テキスト：

とくに指定はしない。

参考書：

とくに指定はしない。

統計情報処理 I (春)

データ分析の基礎

講師 石 上 泰 州

授業科目の内容：

この授業では、パソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶ。授業で目標とするのは、SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) という社会科学のための統計ソフトを利用して、簡単なデータ分析を行えるようになることである。データを適切に使いこなすことができれば、それだけ説得力のある議論を展開することができるので、この授業を通じてデータの取り扱いの基礎を身につけてもらいたい。なお、初歩的な内容から授業をはじめるので、履修に際してパソコンや統計についての基礎知識はまったく不要である。履修者には何も基礎知識がないということを前提に授業をはじめるので、初心者の人にこそ履修してもらいたい。

テキスト：

適宜、資料を配布する。

参考書：

・小塩真司『SPSS と Amos による心理・調査データ解析』東京図書
・増山幹高・山田真裕『計量政治分析入門』東京大学出版会

統計情報処理 I (春)

コンピュータを用いた計量分析の基礎

講師 鷲 見 英 司

授業科目の内容：

■講義の目的

- (1) 社会科学の研究における統計処理の意義を理解する
 - ・社会の諸現象・事象を数量的に捉える
 - ・印象論・抽象論的記述ではなく、「何がどれだけ言えるのか」を数字で記述する。
 - ・データが持っている豊富な情報を引き出す
- (2) データの型、種類を理解する
- (3) データを適切に作成・管理する

- (4) 基本的な統計処理の手法を習得する
- (5) 研究対象に最適な統計処理を選択する

→ゼミ発表、卒論研究等に適用できる基本的なスキルを習得する

■講義の進め方

毎時間、冒頭に統計処理の手法についてレクチャーし、実習に移る。実習には SPSS (社会科学分析のための統計ソフト)、EXCEL を用いる。講義後 (あるいは翌週) に課題の提出を求めることがある。

テキスト：

特に指定しない。講義資料のプリントを配布する。

参考書：

必要に応じて指示する。

統計情報処理 II (秋)

SPSSを利用したデータ分析

講師 石 上 泰 州

授業科目の内容：

この授業では、「統計情報処理 I」に引き続いてパソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶとともに、SPSS という統計ソフトを利用して、自らの問題関心にしたいがいくつか実際に統計的な分析を行っていく。標準的には、自らテーマを設定し、自分の考えにもとづいて「仮説」をたて、その仮説の検証に必要なデータを収集、整理し、統計的な分析を通じて仮説の妥当性を検証する、という手順をふむ。そして最後には、これら一連の作業についてのプレゼンテーションを行ってもらおう。なお、ここでは春学期の「統計情報処理 I」で学んだ知識や技法を前提に授業を進めるので、その旨あらかじめご了承ください。

テキスト：

適宜、資料を配布する。

参考書：

・小塩真司『SPSS と Amos による心理・調査データ解析』東京図書
・増山幹高・山田真裕『計量政治分析入門』東京大学出版会

統計情報処理 II (秋)

コンピュータを用いた計量分析の基礎 II

講師 鷲 見 英 司

授業科目の内容：

■講義の目的

- (1) 社会科学の研究における統計処理の意義を理解する
 - ・社会の諸現象・事象を数量的に捉える
 - ・印象論・抽象論的記述ではなく、「何がどれだけ言えるのか」を数字で記述する。
 - ・データが持っている豊富な情報を引き出す
- (2) データの型、種類を理解する
- (3) データを適切に作成・管理する
- (4) 基本的な統計処理の手法を習得する
- (5) 研究対象に最適な統計処理を選択する

→ゼミ発表、卒論研究等に適用できる基本的なスキルを習得する

■講義の進め方

毎時間、冒頭に統計処理の手法についてレクチャーし、実習に移る。実習には SPSS (社会科学分析のための統計ソフト)、EXCEL を用いる。「統計情報処理 I」で学んだ統計的知識や手法を手掛かりとしながら、各自が分析を行い、最終的には授業においてプレゼンテーションを行ってもらおうことにしたい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料のプリントを配布する。

参考書：

必要に応じて指示する。

慶應義塾外国語学校
教職課程センター
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
体育研究所
福澤研究センター
外国語教育研究センター
国際センター
情報処理教育室
知的資産センター

慶應義塾外国語学校

外国語学校は、昭和 17 年 10 月語学研究所（現在の言語文化研究所）の設置と同時に、その実践部門として開講され、以来塾生はもとより、他校学生、一般社会人の外国語学習の場として、高い評価を得ています。現在、英語・英会話・ビジネスイングリッシュ・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語・イタリア語・インドネシア語・アラビア語・朝鮮語・ベトナム語・タイ語の 14 外国語科のコースを開講、約 1,000 名の生徒が在学しています。授業は、義塾内外の外国語担当教授をはじめ、外国語を使って実際の場で活躍している職業人、外国人講師など、優れた教員によって行われています。

法学部学生は、教授会によって設定された下記の科目を、自由科目として、履修申告の上履修することができます。

授業は、全科目三田 6 時限（英会話のみ 5 時限にも開設）で、春・秋学期（4 月期・10 月期）各 2 単位です。受講するには、外国語学校の定める入学手続が必要で、詳細は、「外国語学校入学案内」を参照のこと（請求先：港区三田 2-15-45 慶應義塾外国語学校・電話 5427-1592 ホームページ <http://www.fl.s.keio.ac.jp>）。入学手続期間は 3 月上旬～中旬と、9 月上旬～中旬の年 2 回です。

4 月期の場合は、履修申告手続前に外国語学校の入学手続をすることになるため、自由科目として履修申告をする時もし学部履修科目と時間が重なる場合は、直ちに外国語学校事務室窓口で相談してください。

科 目	ク ラ ス	週 間 授 業 数
英 語	上 級	3 回
英 会 話	中 上 級 級	2 回
ビジネス・イングリッシュ		2 回
ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 ス ペ イ ン 語 中 国 語 イ タ リ ア 語	基 礎 級 初 級 中 級 上 級	* 3 回
ロ シ ア 語 イ ン ド ネ シ ア 語 ア ラ ビ ア 語 朝 鮮 語 ベ ト ナ ム 語 タ イ 語	基 礎 級 初 級 中 級 上 級	2 回

* スペイン語上級は週 2 回

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

〔参考〕平成 17 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリットⅠ（初級）	土田龍太郎	通年 2単位
サンスクリットⅡ（中級）	土田龍太郎	
アラビア語Ⅰ（基礎）	尾崎貴久子	
アラビア語Ⅱ（現代文講読）	稲葉隆政	
アラビア語Ⅱ（古典）	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語Ⅰ（初級）	春日 淳	
ヴェトナム語Ⅱ（中級）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語Ⅰ（初級）	関 喜房	
ペルシア語Ⅱ（中級）	岩見 隆	
タイ語Ⅰ（初級）	三上直光	
タイ語Ⅱ（中級）	ポンシー, ライト	
トルコ語Ⅰ（初級）	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語Ⅱ（中級）	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一（春学期） 李 泰文（秋学期）	
カンボジア語Ⅰ（初級）	三上直光	
ヘブライ語Ⅰ（初級）	笈川博一	
ヘブライ語Ⅱ（中級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅰ（初級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅱ（中級）	笈川博一	
アッカド語Ⅰ（初級）	高井啓介	
アッカド語Ⅱ（中級）	高井啓介	

サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』(春秋社)
- ・辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

参考書:

なし

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 講師 尾崎 貴久子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1800円)
- ・必要に応じて説明補助プリント, 練習問題を配布します。

参考書:

David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

1. アラビア語(文語と口語, 文字と発音)について
2. アルファベットのつづり方
3. 名詞の性・格・複数
4. 人称代名詞と前置詞
5. 日常会話練習と練習問題
6. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(1)
7. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(2)
8. 練習問題
9. 名詞文の構造(1)
10. 名詞文の構造(2)
11. 日常会話練習と練習問題(1)
12. 練習問題(2)
13. 動詞完了形
14. 動詞未完了形
15. 名詞文復習と練習問題
16. 動詞文復習と練習問題
17. 受動態・分詞・動名詞・場所名詞
18. 練習問題
19. 不規則動詞
20. 不規則動詞練習問題
21. 関係代名詞
22. 練習問題
23. 派生形(1)
24. 派生形(2)

25. 練習問題

26. 総復習

履修者へのコメント:

アラビア語の文法はテキストを読むだけでは理解できない部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

試験の結果による評価(小テスト, 期末試験, 平常点で評価する。)

アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆政

授業科目の内容:

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。

テキスト:

プリントを配布します。

授業の計画:

- I. 講義 1 回目-3 回目 母音記号がついた極めて平易な短文の講読。
- II. 講義 4 回目-8 回目 母音記号がついた平易な文章の講読。
- III. 講義 9 回目-13 回目 母音記号がついたやや程度の高い文章の講読。
- IV. 講義 14 回目-18 回目 要所のみにも母音記号がついた文章の講読。
- V. 講義 19 回目-26 回目 母音記号がついていない文章の講読。

履修者へのコメント:

辞書は Hans Wehr: 「Arabic-English Dictionary」を使用して下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 II (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

- ・Brünnow-Fischer: Arabische Chkestomathie
- ・プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日は、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少なくとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあります。テストがわりです。)

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておく必要があります。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ヴェトナム語 I（初級）

ヴェトナム語入門 言語文化研究所 講師 春日 淳

授業科目の内容：

ベトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能な程度を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 概要：ベトナム語の類型の特徴、方言などについて概説する
3. 発音の解説、練習、あいさつの表現（計3回）
4. 動詞文(1)：動詞、形容詞を述語に持つ文
5. 繋詞のある文(1)
6. 名前を言う表現
7. 動詞文(2) 基本的な動詞で練習
8. 職業、場所をいう表現
9. 存在・所有を表す文
10. 類別詞、指示詞
11. 繋詞のある文(2)
12. 場所を表す句と存在を表す文
13. 数詞、時刻の言い方
14. これまでの復習
15. 方向動詞(1)
16. 方向動詞(2)
17. 年月日、年齢、序数、曜日
18. 数詞を用いた表現の練習
19. 動詞文(3) 基本的な動詞、形容詞で練習
20. 可能、受身の表現(1)
21. 可能、受身の表現(2)
22. これまでの復習 (計2回)
23. 試験

ヴェトナム語 II（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

初回に指示する。

授業の計画：

初回に指示する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

初回に指示する。

授業の計画：

初回に指示する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語 I（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語 II（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ.Press,1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語 I（初級） 言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 II（中級） 言語文化研究所 講師 ポンシー、ライト

授業科目の内容：

このクラスでは、主にタイの小学校二年生の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの工場を目指します。

更に、スピーキング・リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

テキスト：

特に指定しません。
講義資料プリント配布します。

授業の計画：

- ・テキストを使用してのリーディング、リスニング、ライティング
 - ・用意されたトピックスでのスピーチ練習
1. ガイダンス
 2. レッスン 1 (計 2 回)
 3. レッスン 2 (計 3 回)
 4. レッスン 3 (計 3 回)
 5. レッスン 4 (計 3 回)
 6. テスト
 7. レッスン 5 (計 3 回)
 8. レッスン 6 (計 3 回)
 9. レッスン 7 (計 3 回)
 10. レッスン 8 (計 3 回)
 11. 学期末テスト

履修者へのコメント：

- ・あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい
- ・あらかじめスピーチでのアウトラインをタイ語で書いてきて下さい
- ・診断書なしでの 8 回以上の欠席は認めません

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語 I（初級）

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容：

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト：

プリント使用

授業の計画：

第 1 - 2 回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。

- 第 3 - 7 回 “～は～です”の構文、助詞（格）、副詞、形容詞
- 第 8 - 13 回 動詞（現在・単純過去・超越などの時制）
- 第 14 - 17 回 動詞（伝聞過去・未来などの時制と複合時制）
- 第 18 - 21 回 分詞
- 第 22 - 24 回 動名詞
- 第 25 - 26 回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安とと考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語 II（中級）

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容：

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト：

プリント使用

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読 文学部 教授 野村伸一（春学期）

言語文化研究所 講師 李泰文（秋学期）

授業科目の内容：

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、画像、写真、映像などを解読します。対象とする時代は特に限定しませんが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。一冊の本を選択し講読するかたちになります。

テキスト：

開講時に指定します。

授業の計画：

後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが一点にしほれない場合はこちらから提案します。

履修者へのコメント：

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

カンボジア語 I（初級）

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中、授業後に受け付けます。

ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者を想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者も想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語 I (初級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) — コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計四回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計二回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計二回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計二回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します (計九回)

履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アッカド語 II (中級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容:

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：**講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所 (Institute for Media and Communications Research) は、昭和 21 年 (1946 年) に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年 (1996 年) に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていましたが (当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます)、今日では実習的な側面よりも研究生 (新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます) にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年 (1996 年) には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア (とくにコンピュータ・メディア) をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年 (1999 年) 10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム (MWR)」を開設しました (本格的稼働は平成 12 年 4 月より)。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たなる名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名 (2~4 年生) の教育を行いつつ、新たなる研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たなる歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外 (2 年生以上) でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上

※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成17年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	北田 暁大
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	寫 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	木下和寛・伊藤高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	大石 裕

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ	春2	藤森 研
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅱ	秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	寫 信彦
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ・Ⅳ（メディアのグローバル化と文化市民権）	春2/秋2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎・伊藤高史
三田設置科目	メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	金山智子・菅谷実

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 勉
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 I (春学期) 大石 裕

マス・コミュニケーションと政治

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

授業の計画：

- | | |
|--------|--------------|
| 1回 | コミュニケーションとは |
| 2回 | コミュニケーションの種類 |
| 3-4回 | 大衆社会モデル |
| 5-6回 | 限定効果モデル |
| 7-8回 | 強力効果モデル |
| 9-10回 | 批判モデル |
| 11-12回 | ジャーナリズム論再考 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。
- ・レポートによる評価。

マス・コミュニケーション論 II (秋学期) 大石 裕

ジャーナリズムとメディア言説

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房：近刊）

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・小川浩一編『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版

授業の計画：

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1-2回 | マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論 |
| 3回 | アジェンダ設定とメディアとしての新聞 |
| 4回 | 日本のジャーナリズム論の理想的課題 |
| 5-6回 | ニュース分析の視点 |
| 7-8回 | 客観報道論再考 |
| 9-10回 | 集合的記憶とマス・メディア |
| 11-12回 | メディア・イベントの政治学 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

マス・コミュニケーション発達史 I (春学期) 大井 眞 二

近代化の位相とマス・コミュニケーション

授業科目の内容：

- 日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本

の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったのかを考察する。

テキスト：

- 特に指定しない。
- 適宜資料を配布する。

参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- 近代メディア空間
(瓦版、ニュースシート、福沢諭吉の新聞観など)
- 明治初期の言語政策：奨励策
(御用新聞、買い上げ政策、新聞縦覧所など)
- 民権運動と言語政策の転換
(新聞紙条例、讒謗律など)
- 独立紙の位相
(時事新報、国民、日本など)
- 大衆紙の成立と日本的ジャーナリズム
(報道新聞、万朝報、二六新報など)

履修者へのコメント：

- 日本の近代史のある程度の知識が必要となるので、留意されたい。

成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

質問・相談：

- 授業終了後に受け付ける。

マス・コミュニケーション発達史 II (秋学期) 大井 眞 二

デモクラシーとマス・メディア

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

- 講義の際に指示する。

参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- 帝国と植民地
(コミュニケーションの機能、言論空間など)
- 国家建設とメディア
(憲法修正第一条、建国の父たちのメディア論など)
- 政党紙と大衆紙
(フェデラリスツ、リパブリカンズ、ベニープレスなど)
- 公共圏とメディア
(ハーバーマス、市民社会、パブリックサービスなど)
- 革新主義のジャーナリズム論
(革新主義、マックレーキング、プロフェッショナルリズムなど)

履修者へのコメント：

- マス・コミュニケーション発達史 I (春学期) の履修。

成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

国際コミュニケーション論 I (春学期) 伊藤 英一

グローバル化とメディア

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓から見た景色とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球から見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

参考書：

- ・福沢諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

授業の計画：

- (1) 地球と世界地図
- (2) 国際コミュニケーション論の理論的傾向
- (3) グローバル化とメディア／コミュニケーション
- (4) フランス革命と情報インフラ
- (5) 大英帝国と情報通信
- (6) ロスチャイルドの築くネットワーク
- (7) ロイター通信の創業からサバイバルまで
- (8) 福沢諭吉の『伝信』事情から、日本海海戦まで（2005年5月27日海戦100周年）
- (9) アパ通信 vs. ロイター通信
- (10) ヴェネチア映画祭 vs. カンヌ映画祭
- (11) バルム・ドール vs. オスカー賞
- (12) CNN vs. Al Jazeera
- (13) コミュニケーションの本質

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 II (秋学期) 伊藤 英一

国境を越えるコミュニケーション

授業科目の内容：

21世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

その都度、配布します。

参考書：

福沢諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

授業の計画：

- (1) メディアとコミュニケーション
- (2) 国際コミュニケーション論と6つの潮流
- (3) 福沢諭吉の文明論とメディア・コミュニケーション

- (4) ルパート・マードックのメディア・ビジネス観
- (5) “Trust me, I’m British” — BBCの信頼性
- (6) カナダのバランス感覚
- (7) 米国とグローバル・×××××
- (8) フランスのコミュニケーション戦略
- (9) CNN vs. Fox
- (10) 米国と中近東のメディア地図
- (11) ハリウッド vs. アジア — 映画産業
- (12) 情報の流れに抗して — GPS vs. ガリレオ計画
- (13) 国際コミュニケーションを俯瞰する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

メディア社会論 I (春学期) 北田 暁大

授業科目の内容：

1970年代以降の若者文化・サブカルチャーとメディアとの関係史を考察する。

併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャーとメディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境（映画、電話など）にも論及する予定。

テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) メディア文化と若者文化の現在（3回）
- (3) 70年代と「メディアの思想」（3回）
- (4) メディアアイロニズムの生成 — 80年代とテレビ（3回）
- (5) 「メディア論」の視座 — マクルーハンからキットラーへ（3回）

成績評価方法：

試験の結果による評価。

質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

メディア社会論 II (秋学期) 北田 暁大

授業科目の内容：

1980年代～現在に至る若者文化・サブカルチャーの変容とメディア文化変容の関係史を考察する。併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャー／メディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境にも論及する予定。

テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) アイロニズムの変容 80年代から90年代へ (3回)
- (3) インターネットの政治社会学 (3回)
- (4) メディアとしての都市空間 「渋谷」と「秋葉原」 (3回)
- (5) 「メディア論」の射程 (3回)

履修者へのコメント：

「メディア社会論 I」と併せて受講して欲しい。

成績評価方法：

試験の結果による評価。

質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

情報の発信・受信の自由と規律

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナル・コミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

授業の計画：

- (1) イントロダクション (1回)
- (2) メディア関連法の体系と系譜 (計2回)
- (3) 言論の自由、思想の市場、二重の基準論など (計2回)
- (4) 名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害、猥褻情報など (計4回)
- (5) 情報公開、アクセス権、マスメディアの特権など (計4回)

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

成績評価方法：

レポート及び平常点

質問・相談：

hayashi@iisec.ac.jp まで

情報の発信・受信の自由と規律

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マスコミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナルコミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

授業の計画：

- (1) 情報メディア基本法 (1回)
- (2) 資源配分規律法 (2回)
- (3) 設備・サービス規律法 (計3回)
- (4) コンテンツ規律法 (1回)
- (5) 事業主体法・規制機関法・産業支援法 (合わせて1回)
- (6) デジタル環境整備法 (1回)
- (7) ケーススタディ (計3回)
- (8) 解釈論と立法論 (1回)

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

成績評価方法：

レポート及び平常点

質問・相談：

hayashi@iisec.ac.jp まで

記事作成の論理と実習

授業科目の内容：

メディアリテラシーを高めるため、記事に求められる倫理や、新聞記事や雑誌記事の構造などについて、記事の模擬執筆の実習を行いつつ講義する。実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論（後期）と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

テキスト：

花田達朗ニューズラボ研究会『実践ジャーナリスト養成講座』（平凡社、2004年、2,200円）

参考書：

澤田昭夫『論文の書き方』（講談社、1977年、480円）

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 記者の倫理 (計2回)
- (3) ストレートニュース記事の形式について (計4回)
- (4) 誤報とニュースソースの問題について (計3回)
- (5) 情報公開制度 (計2回)
- (6) まとめ

履修者へのコメント：

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論（後期）と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

成績評価方法：

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

表現の自由と社会理論

授業科目の内容：

ジャーナリズム論 I の内容をふまえて、ジャーナリズムを理論的、法律的に考える。講義形式での授業を考えているが、随時、作業をしてもらいながら理解を深めてもらうつもりである。そのため、遅刻は認めない。成績は平常点でつける予定だが、出席者の人数によって変更する可能性がある。

参考書：

山田健太『法とジャーナリズム』（学陽書房、2004年、3,000円）

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) マスメディア産業概論 (計4回)
- (3) 社会理論とジャーナリズム (計2回)
- (4) ジャーナリズムの法律的問題 (計5回)
- (5) まとめ

履修者へのコメント：

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

成績評価方法：

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

世論の機能と形成メカニズム

授業科目の内容：

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

参考書：

使用しません／随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口コミ）
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

世論Ⅱ（秋学期）	小川恒夫
----------	------

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、①どのような性格が争点か、②誰によって、③どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、④なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、⑤どのような社会的問題が発生し、⑥それに対する対策の可能性、を順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理念的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

授業の計画：

- (14) ガイダンス
- (15) 戦争報道と世論
- (16) 犯罪報道と世論
- (17) 科学報道と世論
- (18) 経済報道と世論
- (19) 海外報道と世論
- (20) 民族間報道と世論
- (21) 政治報道と世論
- (22) 法的規制の危険性と可能性
- (23) ジャーナリスト教育と、メディアリテラシー教育の可能性
- (24) オンブズマン制度の可能性
- (25) 残された課題
- (26) 全体のまとめ（質問受付）

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

情報行動論Ⅰ（春学期）	福田充
-------------	-----

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容

に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎論である。

テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：情報行動とは何か
- (2) 情報行動論の理論と思想
- (3) 社会調査から見える情報行動
- (4) 情報リテラシーとメディアリテラシー
- (5) 現代の情報環境・環境化する情報
- (6) 職場の情報行動と家庭の情報行動
- (7) メディアと情報行動：①映像メディア
- (8) メディアと情報行動：②音声メディア
- (9) メディアと情報行動：③活字メディア
- (10) メディアと情報行動：④通信メディア
- (11) メディアと情報行動：⑤ゲームメディア
- (12) 情報行動の変容と人間心理
- (13) 情報行動の理論的総括

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）。

・学期末レポートによる評価。

質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

情報行動論Ⅱ（秋学期）	福田充
-------------	-----

ユビキタス社会における情報行動の変容

授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：現代の情報行動の特性とは
- (2) デジタル化がもたらす情報行動の変容
- (3) 多チャンネル化とチャンネルレポートリー
- (4) ネットワーク・コミュニティにおける情報行動
- (5) CMCの諸問題
- (6) バーチャル・リアリティと情報行動
- (7) モバイルコミュニケーション
- (8) 同時並行的情報行動（ながら利用とダブルスクリーン）
- (9) ユビキタス社会と情報行動
- (10) GISとハイパー監視社会
- (11) デジタル・ディバイドがもたらす諸問題
- (12) ロボティクスと情報行動
- (13) 情報行動とは何か

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思

想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

異文化間コミュニケーション（秋学期） 浅井 亜紀子

授業科目の内容：

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

参考書：

- 箕裏康子『子供の異文化体験』思索社
- その他 授業中に指示。

授業の計画：

- (1) 授業内容説明、異文化間コミュニケーションの背景、文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化（計2回）
- (4) イメージとステレオタイプ（計2回）
- (5) 言語コミュニケーション（計2回）
- (6) 非言語コミュニケーション（計2回）
- (7) 異文化適応（計3回）

履修者へのコメント：

海外経験に関心のある学生、異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

15分以上の遅刻は欠席とします。

成績評価方法：

- 授業出席・参加度 30%（3分の1以上の欠席者には単位を出さない）
- 小レポート類 30%
- 期末テスト 40%

メディア文化論Ⅰ（春学期） 高 信彦

授業科目の内容：

テレビ、新聞、ラジオなど各種メディアの相違と影響力を具体的事例で検証し、毎週発生するニュースについて情報の読み解き方を講義。ジャーナリズム40年の体験に基づき、学生たちに構想力、考える力をつけてもらう。

テキスト：

講義資料プリントを配布。

参考書：

高信彦『ニュースキャスターたちの24時間』（講談社α文庫）ほか

授業の計画：

- 各種メディアの特質とその影響（テレビ、新聞等）を直近の事例から具体的に検証
- メディア報道の変質と政治的社会的影響
- テレビ、新聞、ラジオ制作等の舞台裏とその体験論
- メディア・リテラシーの重要性
- 情報の読み方と自らの構想力、表現力の向上訓練
- 海外メディアの情報戦略競争
- <http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/> を参照
- 主な講義内容
テレビ報道史、メディアの表現法、21Cのメディア、鳥の目と虫の目、情報の分析法、情報収集法、現場主義の意味、世論の作られ方、歴史の定点観測と時代の読み方、文化的視点、自分軸の持ち方、権力・人権問題との距離のとり方—ほか

履修者へのコメント：

情報の読み解き方を通じて「考える力」をもちたい学生を期待。自己表現力を高めるための意見表明や小感想文を提出。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用を認めず。

成績評価方法：

毎回の授業課題について提出する小感想文（200～400字程度）と授業内試験により評価。

質問・相談：

メディアの制作現場の視察などに応ずる。

メディア文化論Ⅱ（秋学期） 白水 繁彦

メディアのイメージ形成力：モノ、観光地、集団のイメージ形成

授業科目の内容：

この授業では実際の映画や番組、広告、広報ビデオを分析しながら送り手の意図を読み解き、送り手にとっても受け手にとっても重要なメディアリテラシーの能力を高めます。

テキスト：

なし（パワーポイントなどで画像、テキストなどを提示します。）

参考書：

授業中に指示します。

授業の計画：

- 第1回 メディアの機能、擬似環境についての理論
- 第2回 同上
- 第3回 ハワイの観光地イメージの形成とメディア、観光産業（～第4回）
- 第5回 広告とイメージ形成 広告の理論
- 第6回 広告とイメージ形成 説得的コミュニケーションの理論
- 第7回 感性に訴える広告の手法とその分析法
- 第8回 ワークショップ（実際の広告を見ながら分析してみる）
- 第9回 各自の分析の報告
- 第10回 受け手の分析 マーケットのとりえ方
- 第11回 広報の手法
- 第12回 広報の分析
- 第13回 まとめ

履修者へのコメント：

画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

成績評価方法：

基本的に、何回か書いてもらうレポートや授業中の小作文をもとに評価します。

質問・相談：

授業の後や e-mail で受け付けます。

メディア産業と政策Ⅰ（春学期） 菅谷 実

映像コンテンツ産業論

授業科目の内容：

前半は映像コンテンツ産業を理解するために必要な基礎理論。後半は同産業の歴史および各国の映画産業構造、振興策などの比較検討をおこなう。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

授業の計画：

- オリエンテーション (1)
- I 基礎理論 (5)
 - (1) ネットワーク理論
 - (2) ウィンドウ戦略
 - (3) メディア融合
- II 映像コンテンツ産業 (6)
 - (4) 映像コンテンツと映画
 - (5) 映画産業の発展
 - (6) 映像振興政策（欧州、米国、日本）

Ⅲ まとめ (1)

(7) メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業に興味のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

メディア産業と政策Ⅱ (秋学期)

菅谷 実

メディアの融合と制度変容

授業科目の内容：

前半は、ネットワーク産業の基礎理論と電子メディア産業の生成を紹介する。後半は、ネットワーク技術の変容が制度と産業構造に与えてきた影響を米国、日本などの具体的事例から学ぶ。

参考書：

菅谷実『アメリカのメディア産業政策』中央経済社、1997年

授業の計画：

オリエンテーション (1)

I 総論 (4)

- (1) ネットワーク理論
- (2) 電子メディア産業の生成

II 各論 (7)

- (3) 放送政策理念、ローカリズム原則とあまねく原則
- (4) 通信政策におけるユニバーサル・サービス
- (5) 放送内容規制
- (6) ケーブル・テレビ産業の発展と社会的ステータス
- (7) インターネット・ガバナンス
- (8) メディア融合
- (9) デジタル・コンテンツ

Ⅲ まとめ (1)

履修者へのコメント：

メディアの産業構造、制度に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

期末テスト。

情報産業論Ⅰ (春学期)

宿南 達志郎

メディア産業概論

授業科目の内容：

メディア産業について、産業、企業、利用者などの観点から、これまでの発展の経緯と今後の課題などについて概要を学びます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・電通総研編『情報メディア白書2004』ダイヤモンド社、2004年
・総務省編『情報通信白書 平成16年度』ぎょうせい、2004年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) メディア産業の歴史 (2回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界 (2回)
 - 通信業界 (2回)
 - 放送業界 (2回)
 - 新聞業界 (1回)
 - 出版業界 (1回)
 - 音楽業界 (1回)
- (4) まとめ (1回)

履修者へのコメント：

メディア産業に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

情報産業論Ⅱ (秋学期)

宿南 達志郎

インターネットビジネス論

授業科目の内容：

インターネットが伝統的ビジネスにどのような影響を与えてきたか、インターネットによる新たなビジネスモデルはどのように発展しているかを学びます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・(財)インターネット協会(編著)『インターネット白書2004』インプレス、2004年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム—インターネット・ビジネスモデル』共立出版、2004年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) インターネットの歴史 (2回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの変化 (3回)
 - 金融業界
 - 流通業界
 - 旅行業界
- (4) インターネットビジネスの企業研究 (7回)
 - Amazon
 - Yahoo
 - eBay
 - Dell
 - 楽天
 - 松井証券
 - アスクル
- (5) まとめ (1回)

履修者へのコメント：

インターネットビジネスによる起業あるいは就職を考えている人を歓迎します。

成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

ジャーナリズム総合講座Ⅰ (春学期)

木下 和寛

伊藤 高史

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度前期の授業概要は以下のとおり。

- (1) オリエンテーション
- (2) 新聞業界とは何か
- (3) 必要とされる人材と育成について
- (4) 文章作法
- (5) 社論の形成
- (6) 現場からの報告
- (7) 政治記者の仕事
- (8) テーマ解説「私の外務省論」
- (9) 社会部記者の仕事
- (10) テーマ解説「報道と人権」
- (11) 国際報道の仕事
- (12) テーマ解説「私のアメリカ論」

(13) 調査報道の原点

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

成績評価方法：

平常点とレポート。

ジャーナリズム総合講座 II (秋学期)

木下和寛
伊藤高史

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されているの方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度後期の授業概要は以下のとおり。

- (1) リポート講評
- (2) 経済部記者の仕事
- (3) テーマ解説「私の日本経済論」
- (4) 科学記者の仕事
- (5) 新しいメディアの開発
- (6) 新聞とテレビ
- (7) スポーツ記者の仕事
- (8) 整理部記者の仕事
- (9) 雑誌作りの仕事・知識人論
- (10) 校閲記者の仕事
- (11) 映像部記者の仕事
- (12) 自由討論・レポート提出

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

成績評価方法：

平常点とレポート。

マス・コミュニケーション論 I (春学期) (日吉)

川端美樹

マス・コミュニケーションと社会

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

- (1) マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
- (2) マス・コミュニケーションの発達と社会
- (3) マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学 I (春学期) (日吉)

萩原 滋

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜、指示する。

授業の計画：

- ガイダンス (1回)
- 社会心理学の研究方法 (1回)
- 社会的認知の研究領域概観 (1回)
- 印象形成の古典の実験 (1回)
- 帰属理論と実証的研究 (3回)
- 認知的一貫性の諸理論 (1回)
- 認知的不協和理論と実証的研究 (3回)
- 対人行動の基礎 (2回)

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

社会心理学 II (秋学期) (日吉)

萩原 滋

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

秋学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜、指示する。

授業の計画：

- 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション (1回)
- 説得的コミュニケーションと態度変容 (2回)
- 説得の技法 (1回)
- テレビのメディア特性 (1回)
- 日本におけるテレビ放送小史 (1回)
- テレビの社会的影響概観 (1回)
- テレビの視聴効果 (1)：暴力や反社会的行動への影響 (3回)
- テレビの視聴効果 (2)：現実の社会認識への影響 (3回)

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

【研究会】

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 萩原 滋

メディアと社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

萩原滋・国広陽子編著(2004)『テレビと外国イメージメディア・ステレオタイプ研究』, 勁草書房
(もう1冊, 概論書のようなものを追加する予定)

参考書：

特になし

授業の計画：

(1) 春学期

まず昨年度からの在籍者(2, 3年生)を中心に、昨年度の研究成果の発表を行う。(計3回)

その後はテキストを全員で輪読する。(計10回)

夏休み中の合宿で新入生の研究テーマ、関連論文の発表を行う。

(2) 秋学期

2, 3年生を中心に毎回数名ずつ研究発表を行う。(10回)

4年生の修了論文の中間報告を行う。(3回)

履修者へのコメント：

研究会の運営の仕方は、履修者数によって変わらざるを得ないが、各自が自由にテーマを選んで発表する自由研究、個人研究のスタイルが定着してきている。履修者の希望があれば何らかの形で共同研究を行うこともありうるが、本研究会では個人研究を基本とすることにした。

成績評価方法：

研究会の場での発表や積極性などの平常点、出席率に基づく。ただし三田祭や年度末にレポートの提出を求めることになるので、その評価も加味される。

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 菅谷 実

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディアの産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究(2004年度は、「メディアとスポーツ」)、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ(www.mediacom.keio.ac.jp)を参照のこと。

授業の計画：

(1) 春学期

2・3年：ゼミ員の発表形式により、共同研究に必要な基礎知識を学習する

4年：夏合宿での中間発表に向けた修了論文の準備

(2) 秋学期

2・3年：三田祭共同研究発表にむけて、グループ単位の調査・研究活動

4年：終了論文の作成

なお、授業計画の詳細については、春学期の第1回目の授業時に紹

介するので、受講希望者は1回目の授業に出席すること

成績評価方法：

平常点による採点

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 宿南 達志郎

情報メディアの発展に関する研究

授業科目の内容：

メディアの進化について研究します。インターネット、ケータイ、デジタル放送などにより、メディアがどのように変容し、メディア産業がどのように発展しているのかを実証的に研究します。

テキスト：

・情報通信総合研究所(編著)『情報通信アウトック2005』NTT出版, 2005年

・塚本潔『ドコモとau』光文社新書, 2004年

参考書：

・総務省(編)『情報通信白書 平成16年版』ぎょうせい, 2004年

・林紘一郎『電子情報通信産業』コロナ社, 2002年

授業の計画：

「メディアの連携・融合に関する研究」をテーマとする。ブロードバンドサービス、とりわけ光サービスによる映像配信、携帯における音楽配信、デジタル放送における双方向サービスなどについて、産業政策、経営学、社会学の観点から研究を行う。

春学期は、メディア産業の動向についての概要を研究し、秋学期は、個別企業の経営戦略(NHK, NTT, KDDIなど)を詳細に研究する。

履修者へのコメント：

マスメディア、携帯電話、ブロードバンドなどメディアの電子化に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・授業出席、研究会活動への貢献度で評価します。

・研究会IVは修了論文で評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越しください。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 金山 智子

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する。

授業科目の内容：

今日、私達を取り巻くメディア・コミュニケーション環境は情報・通信技術の発達により、ますます多様化、複雑化しながら拡張を続けています。印刷技術、無線技術、ラジオ、テレビ、コンピュータ、インターネット、そして携帯電話など、メディア・コミュニケーション技術の普及と社会との関係はますます強まり、これらの技術が私達の生活にとって不可欠なものになっているのが現実です。このような中、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで、メディア・コミュニケーションに関わる学術的な考察が求められていると言えるでしょう。メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて、本研究会では、グループや個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。また、研究会では、理論的な考察だけでなく、社会の一線でメディア・コミュニケーションの活動やイベントに関わる人々の実践を積極的に取り込むことを奨励しています。これに関連して、メディア業界で活躍している方々をゲストに迎え、メディアと社会・文化について、現場の生の声を聞き、また意見交換会を開催します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

適宜関連文献資料やウェブサイトを指示します。

授業の計画：

春学期は、個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定、調査実施、データ分析、報告、そして発表といった一連の研究プロセスを、担当教員との個別コンサルティングなども交え

ながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるよう指導します。夏から秋学期に調査を実施し、研究成果を三田祭で発表してもらいます。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導する予定です。

《春学期》

研究するということ

研究ステップ1：研究テーマ

研究ステップ2：文献調査

研究ステップ3：研究課題または仮定の設定

研究ステップ4：調査方法

研究ステップ5：研究計画書

《秋学期予定》

研究ステップ6：調査の実施

研究ステップ7：調査結果の分析

研究ステップ8：調査報告書の作成

研究ステップ9：研究発表（三田祭）4年生修了論文発表

成績評価方法：

出席、レポート、研究論文を総合して評価します。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 高史

ジャーナリズムと「表現の自由」

授業科目の内容：

ジャーナリズムと「表現の自由」をテーマにしたゼミナール形式の授業です。まずは、ジャーナリズム関連の書籍を輪読し、ある程度、理解の共通化を図ります。夏前からは、学生自身にテーマを設定してもらい、三田祭への発表を目指して、研究発表などを行っていきます。秋は、三田祭発表に向けて学習を進めてもらい、その後は、修了論文にむけた研究発表をしてもらいます。なお、昨年は三田祭発表に取材を取り入れました。今年も同様のスタイルにしたいと考えています。

テキスト：

なし（授業中に指定します）

参考書：

なし（授業中に指定します）

授業の計画：

- （1） オリエンテーション
- （2）～（8） 指定したテキストの輪読
- （9）～（17） 三田祭に向けた研究発表
- （18）～（26） 修了論文に向けた研究発表

履修者へのコメント：

履修を考えている学生は、平成16年度に履修した学生からよく話を聞いておくとういでしょう。

成績評価方法：

平常点

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 陽一

情報化と近代化

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年

参考書：

- ・秋山哲『本と新聞の情報革命』ミネルヴァ書房、2003年
- ・金原左門『近代化』論の転回と歴史叙述』中央大学出版部、1999年

授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②
- 第4回 以降については未定部分が多いが、特に何も無い時は指

定された本の輪読・講読を行う。

履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。

成績評価方法：

- ・三田祭参加論文
- ・学期末レポート
- ・平常点（出席、授業における発言の頻度と質）

質問・相談：

随時受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 大石 裕

ジャーナリズムを考える

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

〔前期〕

- 1～2回 基本的な文献の講読。
- 3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

- 1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議
- 11～13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

【特殊研究】

放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 安倍 宏行

テレビニュースは何が出来るか？

授業科目の内容：

テレビニュースはどう制作されているのか。テレビ報道記者はどう取材しているのか。記者、特派員、キャスターの経験から、テレビニュースの問題点とその在り方を考察する。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- | | | |
|----|--------|------------------------------|
| 前期 | 1～2回 | ガイダンス・テレビニュースと新聞の違い |
| | 3～4回 | ニュース番組はどうオンエアされているのか（テレビ局見学） |
| | 5～6回 | テレビ記者の仕事—取材の実態 |
| | 7回 | 特派員の仕事 |
| | 8回 | キャスターの仕事 |
| | 9回 | プロデューサー、PD、ディレクターの仕事 |
| | 10～11回 | ニュース原稿の書き方・実践 |
| | 12～13回 | ニュース制作・実践—リポート制作・発表 |
| 後期 | 1～2回 | 視聴率とやらせ |
| | 3～4回 | 政治報道・選挙報道の問題点 |
| | 5～6回 | 戦取材の問題点 |
| | 7～8回 | 人権侵害と報道倫理 |
| | 9回 | テレビ報道の危機管理 |
| | 10回 | 検証報道の実態 |

11回 テレビジャーナリズムの今後

12～13回 企画制作実践・発表

履修者へのコメント：

将来、テレビ報道記者になりたい人、ニュース番組制作に関わりたい人を歓迎します。

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加状況による評価）

新聞特殊講義 I（春学期）

藤 森 研

「ニュース」はどうつくられるのか

授業科目の内容：

新聞は日々、どのようにつくられているのかを実践的に解説し、その限界や意義、ジャーナリズムとは何かを学びます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・『市民社会とメディア』（リベルタ出版、2000年、原寿雄編）
- ・『報道の自由と人権救済』（明石書店、2001年、原寿雄・田島泰彦編）

授業の計画：

その時々のニュースや、戦前からの新聞記事を題材に、下記のようなテーマを考えます。

- ・新聞は、なぜ必要なのか
- ・記者の失敗とスクープ
- ・社説の生理
- ・戦争と新聞
- ・プライバシー、個人情報と新聞・メディア
- ・人権と新聞（たとえばハンセン病報道の影と光と、空白）
- ・天皇報道と戦後社会
- ・憲法と新聞と社会

履修者へのコメント：

メディアだけでなく、戦後社会に関心のある学生の参加を期待します。

成績評価方法：

平常点とレポート

新聞特殊講義 II（秋学期）

河 原 理 子

取材する側と、取材される側

授業科目の内容：

現在と過去の、主な記事の各紙比較に触れながら、記者の仕事、新聞をどう作るかを解説します。取材する側と取材される側の関係、取材して正確に書く上で大切なこと、新聞の限界と社会的意義について学びます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『新聞力』（東京新聞出版局、青木彰）
- ・『「犯罪被害者」が変える報道』（岩波書店、高橋シズエ・河原理子）

授業の計画：

松本サリン事件やその時々のニュースを題材に、下記のようなテーマを考えます。取材される側の視点、情報を得る側の視点からも、より良い報道を探ることを目標にします。

また、記者は生身の人間に接する職業であり、信頼関係が基本です。人の話を聞く基本を学んだら、できればゲストを招いて話を聞きます。何を準備して、どう聞くのか、自ら考えてください。

- ・「事実」と「真実」
- ・取材相手との距離～「権力」の監視
- ・速報と長期的な報道
- ・過去の新聞を読む（だれの視点から書いているか）記者の視点と差別
- ・意味ある「スクープ」とは？
- ・プライバシーと公益
- ・報道被害とその対応
- ・声なき者に声を～被害者の取材と報道

・「広場」としての新聞

履修者へのコメント：

日々の新聞を、ざっとでも読んでいることを、授業の前提にします。

成績評価方法：

平常点とレポート

広告特殊講義 I・II（春学期・秋学期）

吉 田 望

広告とブランドづくり

授業科目の内容：

ブランドについて語ります。日本型ブランド。ブランドと広告。広告産業の成り立ち。

参考書：

- ・「ブランドI」宣伝会議社
- ・「ブランドII」宣伝会議社

授業の計画：

ガイダンス（自己紹介・自分のあだ名を考える）

ブランド概論

- 好きな雑誌の商品広告を持ってくる。

広告概論

- 新しい商品ブランドを考えてみる（グループ別・ケーススタディ実習）

広告産業概論

- 付録 秘録元電通調査部長

様子を見て一～二回宴会をやりたいと思っています。

履修者へのコメント：

ブランド＝（計算＋志）×驚きです。計算か志か驚きのある人を期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・（出席状況および授業態度による評価）

メディア特殊講義 I（春学期）

境 真 良

デジタルコンテンツの経済学へ～技術、制度、社会心理～

授業科目の内容：

コンテンツの産業現象を、消費心理学、産業心理学を踏まえつつ、経済学的視点から考察していきます。最終的にiTMSや2ちゃんFLASH祭りを始めとしたデジタルコンテンツを巡る様々な活動が今後果たすべき役割を考えていきます。

テキスト：

初回講義時に資料集を配布する他、各回講義時に適宜資料を配布します。

参考書：

- ・『図解でわかるコンテンツビジネス』（2002、日本能率協会マネジメントセンター）
- ・『映像コンテンツ産業論』（2002、丸善）
- ・『動物化するポストモダン』（2001、講談社）

授業の計画：

- (1) 商品としてのデジタルのコンテンツ
～コンテンツ産業史の視点から～
- (2) 文化的価値と経済的価値
～コンテンツと政策を翻弄する二元論～
- (3) デジタルコンテンツの産業と政策
～基礎知識として、映画を例にして～
- (4) 再生産を支える産業基盤
～知的財産制度の矛盾と補完の方向性～
- (5) コンテンツ産業のビジネスモデル
～メジャーとインディーズ～
- (6) デジタルネットワーク流通を巡る力学を解析する
～音楽、映像、ゲーム～
- (7) デジタル環境のコンテンツ産業はどこへ行く

履修者へのコメント：

授業では、アイドルビジネス、キャラクタービジネスについて多くふれます。アイドルやキャラクター、音楽、映画、漫画などに造

詣の深い諸君と一緒に現在進行形の産業現象を議論していきたいと思えます。

成績評価方法：

レポートによる評価を中心とします。

メディア特殊講義 II (秋学期)

畠 信 彦

テレビ・新聞などメディアの現場の現実と問題点を検証

授業科目の内容：

毎週発生しているニュースのTV、新聞報道の裏側と本質を見抜く力をつけるよう講義したい。学生同士のディベート、グループ研究及び実地体験なども踏まえて学び、情報の解明力をつける。

テキスト：

プリント、毎日の新聞、TV 報道。

参考書：

畠信彦『ニュースキャスターたちの 24 時間』（講談社 α 文庫）ほか、畠の H.P.

授業の計画：

- 前期のメディア文化論がある程度前提にしたうえで、毎週発生する政治、経済、国際情勢、社会事件などについて、各メディアの報じ方と読み解き方を学生と一緒に論じあう。
- この過程で、人権、差別、送り手側のメディア戦略、テレビや新聞などの制作現場の実情、やらせ、権力の介入、視聴率主義、報道・論説姿勢の形成のあり方、経営・広告と報道の相克、メディアの歴史と闘い、表現の自由、取材のあり方、など諸問題を考える。現場で仕事をしているキャスター、記者などもきってもらう予定。
- 実際の取材、制作なども考慮。

履修者へのコメント：

- ・毎回、小感想文（200～400 字程度）を提出。
- ・意見表明、グループ討議などを随時行なう。
- ・受講の際には基本的マナー、品性を大事にすること。

成績評価方法：

小感想文を主とし、授業内試験も期末に実施

質問・相談：

- ・現場視察、ジャーナリズム研究などの相談に応ずる。
- ・ <http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/>

特殊研究 I・II (春学期・秋学期)

小 川 浩 一

日本の近代化とマス・メディア

授業科目の内容：

明治維新後の日本が近代化を目標とした中で、その一翼を担ったマス・メディアのあり方と、戦後の近代化を担ったマス・メディアがいずれも、大政翼賛的存在となり、体制側となっていた事情を批判的に考察したい。

授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2～4 明治維新と近代社会
- 5～8 明治期新聞と言論人の背景
- 9～12 国民社会とマス・メディア
- 13～16 戦後日本社会と民主化
- 17～20 近代化としての民主化とマス・メディア
- 21～24 大衆社会とメディアのポピュリズム
- 25～26 まとめ

履修者へのコメント：

基本的に演習形式で行います。日常的に乱読の姿勢を保持することを期待します。

成績評価方法：

平常点及びレポート

特殊研究 III (春学期)

岩 淵 功 一

メディアのグローバル化と文化市民権

授業科目の内容：

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

テキスト：

- 毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。
- ・伊藤守（編）『メディア文化の権力作用』（セリカ書房）
- ・岩淵功一・多田治・田仲康博（編）『沖縄に立ちすくむ』（セリカ書房）

参考書：

クラスにて指示する。

授業の計画：

前期は主に、日本における多様な社会的・文化的背景を持つ集団・人々の存在と関心がメディアをとおしてどのように表現されているのか（あるいは、いないのか）を具体的に検証する。授業内容の詳細は最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

履修者へのコメント：

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

成績評価方法：

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

特殊研究 IV (秋学期)

岩 淵 功 一

メディアのグローバル化と文化市民権

授業科目の内容：

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

テキスト：

- 毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。
- ・岩淵功一『トランスナショナル・ジャパン』（岩波書店）
- ・毛利嘉孝（編）『日式韓流』（セリカ書房）

参考書：

クラスにて指示する。

授業の計画：

後期は主に、メディア文化をとおして、どのような国境を越えるつながりや対話が生まれているのかについて、東アジア地域を中心に具体的に検証する。授業内容の詳細は、最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

履修者へのコメント：

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

成績評価方法：

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

メディア産業実習 I・II (春学期・秋学期)

宿 南 達志郎

伊 藤 高 史

インターンシップ

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習 II に登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

- (1) 春学期
オリエンテーション
産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ（春学期・秋学期） 金 山 智 子 菅 谷 実

インターンシップ

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅳを登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅲを履修し本年度Ⅳを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 小 林 雅 一

英語で学ぶ世界情勢

授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
 - (2) 国際報道を読む
 - (3) 経済報道を読む
 - (4) 政治報道を読む
 - (5) 社会報道を読む
 - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下、2～6の繰り返し

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

文章作法Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期）

升 野 龍 男

目から鱗（ウロコ）が落ちる授業です。

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の日撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、その何故に対する仮説（ひょっとしたら、こうではないかな？）を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流ティーチング・メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人であつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキストです。

参考書：

- ・野口悠紀雄著『超文章法（中公新書）』780円
 - ・鹿島茂著『勝つための論文の書き方（文春新書）』700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

〈春学期〉

- (1) 「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階＝目撃・観察法の体得。
 - ① 目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
 - ② 目撃・観察のための方法論＝オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
 - ① VTR、DVD、印刷物、ネットなど、私秘蔵の優良コンテンツを使用した、情報組み立て、表現方法の体得。
 - ② アウトプットした作品の評価方法の取得
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法の体得

〈秋学期〉

- (1) 「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習＝利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法＝自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
 - ① 目撃・観察から「何故」を發する行為の体得＝取材、一步踏みこむ
 - ② 「何故」を解く仮説設定方法の体得＝「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方＝目撃・観察・洞察・発見の重要性和、「謎解き情報設計」の体得

論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。

したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが大好きな人も歓迎します。学期終了時に、驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を発見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を発見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

出席 40%、演習課題 40%、テスト 20%。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

メディア・コミュニケーション実習 I (春学期)

金山 智子

映像を通して伝える。

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と (2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズン (Media Citizen) としての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

参考書：

関連資料を配布します。

授業の計画：

講義は大きく 3 つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツの制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (40%) レポート (20%)

メディア・コミュニケーション実習 II (秋学期)

金山 智子

映像制作を通して理解する。

授業科目の内容：

マスメディアが伝えられないような、身近な世の中の出来事、キャンパス周辺で生活する人々、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問意識をもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、地域社会に還元してゆくことは、大変意義のあることです。出来

上がった作品についての最終評価はもちろんですが、映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちと関り、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスはもっと大切です。授業では、自分たちに身近な話題をテーマに、10 分間のミニ・ドキュメンタリー作品を制作することにより、映像制作におけるコミュニケーションのあり方についての実践を集中的に学びます。また、「撮るもの」と「撮られるもの」といった二分法感覚ではなく、受講生とともに、撮る人と撮られる人が一つになったオムニバス映像コンテンツの制作を実現したいと思います。

テキスト：

特に使いません。

参考書：

関連資料を配布します。

授業の計画：

講義は大きく 2 つの部分から構成されます。

- (1) 映像コンテンツの撮影や編集機材の使用方を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) ドキュメンタリー作品を制作する。
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、編集といった一連の映像制作過程を通して、映像によるコミュニケーションを学びます。また、テーマによっては、制作過程にその問題に関わる人の参加や協力をしてもらいます。

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション実習 I の事前履修が望ましい。また、映像の制作は時間と労力を要するので、授業時間外に自主的な作業が必要となります。

成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (50%) レポート (10%)

電子ネットワーク調査法 I・II (春学期・秋学期) (日吉)

金山 智子

ネットの世界を探究する。

授業科目の内容：

インターネット（ネット）の普及は、人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。多種多様な情報をスピーディに検索・収集する上で、ネットはもはや不可欠なツールと言えるでしょう。また、ネットを活用した調査やマーケティングもますます重要になっています。人々がネット上で繰り広げるコミュニケーション行動や情報行動、ヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを対象とした研究も今後増えていくでしょう。本講義では、主に下記の 4 点を学びます。

- (1) ネットを活用した情報検索・収集方法
- (2) ネットを活用した調査方法
- (3) ネット上のコミュニケーションやメディア内容を対象とした調査
- (4) ウェブを活用した成果発表

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

参考書：

電子ネットワークに関する調査事例及び関連ウェブサイトを指示します。

授業の計画：

春学期では、(1) と (2) に重点をおき、電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。個人（またはグループ）で研究計画書を作成します。

- ・研究テーマの決定
- ・ネットの活用した文献資料の検索・収集
- ・電子ネットワーク調査方法について（優位性や問題点、質問調査、内容分析、参与観察など）

秋学期では、(3) と (4) に焦点をあて、春学期で作成した研究計画書をもとに調査を実施し、ウェブを活用して成果報告を行ってもらいます。

- ・調査の実施
- ・ネットを使って研究成果を報告
- ・ネットの新しい現象や問題についてディスカッション

成績評価方法：

平常点 (20%)，レポート (30%)，および研究報告 (50%) を総合して評価します。

映像コンテンツ制作 I (春学期) (日吉)， 映像コンテンツ制作 II (秋学期) (日吉) 金 山 勉

映像メディア・コミュニケーションの実践

授業科目の内容：

本講座では、映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツの中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考えてもらいます。クラスでは番組制作を編成し、企画提案から番組制作まで、実践について個別に指導します。

テキスト：

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房 (2005 年)

参考書：

授業時に紹介する。

授業の計画：

映像コンテンツ制作実習は基本的に I と II が連動するように計画されています。まず映像コンテンツ制作 I では、映像コンテンツ制作のための基礎能力習得と初歩的な番組制作実践について取り組み、さらに映像コンテンツ制作 II では編集加工された取材コンテンツ映像 (編集 VTR) を活用して、社会情報番組の企画と収録に取り組みます。

全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 I (前期)

- 映像メディア・コミュニケーションへの招待 (2 回)
- 映像コンテンツ加工のための基礎能力習得 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

映像コンテンツ制作 II (後期)

- 映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて (2 回)
- フィールドプロダクションとスタジオプロダクション入門 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 I，および II では、受講生の発想や自主性を最大限尊重します。同時に、制作プロジェクトは受講生間の連携が重要になるため、無断欠席しないよう心がけてください。

成績評価方法：

映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60 パーセント)，出席と平常制作準備活動の評価 (40 パーセント)

質問・相談：

授業終了時，および電子メールで受け付けます。

時事英語 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 小 林 雅 一

英語で学ぶ世界情勢

授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- (1) ガイダンス，序
 - (2) 国際報道を読む
 - (3) 経済報道を読む
 - (4) 政治報道を読む
 - (5) 社会報道を読む
 - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下，2～6 の繰り返し

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

文章作法 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 栗 田 亘

授業科目の内容：

文章を磨き、企業などの競争試験に備える。

参考書：

『書き上手』(栗田亘/五月書房)

授業の計画：

毎週，課題を示し，次週までに 800 字 (400 字詰原稿用紙 2 枚，B5) 以内で文章を書かせる。提出された文章を添削し，受講者の合評のあと，講師が講評する。

秋学期は，授業時間中に，その場で書くトレーニングもおこなう。すべて，社会に出て役に立つ実践的な文章の書き方の練習だ。

履修者へのコメント：

休まずに繰り返し書くことが上達への道。春学期最初の時間に 400 字詰め原稿用紙 (B5 判) を持参すること。

成績評価方法：

毎時間提出する文章の評価

質問・相談：

授業時間内に。

体 育 科 目 〔三田設置〕

(体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、8 科目（テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体现する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 (2 単位) …… 「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位) …… 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位) …… 「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位) …… 「身体活動」実技 P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ …… 週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ …… 夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 7 日（木）1 限および 2 限 522 番教室（西校舎、いずれの時限も同じ内容です。）

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください（制限内容の記載のあるもの）。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重） 視力 検尿 血圧
 胸部X線 ヘルステック 内科（指示された者） 心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9：00～11：00	13：00～15：30	受付時間		9：00～11：00	13：00～15：30
4月8日	金	女子（10時開始）	男子	4月14日	木	女子	男子
9日	土	男子	男子	15日	金	男子	男子
11日	月	男子	女子	16日	土	女子	女子
12日	火	男子	男子	18日	月	男子	女子
13日	水	男子	女子	19日	火	男子	男子

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（金）から14日（木）の12：30から14：00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。
- (ウ) 履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 履修者数の調整

体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

調整結果発表 4月22日（金）

9：00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10：30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、落選した科目については定員に余裕のある体育実技および体育学演習を追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

- * 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

日吉設置科目

受付日時	受付場所
4月25日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 26日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月27日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00(最終日16:00終了)	日吉学事センター 7番窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は、必ず25・26両日中に体育研究所許可証を取得してください。
27日以降は取得できません。

三田設置科目

各授業で行います。

② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実技費用納入科目
アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット

① 実技費用納入日時

4月25日(月)~28日(木) 8:45~17:00

② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター 7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(上級) 堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド
ストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1～3 週: 腕の振り

4～6 週: 身体のバランス

7～10 週: 足捌き (フットワーク)

11～13 週: 総括および戦術

〔雨天時の対応〕

室内講義の場合あり。

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

体育実技 A (テニス)

(初級) 村松 憲

〔授業の目的〕

テニスを楽しむために必要な技術, エチケット, ルールを身につけます。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更

する場合があります。

1～2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3～6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけど基礎を確認したい, という方も歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス)

(中級) 村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。また, エチケット, ルールを再確認します。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1～3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等の基礎的技術の確認と練習

4～6 回目 回転をかけるサービス, 大きく踏み込んで打つボレー, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にする上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔履修者へのコメント〕

このクラスでは, 「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールをだしてくれた場合)」ことが難しい方には初級クラスをおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス)

(初中級) 加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。

3回の技術力テストを行う。

〔雨天時の対応〕

当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (テニス)

(中上級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。

〔雨天時の対応〕

当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装、屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上 (4回)
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解 (4回)
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。
ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔雨天時の対応〕

室内でのパス練習等、個人のレベルアップ。ビデオを用いてフォーメーション等の理解を図る。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

所在地：港区芝5-36-7 札の辻パーキング 2F

JR「田町駅」三田口（西口）、都営地下鉄「三田駅」より徒歩3分

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装とシューズ

〔授業の計画〕

- 1回 ガイダンス
(場所は、銀座 de フットサル 田町スタジアム)
- 2~4回 技術練習とゲーム形式
テーマ：ボールフィーリング・パス&コントロール、シュート。
- 5~8回 戦術練習とゲーム形式
テーマ：3対1, 4対1。
- 9回以後 ゲーム形式
テーマ：チームを固定してのリーグ戦。

〔雨天時の対応〕

ビデオ鑑賞。

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通じて、心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふくため)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

〔授業の計画〕

- 半期前半
- ・合気道基本技
 - ・心が身体を動かす (心身一如)
 - ・正しい姿勢 (自然に安定した姿勢)
 - ・安全な受身と間合い
 - ・日常のコミュニケーションに活かす

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大事な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

※ 春学期と秋学期ではテーマは同じですが内容は異なります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から一歩ずつ進むので、初めての方も安心して学べます。

半期で一通り学ぶことも出来ますが、修得には通年の履修をお奨めします。

合気道（日吉）を履修した方も歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A（弓術）

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリースポーツの授業は、和弓に親しみながら、射法、射術の習得を目標とします。一般にスポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対するものに対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの）。靴下または足袋を必ず持参すること。

〔授業の計画〕

和弓に対する理解をする。

基本の技の習得。

立居振舞いや武道としての礼法、心構えを学びます。

的前で実際に矢を射る行射を通して心のあり方を学びます。

諸道具についての知識を習得します。

経験者については、的前練習を中心に、技術、知識の向上を目指します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A（剣道）

（初心者から有段者まで）

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかり身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）手ぬぐい

※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- | | |
|----------------|----------------------------|
| 1 ガイダンス | 剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎 |
| 2 素振りのバリエーション | 五行の構え 対人的足さばき |
| 3 基本の復習 | 日本剣道形の導入・1 本目 |
| 4 日本剣道形 1～2 本目 | 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方 |
| 5 日本剣道形 1～3 本目 | 基本的な技の打ち方 防具の着け方 |

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 6 日本剣道形 1～4 本目 | 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し |
| 7 日本剣道形 1～5 本目 | 一本打ちの技 |
| 8 日本剣道形 1～6 本目 | 連続技（二・三段打ちの技） 払い技 捲き技 |
| 9 日本剣道形 1～7 本目 | 応じ技（すり上げ技・返し技） |
| 10 日本剣道形 1～7 本目 | 応じ技（抜き技・打ち落とし技） |
| 11 日本剣道形小太刀 1～3 本目 | 出頭技 |
| 12 日本剣道形復習 | 試合規則の確認 試合形式の実践 |
| 13 紅白試合 | まとめ |

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

E-mail: yytaisho@hc.cc.keio.ac.jp まで

体育実技 A（柔道）

（初心者、経験者を問わない～男女共習）

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。

更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）。
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）。
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）。
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

〈個人種目〉

体育実技 A（ダンス）

「ボールルームダンス」（入門及び初級）

篠原 しげ子

〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり、組んで踊るので相手の動きも理解し、協力して動けるようになる。

【実施場所】

綱町グランド 武道館 (剣道場)

【定員】

男性 10 名 女性 10 名

【授業の計画】

金曜 2 春・入門 (スタンダード) 金曜 2 秋・入門 (ラテン)

金曜 3 春・初級タンゴ 金曜 3 秋 初級ワルツ

入門 (ラテン)・ジルバ ルンバ チャチャチャ

入門 (スタンダード)・ブルース ワルツ タンゴ

の三種目の基礎を身につけるためにそれぞれ 3~4 週ずつ行う。

初級・ワルツ タンゴ

それぞれの種目のベーシックフィギュアを半期通して行う。

1~3 週 種目の特徴・リズム 姿勢 ホールドを理解する。

4~8 週 数種類のフィギュアを繋げて踊る。

9~12 週 更にフィギュアの数を増やすと共に正確な踊りを目指す。

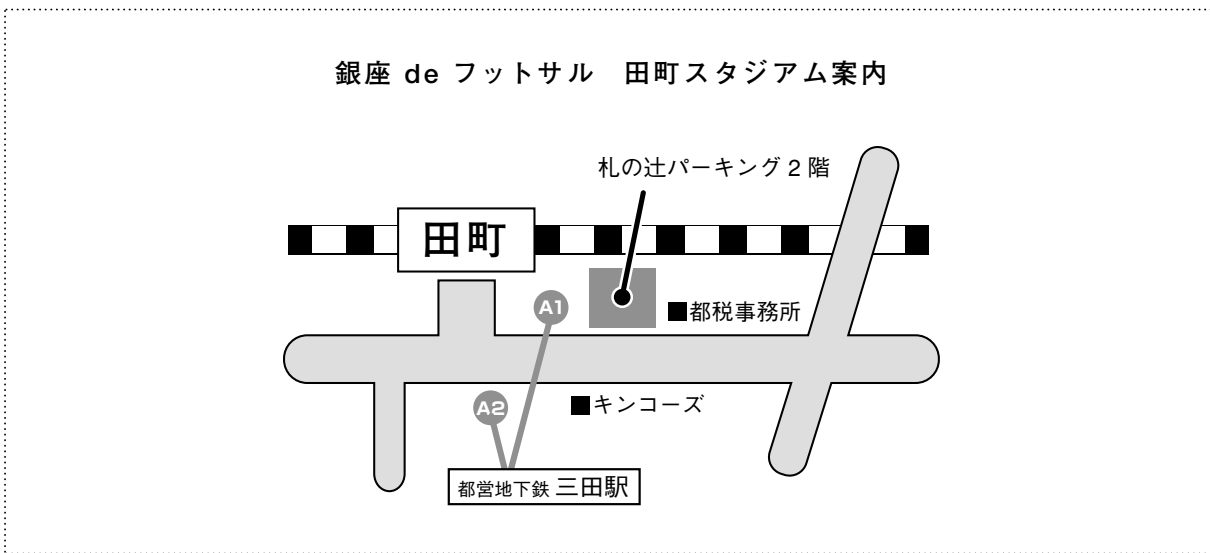
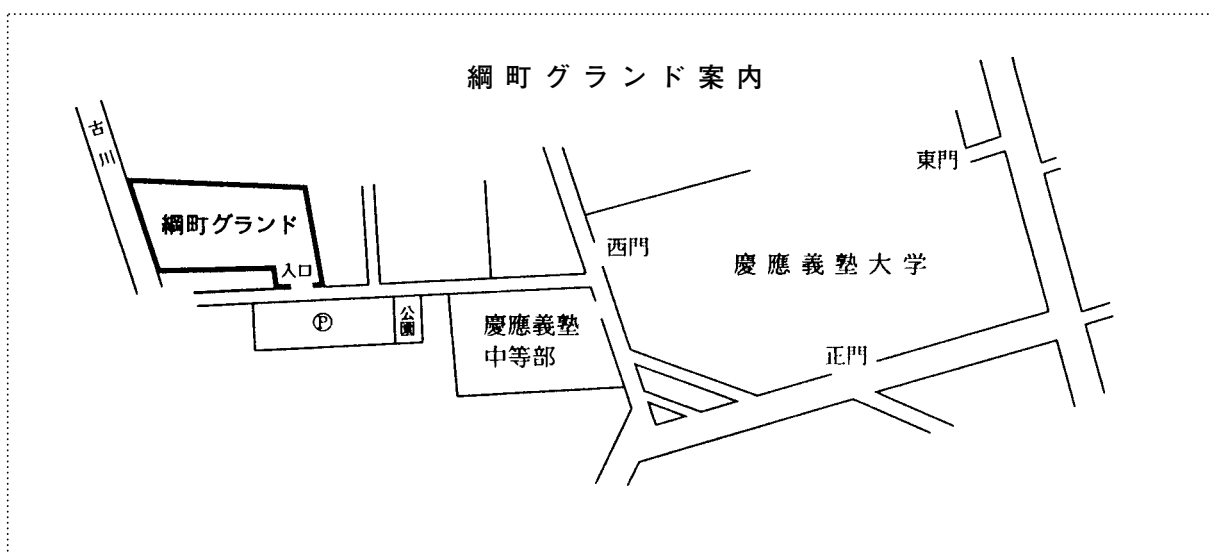
13 週~ 各自好きなフィギュアを繋げて踊れるように工夫する。

【履修者へのコメント】

第一週目に種目のビデオを見ながら特徴を説明します。内容を良く知って選択しましょう。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し、その合計点で評価する。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（全員塾内研究教育部署との兼任）、10名の顧問、27名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の4講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究 I (春学期) 2単位

—『学問のすゝめ』とその時代—

コーディネーター：(教 授) 小室 正紀

担当者：(教 授) 岩谷 十郎

(名誉教授) 坂井 達朗

(教 授) 米山 光儀

授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書：

・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

授業の計画：

第1回の講義の時にシラバスを配布するが、以下のように進める予定。

第1回 はじめに

第2～4回 初編～4編(明治5年2月～7年1月)

第5～7回 5編～8編(明治7年1月～7年4月)

第8～10回 9編～12編(明治7年5月～7年12月)

第11～13回 13編～17編(明治7年12月～9年11月)

履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法：

試験と平常点。

試験方法については、第1回の講義で説明する。

質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究Ⅱ（秋学期）2単位

（助教授）西澤 直子

授業科目の内容：

福澤の論説には100年を経た今もなお、今日的な命題が含まれている。福澤論吉が近代社会に求めた「独立自尊」とは何か、それは日本社会にいかにか根付いたのか、根付かなかったのか。この課題について1) 福澤と中津士族社会との関わり 2) 慶應義塾の教育 3) 福澤の男性論女性論および家族論の3つの視点から考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』（岩波書店、2001～2003年）
 - ・『福澤論吉著作集』（慶應義塾大学出版会、2002～2003年）
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 序論：①授業テーマの説明 ②福澤論吉の略歴
- 2 中津士族社会との関わり：①中津市学校の役割 ②旧中津藩主奥平家資産運用と士族授産 ③「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
- 3 慶應義塾の教育：①「慶應義塾社中之約束」の成立 ②実学重視と実業者の育成 ③モラルサイエンスと教育
- 4 男性論・女性論・家族論
- 5 まとめ：それまでの授業を通して考えてきたことに基づく討論

履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

学期末試験（論述形式）

質問・相談：

授業後に受け付ける。また進度に余裕があれば、授業時間内に質問の時間を設ける

近代日本研究演習Ⅰ（春学期）2単位

（教授）寺崎 修

授業科目の内容：

この演習では、福澤論吉の政治思想を学ぶため、明治11年に刊行された『通俗民権論』と『通俗国権論』を併せて読むことにしたい。授業の進め方は、輪読を基本とするが、必要に応じて時代背景、関連事項の解説をする。

テキスト：

『福澤論吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2600円＋税）

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

以下の各章をとくに注目しながら、順次検討をすすめる。

1. 官民職分之事（通俗民権論）
2. 知識見聞を博くする事（通俗民権論）
3. 品行を脩る事（通俗民権論）
4. 諸力平均之事（通俗民権論）
5. 国権を重んずる事（通俗国権論）
6. 約束を大切にすること（通俗国権論）
7. 内外の事情を詳にする事（通俗国権論）
8. 外戦止むを得ざる事（通俗国権論）

履修者へのコメント：

履修条件は、毎時間出席できる者。質疑応答や討議の時間をとるつもりなので、積極的な学生諸君の受講を希望する。

成績評価方法：

平常点と課題レポートによる。

質問・相談：

随時

近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）2単位

福澤書簡の研究

（名誉教諭）松崎 欣一

授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について、「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト：

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
- ・『福澤論吉著作集 第12巻（福翁自伝・福澤全集緒言）』（慶應義塾大学出版会刊）
- ・富田正文『考証福澤論吉』上・下（岩波書店刊）

授業の計画：

- 1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討…『福澤論吉全集』と『福澤書簡集』における書簡発信年月日の異同は300通をこえる。『書簡集』新収書簡が約450通あることもあわせて、『全集』第21巻所収の「福澤論吉年譜」は見直しを迫られている。新たな「福澤年譜」編成の基礎作業としての検討を行う。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討
福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

レポート（予定）

質問・相談：

随時。

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語およびアラビア語の8外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修および高校生

から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募集する予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(水) 16:30～ 531番教室
定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧 (三田)

- * 科目名に (a) (b) と表記されている科目は春 (a)・秋 (b) をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に (I) (II) と表記されている科目は春 (I) と秋 (II) のどちらかひとつを履修してもあるいは両方履修することも可能です。
- * 英語アカデミックライティング [三田] は「半期終了科目」です。春または秋のどちらかの履修しかできません。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川 真理子	春	木・2	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語	横川 真理子	春 秋			通年	2
	英語翻訳(a)	アーマー, アンドルー	春	木・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語翻訳	アーマー, アンドルー	春 秋			通年	2
	英語テスト対策 TOEFL(I)	中村 優治	春	水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL(II)	中村 優治	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(I)	バロウス, リチャード	春	火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(I)	和田 朋子	春	火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(II)	和田 朋子	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(I)	横川 真理子	春	木・1	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(II)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語経済・金融 (I)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語法律・法務 (I)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(I) (初級)	ファロン, ルース	春	月・5	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(II) (初級)	ファロン, ルース	秋			半期	1
英語アカデミックライティング	和田 朋子	春 秋	火・1	25	半期	1	

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法4(b) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法4 (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒテイルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法5(b) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒテイルド		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5 (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒテイルド	春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法2(I) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェエ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法2(II) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェエ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法3(I) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェエ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法3(II) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェエ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法4(I) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステリアン・ アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法4(II) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステリアン・ アンドレ		秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法1(I) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法1(II) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子		秋			半期	1
	ロシア語表現技法2(I) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春		木・4	25	半期	1
	ロシア語表現技法2(II) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一		秋			半期	1
中国語	中国語聴解2(I)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・3	25	半期	1
	中国語聴解2(II)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦		秋			半期	1
	中国語表現技法2(I)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法2(II)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法3(I)(上級)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法3(II)(上級)	安藤 万奈		秋			半期	1

2005 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(I) フランス語 表現技法 2(I) ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(I) フランス語 表現技法 3(I)	日向 ルカルヴェ	英語オールラブル プレゼンテーション (I)(初級) 中国語表現技法 2(I)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(I)	和田			ドイツ語 表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(I)	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(I)	中村	中国語聴解 2(I)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(I) フランス語 表現技法 4(I)	横川 ベリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 英語翻訳(a) 英語翻訳	横川 アーマー			ロシア語 表現技法 2(I)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法 1(I)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(I)(上級)	安藤		
土										

2005 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(II) フランス語 表現技法 2(II) ドイツ語表現技法 4(b) ドイツ語表現技法 4	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(II) フランス語 表現技法 3(II)	日向 ルカルヴェ	英語オールラブル プレゼンテーション (II)(初級) 中国語表現技法 2(II)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(II)	和田			ドイツ語 表現技法 5(b) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(II)	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(II)	中村	中国語聴解 2(II)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(II) フランス語 表現技法 4(II)	横川 ベリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 英語翻訳(b) 英語翻訳	横川 アーマー			ロシア語 表現技法 2(II)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法 1(II)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(II)(上級)	安藤		
土										

慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春期講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528教室 13:00~14:30
4月5日(火) 藤沢 Ω12教室 15:45~17:15
4月6日(水) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月6日(水) 日吉 J11教室 17:00~18:30

①慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原田 隆 史 文学部助教授
柏崎 千佳子 経済学部助教授

授業科目の内容：

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は 1693 年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

単位数：

4 単位

※ 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2005 年 7 月 29 日(金)～8 月 16 日(火)(予定)

4 月下旬より事前研修(6 回程度)、また、帰国後には事後研修(2 回程度)を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40 名(提出書類により選考を行います。)
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)
- (3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)、②学習計画書(日本語及び英語。各 A4 一枚程度)、③最新の学業成績表のコピー(3 月中旬に保証人宛に送付されるもの)、④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)、⑤RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4 月 7 日(木)～4 月 14 日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後の Final Report により採点します。

②慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授
スネル，ウィリアム 文学部助教授

授業科目の内容：

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

単位数：

4単位

※ 本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Ancient Greece and Western Civilization, Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)，②学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，③最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，⑤履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生
2. 単位 各科目2単位
(なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)
3. 手続方法
学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については，学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は，三田，日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は，三田の国際センター掲示板に掲示されます。

法学部の履修取扱いについて

【国際研究講座】

開講 学期	単位	主学部	科目名	授業担当者	履修単位の取り扱い	
					法律学科	政治学科
春	2	文研	倫理学特殊講義演習Ⅰ	樽井 正義	大学院設置科目のため履修対象外	
				エアトル, ヴォルフガング		
秋	2	法研	プロジェクト科目・欧州統合	田中 俊郎	大学院設置科目のため履修対象外	
				庄司 克宏		
				細谷 雄一		
秋	2	商研	金融特論	深尾 光洋	大学院設置科目のため履修対象外	
秋	2	商研	国際経済	小島 明	大学院設置科目のため履修対象外	
秋	2	商研	会計学	伊藤 眞	大学院設置科目のため履修対象外	
秋	2	経	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	林 秀毅	経済学部設置科目を履修	
春	2	商	産業史各論（科学技術政策史）	ルイス, ジョナサン	商学部設置科目を履修	
春	2	国七	オーストラリアのビジュアルアート	ニコルズ, クリスティーン	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	自由科目	自由科目
春	2	国七	東南アジア世界の諸相	野村 亨	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	現代中国の国家と社会	ワンク, デイビッド	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	グローバルヴィレッジ構築に向けて	高橋 良子	自主選択科目	自主選択科目
				フリードマン, デビッド		
春	2	国七	国際人権法	細谷 明子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ E.	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	グローバルビジネスにおける革新と戦略	トビン, ロバート I.	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	現代ロシア研究	ナコルチュフスキー, アンドリイ	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	アメリカ研究	ウィリアムス, ムケシュ	自由科目	自由科目
春	2	国七	アフリカンイシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	自由科目	自由科目
秋	2	国七	国際開発協力論	長谷川 純一	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	異文化研究：国際化と異文化理解プロセス	ショールズ, ジョセフ	自由科目	自由科目
秋	2	国七	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリーズ, ジェームズ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	国際関係	セツト, アフターブ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	比較映画論：映画における過去観の諸文化比較	エインジ, マイケル W.	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	開発と社会変容	倉沢 愛子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	アジア諸国におけるビジネスマネジメント	トビン, ロバート I.	自主選択科目	自主選択科目

【日本語研究講座】

開講 学期	単位	主学部	科目名	授業担当者	履修単位の取り扱い	
					法律学科	政治学科
春	2	経研	エコノミー・オブ・ジャパン	吉野 直行	大学院設置科目のため履修対象外	
春	2	商	ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	商学部設置科目を履修	
春	2	国七	日本の金融ビッグバン	ハリス, グレアム	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンス, アール H.	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ	自由科目	自由科目
春	2	国七	目覚め	アーマー, アンドルー J.	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	日本の経営	梅津 光弘	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	美術を「よむ」—日本美術史入門	村井 則子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	日本の近代思想	坂本 達哉	自主選択科目	自主選択科目
春	2	国七	日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	近代日本の対外交流史	太田 昭子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本キリスト教史	ポールハチェット, ヘレン	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期 日本外交	飯倉 章	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本の文学	アーマー, アンドルー J.	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	20世紀日本文学に与えたヨーロッパ文学の影響	レイサイド, ジェイムス M.	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本の経済システムとその特殊性	伊藤 規子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本の宗教: 救済の探求	ナコルチェフスキー, アンドリイ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	日本経済の展望	市川 博也	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	国七	家族の近代	ノッター, デビッド	自主選択科目	自主選択科目

【在外研修プログラム】

開講 学期	単位	主学部	科目名	授業担当者	履修単位の取り扱い	
					法律学科	政治学科
春	4	国七	慶應義塾大学—パリ政治学院 春季講座	竹森 俊平・ガボリオ, マリ	自主選択科目	自主選択科目
春	4	国七	慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニング コレッジ 夏季講座	中野 誠彦・スネル, ウィリアム	自主選択科目	自主選択科目
春	4	国七	慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー 大学 夏季講座	原田 隆史・柏崎 千佳子	自主選択科目	自主選択科目

* 「主学部」欄に「経」「商」と記載している科目については、それらの学部の時間割に掲載されている登録番号にて履修してください。

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

オーストラリアのビジュアルアート

(春学期) (Spring)

AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ, クリスティーン 国際センター講師 (東京大学客員教授)

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Course Description:

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

Text Books:

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

Reference Books:

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

Grading Methods:

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participasion will also be taken into consideration.

Questions, Requests:

The two text books can be purchased on <http://www.seekbnooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participasion

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

現代中国の国家と社会

(春学期) (Spring)

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク, デイビッド 国際センター講師 (上智大学教授)

David L. Wank

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

Overview

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

Organization

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

Text Books:

Readings

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

Class Schedule per week:

INTRODUCTION

Unit 1

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

HISTORICAL BACKGROUND

Unit 2

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

Unit 3

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

THE NEW ORDER, 1949-1957

Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Communism and Clientelism: Rural Politics in China”

Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement

Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"

Zweig. The Externalities of Development"

Grading Methods:

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブサハラ アフリカ地域

(春学期) (Spring)

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

高橋良子

環境情報学部教授

Yoshiko Takahashi

Professor, Faculty of Environmental Information

フリードマン デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

Sub Title:

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

Syllabus:

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

Texts (tentative recommendations):

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kwaku Published By: Routledge

Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

Class 2	A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
Class 3	Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Class 4	Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
Class 5	"Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism *Ambassador of Kenya *Ambassador of Tanzania
Class 6	The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic. *Ambassador of Uganda *Ambassador of Zambia
Class 7	Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
Class 8	African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy *H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa *Ambassador of the Republic of Zimbabwe
Class 9	Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies *Ambassador of Botsawana *Ambassador of Malawi
Class 10	African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application. *Ambassador of Angola
Class 11	Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism. spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
Classes 12 & 13	Final group project presentations and class summary

Evaluation:

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

Note to Interested Students:

1. Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:
① <http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and ② <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
2. Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

Session 1: Introduction

Session 2: The Actors

Session 3: The Inter-American System

Session 4: Latin American Integration and Association

Session 5: Economic Outlook

Session 6: International Relations

Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants

Session 9: Cuba: The Socialist Way

Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery

Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy

Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution

The Caribbean: Colonies and Micro-states

Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,

what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

(春学期) (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Rationale:

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline:

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

Aims:

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

Reference Books:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- 1st Week: Shopping
- 2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,
- 3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues
- 4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."
- 5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.
- 6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.
- 7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).
- 8th Week: Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.
- 9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.
- 10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy
- 11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The meaning of modernity and crises in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 (東京大学客員教授)

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Sub Title:

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

Course Description:

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

Text Books:

Printed materials will be provided for the actual cost.

Reference Books:

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8th Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002
Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

Class Schedule per week:

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

Message to those taking this Course:

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

Grading Methods:

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

Inquires

mailto:j-hasegawa@jbic.go.jp

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Human relations in the new global community

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Grading Methods:

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post

which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Text Books:

象は痩せても象である—英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

Reference Books:

- Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman
- Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press
- Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press
- Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press
- South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press
- The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press
- Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers
- Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.
- Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000
- Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press
- Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002
- The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy
- The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)
- Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation
- Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.
- Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

Class Schedule per week:

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

Message to those taking this Course:

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

Grading Methods:

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Text Books:

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)*HEARTS AND MINDS* (U.S.A., 1975)*THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN* (W. GERMANY, 1979)*QUILOMBO* (BRAZIL, 1984)*SANS SOLEIL* (FRANCE, 1982)*TANGO* (SPAIN/ARGENTINA, 1998)*WALKER* (U.S.A., 1987)*Last Samurai* (U.S.A., 2003)**Grading Methods:**

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance, Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction

How to Succeed in Asian Markets

Asian Market Leaders

Hybrid Management Styles

Leading Foreign Firms Successfully

Local Company and Country Trends

Country Information Presentations

Pan-Asia Strategy

Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style

Political and Economic Risks in Asia

Executive Development and HR
Challenges in Asia
Competition with Family Businesses
Business in Frontier Markets
Company Presentations

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(秋学期) (Fall)

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 (新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト)

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

Course Description:

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

Text Books:

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

Message to Those Taking This Course:

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

Evaluation:

Exam. Reports. Attendance.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

産業史各論（科学技術政策史）

（春学期）（Spring）

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

Reference Books:

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penley, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *“Rich Nation, Strong Army”*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「*電腦社会の日本語*」文春新書, 2000

中山茂 他 著「*通史 日本の科学技術*」ガクヨウ書房, 1995

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1—日本のコミュニケーションパターンから見た場合—

(春学期) (Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

Course Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatemaie*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンス, アール H. 国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Reading:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ

国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba

Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Sub Title:

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student’s own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

Message to Those Taking This Course:

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student’s own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

THE AWAKENING

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In “Journey Through the Floating World” last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ōgai, Akutagawa Ryūnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirō and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/mezame.htm)

Recommended Reading:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘 商学部助教授

Mitsuhiro Umezu Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2 : Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

美術を「よむ」－日本美術史入門

(春学期) (Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

Requirements:

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

Proposed Syllabus:

1. *Introduction*

2. *Constructing "Japanese Art"*

READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).

3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*

READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).

4. *Body and the Nude*

READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).

5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*

READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).

6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*

READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).

7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*

READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of Mingei Theory," (1997).

8. *Images After Ground Zero*

READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).

9. *Action and Expression: the Gutai Association*

READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).

10. *"Anti-Art" in the 60s*

READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).

11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*

READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hose," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).

12. *Architecture and the Public Space*

READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).

13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*

READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "*Hinomaru Illumination*: Japanese Art of the 1990s," (1994).

Bibliography:

Bibliography will be distributed at the first class.

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) (Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

Course Description:

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

Text Books:

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

Class Schedule per week:

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

Message to Those Taking This Course:

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

日本人の心理学 (1) コンフリクト・マネイジメント

(春学期) (Spring)

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)

手塚 千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Conflict Management

Course content:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G.Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Course schedule (subject to change)

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

Messages to students:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

Identity of Japanese sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Textbooks:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Reading:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhheel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angels: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule per week:

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

Oral presentations (30%), Reports (At least one short and one long) (50%), Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期) (Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(秋学期) (Fall)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

Reference Books:

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

English Translation: A strange Tale from East of the River

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

English Translation Naomi; Some Prefer Nettles

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』、『憂国』

English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

English Translation Silence

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

Grading Methods:

Reports

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

The slow pace of economic reform

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

Text Books:

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.

(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

Reference Books:

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

Class Schedule per week:

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

Message to those taking this Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

Grading Methods:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Questions, Requests

The lecturer's contact address is noriko@fbc.keio.ac.jp

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course content:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform."
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.

Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”

Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete?

Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”

Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,

Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”

Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000

Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.

13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”

Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

家族の近代

(秋学期) (Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド

経済学部助教授

David M. Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Grading Methods:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

日本の金融ビッグバン

(春学期) (Spring)

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E.

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Books:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月4日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(金) 9:00~16:00

4月11日(月) 9:00~16:00

4月12日(火) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成17年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料(12,000円)が必要です。なお文学部、経済学部、法学部、商学部生が当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目(文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報リテラシー基礎)を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ(パソコンによる情報整理学)」を申し込む場合には受講料は免除されます。申込み方法は変更ありませんが、学生証を提示してその旨申し出てください。

平成17年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	12A	藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	13B	江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	14A	田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	32A	鴻巣 努			5,000円	

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

参考：平成17年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	11A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	13A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	31A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

情報処理概論Ⅱ (Java) (通年) 4 単位
Java 言語によるプログラミング入門 藤 村 光

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

担当教員から履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（春秋各学期末に実施。上記授業計画の 9. と 15. に該当）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（各講義の最後に、その日の講義に関する簡単なレポートをメールで送信する）

質問・相談：

fujimura-java@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

情報処理概論Ⅲ (通年) 4 単位
パソコンによる情報整理学 江 島 夏 実

授業科目の内容：

コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出てからも役立たせることが目的である。

テキスト：

Computer System Workbook 「日本語文書処理」, 同「表計算1」, (株)コンピュータ教育工学研究所

参考書：

Computer System Textbook 「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業の計画：

〔春学期〕情報の表現力を中心に

- ・実践的な文書表現力 4 回
- ・効率的な文書表現 2 回
- ・視覚に訴える表現力 4 回
- ・コンピュータならではの機能の利用 3 回

〔秋学期〕情報の収集・加工を中心に

- ・情報の収集・加工の基本＝作表 3 回
- ・関数を利用した情報の加工 3 回
- ・視覚に訴えるための情報の加工 4 回
- ・大量データの効率的処理 3 回

担当教員から履修者へのコメント：

ワープロソフトや表計算ソフトの基本的操作を習得していることを前提に、演習問題を通して徹底的なパソコンの活用技術の向上を目指す。教科書はバラエティに富み、かつ、分野に偏らない演習を豊富に用意してあるので、パソコン活用の幅を広げ、大学生活や社会人としての活動に役立つ基礎を身につけてほしい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（春学期、秋学期それぞれ条件に叶う作業を課題として与え、その成果により評価）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席の採否と、平常授業において作成したファイルを提出させ、その状況を評価）

質問・相談：

メール等を利用した質問を受け付ける。メールアドレス等については授業開始時に伝達する。

情報処理概論Ⅳ (春学期) 2 単位
COBOL 田 窪 昭 夫

授業科目の内容：

ビジネス（業務処理）を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理（業務処理）のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

テキスト：

大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 一JIS 1992 年版準拠一 サイエンス社

参考書：

授業の計画：

主な学習項目は次の通り。

1. COBOL 言語の仕組み
2. データの入出力とファイル
3. ファイル処理の基本アルゴリズム
4. 並び替え（ソート）機能を使ったプログラム

担当教員から履修者へのコメント：

コンピュータやデータ処理に関する予備知識は必要としない。パソコン実習の課題（3～4 題）で評価し、試験は実施しない。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール (arttech@sie.dendai.ac.jp) にて受け付けます。

情報処理応用Ⅱ (統計解析) (春学期) 2 単位
SPSS による統計解析および多変量解析の実習 鴻 巣 努

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得

られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

テキスト：

室淳子, 石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析, 重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

担当教員から履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいかかわからない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

知的資産センター設置講座（平成 17 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、起業の支援と拡大しています。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品を生み出しています。さらに、バイオ分野を中心にベンチャー企業のスタートアップも相次いでいます。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

テキスト：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」 清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」 竹田著 ダイアモンド社

「著作権の考え方」 岡本著 岩波新書

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み

- 3 著作権の仕組み
- 4 商標ブランドの価値
- 5 マルチメディアに関する知的財産
- 6 キャラクタービジネス
- 7 音楽に関する著作権問題
- 8 企業における知的財産戦略
- 9 知的財産に関する世界の動向
- 10 知的財産の紛争処理
- 11 ベンチャー・起業の仕組み
- 12 知的財産ビジネス
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。